

学术交流レポート

- 2010・2011 -

桐蔭横浜大学

学 長 挨拶

桐蔭横浜大学

学長 小 島 武 司

「学術交流レポート2010・2011」が刊行されて、学術活動などの進展が一覧できることになり、大変有意義と思います。

このレポート刊行の意義はいよいよ大きくなっています。研究と教育を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動をもたらすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献が可能になるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、その意味は一段と大きいものとなっているといえます。

何年か前のことですが、私はイタリアのボローニア大学(世界最古の大学)創立900年記念シンポジウムに招かれ、学術報告を行ったことがあります。世界最古の大学の足跡を聞きながら、教育と研究のコラボレーションの中に宿る可能性の偉大さを感じることに一入でした。

「学術交流レポート2010・2011」は、両年度にわたる専任教員の学術研究活動をまとめたものです。本学は、2008年度よりスポーツ健康政策学部が発足したことから、法学、医用工学を併せて3つの方向に展開を進め、また、2つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されております。こうした進展のなかで、本格的な高等教育機関として総合的体制が固まりつつあるのではないかと自負しております。そこから生まれるところの学術研究活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、幅広い知的交流の機会が生まれ、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が促進されることになれば、まことに幸いです。

現在、本学において、地域社会と海外都市を結ぶデルタ型の仮想空間とその仕組みを動かそうとする目的が共有され、本学をいわば世界のハブ組織として、研究と教育をグローバルに展開するエネルギーが盛り上がってきています。本レポートは、大学で一段と高い役割を果たしていくスプリングボードの一つとなるものと確信しています。

学術交流レポート2010・2011 目次

学長挨拶	1	
建学の精神	3	
大学組織図	4	
学長	5	~ 7
法学部		
法律学科	8	~ 58
医用工学部		
生命医工学科	59	~ 88
臨床工学科	89	~ 121
工学部		
電子情報工学科	122	~ 140
ロボット工学科	141	~ 148
スポーツ健康政策学部		
スポーツ教育学科	149	~ 187
スポーツテクノロジー学科	188	~ 204
スポーツ健康政策学科	205	~ 216
工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	217	~ 237
法務研究科 法務専攻	238	~ 265
先端医用工学センター	266	~ 270
2010・2011年度退職教員	271	~ 310
公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	311	~ 327

建学の精神

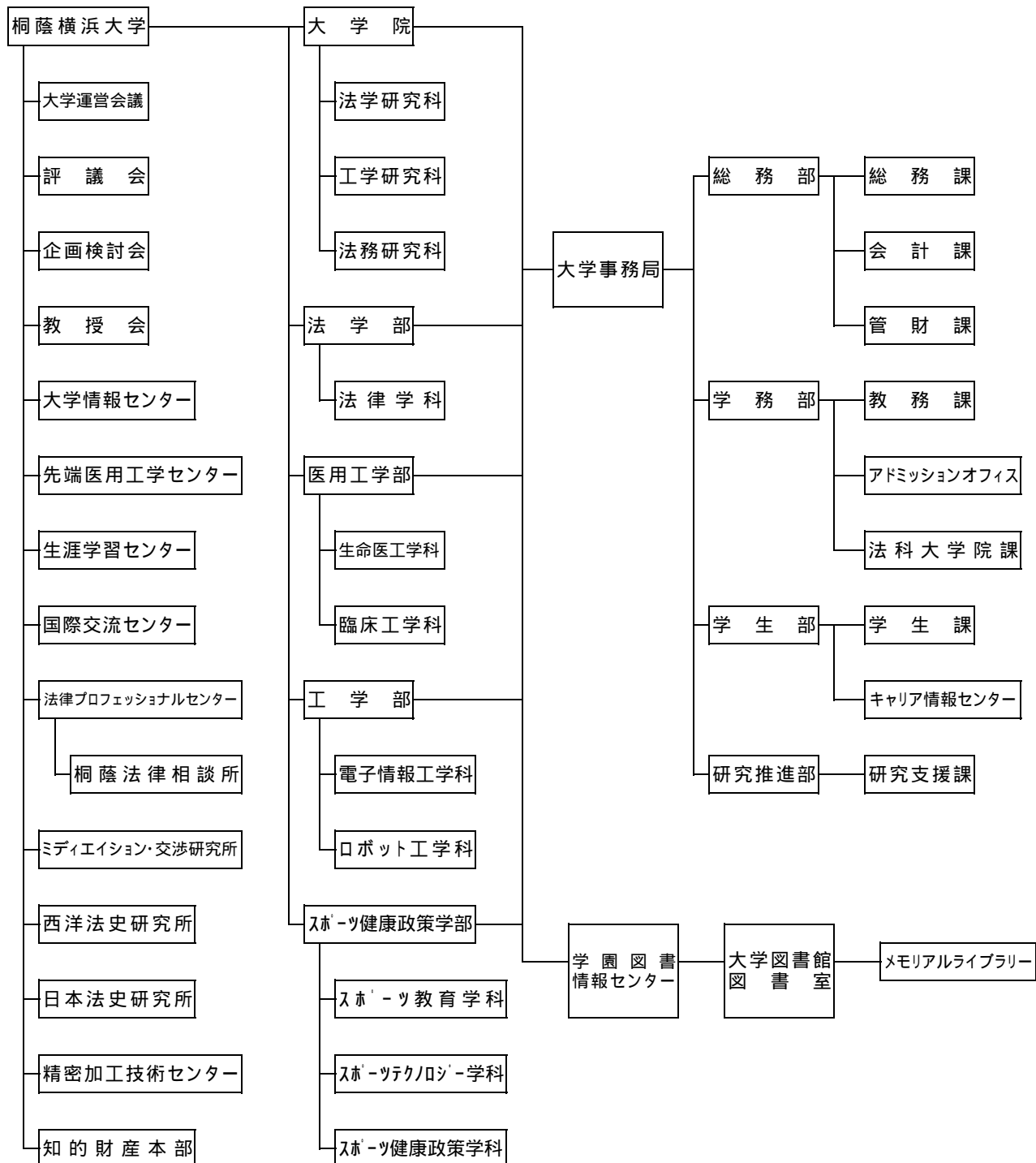
社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

大学組織 2012.4.1現在



小島 武司 (こじま たけし) 学長



出生年：1936(昭和11)年
在籍：2006(平成18)年9月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科
学位：法学博士(中央大学)
学位論文：訴訟制度改革の理論等
専門分野：民事訴訟法、仲裁法、弁護士法
前職：中央大学法学部教授、中央大学法科大学院教授
学内役職等：学長
留学：ミシガン大学ロースクール(アメリカ)、フィレンツェ大学(イタリア)、ケルン大学(ドイツ)
客員教授：フランクフルト大学客員教授(ドイツ)、エクスマルセイユ大学客員教授(フランス)、コロンビア大学ロースクール(アメリカ・ADRセミナー担当)、南京大学客員教授(中国)
資格：法曹資格
司法試験合格(1958年)、その後司法修習(最高裁判所司法研修所)

教育活動

2010年度の教育活動概略

高等教育は、ユニバーサル化の段階に達し、その社会的位相は、エリート養成という役割から距離をとり、現代社会の各層の需要に応える多彩にして力量ある人材を供給するものとして再設定されなければならない。社会はいかにしてそのエデュケイショナル・インパクトを最大化するかを注視しており、パラダイムシフトの必要はおおむね共通の認識となっている。知識再生産型の教育手法では、大学の使命は果たせないことは自明であり、双方向的かつ多方向的な意見交換を通じて、現実を把握し現状打開策を探索する能力を育むことができるか否かが問われている。ハーバード大学などが始めた「ソクラテス・メソッド」はロースクールのケースメソッドやビジネススクールの事例研究などから発して高い水準に達しつつあり、わが国においても、今や学部レベルを含めた教育研究の新手法として受容され(中央教育審議会)、その実践面での工夫が各組織において重ねられている。本学の教育においても、入学時はおくとして、「卒業の時点ではその目指す領域ないし課題でトップクラス」ということを確乎たる目標に据え、小規模大学独自の真価を発揮するための「成長本位制」の手法を開発していこうとしている。このためには、偏差値の壁を突破して新しい天地に通じ合う二本の支柱をスポーツと学術のそれぞれに築き上げることにしている。このような観点から総合的な改革に踏み出し、これに先立つさやかな試みとして、「桐蔭横浜大学手作り文庫」の創設を行い、予算の制約の中で学内印刷の小冊子を刊行し始め、また、主体的学習の場としての図書館を居心地の良い学習空間として多角的機能を発揮する基盤を整えつつある。

2011年度の教育活動概略

これまでの基本的な考え方を堅持しつつ、図書館の刷新等が実現しても利用率が低迷している実状を直視し、つぎの段階に向けて更なる施策を講じなければならない。今後は、桐蔭横浜大学はトップアスリートの養成による知名度の上昇を図り、各分野に特化した専門能力を修得させ、社会の要請に適した人材を世に送り出すとともに、学術活動についても、各学部で具体策を考え実践する教育シンクタンク的な組織を立ち上げ、人材養成の手法を創案していくことに努めたい。これらは、大学教授としてのわたくし自身の個人的なアンビションでもある。いずれにせよ、こうした考え方は、本学の改革に止まることなく、社会全体の展開に連なるものと考えたい。

研究活動

2010年度の研究活動概略

日本の司法制度をベースにアメリカ、イタリア、ドイツ、フランスなどに行った比較法学的研究を踏まえて、これまで著書、論文を(英文を含め)発表してきたが、このところ、わたくし自身の実感としては、欧米との国際的交流に代わり、中国や韓国での研究発表や講演の機会がその比重を高めている。その背景には、これまでのわたくしの研究活動と深くかかわる事項がアジア諸国における立法課題として取り上げられ、また、最先端の理論的課題となっているという事情がある。学問的営為の重点が移行し、日本の理論と経験が学術的論議の深まりに寄与するような役割を担うに至っていることは、感慨深い。10年度に開催された上海交通大学における集合訴訟に関する国際シンポジウム(後掲)は、その一つの例といえよう。

2011年度の研究活動概略

これまでの状況の延長線において、本年度は、裁判運営および民事調停のありかたをめぐって二つの国際シンポジウムが開催され、学術報告を担当した。本学において国際学会のシンポジウム(財団助成にかかる)が裁判運営の課題を取り上げ、また、西南政法大学においてメディアエーションの課題が多角的に検討された(いずれも後掲)。南京大学における講演やセミナーについてもこのことが当てはまる。これらの国際的な研究活動をも踏まえ、半世紀の民事訴訟法等の解釈理論を集大成した形で、民事訴訟法の体系書の執筆を進めており(2013年4月に刊行の予定)、また、仲裁法に関する体系書(共著)の執筆作業も最終段階にある。

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『ブリッジブック裁判法(新版)』	共著	2010年5月10日	信山社	小島武司、小林学	第15項(209-240頁)担当
(総説・論説)					
「紛争解決システムの日本的展開(序説) - 調整型ADRの動向を中心に - 」	単著	2011年5月31日	仲裁とADR Vol.6 (仲裁ADR法学会)	-	1-12頁
「三ヶ月章先生のご逝去を悼む」	単著	2011年5月31日	仲裁とADR Vol.6 (仲裁ADR法学会)	-	24-25頁
(学術論文)					
「共同訴訟から集団訴訟へ」	共著	2011年9月25日	桐蔭法学第18巻第1号(35)	小島武司、小林学	43-78頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「法曹を統合する理念」	2010年6月15日	法曹倫理研究会(日本法曹家協会)	-		
「守秘義務」	2010年7月16日	法曹倫理研究会(日本法曹家協会)	-		
「守秘義務」	2010年9月21日	法曹倫理研究会(日本法曹家協会)	-		
口頭報告「日本における群体訴訟」	2010年11月14日	第5回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウム(上海交通大学/中国上海市)	小島武司、小林学		
「守秘義務」	2010年11月26日	法曹倫理研究会(日本法曹家協会)	-		
「適正な裁判運営」 「弁護士の利益相反」	2010年12月～	法曹倫理研究会(日本法曹家協会) 全10回にわたり報告と討論が実施された	-		
口頭報告「日本民事訴訟における裁判運営の視座」	2011年3月12日	第6回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウム(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	小島武司、小林学		
「弁護士にとってのADR - その特性と弁護士業務 - 」	2011年10月18日	東京弁護士会	-		
口頭報告「曲がり角にある日本の司法調停制度」	2011年11月	中日韓民事調停制度国際学術研究会(西南政法大学/中国重慶市)	-		
講演「司法へのアクセス」	2012年3月25日	南京師範大学(中国、南京)	-		
その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
第5回東アジア民事訴訟法国際シンポジウム「日本における群体訴訟 - 共同訴訟から集合的訴訟(collective action)へ - 」	2010年11月14日～11月17日	上海交通大学			

中日韓民事調停制度国際シンポジウム 「曲り角にある日本の司法調停制度」	2011年11月18日 ～11月21日	西南政法大学
「司法へのアクセス」座談 民事裁判装置の刷新 - 日本の選択」	2012年3月25日 ～3月29日	南京師範大学

学会等および社会における主な活動

2010年、2011年度の学会活動概略

民事裁判の分野の全研究者が属する日本民事訴訟法学会を中心に、今年も研究を続けているが、同学会の理事長としての任期を終え、その展開分野に焦点を絞った「仲裁ADR法学会」(創設時の理事長)を創設し、現在は「日本司法アクセス学会」の会長として民事裁判制度と憲法にかかわる基本問題である、紛争解決の制度的最前線にある司法アクセス問題に焦点を合わせた研究活動を行っている。個人的な著作執筆活動である「民事訴訟法」および「仲裁法」の体系書もこれらの活動に基づくものである。国際的な研究としては、国際民事訴訟手続の共通化の作業(ユニドロア、アメリカ法律協会)にかかわってきた。更には世界民事訴訟法学会、そして日中韓の東北アジア民事訴訟法学会、日本交渉学会(副会長)などにかかわっている。なお、過去には日本私法学会(理事)参加。

民事訴訟法を中心とする手続法学会にとって、裁判官、弁護士等によるプラクティスも重要な意味をもつ。この視点から日本仲裁人協会(理事)、仲裁ADR法協会(評議員)、自動車製造物責任相談センター(理事)、消費生活用製品PLセンター(審査委員会委員長、元理事)、財団法人日本法律家協会(理事)、日本司法支援センター(審査委員会委員長)、財団法人国際民商事法センター(学術評議員)などを務めている。過去のものとして、日本弁護士連合会懲戒委員、法律扶助協会理事など。なお、学術一般に関するものとしては、日本学術会議会員(第19期)を務めた。

また、立法や行政との関わりで行ってきた活動としては、法制審議会民事訴訟法部会専門委員、公証人審査会委員、司法試験第二次審査委員(以上いずれも法務省)、中央建設工事紛争審査会特別委員(建設省、現・国土交通省)、産業構造審議会総合製品安全部会臨時委員(通産省、現・経産省)、建設調達審査委員会委員(総理府)、視学委員、大学設置・学校法人審議会専門委員、法科大学院(仮称)構想に関する検討会議座長、中央教育審議会大学分科会法科大学院部会専門委員(以上いずれも文部省、現・文科省)、外国弁護士問題研究会座長(法務省)、オムブズマン制度研究会委員(行政管理庁、現・総務庁)などがある。

2010年、2011年度の社会活動概略

日本法律家協会会員(理事)、第二東京弁護士会会員、日米協会会員、東京フルブライト・アソシエーション会員、日本倶楽部会員、中央大学法科大学院フェロー、中央大学南甲クラブ会員、中央大学眞法会会員(会長)などがある。

法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位 : 法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
学位論文 : 勧告的意見の機能について
専門分野 : 国際法
学内役職等 : 法律学専攻長(2012)
法律学科長(2010・2011)
留学 : New York University, School of Law
非常勤講師 : 中央大学法学部

研究活動

2010年度の研究活動概略

現代世界において発生している多様な地球の諸問題は、主権国家が単独では処理しきれない問題をもたらしている。国際組織の発達は、この状況に対するひとつの解答をもたらした。グローバル化の進行とあわせ、国家間社会であった国際社会は、現在では明瞭な境界を失いつつある。他方で、世界政府の誕生にはまだまだ多くの障害が残っており、当面、問題の解決には寄与しない。現在の国際組織を内的に強化することにより、問題に対応していくことが望ましい。数多くの分野で発達した国際組織群を国連を中心にひとつの有機的な存在へと育て上げていかなければならない。そのプロセスの中で誕生してくる国連の内部立法機関を新たな「国際社会の立法院」ととらえ、国連の内部執行機関を新たな「国際社会の行政府」ととらえるのであれば、これらに対峙する新たな「国際社会の司法院」が必要となる。行政府と立法院だけでは、十分な法の支配が貫徹されず、かえって、権力の暴走を招く結果に終わるからである。かくして、「国際社会の司法院」の概念を完成させ、これを具現化していく努力が要求されているのである。

2011年度の研究活動概略

国際司法裁判所の争訟事件における証拠法の研究。伝統的に、国際司法裁判所の争訟事件においては、国際法規則の存在あるいはその内容の確定が主たる争点となり、もっぱら理論的問題かあるいは慣習法規則の存在を証明する一般慣行の存否が争われてきた。そのため、国際司法裁判所において証拠の問題が大きく取り上げられることはあまり多くなく、その結果、証拠法の研究には十分な関心が払われてこなかった。しかし近年、国際司法裁判所においては、国際法の理論的側面ばかりでなく、事実の確認、立証が判決を左右する事件が徐々に多くなってきている。国際法学における証拠法の体系を発展させる必要が生じてきているのであるが、ほとんど証拠法の基礎固めができていない状況の中で、ゼロからの出発を余儀なくされる。出発点としては、各国の国内法(民事訴訟法、刑事訴訟法)の比較法学的研究が重要である。大陸法の証拠法と英米法の証拠法の比較研究から徐々に国際法学に適用可能な証拠法の体系が構想できるようになってきた。しかし、この分野の最大の課題は、実践的な証拠収集の段階で国家主権の壁によりあるはずの証拠を入手できないというところにある。この問題は、学術研究の対象範囲を超えるものであり、組織的対応に期待するしかないが、何らかの提言が可能となるレベルまで研究を詰めていきたいと考えている。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

鹿 児 嶋 繁 雄 (かごしま しげお) 教授



出 生 年 : 1950(昭和25)年
 在 籍 : 1993(平成5)年4月～
 最 終 学 歴 : 立教大学大学院文学研究科
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : ゴート語の現在分詞について
 専 門 分 野 : ゲルマン語学
 前 職 : 成蹊大学工学部非常勤講師
 非 常 勤 講 師 : 中央大学法学部

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
筆ペンで漢字を書きとらせ、その後その漢字を書かせる。それに続いて国語辞書を使い覚えた漢字の意味を調べさせた。	2010年4月 ～2012年8月	
2.作成した教科書、教材、参考書		
『東電OL殺人事件』『唯幻論物語』を素材に、今の社会の現状について考えると同時に、漢字と意味を覚えさせた。	2010年4月 ～2012年8月	佐野真一:冤罪事件発生の仕組みを具体的な事件を通して解明。岸田秀:唯幻論を生み出す過程を著者の幼少期の体験から解説。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
<p>一般的な俗説である「スラブ民族」の名称は、奴隷(slave)から派生した、という説は、人種主義的な妄言である。実際の文献を丹念にたどれば、slave(ドイツ語Sklave)は、フランス語clef(鍵)にあたる単語の語頭に、ゴート語のus-lukan(開ける)のus-という接頭辞-uを省略したs-を付した形であって、「鍵によって開けられる者」の意味であって、Klugeの語源辞書にあるように6世紀のスラブ語sklabos(奴隷)からの派生ではない。この説は歴史的にスラブ民族が奴隷として西欧に連れてこられていた、という事実とは直接の関連はない、と言語学の立場からは考えられる。</p>					
2011年度の研究活動概略					
<p>擬音語・擬態語・擬情語と独立した品詞として辞書まで存在する日本語と異なり、ゲルマン語系では擬音語・擬態語・擬情語を一括してOnomatopoi(名称を作る事)ということばで表す。日本語「ひらひら」という実際には音を伴わないことばは、ドイツ語では実際に音を伴うflattern(鳥の羽ばたき音)ということばしか存在しない。品詞としてドイツ語で用いられる「擬音語」は動詞としてであり、夏目漱石「吾輩は猫である」の一節-苦沙彌先生が猫を夫人にたたかせ、猫に「にゃおー」と言わせ、今のは、副詞か間投詞か-と問うたという場面にあるように独立した品詞として扱うのに対してドイツ語では動詞miauen(にゃーとなく)を使い、猫の鳴き声Miauは動詞の中に組み込まれる。またドイツ語には、日本語の「さらさら」対「ざらざら」のような擬態語同士の対立がない。それに対しドイツ語では音同士の関連で単語組織を組み立てている。Blitz(稲妻)Flitz(矢)Glitzer(きらきらする光)のように日本語にはない関連性が存在する。</p>					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (総説・論説)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
ゲルマン語における子音省略について(2)	単著	2010年12月	桐蔭論叢 第23号	-	67-72頁
ゲルマン語における音描写について	単著	2011年12月	桐蔭論叢 第25号	-	43-49頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本独文学会

笠原 毅彦 (かさらは たけひこ) 教授



出生年 : 1957(昭和32)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位 : 法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文 : 法判断権の所在
 専門分野 : 民事法、法情報学
 前職 : 常磐大学短期大学部講師
 留学 : ドイツ連邦共和国ザールラント大学
 (1984～1986, 1994～1995)
 非常勤講師 : 国土館大学総合知的財産法学科, 大東文化大学法務研究科, 明治学院大学法務研究科, 早稲田大学法学部

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間、学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開、教材として呈示しながら講義を進める。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材及び講義資料をダウンロードするためのサイト。
プライマリー法学憲法(第2版)不磨書房 新版現代法学入門(第5版)尚学社	2010年3月 2010年10月	フレッシュマンゼミ用の教科書。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
サイバーキャンパス再論 - 電子会議室の活用(特集 教育を考える)(大学紀要)	2011年6月	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会での報告を元に、電子会議室の果たす役割を論じた。
サイバーキャンパス再論 - 電子会議室の活用(学会発表)	2010年12月	情報ネットワーク法学会で、大学教育のIT化の問題を、電子会議室の活用を中心に、個別報告の場で発表。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
1. 2009年度末まで、九州大学で行った、総務省ICT先進事業国際展開プロジェクトICT利活用ルール促進事業(サイバー特区)「法律サービスにおけるICT利活用推進に向けた調査研究」を、研究委員として報告書にまとめた。担当:2章3節ネットを介した法廷空間の拡張(出廷・傍聴)88～117頁,3章4節「弁論準備手続」・5節「口頭弁論」122～123頁,4章「国際展開」124～126頁。 2. 情報ネットワーク法学会研究担当理事として2009年度学会研究大会シンポジウムのテーマに選んだ「リーガルXML」に関し、学会誌に2本論考を掲載し、ドイツのXJustizに関する翻訳1本を電子書籍の試みの一つとして、サイトに掲載した。 3. 大学教育のIT化に関する学会発表を行い、大学紀要に掲載した。同テーマで私立大学情報教育協会でも報告、モデル授業を皆で検討した。					
2011年度の研究活動概略					
1. サイバーコート研究は12年間になり、司法制度改革と先端テクノロジー研究会、情報ネットワーク法学会を通じての政府・裁判所・弁護士会に対する働きかけも10年になるが、現実の司法の展開は進んでいない。この問題の講演依頼も、法律家ではなく、一般とIT技術者の集まりが多くなった。招待講演三回。 2. 私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会で行った「学士力実現のための理想の講義形態」の報告をもとに、協会としてモデル講義として全国参加大学にアンケートを実施し、その結果を基に「大学への提言 - 2012年度版」をまとめる作業を進めた。中間成果を大学紀要に掲載。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
プライマリー法学憲法(第2版)	共著	2010年4月	不磨書房	編者:石川明/共著者:笠原毅彦,永井博史,河村好彦,渡辺森児,小池和彦,大内義三,照屋雅子,日向野弘毅,大濱しのぶ,皆川治廣,藤井まなみ,河原田有一,狩野敬子	25頁

新版現代法学入門(第5版)	共著	2010年10月	尚学社	青柳幸一教授,安部哲夫,磯村典章,笠原毅彦	103-210頁
(学術論文)					
法律サービスにおけるICT利活用推進に向けた調査研究	共著	2010年4月	法のライフラインコンソーシアム		88-117頁 122-123頁 124-126頁
リーガルXML	共著	2010年7月	情報ネットワーク・ローレビュー9巻2号		
裁判所と検察庁の間の電子情報交換のための技術的基本指針	単著	2010年7月	情報ネットワーク・ローレビュー9巻2号	-	
XJustiz - 裁判所と検察庁の間の電子的法情報交換のための,構造的・技術的指針付属文書	単著	2010年10月	電子書籍 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/Kasahara/	-	
「サイバーキャンパス再論 - 電子会議室の活用」	単著	2011年6月	桐蔭論叢 第24号	-	43-55頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
サイバーキャンパス再論 - 電子会議室の効用	2010年12月	情報ネットワーク法学会研究大会(成城大学,東京都)	-		
ICTの司法への応用	2011年5月	ITA(Information Technology Alliance)月例研究会	-		
ICTの拓く司法の未来	2011年11月	ITA(Information Technology Alliance)フォーラム	-		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
民法法人の公益法人化	2010年8月	沖縄伊江村観光協会	観光協会(沖縄県伊江村)		
裁判 - 関わりたくない現実とその未来	2011年8月	LSClubJapan	LSClubJapan(東京都港区)		
(その他特記事項)					
大学院生論文審査					

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年9月～現在	手続法研究所(慶應)理事
1999年4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員
2002年7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員
2003年3月～現在	司法制度改革と先端テクノロジー研究会設立発起人・研究委員
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員
2006年9月～現在	Japrico Club(キャンパスツール普及促進組織)運営委員
2006年12月～2010年12月	情報ネットワーク法学会理事
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー
2009年3月～現在	農林水産省沖縄伊江村民泊プロジェクト専門家委員会委員

加藤 幸嗣 (かとう こうじ) 教授



出生年 : 1953(昭和28)年
在籍 : 2004(平成16)年10月～
最終学歴 : 東京大学法学部
学位 : 法学士
専門分野 : 行政法、地方自治法、環境法
前職 : 参議院法制局参事、山口大学助教授、国土館大学教授等

研究活動

2010年度の研究活動概略
行政法一般理論

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、日本行政学会、自治体学会、日本環境学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	行政経営フォーラム(PMFJ)等における行政関係者等との交流活動等

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：法学部長、法学研究科長(2012)
 法学研究科法律学専攻長(2010・2011)
 留学：パリ第2大学博士課程
 非常勤講師：一橋大学法学部・法科大学院
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)刑務所参観	2006年2月22日 2008年2月22日 2010年3月9日	ゼミ生を引率して川越少年刑務所参観 ゼミ生を引率して横浜刑務所参観 ゼミ生を引率して千葉刑務所参観
(2)ゼミ合宿	2007年9月3-4日 2008年9月4-5日 2009年9月3-4日 2010年9月3-4日 2011年9月4-5日	京都(1泊2日) 伊豆宇佐美(1泊2日) 山中湖(1泊2日) 伊豆松崎(1泊2日) 熱海網代(1泊2日)
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
『學士會会報』第888号		『法学教育の見直しとエリートの役割変化』26頁～30頁
4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本学術会議特任連携会員		大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学教育の参照基準造り

研究活動

2010年度の研究活動概略
日本の訴訟当事者について調査した結果を共著にまとめた。「日本の訴訟当事者の特性 2004年民事訴訟行動調査報告から」3～20頁『現代日本の紛争処理と民事司法 裁判経験と訴訟行動』ダニエル・H・フット 太田勝造 編著 東京大学出版会 人権についての講座に、被害者についてまとめた 河合幹雄他 「第11章 犯罪被害者と人権」217頁～237頁 『講座 人権論の再定位2 人権の主体』愛敬浩二編 法律文化社 裁判員制度をはじめとした刑事司法の大改革について、学会報告し、雑誌論文にまとめた。
2011年度の研究活動概略
刑事司法とりわけ検察の問題について研究。共著「全能の検察の終焉—国家エリートから法律家に戻れ」75頁～93頁『特捜検察は必要か』江川紹子編 岩波書店 2011年3月30日出版。客観的な治安と不安について政治学の講座に寄稿「治安と不安のポリテックス」131～157頁 『政治の発見7守る 境界線とセキュリティの政治学』責任編集 杉田敦 風行社 2011年6月30日。インターネット犯罪の現状についてまとめて論文として発表「ネット犯罪の現状と課題」32頁～50頁『犯罪と非行』第168号 2011年5月27日。 国際犯罪学会を神戸で行委員長として主催、シンポジウムもオーガナイズしみずから報告も行った。「日本における強盗防犯の成功の原因」 国際犯罪学会 第16回世界大会 <第8回公開シンポジウム> 現代日本の犯罪発生率の低さを理解する 2011年8月5日 於 神戸国際会議場 301室

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『現代日本の紛争処理と民事司法裁判経験と訴訟行動』 『日本の訴訟当事者の特性 2004年民事訴訟行動調査報告から』	共著	2010年12月8日	東京大学出版会	ダニエル・H・フット 太田勝造 編	3-20頁
『全能の検察の終焉—国家エリートから法律家に戻れ、特捜検察は必要か』	共著	2011年3月30日	岩波書店	江川紹子編	75-93頁
『殺人の歴史』	単著監訳	2012年3月10日	創元社	ベルナルド・ウダン著 遠藤ゆかり訳 河合幹雄監訳	142頁
『社会理論と社会システム』	共著	2012年3月30日	学文社	河合幹雄, 守弘仁志, 鈴木未来, 野田陽子, 加藤朋江, 松下育夫, 山西裕美, 玉里恵美子	13-22頁
(総説・論説)					
『日本の死刑制度には民主主義の前提が欠如している』	単著	2012年2月13日	Nippon.com 一般財団法人ジャパンエコー	-	http://www.nippon.com/ja/currents/d00025/
(学術論文)					
『世論調査と刑事政策 誰に何を説明すればよいか』	単著	2010年9月1日	『刑政』2010年9月号 通巻1419号	-	14-23頁
『法的解決の問題点 法社会学の視点から』	単著	2010年10月1日	『法学セミナー 基礎法学で世界を知る』2010年10月号 第55巻10号 通巻670号	-	6-9頁
『講座 人権論の再定位2 人権の主体 愛敬浩二編』	単著	2010年11月30日	第11章 犯罪被害者と人権	-	217-237頁
『マンガ表現の規制強化を問う』	単著	2010年12月8日	『世界』2011年1月号	-	95-103頁
『司法取引と日本社会・文化との相性』	単著	2011年3月10日	日本刑法学会 『刑法雑誌』 第50巻 第3号	-	381-390頁
『法学教育の見直しとエリートの役割変化』	単著	2011年5月1日	『學士會会報』 第888号	-	26-30頁
『ネット犯罪の現状と課題』	単著	2011年5月27日	『犯罪と非行』 第168号	-	32-50頁
『治安と不安のポリティックス』	単著	2011年6月30日	『政治の発見7守る 境界線とセキュリティーの政治学』 責任編集 杉田敦 風行社	-	131-157頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
『理論と社会変化の緊張関係の変容 - フランスと日本の刑事司法改革を念頭に』	2010年5月8日	2010年度日本法社会学会 『ミニシンポジウム : 変化する現代の法社会学理論』(同志社大学)	-		
『司法取引と日本社会・文化との相性』	2010年6月5日	刑法学会第88回大会 分科会『司法取引の理論的課題』(東北大学)	-		
『有罪判決後も被害者の人生～量刑のための知識』	2010年10月1日	日本犯罪社会学会第7回公開シンポジウム(国士館大学世田谷キャンパス 中央図書館棟地価多目的ホール)	-		
『日本における強盗防犯の成功の原因』	2011年8月5日	国際犯罪学会 第16回世界大会 < 第8回公開シンポジウム > 神戸国際会議場 301室	-		

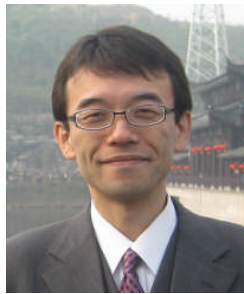
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「基調報告:議論と熟考がほしかった公訴時効廃止」	2010年5月1日	被害者と司法を考える会主催 「公訴時効について、いま考える事」	青山学院大学総究ビル3階会議室
「政策研究課題:基調講義・全体討議「治安・犯罪対策」	2010年5月17日・21日	平成22年度初任行政研修	人事院公務員研修所
「法社会学の観点から見た都条例改正案」	2010年5月17日	「どうする!? どうなる? 都条例 - 非実在青少年とケータイ規制を考える」主催:東京都青少年健全育成条例を考える会」	豊島公会堂
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」	2010年6月1日	特別捜査幹部研修所第86期生研修講義	警察大学校特別捜査幹部研修所
「若者の怒りは爆発するのか - 共同体と世代」	2010年9月17日	矯正茶話会	法曹会館「富士の間」
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」	2010年11月2日	特別捜査幹部研修所第87期生研修講義	警察大学校特別捜査幹部研修所
「安心・安全な社会を築くためには」	2010年11月13日	青葉六大学講座第五回	桐蔭横浜大学メモリアムアカデミウム
「法社会学、犯罪学から見る「青少年とインターネット」	2010年11月19日	モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 EMAセミナー	EMA事務局 会議室
「無期刑対象者について」	2011年3月2日	平成22年度保護司特別研修	横浜保護観察所
「政策研究課題:基調講義・全体討議「治安・犯罪対策」	2011年5月9日(～13日)	平成23年度初任行政研修	人事院公務員研修所
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」	2011年5月31日	特別捜査幹部研修所第86期生研修講義	警察大学校特別捜査幹部研修所
「日本における強盗防犯の成功の原因」	2011年8月5日	国際犯罪学会 第16回世界大会 <第8回公開シンポジウム> 現代日本の犯罪発生率の低さを理解する	神戸国際会議場 301室
「科学リテラシーと現代社会～理の共有～」	2011年9月8日	NPO法人 三鷹ネットワーク大学推進機構	国際基督教大学・東京理科大学 大学院協力サロン サイエンス・カフェ
「適度な用心こそ健全な社会を築く 犯罪防止は病気予防と同じか」	2011年11月11日	財団法人日本健康アカデミー心の健康と病気予防を考える “社会学見地より”	東京ウィメンズプラザ第2会議室B
「裁判員と被害者のこころ 弁護士が法廷で取るべき態度」	2011年11月21日	第二東京弁護士会裁判員裁判実施推進センター主催 「犯罪と臨床心理」	弁護士会館 第二東京弁護士会 会議室1003号室
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」	2012年1月6日	特別捜査幹部研修所第88期生研修講義	警察大学校特別捜査幹部研修所
「安全神話崩壊のパラドックス」	2012年2月11日	パルテノン多摩連続講演 第15回 リスク社会の 神話 を問い直す	パルテノン多摩4階 第1会議室
「「撮る」「書く」「話す」のいま 自主規制と公権力介入を考える - 」	2012年3月1日	日本ベンクラブ・専修大学社会科学研究所・共催	専修大学神田校舎 731教室(7号館)
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2009年4月～2012年3月	基盤研究C 刑事施設視察委員会の実態調査 研究代表者	
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2010年4月～2015年3月	新学術領域 刑罰と犯罪防止 研究代表者	

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「公訴時効廃止 議論と熟考欠いた国会」	2010年5月8日	北海道新聞2010年5月8日夕刊
「現代流マネジメント理論で見る”最強ヤクザ” 山口組、強さの秘密」	2010年5月18日	『サイゾー』2010年6月号
「30代は「逮捕」の危険年齢 果して30代は 凶暴化しているのか？」	2010年9月14日	『SPA! 週刊SPA!』2010年9月14日号
「横浜2人殺害 裁判員初の死刑判決 異例の 説論「控訴勧める」 永山基準を尊重」	2010年11月17日	産経新聞2010年11月17日
「裁判員初の死刑判決 重い決断課題次々 控訴審更生次第、議論に幅」	2010年11月17日	東京新聞2010年11月17日
「流出情報書籍出版差し止め 異例の迅速決 定」	2010年11月30日	毎日新聞2010年11月30日
「性行為描写ある漫画やアニメ - 東京都が条 例改正案再提出 規制対象拡大、あいまい 文言に懸念」	2010年12月2日	毎日新聞2010年12月2日
「漫画表現の規制と社会規範 官の「拡大解 釈」に警鐘」	2010年12月7日	朝日新聞2010年12月7日 夕刊
「急増するオンナの強欲殺人」	2010年12月28日	『女性自身』2010年12月28日号
「石原都知事 マンガ規制条例と矛盾？ポル ノ礼賛過去を一笑」	2011年1月18日	『FLASH』2011年1月18・25日号
「行き詰まる高齢受刑者処遇 出所後の支援 態勢強化を」	2011年3月5日	北海道新聞2011年3月5日夕刊 6面「各自核論」
「東日本大震災の惨害は、ニッポンの底力で 乗り越えられる! 「国富論」2011」	2011年4月26日	『ニューモデルマガジX 2011年6月号』47頁～49頁
「税務署が外国人ファイル 国籍や登録番号 個人情報収集」	2011年6月25日	毎日新聞
「取り調べの可視化 「映像」の副作用を危惧」	2011年7月23日	北海道新聞2011年7月23日夕刊 6面「各自核論」
「東電OL事件DNA再鑑定 その裏にキケンな 思惑が!？」	2011年9月1日	『サイゾー』2011年9月号 20～21頁 インタビュー掲載
「死刑是非の基本論点 開示と文化を出発点 に」	2011年9月11日	北海道新聞2010年9月11日夕刊 6面「各自核論」
「バランス感覚と新しい秩序」	2011年9月27日	WEBRONZA
「予想外の第三者委員会の結論に慌てた九 電」	2011年10月25日	WEBRONZA
「対象はヤクザではなく一般人」	2011年11月11日	週刊 金曜日 871号、56頁～57頁
「裁判結審はオウム事件の最終解決か?」	2011年11月25日	WEBRONZA
「死刑制度を残しつつ執行しないのが理想 だ」	2011年12月29日	WEBRONZA
(その他特記事項)		
「死刑に代わる刑罰となるのか? 終身刑設置の可能性を考える。」 TBSラジオ番組 ニュース探求ラジオDig 木曜日荻上チキ ゲスト出演(2010年7月29日)		
「漫画・アニメの性表現 ～都条例一部規制へ～」 NHKラジオ第一放送 ゲスト出演(2010年12月15日)		
「【イチバン知りたがり!】 性描写マンガ規制条約成立! 子どもにとってはいいことじゃないの? なぜ出版界は反発してるの?」 フジテレビ「知りたがり!」解説者(2010年12月16日)		
「ETV特集 NHK インタビュー出演」(2011年2月27日)		
「テレビ東京 マモレ!絶滅ニンゲン2011 出演」(2011年7月18日)		
「“オトク”な刑罰はどっちなの?禁断の“死刑の経済学”入門」(2011年9月1日) 別冊 サイゾー 第11巻第9号		
「「人を育てる人」河合隼雄の包容力 週刊現代」(2012年3月10日)		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会、比較法史学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1999年1月～現在	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2005年5月～現在	日本法社会学会理事	
2005年10月～現在	日本犯罪社会学会常任理事	
2006年4月3日～現在	警察大学校嘱託教員	
2008年3月～現在	特定非営利法人文化創造理事長(内閣府認証)	
2009年4月1日～現在	日本学術会議連携委員	
2010年7月7日～現在	EMA(モバイルコンテンツ審査・運用監視機構)基準策定委員会委員	
2011年5月20日～現在	全国篤志面接委員連盟評議員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
特定非営利法人文化創造理事長	2008年8月～2012年3月	

小林 学 (こばやし まなぶ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：自律的規範構造モデルの構築による民事訴訟法学の学問的復権 実体法と訴訟法の規範的連関論
 専門分野：民事手続法学

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)eトレ(メールによる出題と解答)	2005年4月～2010年7月	学生の携帯電話に簡単な問題をeメールで送信して、解答を返信してもらい、再度、こちらから正解を送信するというサイクルを繰り返す。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)民法の教材(『債権総論&担保物権』)	2005年度～2010年度	民法の授業に際して使用する教材。2010年度は、各回ごとに確認問題を置き、学生自身が自ら学習の到達度をチェックできるようにした。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
1. 民事訴訟法全体の研究を進めながらも、審判権の限界に関する研究を掘り下げた。その一部は判例評釈として公表した。 2. ADR、とりわけ、民間調停(メディエーション)を対象とした研究を展開し、そのなかでADR和解の執行力の有無につき、郭美松・副教授と共同で中国との比較法的考察をまとめた論稿を公にすることができた。 3. 弁護士業務全体の新たな展開に関して、教材の形でまとめることができた。 4. 現在、消費者問題という視座から、民事訴訟法領域では新たな集合訴訟構築の考察、ADR領域ではいかにして民間ADRを軌道に乗せるかの検討、そして、これらを担い手として支える弁護士業務のさらなる刷新に関して、研究を進めており、今後は、欧米・東アジアとの比較法的アプローチも交えて、これらの分野への考察を深める予定である。					
2011年度の研究活動概略					
1. 民事訴訟法全体の研究を進めながらも、確認の利益に関する研究を掘り下げた。その一部は判例評釈として公表した。また、初学者向けの民事訴訟法の教材を執筆中(校正段階)である。 2. ADR、とりわけ、調停を対象とした研究を継続し、その成果の一部を中国・西南政法大学主催の「中日韓民事調停制度国際学術研究会」において発表した。 3. 財団法人升本学術育英会の助成により、研究プロジェクト「民事紛争解決制度改革の行方 東アジアおよび欧米との比較法的考察」を実施した(2011年9月～2012年3月)。これは、日本の民事司法制度の半世紀を振り返るとともに、中国・韓国等の東アジアおよびアメリカ等の欧米の民事司法制度の実態調査を試み、今後の行方を考察する手がかりを得ようとするを目的とするものであり、以下の2点を柱として実施された。第1に、半世紀近く第一線で活躍してきた実務家(弁護士・最高裁判事など)ないし研究者に自らの半生を語ってもらい、活字にはあらわれない民事司法制度の実像を把握することを試みること、および、第2に、海外調査(中国2件、韓国1件、アメリカ1件)による比較法的考察を行うこと、である。なお、そのほか、PL紛争に関するADRの実態を調査するために、「消費生活用製品PLセンター」に協力を依頼して、本学において研究会を開催した。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『ブリッジブック裁判法(新版)』	共著	2010年5月10日	信山社	小島武司、小林学	第15項(209-240頁)担当
(総説・論説)					
『「協調・対話の世界」における法律学試論』	単著	2010年2月1日	白門62巻2号	-	55-68頁
『あるADR機関の将来予測』	単著	2011年2月1日	白門63巻2号	-	46-61頁

(最新判例批評)プロ野球一・二球団および社団法人日本野球機構から試合観戦契約約款に基づき入場券の販売拒否対象者に指定された者が当該指定に係る意思表示の無効確認を求める訴えと確認の利益(名古屋高判平成23.2.17判時2116号75頁)	単著	2012年2月1日	判例時報2133号(判例評論636号)	-	172-177頁
(学術論文)					
<判例評釈>「宗教法人の所有する土地の明渡しを求める訴えが法律上の争訟に当たらないとされた事例」	単著	2010年4月10日	平成21年度重要判例解説(ジュリ1398号)	-	141-142頁
「共同訴訟から集団訴訟へ」	共著	2011年9月25日	桐蔭法学第18巻第1号(35)	小島武司、小林立	43-78頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
口頭報告「日本における群体訴訟」	2010年11月14日	第5回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウム(上海交通大学/中国上海市)	小島武司、小林立		
口頭報告「日本民事訴訟における裁判運営の視座」	2011年3月12日	第6回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウム(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	小島武司、小林立		
口頭報告「日本における調整型ADR」	2011年3月12日	第6回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウム(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	-		
口頭報告「日本の民間調停と調停モデル」	2011年11月19日	中日韓民事調停制度国際学術研究会(西南政法大学/中国重慶市)	-		
口頭報告「民間調停総覧」	2011年11月26日	学術研究会「PLとADR」(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	-		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
基調講演「『協調・対話』重視のグローバルトレンドとADRモデル—『協調・対話』と『競争・対論』の複合戦略—」	2010年10月29日	京都弁護士会	ホテル平安会館(京都市)		
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
「民事紛争解決制度改革の行方 東アジアおよび欧米との比較法的考察」	2011年8月～2012年3月	財団法人升本学術育英会「平成23年度研究助成」			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
第5回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウムでの発表	2010年11月13日～16日	上海交通大学(中国)			
中国・西南政法大学主催「中日韓民事調停制度国際学術研究会」での発表	2010年11月18日～21日	西南政法大学(中国)			
(その他特記事項)					
文献紹介「Timothy D. Sisk, International Mediation in Civil Wars; Bargaining with the Enemy」仲裁とADR5号(2010年5月)					

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本民事訴訟法学会、日本私法学会、情報ネットワーク法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、東北アジア民事訴訟法国際学会	
2008年10月～現在	東北アジア民事訴訟法国際学会日本事務局
2010年12月～現在	日本司法アクセス学会事務局

鈴木直志(すずき ただし) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：1997(平成9)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院文学研究科博士後期課程
 学位：文学修士
 学位論文：プロイセン絶対王政における将校団について
 専門分野：ドイツ近世史・近代史、ヨーロッパ軍事史
 前職：大妻女子大学社会情報学部非常勤講師
 学内役職等：学生部副部長(2012)
 留学：ドイツ連邦共和国ヴェルツブルク大学
 非常勤講師：中央大学文学部、東京大学教養学部
 受賞・表彰：戦略研究学会研究奨励賞(小野賞)受賞(2006年)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
2010年度は、翻訳書1点(R・プレーヴェ『19世紀ドイツの軍隊・国家・社会』)、共著書1点(阪口平編著『歴史と軍隊 - 軍事史の新しい地平』)を刊行し、研究報告を2回(「リュヒェルとシャルンホルスト」 - 日本クラウゼヴィッツ学会シンポジウム、「ドイツにおける「啓蒙」と「専制」」 - ロシア史研究会2010年度大会)を行った。研究分担者として参加する科研「ヨーロッパ史の中の軍隊」は最終年度を迎えた。 この科研費補助金を用いて3月21・22日に開催された国際シンポジウム「新しい軍事史の方法と課題 - ヨーロッパ・アジア・日本」では、R・プレーヴェの報告「ドイツにおける新しい軍事史、1990年 - 2010年」(21日)、「軍事史関係の目録作成とその利用価値」(22日)の翻訳を行った。					
2011年度の研究活動概略					
2011年度は、共著書2点(三宅・石津他編著『ドイツ史と戦争 - 「軍事史」と「戦争史」』、および野上・福間編著『戦争社会学ブックガイド』)を刊行し、研究報告を3回(「プロイセン啓蒙絶対主義と軍隊」 - 第36回社会思想史学会大会、「ドイツにおける軍事史研究の現状」 - 防衛研究所国内研究会、および「近世常備軍論」 - 「軍隊と社会の歴史」研究会 第31回例会)を行った。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『19世紀ドイツの軍隊・国家・社会』	共著(訳)	2010年4月10日	創元社	ラルフ・プレーヴェ(著)阪口修平(監訳)丸島宏太(訳)鈴木直志(訳)	総243頁
『歴史と軍隊 - 軍事史の新しい地平』 「カントン制度再考 - 一八世紀プロイセンの軍隊と社会」	共著	2010年10月20日	創元社	阪口修平編著	205-235頁
『ドイツ史と戦争 - 「軍事史」と「戦争史」』 「リュヒェルとシャルンホルスト - 転換期における啓蒙の軍人」	共著	2011年11月15日	彩流社	三宅正樹他	125-151頁
(総説・論説)					
「近代組織としての軍隊」	単著	2012年3月10日	戦争社会学ブックガイド	-	108-110頁
(学術論文)					
「ドイツにおける「啓蒙」と「専制」 啓蒙絶対主義の歴史的位位置について」	単著	2011年5月25日	『ロシア史研究』 第88号	-	33-43頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
「リュヒェルとシャルンホルスト」	2010年10月16日	日本クラウゼヴィッツ学会シンポジウム (東京電機大学神田校舎)	-		
「ドイツにおける「啓蒙」と「専制」」	2010年10月17日	ロシア史研究会2010年度大会 (立教大学池袋キャンパス)	-		

「プロイセン啓蒙絶対主義と軍隊 貴族将校と軍事学校」	2011年10月30日	第36回社会思想史学会大会 (名古屋大学)	-
「ドイツにおける軍事史研究の現状 近世を中心に」	2011年12月5日	防衛研究所国内研究会 (防衛研究所)	-
「近世常備軍論-「集権的アリストクラシー」の軍隊」	2012年3月3日	「軍隊と社会の歴史」研究会 第31回例会駒澤大学	-
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「ヨーロッパ史の中の軍隊 新しい軍事史の方法と課題」(研究代表者:佐々木真)	2008年4月～2011年3月	科学研究費補助金	

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本西洋史学会、法文化学会、戦略研究学会、Arbeitskreis Militar und Gesellschaft in der Fruhen Neuzeit

竹内明世 (たけうち あきよ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：1998(平成10)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
 専門分野：商法、銀行取引法、民法

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の知的関心を高める工夫 課外での模擬裁判劇指導 [模擬裁判劇]	2010年6月5日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「放火被告事件」
	2010年7月3日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「貸金請求事件・放火被告事件」 (「仲道郁代 ショパンへの道～作曲家ショパン生誕200年記念～」に因んで)
	2010年8月20日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「貸金請求事件」
	2010年8月21日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「覚せい剤取締法違反被告事件」
	2010年9月25日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「内定取消!?雇用関係確認請求事件」 (「星野富弘 花の詩画展」に因んで)
	2010年10月23日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「覚せい剤(再犯)・内定取消!?雇用関係確認請求事件」
	2010年11月27日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「公害病損害賠償請求事件・内定取消!?雇用関係確認請求事件・覚せい剤(再犯)」
	2010年12月18日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「プレゼント袋強盗致傷被告事件・公害病損害賠償請求事件」
	2011年1月8日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「ハンドバッグ強盗致傷被告事件・公害病損害賠償請求事件」
	2011年1月22日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「『藪の中』殺人被告事件・貸金請求事件」 (「TOIN ART COLLECTION 2011 桐蔭生作品展」に因んで)
	2011年2月26日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「貸金請求事件」
ゼミ対抗リーガルシミュレーションゲーム指導	2011年9月～2012年2月	市民間で発生する可能性がある日常的トラブルを題材にしたゲームの登場人物として主張・反論等を積み上げながら進行させる法律ゲームに研究室で参加した。今回の題材は、マンション建設を計画している建設会社と建設に反対している周辺住民との間のトラブルであり、建設会社として参加した。

研究活動

2010年度の研究活動概略
1. 有価証券の意義 2. 債権譲渡 3. 民事裁判の研究

2011年度の研究活動概略			
1.会社に関する行政法規を研究した。特に、建築基準法関係法令を研究し、リーガルシミュレーションゲームの指導に生かした。 2.宗教法人についての研究に取り組み始めた。まずは、これまであまり法律的に分析されてこなかった宗教法人と檀徒との法律関係を明らかにしたい。			
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
フロンティアセミナー 講演「『企業』の意義と社会的役割に関する一考察」	2010年9月19日	桐蔭学園高等学校・中等教育学校	桐蔭学園高等学校進学棟
フロンティアセミナー 講演「『企業』の意義と社会的役割に関する一考察」	2011年9月24日	桐蔭学園高等学校・中等教育学校	桐蔭学園高等学校進学棟
その他			
(その他特記事項)			
桐蔭横浜大学第12回おもしろ理科教室に「なりきり裁判官」「車椅子ダンス」「社交ダンス」「礼儀作法」を出展し、地域の子供たちと保護者の皆さんに、裁判を身近に感じてもらうこと、健常者と身体障害者および高齢者との共生社会のあり方を考えてもらうこと、お箸の使い方から日本の食文化(特に会食)を見つめ直してもらうこと等を目指した。(2010年8月19日)			
桐蔭横浜大学第13回おもしろ理科教室に「なりきり裁判官」「車椅子ダンス」「社交ダンス」「礼儀作法」を出展し、地域の子供たちと保護者の皆さんに、裁判を身近に感じてもらうこと、健常者と身体障害者および高齢者との共生社会のあり方を考えてもらうこと、お箸の使い方から日本の食文化(特に会食)を見つめ直してもらうこと等を目指した。(2011年8月24日)			
桐蔭横浜大学大学院法学研究科修士課程1年および桐蔭横浜大学法学部2年の学生2名による論文「リーガルシミュレーションゲーム実践の記録 株式会社 レアル デベロッパー戦記」(桐蔭論叢第26号(2012年6月)109頁～139頁)の執筆を指導した。(2012年2月～3月)			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会		
(主な活動内容)		
神奈川県立海老名高等学校においての模擬裁判劇「『カフェぼろに屋』殺人未遂被告事件」(職業体験学習)	2011年2月4日	神奈川県立海老名高等学校
神奈川県立相模原高等学校においての模擬授業(進路ガイダンス)	2011年12月15日	神奈川県立相模原高等学校

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2010・2011・2012)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマソッドを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2)授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	2005年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んだ(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所、美祿社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んだ(博物館網走監獄、旧釧路集治監)。
(3)ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集を編纂している。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
複雑系犯罪学 ・ポストモダン犯罪学 ・刑事科学に関するエピステモロジーとパラダイム ・犯罪・刑罰と社会構造の関係 ・社会統制の形態・位相転化 ・国際(組織)犯罪 ・エコ犯罪とグリーン犯罪学					
2011年度の研究活動概略					
複雑系犯罪学 ・ポストモダン犯罪学 ・刑事科学に関するエピステモロジーとパラダイム ・犯罪・刑罰と社会構造の関係 ・社会統制の形態・位相転化 ・国際(組織)犯罪 ・エコ犯罪とグリーン犯罪学					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
Transnational Crime/Harm/Injustice and Struggle for Social Justice: Development of Chaos/Complexity Criminology: Twelfth United Nations Congress on Crime Prevention and Criminal Justice Background documents, A/CONF.213/IE/8	単著	2010年4月	United Nations Office of Drug and Crime	-	
立石二六先生古稀祝賀論文集	共著	2010年7月	成文堂	川端博、椎橋隆幸、甲斐克則ほか	984-1000頁

(学術論文)					
“Water Crisis, Water Justice and Water Democracy: One Aspect of Struggle for ‘Green Social Justice’ as ‘Applied Complexity Green Criminology’”	単著	2010年12月15日	桐蔭論叢 第23号	-	pp.45-65
“Crisis of Global Biodiversity and Complexity Green Criminology”	単著	2011年12月15日	桐蔭論叢 第25号	-	pp.51-62
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名	
“Transnational Crime/Harm/Injustice and Struggle for Social Justice: Development of Chaos/Complexity Criminology”	April. 2010	Twelfth United Nations Congress on Crime Prevention and Criminal Justice, Salvador, Brasil		-	
“Crisis of global biodiversity and complexity green criminology”	Sept. 11, 2010	10th Annual Conference of European Society of Criminology, Liege, Belgium		-	
“State-of-the-art ‘Pandora’s Box’? Uncontrollable Complex Criticalities of Nuclear Power Plant Accidents and Fatal Damages/Harms to Global Environment”	Aug. 5-9, 2011	16th World Congress of International Society of Criminology, Kobe, Japan		-	
“Uncontrollable Complex Accident of Nuclear Power Plant and Fatal Environmental Crime/Harm”	Sept. 21-24, 2011	11th Annual Conference of European Society of Criminology, Vilnius, Lithuania		-	
“Fission and Fusion of time/space theory for complexity green criminology”	Nov. 16-19, 2011	63rd Annual Meeting of American Society of Criminology, Washington D.C., U.S.A.		-	
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
地球環境危機における複雑系グリーン犯罪学に関する研究	2008年4月～2012年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
第12回国連犯罪防止会議参加・研究発表、ガラパゴス諸島における環境破壊・保護に関する調査研究	2010年4月	サルバドール国際会議場(ブラジル)、ダーウィン研究所(エクアドル)ほか			
第10回ヨーロッパ犯罪学会参加・研究発表、環境犯罪に関する調査研究	2010年9月	リエージュ大学(ベルギー)、チュービンゲン大学犯罪学研究所(ドイツ)			
マダガスカルにおける環境破壊・保護に関する調査研究	2011年8～9月	マダガスカル環境省ほか(マダガスカル)			
第11回ヨーロッパ犯罪学会参加・研究発表、環境犯罪に関する調査研究	2011年9月	ピュルニス大学(リトアニア)、チュービンゲン大学犯罪学研究所(ドイツ)			
第63回アメリカ犯罪学会参加・研究発表、共同研究の打ち合わせ	2011年11月	ワシントンDCヒルトンホテル(アメリカ合衆国)			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Societe Internationale de Criminologie, European Society of Criminology, American Society of Criminology, Australian and New Zealand Society of Criminology, Academy of Criminal Justice Sciences. 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員
2010年4月	Individual Expert invited by United Nations, Twelvth United Nations Congress on the Prevention of Crime and Criminal Justice, Salvador, Brazil

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年 : 1955(昭和30)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 専門分野 : 政治思想史
 前職 : 長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等 : 学務部副部長(2012)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)「英語基礎 1」	2009年3月 2010年3月 改訂	英語A-1, A-2の授業で使用するために作成。音声指導の重視と分かりやすい文法指導を特色とする。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

研究活動

2010年度の研究活動概略			
トクヴィルの政治思想 シェルドン・ウォリン著の浩瀚なトクヴィル論 <i>Toqueville Between Two World</i> の翻訳			
2011年度の研究活動概略			
2010年に引き続きシェルドン・ウォリン著の浩瀚なトクヴィル論 <i>Toqueville Between Two World</i> の翻訳 (武蔵野大学出版部より刊行 予定。)			
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「シェルドン・S・ウォリン『トクヴィル:二つの世界のはざままで』(2001)翻訳覚え書き～いくつかの興味深い視点～」	2011年5月12日	桐蔭比較歴史学研究会	-
その他			
(その他特記事項)			
『斎藤眞を読みましたか?』斎藤眞先生追悼集慣行委員会編『こまが廻り出した』(東京大学出版会(2011年3月25日発行))			
法学研究科修士論文審査			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

原 口 伸 夫 (はらぐち のぶお) 教授



出 生 年 : 1968(昭和43)年
 在 籍 : 2002(平成14)年9月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : 不能未遂に関する一考察 危険性は未遂犯のメルク
 マールたり得るのか？
 専 門 分 野 : 刑法
 前 職 : 中央大学法学部兼任講師、駒澤大学法学部非常勤講師
 学 内 役 職 等 : 学生部副部長(2010・2011・2012)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
刑法解釈論の研究、とくに量的過剰防衛に関する研究に取り組んだ。正当防衛に関しては、近時、最決平成20年5月20日刑集62巻6号1786頁(自招の侵害と正当防衛の可否)、最決平成20年6月25日刑集62巻6号1859頁(量的過剰防衛)、最決平成21年2月24日刑集63巻2号1頁(量的過剰防衛)、最決平成21年7月16日刑集63巻6号711頁(防衛行為の相当性)など、重要判例が多く下され、これらをめぐる議論が活発になされているところであり、本年度はとくに量的過剰棒得に関して研究し、後述の論文(立石二六先生古稀祝賀論文集)を発表することができた。今後、さらに研究を深め、関連する問題点についても研究成果を発表していきたい。					
2011年度の研究活動概略					
刑法解釈論の研究、とくに中止未遂(刑法43条ただし書の解釈)に関する研究に取り組んだ。中止未遂に関しては、従来、その法的性格、着手未遂と実行未遂の区別について多く議論されてきたが、中止行為(「中止した」)に関する議論は必ずしも多くはなかった。そこで、本年度は、この解釈論に焦点をあて、一般人がその状況に置かれたならば、被害者の救助(既遂の阻止)のためにとるであろうような措置、つまり、人並みの法益象徴意思を示す行動をとることが必要であり、かつそれで十分であるとの結論を得ることができ、これに関して、刑法学会(第89回全国大会)で発表することができた。今後も、関連する問題点についてさらに発展させていきたい。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「量的過剰防衛について」	単著	2010年7月20日	立石二六先生古稀祝賀論文集、成文堂	-	271-297頁
『判例回顧と展望2010(刑法)』	単著	2011年5月30日	法律時報83巻6号	-	51-55頁
「刑法43条ただし書における『中止した』の解釈について」	単著	2012年1月20日	刑法雑誌51巻2号	-	66-80頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「刑法43条ただし書における『中止した』の解釈について」	2011年5月29日	日本刑法学会第89回大会	-		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「裁判員制度の現状と課題」	2011年11月21日	神奈川県立湘南台高校(神奈川県シチズンシップ教育)	神奈川県立湘南台高校		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

ペマ・ギャルボ (ペマ・ぎゃるぼ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：モンゴル国立大学
 学位：政治学博士
 学位論文：中国とチベットの国際関係
 専門分野：国際政治
 前職：ダライ・ラマ法王アジア・太平洋地区担当初代代表
 (1980～1990)
 岐阜女子大学 客員教授(1990～1996)
 岐阜女子大学 教授(1996～2004.3)
 拓殖大学海外事情研究所客員教授(1997～)
 拓殖大学海外事情研究所研究員・講師(1982～1997)

学内役職等：国際交流センター長(2010・2011・2012)
 受賞・表彰：1995年11月 第32回翻訳出版文化賞
 1998年2月 ベストテューター賞
 2009年7月 モンゴル国友好勲章受章

その他：チベット文化研究所名誉所長
 岐阜女子大学名誉教授

研究活動

2010年度の研究活動概略					
南及び中央アジアの地域ならびに国際関係に関する研究 共同研究を中心に南アジア地域協力連合ならびに中央アジアの研究を岐阜女子大学時代から継続的に行っている。個人的には特に日本が今後インドを中心とする南アジアとモンゴルなど旧ソ連の直接または間接的支配下にあった国々とのように関わるべきかを研究している。					
2011年度の研究活動概略					
継続的に南アジア地域の研究と現地との情報交換を重ね、日本民間外交推進協会の参与という資格でインドの現地調査などを行うとともに視察団を企画・随行した。研究内容に関しては出来るだけアジアの視点から世界の動向をみつめ、日本の国際的地位の向上、特にアジアでのリーダーシップを発揮できる環境づくりに貢献するよう努めている。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『帰化新日本人に訊け!』 小林よしのりゴーマニズム対論集	共著	2011年5月16日	飛鳥新社	小林よしのり 著 石平、呉善花、鄭大均、 マ・ギャルボ、ヒル・トッ ン、金美齡	171-222頁
『最終目標は天皇の処刑、中国 「日本解放工作」の恐るべき全貌』	単著	2012年1月27日	飛鳥新社	-	全272頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
『タシ・ツェリン氏と語り合う、長野聖火リレーの 衝撃』(パネリスト)	2010年6月20日	チベット百人委員会シンポジ ウム(トイゴ/長野)	(パネリスト)タシ・ツェリン、スー・ ジェイ、マ・ギャルボ、井川仁水 、西村幸祐		
フリーディスカッション「伝える」	2010年9月4日	東京藝術大学シンポジウム	日比野克彦、赤池 学、マ・ギャ ルボ、榎本了巻		
『GNHと良いガバナンス』 (パネラー)	2010年10月1日	町づくりについてシンポジウム (高知工科大学)	-		
『東アジア共同体の可能性と問題点 - 横浜か らの発信 -』 (パネラー)	2010年10月9日	よこはま大学開港塾2010 (関東学院大学)	(パネリスト)榎原英資、原洋之 介、マ・ギャルボ、小林照夫 司会・進行:富岡幸一郎		

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「鳩山内閣の総括と菅内閣に何が出来るか」	2010年6月17日	タシ塾	(株)キャリアコンサルティング 会議室
「中印関係とチベット問題」	2010年6月18日	アジア太平洋フォーラム	東海大学クラブ
「チベットを取り巻く国際環境」	2010年7月7日	拓殖大学海外事情研究所全体会議 報告	拓殖大学
「日本社会と道徳・倫理観」	2010年7月10日	高德寺法話	青山高德寺
「アジアの中の日本 その役割と展望」	2010年7月12日	岩手県経済同友会	盛岡ホテルメトロポリタン
「現代チベット史について」	2010年7月17日	チベット文化研究所	チベット文化研究所
「チベットの過去・現在・未来-チベット問題とは何か?-」	2010年8月19日	クラブフォーラムワン	豊洲文化センター レクホール
「岩手町ふるさと大使懇談会」出席者による提言	2010年9月4日	岩手町ふるさと大使	アルカディア市ヶ谷
「多文化共生と地域の国際交流の役割」	2010年9月5日	主催:(財)岩手県国際交流協会2010ワンワールドフェスタ inいわて	花と泉の公園(岩手県一関市)
「インドについて」「ブータンについて」	2010年9月19日	桐蔭学園高等学校	桐蔭学園高等学校
「チベットの行方」チベット亡命政府元主席大臣テンジン・テトン氏(通訳及びモデレーター)	2010年9月28日	チベット百人委員会	東京ウイメンズプラザ ホール
「チベット亡命政府60年の歩と最近のチベットを取り巻く国際情勢」(通訳)	2010年9月29日	チベット文化研究所	常円寺
「インド人との付き合い方」	2010年10月7日	民間外交推進協会	ホテルオークラ
「尖閣諸島問題の意味」	2010年10月10日	高德寺法話	青山高德寺
「激動するアジアの中の日本 その可能性と危険性」	2010年10月25日	日本郷友連盟	グランドヒル市ヶ谷
「アジア情勢」	2010年11月1日	防衛庁幹部役員研修会	防衛庁
「日本を取り巻くアジアの現状」	2010年11月11日	松本市美須々が丘高等学校	松本市美須々が丘高等学校
「インド情勢」	2010年11月12日	国家基本問題研究所	国家基本問題研究所 会議室
「日印関係とアジアの未来」	2010年11月13日	名古屋商工会議所	名古屋商工会議所
「現代チベット史」	2010年12月4日	チベット文化研究所	チベット文化研究所
「日本は中印関係をどう生かすべきか」	2010年12月17日	中部国際自動車大学校	中部国際自動車大学校
「GNHと日本」	2011年1月19日	長野県講演	信州大学
「中印関係の行方」	2011年1月21日	ジャパントランスポートエーションクラブ	新橋第一ホテル
「南アジアと日本」	2011年2月19日	信州クラブ講演	ホテルエドモンド
「日本が中国の大和自治区にならないために」	2011年3月11日	サンガの会	福岡
「中国の正体」	2011年4月23日	大和心塾	大阪 難波神社
「中国・インド・日本 なぜインドが大事か」	2011年7月25日	神楽坂クラブ	神楽坂クラブサロン
「7月のホータン事件を考える緊急集会」	2011年7月31日	ウイグル協会	下北沢タウンホール
「日印関係の現状と未来」	2011年9月15日	未考会	東急エクセルホテル
「なぜ今インドか」	2011年9月21日	西東京ロータリークラブ	ホテルニューオータニ
「アジアの自由と民主主義」	2011年9月24日	国際勝共連合	消防会館
「日本文化に根付く仏教精神」	2011年10月10日	高德寺法話	高德寺本堂
「日本人への最後の通告」	2011年10月17日	日本経済人同友会	(財)ホテルアジア会館
「GNHについて」	2011年10月28日	双日社研修会	双日社
「アジアと日本」	2011年11月6日	アジアの自由を守る委員会	すくわーる麹町

「インドの情勢」	2011年11月10日	防衛省	防衛省講堂
「小さな国ブータンの魅力」	2011年12月19日	中部国際自動車大学校	中部国際自動車大学校講堂
「科学と精神」	2012年1月16日	科学と経済の会	
「ダライ・ラマ法王が政教一致の政治制度に終 止符を打ったその背景と現状報告」	2012年1月21日	海外事情研究所	拓殖大学
「ブータンの現状」	2012年1月25日	トランスポートクラブ	新橋亭
「ブータンの現状」	2012年2月10日	真照寺	真照寺
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
オイスカ功労賞受賞	2011年10月7日	オイスカ50周年記念式典	-
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
現地調査	2010年8月22日～9月2日	ブータン王国、タイ王国	
現地調査、研究	2011年5月18日～28日	インド	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「政治の信頼回復を祈念する」	2010年4月13日	世界日報 ビューポイント	
「深刻な日本の政治人材不足」	2010年5月4日	世界日報 ビューポイント	
「参院選で保守の大同団結を」	2010年6月8日	世界日報 ビューポイント	
「中国人ビザ緩和で大丈夫か」	2010年7月19日	世界日報 ビューポイント	
「民主党は国益を最優先せよ」	2010年8月25日	世界日報 ビューポイント	
「情けない菅内閣の尖閣対処」	2010年9月28日	世界日報 ビューポイント	
「チリ救出劇に学ぶ国歌の力」	2010年11月2日	世界日報 ビューポイント	
「尖閣に建物を造り居住せよ」	2010年12月6日	世界日報 ビューポイント	
「インドとの関係強化の年に」	2011年1月5日	世界日報 ビューポイント	
「胡錦濤主席に冷たい米政界」	2011年2月2日	世界日報 ビューポイント	
「国連安保理を制度改革せよ」	2011年3月2日	世界日報 ビューポイント	
「チベット民主化を進める法王」	2011年4月11日	世界日報 ビューポイント	
「石原東京都知事に期待する」	2011年5月4日	世界日報 ビューポイント	
「チベット改革仕上げる法王」	2011年6月1日	世界日報 ビューポイント	
「菅降ろしより解散総選挙だ」	2011年7月7日	世界日報 ビューポイント	
「日本とインドの関係拡大を」	2011年8月17日	世界日報 ビューポイント	
「日本人の技術を支えた心得」	2011年9月28日	世界日報 ビューポイント	
「中国の内部崩壊は起きない」	2011年10月31日	世界日報 ビューポイント	
「ブータン国王御訪日に思う」	2011年11月30日	世界日報 ビューポイント	
「復興を宿す潜在的な精神文化」	2012年1月1日	世界日報 ビューポイント	
「政治家の質を上げる改革を」	2012年2月1日	世界日報 ビューポイント	
「チベット焼身の叫びよ轟け」	2012年3月27日	世界日報 ビューポイント	
アジア最前線「タイのデモ報道から何を学ぶ べきか」	2010年6月8日	月刊政界往来2010年7月号	
アジア最前線「日印の核エネルギー協力を期 待する」	2010年7月13日	月刊政界往来2010年8月号	
アジア最前線「南アジアとエネルギー問題」	2010年8月12日	月刊政界往来2010年9月号	
アジア最前線「小さくともきらりと光る」	2010年9月15日	月刊政界往来2010年10月号	

ガート・ヨハネス・グロブラー南アフリカ共和国 駐日特命全権大使〔第1回〕 「日本は戦略的に非常に重要なパートナーで す」	2010年10月12日	月刊政界往来2010年11月号
ガート・ヨハネス・グロブラー南アフリカ共和国 駐日特命全権大使〔第2回〕 「南アフリカは常任理事国入りを希望してい ます」	2010年11月11日	月刊政界往来2010年12月号
ガート・ヨハネス・グロブラー南アフリカ共和国 駐日特命全権大使〔第3回〕 「何があるうと、南アフリカと日本は、相互に信 頼し、尊敬しあう」	2010年12月13日	月刊政界往来2011年1月号
エンクバイヤルモンゴル前大統領との対談「開 国はリスク伴うが正道」	2011年7月1日	月刊政界往来2011年8月号
ムジブル・ラーマン・ブヤンバングラデシュ大 使との対談「南、東アジアの接点に」	2011年8月1日	月刊政界往来2011年9月号
「アジアの中の日、その役割と展望」	2010年8月	いわて経済同友8月号
「ガンジー思想の今日的価値」	2010年9月	佼成出版 DHARMA 9月号
女性のためのチベット入門「日本人が知らな いチベット侵略の真実」	2011年1月29日	アー・ユー・ハッピー？ 2011年3月号 88-95頁 ジャーナリスト 田中順子氏との対談
インタビュー「チベットについて、日本につ いて」	2011年4月20日	楳教育システム BAN5月号 4-6頁
緊急特集「ジャスミン革命と中国」	2011年4月26日	ジャパニズム01創刊号 80-83頁
ブータン国王取材記事 コメント掲載	2012年1月12日	週間文春1月5日・12日新年特大号 45-46頁
(その他特記事項)		
2010年6月4日 インド大使館ベータ研究会・パーティー		
2010年7月9日 南アフリカ大使インタビュー		
2010年7月9日 ベマ・ギャルボを囲むマスコミ研究会		
2010年7月22日 タシ塾キャリアコンサルタント会議		
2010年7月26日 エンジン01政策提言会議		
2010年7月29日 瞳会鳩山会館(ビジネス交流会にて挨拶)		
2010年8月2日 念法新教立教85周年式典総本山金剛寺、パーティー リーガロイヤル大阪		
2010年8月12日 タシ塾キャリアコンサルタント会議		
2010年8月17日 OISCA総裁との打ち合わせ		
2010年9月12日 創美流250周年記念会 椿山社		
2010年9月30日 経営塾フォーラム(赤坂プリンスホテル) グローバルイシューズフォーラム主宰		
2010年10月21日 モンゴル大使を囲む朝食会(ペニンシュラホテル)		
2010年10月22日 ニンジン女史を囲むOISCA夕食懇談会		
2010年10月25日 亜細亜大学雄弁会OB懇親会		
2010年10月27日 富士福祉財団40周年記念パーティー 上野東天紅		
2010年10月28日 岐阜県知事主催パーティー 鞠町市町村ホテル		
2010年10月29日 インド公使他大使館スタッフ送別会 九段会館		
2010年11月15日 モンゴル大統領歓迎会		
2010年11月18日 日印協会勉強会		
2010年11月19日 南アジア研究センター研究会、ノーベル賞受賞パーティー		
2010年11月20日 アジア問題懇話会例会		
2010年11月22日 「大田総理」テレビ出演		
2010年12月2日 大阪ブータン名誉総領事 京都府環境殿堂入り打合せ会議		
2010年12月3日 新インド大使館 次席大使表敬訪問		

2010年12月5日	石平、八木教授と鼎談 銀座東武ホテル
2010年12月6日	下村博文議員表敬訪問、小林よしのりとの対談(飛鳥出版)
2010年12月7日	GIF研究会 青山ウーマンズブラザ
2010年12月8日	外務省南西アジア課長他会合 全日空ホテル 出席
2010年12月9日	国家基本問題研究会 同行通訳 前インド政府官房副長官、ブータン王国新名誉総領事就任パーティー 外国人特派員協会
2010年12月15日	国会議事堂見学 学生引率
2010年12月17日	タシ塾 修了式
2010年12月18日	雑誌リバティール取材(インタビュー)、マスコミ研究会
2010年12月21日	モンゴル前大統領を囲む朝食会、野呂田芳成議員とモンゴル前大統領を囲む昼食会
2011年1月3日	志学塾 靖国参拝
2011年1月14日	Will取材
2011年1月15日	NONESテレビ取材
2011年1月17日	飛鳥出版取材
2011年1月18日	国家ヴィジョン委員会対談
2011年1月20日	菅直人施政方針演説 帝国ホテル、衆議院第二国家ヴィジョン委員会 討論会
2011年1月24日	エンジン01 新年会
2011年1月26日	インド共和国記念日式典(ホテルオークラ)、BAVクラブ 新年会(雅叙園)
2011年2月3日	飛鳥出版インタビュー
2011年2月4日	アメリカより来日の自由チベット学生フォーラム一行と歓談及び会食
2011年2月7日	「共産主義は間違っている」自由アジア連絡会議打合せ
2011年2月9日	法政大学地域活性化研究会 親睦会
2011年2月10日	国民新党新年会
2011年2月11日	国護り弁論大会審査委員、ブータン王国王女来日 通訳・コーディネート(京都～東京同行)～2/18
2011年2月18日	神奈川テレビ打合せ
2011年2月19日	チベット文化研究所P-TIME
2011年2月22日	GNH学会準備委員会
2011年2月24日	中印日本国新旧大使送別会
2011年2月26日	参加の会幹部との打合せ
2011年2月28日	バングラデシュ大使を囲む朝食会(ベニンシュラホテル)
2011年3月1日	神奈川テレビ収録
2011年3月4日	インド商工会議所主宰新インド大使歓迎会 外国人特派員協会
2011年3月5日	石平氏結婚式列席・スピーチ(大阪住吉神社)
2011年3月10日	新インド大使表敬訪問(インド大使館)
2011年3月21日	震災犠牲者供養の法要(チベット文化研究所)
2011年3月26日	震災犠牲者供養の法要(護国寺)、映画「自由への叫び」上映会(青山ウイメンズブラザ)
2011年3月29日	世界政経調査会 会合お酔いチベットに関するブリーフィング
2011年3月30日	産経取材、外務省南西アジア部長 会食
2011年4月13日	南アジア研究会(国際文化会館)
2011年4月26日	日印協会 新インド大使歓迎会 日印協会
2011年4月28日	タシ塾 キャリアコンサルティング会議室
2011年4月29日	ダライ・ラマ法王東京事務所、震災犠牲者供養の法要(護国寺)
2011年5月6日	GNH学会準備委員会

2011年5月10日 逢沢一郎衆議院議員政策研究会(市町村会館)
2011年5月17日 タシ塾 キャリアコンサルティング会議室
2011年5月18日～2011年5月28日 インド出張(現地調査及び研究)
2011年5月21日～2011年5月25日 第二次チベット人大大会 出席
2011年6月3日 中国民主化陣営天安門事件式典 来賓挨拶(文京区シビックセンター)
2011年6月12日 GNH学会設立総会(上智大学)
2011年6月16日 日本会議 尖閣諸島問題集会 来賓挨拶(有楽町駅前広場)
2011年6月23日 新聞「ざっくばらん」ごろうさま会 出席(市谷グランドヒルズ)
2011年7月4日 「佐藤しのぶの出会いのハーモニー」テレビ神奈川 関東圏放送
2011年7月15日 ブータン王国ジゲル・ワンチュク王子謁見
2011年7月17日 ワンチュク王子 ブータン名誉総領事主催歓迎会にてスピーチ(ホテルオークラ)
2011年8月2日 EU大使と対談 民間外交推進協会
2011年8月9日 外務省南西アジア課長と会食
2011年8月10日 GNH学会理事会
2011年8月12日 インド大使と対談 BAN編集部
2011年8月20日 「岩手県岩手町東京のつどい」ゲスト参加(銀座コア)
2011年8月23日 スリランカ高等文部大臣 表敬、パーリー・サンスクリット語大学学部長 表敬
2011年8月24日 スリランカ大統領顧問 表敬、外務次官 表敬
2011年9月12日 オイスカ理事会出席
2011年9月15日 タシ塾 キャリアコンサルティング会議室
2011年9月27日～2011年9月29日 ブータン王国首相来日に同行
2011年10月20日 CATV さくらチャンネル「中国を取り巻く国際情勢についての討論会」パネラーとして収録
2011年10月22日 モンゴル・チベット・ウイグルの3民族勉強会 司会進行
2011年10月30日 オイスカ主催ボーイング787テストフライトによる被災地訪問、外交団とともに
2011年11月15日～2011年11月20日 ブータン国王来日通訳として全工程同行<11月18日福島慰問、18日～20日京都訪問>
2011年11月23日 朝日ニュースターインタビュー
2011年11月25日 船井総研にてインタビュー
2011年11月26日 アジアの自由と人権の集い(駒沢オリンピックセンター)
2011年12月3日 日本モンゴル協会忘年会(モンゴル大使館)
2011年12月9日 GNH学会(丸の内マハラジャ)
2011年12月16日 PHP出版取材 世界政経調査会 卓話(赤坂北大路)
2011年12月18日 国際ディベート学会ゲスト 外国人特派員協会
2011年12月22日 外務省南西アジア部長会食(六本木)、明治神宮広報部取材
2011年12月23日 TBS収録、都議会 三田敏哉議員と会食
2012年1月10日 ワニブックス 出版打ち合わせ
2012年1月13日 大阪読売テレビ 収録
2012年1月16日 日本ウイグル協会 収録
2012年1月17日 チャンネル桜 収録
2012年1月19日 APAホテル 勝兵塾
2012年1月19日 タシ塾
2012年1月24日 JATAにて通訳(霞ヶ関ビル)
2012年1月25日 ブータン観光局一行来日歓迎パーティー

2012年1月26日	インド大使館 ランチパーティー
2012年1月27日	モンゴル新大使 表敬訪問
2012年1月28日	アジア自由連帯協議会
2012年1月30日	天草市市長面会
2012年1月31日	インド大使館参事官 公邸パーティー
2012年2月3日	立ち上げれ日本 パーティー
2012年2月4日	チベット文化研究所 新年会
2012年2月5日	ワニブックス 打ち合わせ
2012年2月7日	民間外交推進協会 インド訪問説明会
2012年2月8日	ロータリークラブ 留学生への奨学金供与のお礼
2012年2月11日	国護り演説大会 審査委員
2012年2月13日	ツリーズム&トランスポーターション ランチスピーチ
2012年2月13日	日本ウイグル協会収録
2012年2月14日	京都伝統工芸大学校 現地調査
2012年2月15日	ロータリークラブ

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
アジア政経学会、国際政治学会、南アジア学会チベット学会、国際コミュニケーション学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1994年～	NPO法人日印親善協会(JIGA)理事 Japan India Goodwill Association
1999年4月～	(社)国際青年文化交流協会 理事
2001年1月～	NPO法人チベット教育福祉基金理事長
2005年5月～	(財)OISCA評議員

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
 在籍 : 1997(平成9)年4月～
 最終学歴 : 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
 学位 : 法学博士
 学位論文 : J. S. ミルの自由主義思想
 専門分野 : 欧州政治思想史
 前職 : 立教大学文学部非常勤講師
 学内役職等 : 学科長、学務部副部長(2012)
 学務部長(2010・2011)
 留学 : ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
1. 高等教育と職業教育の関連について 2. 沖縄戦についての言説のあり方について 3. グローバリゼーションとガバナンスについて					
2011年度の研究活動概略					
1. 高等教育と職業教育の関連性について、アメリカのビジネススクールと経営理論の歴史を素材にした思想史的探求 2. 19世紀イギリスを中心とした、scienceとartとの概念史 1については、前年度からの継続。現在、高等教育と職業教育の関連性が問われているが、これは知のあり方と生業との関係であり、古典古代から継続してきた問いであり、特に19世紀から様々な形で議論されている。つまり2の視座を入れつつ、これまで行ってきた1についてより広い視座から検討を進める。またその過程で、経営的判断、政治的判断など、実践的な判断の基準となりうる論理について探求する。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「高等教育における職業教育についての試論(1)」	単著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	-	61-68頁
「高等教育における職業教育についての試論(2)」	単著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	-	33-42頁
「沖縄を手がかりとして(1)-沖縄戦についての記述を巡って-」	単著	2011年12月15日	桐蔭論叢 第25号	-	29-41頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本政治学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について chemical mediatorを中心として(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手, 国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員, 国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：生涯学習センター長(2012)
 学生部副部長(2010・2011)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)体育実技(担当種目:バドミントン) 1)優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2)マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3)学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4)学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2)健康の科学 1)優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2)マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3)学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4)学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1)健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。

(2)健康科学 (改訂版) 道和書院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (3)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的実践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。
(4)その他、作成した教材は多数		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)内部疾患と処方(免疫を中心として)	2005年4月～ (毎年1回)	国立身体障害者リハビリテーションセンター

研究活動

2010年度の研究活動概略					
・健康、生活に関する調査研究(肥満・ダイエット・メタボリックシンドローム) ・体温調節に関する研究(特に発育発達・老化に伴う抹消部体温調節反応の変化) ・青年期(大学生)における運動と行動変容に関する研究 ・性的感染症に関する調査研究					
2011年度の研究活動概略					
・健康、生活に関する調査研究(肥満・ダイエット・メタボリックシンドローム) ・体温調節に関する研究(特に発育発達・老化に伴う抹消部体温調節反応の変化) ・青年期(大学生)における運動と行動変容に関する研究 ・高齢者における精神健康に関する調査研究 ・気功などの呼吸法に関する生理学的研究					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「日本及び中国における幼児の体温水準に関する調査研究」	共著	2011年3月31日	体育研究 第44号	村上秀明、田中英登、野本茂樹、相原康二、石渡貴之、小谷泰則、齊藤武比斗、鈴木明、長谷川博	5-10頁
「一般体育実技に対する学生の意識について(1)-初回授業と最終授業でのアンケート結果の比較-」	共著	2011年12月15日	桐蔭論叢 第25号	高野千春、小林有子、村上秀明	15-25頁
講演会・研修会・セミナー講師					
「内部疾患の運動処方(アレルギーを中心に)」		2011年2月17日	国立障害者リハビリテーションセンター学院研修会	国立障害者リハビリテーションセンター	
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科研費「小規模・高齢コミュニティが持つ「とらわれ」：健康行動を獲得するための「しかけ」」	2011年4月～2014年3月	科研費基盤研究(C)研究			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校保健学会、日本公衆衛生学会、日本発育発達学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本肥満学会、日本陸上競技学会、日本ゴルフ学会

芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(ゴルフ部監督)平成23年度会長杯関東学生ゴルフ連盟男子10月月例会	2011年10月14日	大多喜城ゴルフ倶楽部	友定智 22位 予選会通過
(ゴルフ部監督)第49回会長杯関東学生ゴルフ選手権	2011年11月15日	美野原カントリークラブ	友定智 41位(個人)

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年 : 1951(昭和26)年
 在籍 : 1994(平成6)年4月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
 学位 : 博士(法学)
 学位論文 : 芸術と法 - 英米法を中心とする学際的研究 -
 専門分野 : 英米法、民法
 前職 : 女子美術大学芸術学部助教授
 留学 : ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員
 (アメリカ合衆国)2010年9月～2011年3月
 非常勤講師 : 国立音楽大学音楽学部

研究活動

2010年度の研究活動概略					
英米契約法の比較法的研究 音楽著作権法の比較法的研究					
2011年度の研究活動概略					
平成22年9月より平成23年3月の間、米国ウィスコンシン大学ロースクール東アジア法研究センター客員研究員として研究に従事した「アメリカ契約法の比較法的研究 - 契約規範と契約解釈」の研究テーマをさらに深化させるとともに、その成果の一部を桐蔭法学に発表した。また、芸術法学領域における教科書を改訂するため、最新の情報収集を中心に基礎作業を行い、平成24年度中に同書を刊行する予定である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
"American Adversarial Legalism as a Legal Culture:A Japanese Experience in WI with Comments of Prof.Stewart Macaulay"	単著	2011年9月25日	桐蔭法学 第18巻第1号	-	pp.29-41
その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
ウィスコンシン大学ロースクール東アジア法研究センター客員研究員	2010年9月1日 ～2011年3月31日	ウィスコンシン大学(アメリカ合衆国)			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会

山城 崇夫 (やましる たかお) 教授



出生年 : 1951(昭和26)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程退学
 学位 : 法学修士
 学位論文 : アメリカ合衆国の民事訴訟における除斥・忌避制度の展開
 専門分野 : 民事訴訟法、裁判法、民事紛争処理法
 前職 : 山口大学経済学部経済法学科教授
 学内役職等 : 副学長、法律プロフェッショナルセンター長(2012)
 学長補佐、法学研究科長、法学部長、法律プロフェッショナルセンター長(2010・2011)
 資格 : 弁護士

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外における学習促進のための取り組み	2005年6月～2011年6月	民事訴訟法の理解促進のために裁判傍聴を通例の課題とする。
(2)学生の授業評価	2005年～2011年	学生の授業評価を期末に実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)ブリッジブック裁判法第2版(共)	2010年5月	民事訴訟法、紛争処理法の補助教材として分担執筆。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)私立大学協会教育充実協議会委員	2005年4月～現在	毎年、春と秋の協議会に参加。大学を取り巻く教育環境の動向について研修。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
訴訟制度の目的に関する文献の読解を博士課程在学の院生と行った。					
2011年度の研究活動概略					
1.複数当事者のかかわる訴訟について、主に相続紛争を材料として判例や論文を収集し、分析している。					
2.判例の位置づけを日中の比較から検討中。博士課程の学生と共同で研究中。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「訴権の濫用」	単著	2010年10月10日	有斐閣別冊ジュリスト	-	68-69頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
民事訴訟法学会、日本交渉学会、仲裁ADR学会、司法アクセス学会 日本法律家協会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	日本交渉学会理事
2006年～現在	司法アクセス学会理事

秋田 知子 (あきた ともこ) 准教授



出生年 : 1973(昭和48)年
 在籍 : 2005(平成17)年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 : 文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
 専門分野 : 民事法
 前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(2)民事紛争処理法	2007年4月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)英語A-1、A-2で使用した教材	2009年4月1日～	初歩的な英文法テキストを大学生向けに作成した。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
桐蔭横浜大学ミディエーション交渉研究所の公開研究会において、「アメリカにおける家族法弁護士の役割」をテーマに報告した。内容は、アメリカにおける家族法弁護士が離婚紛争を処理する際に引き受ける役割を三つに類型化し、それぞれの特徴を挙げ、弁護士倫理規定や家族法弁護士の行動指針、家事調停人の実務基準などのアメリカの倫理規定との関係性について紹介した。桐蔭論叢23号では、公開研究会で報告した内容をまとめ、そこに加筆したものを発表した。加筆した内容は、日本における家事弁護士の状況についてである。					
2011年度の研究活動概略					
2011年5月に家事審判法が全面的に改正され、「家事事件手続法」が制定されたので、その経緯について研究している。また、家事弁護士の行動倫理についても引き続き研究を進めていきたい。そのほか、担当している「英語A-1、A-2」において英文法テキストを独自に作成してきたが、それを英語の教科書として出版するために内容を再検討した。今後も英語の基礎教育について研究を行っていきたい。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「アメリカにおける家族法弁護士の役割」	単著	2010年12月15日	桐蔭論叢第23号	-	73-80頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

麻 妻 和 人 (あさづま かずひと) 准教授



出 生 年 : 1969(昭和44)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : 捜査の規律に関する一考察 - 盗聴 -
 専 門 分 野 : 刑事訴訟法
 前 職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

研究活動

2010年度の研究活動概略

1. 上訴に関連するアメリカの判例、とりわけ裁判の構造欠陥に関する判例の分析、および政治過程と裁判過程の違いに関連する文献に当たった。中央大学刑事判例研究会への参加及び報告(最判平成21年7月14日刑集 第63巻6号623頁の研究報告)。比較法研究所米国刑事法研究会への参加および報告(Danforth v. Minnesota, 76 U.S.264(2008)についての研究報告)。判例評釈: Danforth v. Minnesota, 552 U.S. 264(2008), 中央大学比較法雑誌 44巻4号掲載。刑法学会大会、被害者学会大会参加。論文執筆「上訴制度の在り方について」『立石二六先生古稀祝賀論文集』(2010 成文堂)所収。

2011年度の研究活動概略

1. 上訴に関連するアメリカの判例、とりわけ裁判の構造欠陥に関する判例の分析、およびわが国の裁判制度の在り方について、特に近時の刑事司法改革に伴う新たな制度と刑事裁判の基本構造との関係について検討。中央大学刑事判例研究会への参加及び報告(最決平成22年12月20日刑集第64巻8号1356頁の研究報告)。比較法研究所米国刑事法研究会への参加および報告(Bullcoming v. New Mexico, 564 U.S. ___ (2011) についての研究報告)。判例評釈: Washington v. Recuenco, 548 U.S. 212 (2006), 中央大学比較法雑誌 45巻3号掲載。刑法学会大会、被害者学会大会参加。

著書・論文等

著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「上訴制度の在り方について」	単著	2010年8月	『立石二六先生古稀祝賀論文集』(成文堂) 2010年	-	823-842頁
Danforth v. Minnesota, 76 U.S.264(2008)	単著	2011年3月	中央大学比較法雑誌 44巻4号	-	265-273頁
Washington v. Recuenco, 548 U.S. 212 (2006)	単著	2011年12月	中央大学比較法雑誌 45巻3号	-	383-392頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 准教授



出 生 年 : 1973(昭和48)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単
 位取得退学
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : フランス労働法上の非典型協定
 専 門 分 野 : 労働法
 前 職 : 東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、2011)、 レジュメ(労働法)		
『社会保障法第4版』(有斐閣、2009)、 レジュメ(社会保障法)		

研究活動

2010年度の研究活動概略					
懲戒権行使の制約をテーマに判例研究を行ったほか、厚生労働省課題研究(研究代表者:三柴丈典近畿大学教授)『費諸外国の産業精神保健法制度の背景・特徴・効果とわが国への適応可能性に関する調査研究』のフランス法制の担当として、予備調査をおこなった。また企業内労使関係法制の研究を継続して行っている。					
2011年度の研究活動概略					
労働契約法、高齢者雇用安定法、派遣法改正などの法改正に関して、立法経過の追跡を行い、また、東京都および神奈川県との労働関係行政に協力し、労働関係法および近時の法改正の周知啓発活動に協力を行った。比較法領域においては、従前と同様、フランスの企業内労使関係を中心に、継続的に研究活動を行った。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『労働法解体新書第3版』 (総説・論説)	共著	2011年6月10日	法律文化社	角田邦重、山田省三	108-116頁
『2010年版労働時間管理ハンドブック』 「労働時間管理実務Q&A(労使委員会・労使協定)」	単著	2010年11月7日	経営書院	産労総合研究所 編	350-365頁
「労働者の自殺に対する使用者の予見可能性の位置づけ」 (学術論文)	単著	2011年9月25日	桐蔭法学 第18巻第1号(35)	-	1-39頁
「違法派遣における派遣先の雇用責任の範囲と課題」	単著	2010年4月15日	労働判例997号	-	5-13頁
「懲戒処分における適正手続の意義」	単著	2011年3月15日	『労働者人格権の研究 上巻』(信山社)	山田省三、石井保雄	413-433頁
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「労働法基礎セミナー」	2010年6月14日、 16日、21日	労働法基礎セミナーin八王子 (東京都労働相談情報センター)	東京都八王子労政会館		

「労使関係法(団体交渉・労働協約・労働組合) / 労使関係法(労働争議・不当労働行為・労働委員会)」	2010年9月27日、29日	多摩労働カレッジ基本講座(東京都労働相談情報センター)	国分寺労政会館
「多摩労働カレッジ専門講座」	2010年10月15日	東京都労働相談情報センター	国分寺労政事務所
「雇用関係法(賃金、労働時間・休日・休暇)」	2010年11月15日、17日	多摩労働カレッジ専門講座(東京都労働相談情報センター)	国分寺労政会館
労働組合法の基礎	2011年2月13日	東京都労働相談情報センター 亀戸事務所	亀戸労政事務所
「緊急労務管理セミナー 震災に伴う労務管理上の法的留意点について」	2011年6月20日	神奈川県商工労働部	厚木商工会議所
「1.休日、休憩、休暇、2.定年、退職、解雇」	2011年11月19日、21日	神奈川県平成23年度中期労働講座	神奈川県厚木合同庁舎分庁舎
「労働法基礎セミナーin国分寺1～5」	2012年1月17日(～30日)	平成23年度労働法等周知セミナー	国分寺労政会館
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
労働安全衛生総合研究事業	2011年4月～2012年3月	平成23年度厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「派遣法改正の展望」	2010年7月25日	労基旬報 6頁	
(その他特記事項)			
「東京都『どうなる?こんなトラブル!』監修」(2011年11月25日)			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本労働法学会、日独労働法協会

韓 寧 (かん ねい) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学博士
 学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討
 日・米法との比較の視点から
 専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
 前職：北京法務局
 留学：群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研究
 科博士後期課程
 資格：中国弁護士

研究活動

2010年度の研究活動概略					
2010年には、主に中国の裁判制度と調停制度を取り組んでいました。また、日中調停制度の比較研究をも引き続き取り組んでいました。2010年に、「中国調停法」が制定されました。その後、裁判制度と調停制度の面でいくつかの新しい動きが出てきて、この新しい動きを考察・研究した上で、「中国の調停制度」というテーマにして、10月22日に学習院大学で口頭発表をしました。さらに、「中国における大調停システム」という論文を作成し、2011年3月神戸大学大学院国際協力研究科が発行した「法整備支援の影響評価と日本の役割」という研究成果報告書に載せました。また、日中両国調停制度の比較について、2010年11月1日に上海交通大学が主催した日中民事法研究会議で、「日本の司法調停に関する一考察 中国法と比較の視点から」というテーマにして、口頭発表をしました。					
2011年度の研究活動概略					
2011年度、中国新しい調停制度の問題点と課題を日本及び韓国と比較の視点から取り組んでいました。2011年11月19日に、日中韓民事調停制度国際シンポジウムで、「日本型司法調停モデルの導入について」というテーマで報告をしました。また、2012年2月23日に、本学の桐蔭法学会で、「中国調停制度の新展開」をテーマにして口頭発表をしました。そのほか、二通の日本語の論文を中国語に翻訳して、これらの論文は、西南政法大学発行の論文集に登載されている。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「中国における大調停システム」	単著	2011年3月1日	『法整備支援の影響評価と日本の役割 実定法・法社会学・比較法制史の融合型学術調査 -』	神戸大学大学院国際協力研究科	153-171頁
「日本の司法調停に関する一考察 中国法と比較の視点から」	単著	2010年11月1日	日中民事法律問題検討会論文集	上海交通大学凱原法学院	47-58頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「中国の調停制度」	2010年10月22日	神戸大学「法整備支援の影響評価」に関する連続研究会第4回 ADRによる規範架橋機能(学習院大学/東京)	-		
「日本の司法調停に関する一考察 中国法と比較の視点から」	2010年11月1日	日中民事法研究会議(上海交通大学/中国・上海)	-		
「关于日本式司法調停模式引进的探讨(日本型司法調停モデルの導入について)」	2011年11月19日	中日韓民事調停制度国際学術シンポジウム(中国・重慶)	-		
「中国調停制度の新展開」	2012年2月23日	桐蔭法学会(桐蔭横浜大学/横浜)	-		

その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
日中民事法研究会議での発表、中国の調停・裁判制度に関する研究調査	2010年10月29日 ～11月3日	上海交通大学、上海浦東新区人民法院、上海市環境保護管理局(中国)
第5回東アジア民事訴訟法国際シンポジウムに参加すること	2010年11月14日 ～11月17日	上海交通大学(中国)
台湾裁判制度と調停制度に関する研究調査	2011年2月14日 ～2月18日	士林地方法院、台湾大学、万国法律事務所(台湾)
中日韓民事調解制度国際シンポジウムに参加すること、華東政法大学を訪問すること	2011年11月18日 ～11月21日	西南政法大学、華東政法大学(中国)
南京師範大学が主催した「司法へのアクセス」座談会に参加すること、大学間の国際交流活動に関する意見交換	2012年3月25日 ～3月29日	南京師範大学(中国)
(その他特記事項)		
< 翻訳 > 小島武司「处于拐点的日本的司法調解」、単訳、2011年11月19日、中日韓民事調解制度国際学術検討会論文集(西南政法大学発行)、8-13頁		
< 翻訳 > 小林学「日本的民間調解及其模式」、単訳、2011年11月19日、中日韓民事調解制度国際学術検討会論文集(西南政法大学発行)、27-32頁		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員

小島 奈津子 (こじま なつこ) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院社会科学研究科法律学専攻満期中退
 学位：法学修士
 学位論文：債務額に争いがある場合の一部供託の効力
 専門分野：民法

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ミニテスト(授業内)の実施	2011年まで民法(必修)において	出席を促し、学習を促進するために、授業内テストを期末試験のほかに行っている。学習させるためなので、予告を前回授業でするようにしている。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
1.贈与契約の性格と類型化(2006年度私法学会個別報告テーマ) ドイツ法における特殊の贈与(BGB534条)を手がかりに、また、ドイツ法における有償性・無償性の概念に関する考察により、好意による贈与を基本とする贈与観を明らかにし、日本法における問題点の解決に資する点を模索しようとするものである。 (Die Schenkungsvertrag als Liberalitaetvertrag in Deutschland)					
2.報償的贈与に関するアメリカ法の研究 贈与に契約としての法的拘束力を認めないアメリカ法の基本的な原則にもかかわらず、拘束力を与えられている契約があるが、そのうち報償的贈与について、例外的扱いの根拠をめぐる論争、これを認めるための要件、また、日本法において報償的趣旨を考慮する際の理論的難点について考察しようとするものである。 (donative promise and promise for benefit rendered in U.S.)					
2011年度の研究活動概略					
寄付について ドイツ法と比較した際の日本の贈与法の違いを前提に、日本民法が寄付をどのようにとらえているかを、起草者の見解等から探る研究を行った。民法上寄付についての特別規定は置かれておらず、民法はもともと各種の贈与を区別しない態度を取っているが、忘恩行為の制度をめぐる民法制定当時の議論を見ると、起草者が寄付を肯定的に捉えていたのではないかと思われる箇所があることを指摘するものである。今後は、このような贈与の「目的」の性格と反対給付の概念との関係について、またこのような有償性の基礎となる出捐について、考えていきたい。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「寄付について」	単著	2012年3月	『財産法の新動向 平井一雄先生喜寿記念』(信山社)	-	479-502頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
研究会報告「寄付について 価値ある贈与か」	2011年12月15日	桐蔭法学研究会(桐蔭横浜大学)	-		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
私法学会

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 准教授



出 生 年 : 1974(昭和49)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : 抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
 専 門 分 野 : 刑法
 前 職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

研究活動

2010年度の研究活動概略

1. 故意と錯誤に関する研究として、クラウス・ロクシン著『刑法総論』第一巻(第三版)の「第21章 禁止の錯誤」を翻訳し、桐蔭法学(第17巻第1号P111～152)に発表した。
2. 刑法全体の研究を進めながらも、とりわけ規範的構成要件要素に関し検討・考察してきているが、これまでの成果をまとめ発表できるよう、さらに掘り下げた研究をしていく予定である。

2011年度の研究活動概略

1. 故意と錯誤に関する研究の一環として、クラウス・ロクシン著『刑法総論』第一巻(第三版)の「第24章 過失」を翻訳し、桐蔭法学(第18巻第2号P95～147)に発表した。
2. 引き続き、刑法全体の研究を進めながらも、とりわけ規範的構成要件要素に関する研究に邁進していきたい。

著書・論文等

著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「クラウス・ロクシン『刑法総論』第一巻(第三版)(十二) クラウス・ロクシン著」	単著	2010年9月25日	桐蔭法学 第17巻第1号	-	111-152頁
「クラウス・ロクシン『刑法総論』第一巻(第三版)(十八) クラウス・ロクシン著」	単著	2012年3月25日	桐蔭法学 第18巻第2号	-	95-147頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

土屋 信雄 (つちや のぶお) 准教授



出生年 : 1950(昭和25)年
在籍 : 1990(平成2)年4月~
最終学歴 : 東京大学大学院博士課程
学位 : 理学博士
学位論文 : 「Grow and Depth of Leaves」(博士論文)
専門分野 : 位相幾何学
前職 : 東京工業大学理学部助手

研究活動

2010年度の研究活動概略

可解リー群の格子について研究を進めた。

2011年度の研究活動概略

葉層構造の調和測度と、葉層構造の葉の成長度について研究を進めた。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本数学会

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オプラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部

研究活動

2010年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受 GHQ法律スタッフの法思想の分析 近現代日本における司法制度の変遷 戦時下の日本における法及び法学のあり方の実証研究					
2011年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受 GHQ法律スタッフの法思想の分析 近現代日本における司法制度の変遷 戦時下の日本における法及び法学のあり方の実証研究					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『東アジアにおける市民の刑事司法参加』 「日本近現代史における市民の刑事司法参加」	共著	2011年2月20日	国際書院	後藤昭編	77-92頁
(学術論文)					
「草創期の人権擁護局 戦後日本の人権擁護政策の始まり」	単著	2010年5月14日	人権のひろば73号	-	12-15頁
「トーマス・L・ブレイクモアと日本法 東京帝国大学の学生として、GHQの法律スタッフとして」	単著	2010年7月1日	John O Haley and International House of Japan(ed.), Proceedings of The Symposium Honoring the Contributions and Carrer of Thomas L. Blakemore entitled Law and Practice in Postwar Japan: The Postwar Legal Reforms and Their Influence, The International House of Japan and The Blakemore Foundation		17-26頁
「人権擁護委員法の制定過程とカート・スタイナー」	単著	2010年11月10日	人権のひろば76号	-	12-15頁
「「占領目的に有害な行為」に関する検察官の起訴猶予裁量の運用 「連合軍占領軍、その将兵又は連合軍占領軍に附属し、若しくは随伴する者の財産の收受及び所持の禁止に関する政令」(昭和22年政令第165号)の制定過程を中心として」	単著	2011年3月25日	桐蔭法学第17巻2号	-	1-39頁
松本治一郎の公職追放とロジャー・ボールドウィン	単著	2011年7月10日	人権のひろば80号	-	13-16頁

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
戦時法研究の前提としての大学 以後の日本	2011年5月14日	第3回戦時法研究会 (主婦会館プラザエフ)	-
戦時下の法学と法学者	2011年10月8日	第4回戦時法研究会 (上智大学)	-
戦後初期の法学と法学者 法社会学論 争・法解釈論争を中心として	2012年3月31日	2012年度第1回占領・戦後史 研究会(二松学舎大学)	-
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究): 刑事 司法の「日本的特色」に関する歴史的側面か らの再検討	2011年4月～2013年3月	日本学術振興会	

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、法社会学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年12月～現在	占領・戦後史研究会事務局
2004年9月～現在	法文化学会幹事
2011年12月～現在	占領・戦後史研究会代表

中野 邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスマソッドによる講義	2005年9月～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。
(2)法学検定3級対策	2005年4月～	法学検定3級に合格できるよう、授業時間およびそれ以外の時間帯を使用して、法学検定の予想問題集を使い、指導している。
(3)レジュメ・レポートの指導	2005年4月～	担当するゼミの報告前に、授業時間外で(毎週10時間程)、報告する学生一人一人に対し、個別にレジュメの作成方法、教科書の読み方、まとめ方を指導している。
(4)資格試験対策(答案指導等)	2006年4月～	公務員試験・法科大学院進学希望の学生を対象に、授業時間内外で、各種資格試験の択一問題、論述問題等につき、指導をしている。
(5)大学対抗模擬裁判	2011年度	私法に関する諸問題につき、三大学(桐蔭、駒澤、東海)対抗の模擬裁判を行うことを通じて、実践的な法的思考方法を身につけ、より深く、かつ、立体的に法律学を理解することができるよう指導している。なお、これは、他大学の学生との知的交流を通じて、学生相互に刺激しあい、これまで習得してきた知見と経験を、より広く、豊かなものにするための授業でもある。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)民法 (債権各論)	2008年10月～2011年3月	全80頁からなる債権各論の教材。
(2)民法 (不法行為法)	2011年4月～	全50頁からなる事務管理・不当利得・不法行為の教材。

研究活動

2010年度の研究活動概略 (法律行為論の研究) 日本私法学会で報告した内容を、学会誌に掲載した。また、これまでの研究内容を再検討したうえで、近代以降の問題について検討するために、科学研究費の申請を行い、平成23年度より3年間支給を受けることとなった。 (民法改正についての研究) 22名の研究者からなる5年にわたる壮大な研究であるが、これまで3回にわたり公表してきた改正条文案の最終案を作成するべく、研究代表者と共同で、その原案を作成している。平成23年度中に、総則の最終案と解説をまとめ、その後、物権、債権と順次、有斐閣より書籍を刊行していく予定である。
2011年度の研究活動概略 (「法律行為論の本質論」についての体系的・原理的研究) 上記の研究テーマのもと、2011年度～2013年度の3年間、科研費の受給を受けることになっているが、初年度にあたる2011年度は、これまでの研究内容・成果を再度確認し、まとめ直すとともに、今後の研究に必要な資料の収集等につとめ、来年度以降、精力的に研究を行うだけの礎を築いた。 (日本民法典財産法編の改正に向けた立法論的研究) 上記の研究テーマのもと、2009年度～2012年度の4年間、研究分担者として分担金の受給を受けることになっているが、2011年度は、2012年度中に、総則と物権の最終改正条文案とその解説を出版するために、研究代表者と共同で、その原案を定期的に作成している。

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『民法判例ブラクティス 債権』	共著	2010年6月25日	信山社	松本恒男 = 潮見佳男編	236-237頁 (事件担当)
(学術論文)					
「法律行為論再考 法体系の法構造と思考原理」(Zur Überprüfung der Rechts-geschäftslehre-- Vom Standpunkt der Rechtsstruktur und des Rechtsgedankenprinzips im Rechtssystem)	単著	2010年4月30日	私法72号	-	148-155頁, 283-284頁(和文と独文の報告要旨)
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
日本民法典財産法編の改正に向けた立法論的研究 (課題番号:20330017、代表:加藤雅信)	2008年4月～2013年3月	科学研究費補助金(基盤研究(B)) 研究分担者			
「法律行為論の本質論」についての体系的・原理的研究(課題番号:23730111)	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金(若手研究(B)) 研究代表者			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
研究資料の収集と現地研究者との学術交流、語学研修参加のため(私費)	2011年2月25日～2011年3月30日	ミュンヘン大学(ドイツ)			
(その他特記事項)					
『民法改正』桐蔭横浜大学新聞(2010年第4号)掲載					
『論理的思考能力とプレゼン力を養う 大学対抗模擬裁判ゼミって?』キリコ(2011秋号Vol.11)掲載 http://www.cc.toin.ac.jp/ouen/kiriko/kiriko11.html					

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会		
(主な活動内容)		
あやめコンサート(横浜総合病院) みどり区民祭り(四季の森) クリスマスコンサート(横浜総合病院)	2010年6月19日 2010年10月17日 2010年12月18日	ボランティアサークルArch顧問として
あやめコンサート(横浜総合病院) 青葉区民祭り(青葉区役所) クリスマスコンサート(横浜総合病院)	2011年6月18日 2011年11月3日 2011年12月17日	ボランティアサークルArch顧問として

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年 : 1974(昭和49)年
在籍 : 2001(平成13)年4月～
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位 : 法学修士
学位論文 : 若者から少年へ ドイツ少年刑法の歴史的前提
専門分野 : ヨーロッパ近代法史
留学 : チュービンゲン大学(ドイツ)(2004.7～2005.3)

研究活動

2010年度の研究活動概略

19世紀ドイツの社会情勢と法発展の連関についての研究が中心分野である。19世紀ドイツにおける少年問題を目下研究の中心に置いている。
少年は社会情勢により求められる役割を変えてきたが、とりわけドイツでは19世紀中頃の産業革命を境にして大きくその役割を変えた。産業革命以前の社会では、身分制社会の維持と絶対主義の社会への介入による少年(=若者)の臣民の予備軍化という二重の意味で社会化されてきたが、産業革命以後の社会では、自由主義的改革を目指す社会的・政治的活動をリードする存在となる。他方、労働者階級の誕生によりその階級の子弟の行動が社会的に問題視され多くの分野で議論の対象となっていった。このような過渡期的な社会における少年の役割の変化について、産業革命より前の社会と当時の法令などに注目し少年の位置づけについての研究を当面の課題としている。

2011年度の研究活動概略

19世紀ドイツの社会情勢と法発展の連関についての研究が中心分野である。昨年度に引き続き19世紀ドイツにおける少年問題を研究の中心に置いている。
労働者階級の誕生とその階級の子弟の行動が社会的に問題視されたことに関連して、社会情勢、少年への教育そして社会が少年問題についてどのように対応し、法制度を作り上げたのかについて関心を持ち研究している。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日独法学会

(2012年度 新任教員)

茂木 洋平 (もぎ ようへい) 専任講師



出生年 : 1981(昭和56)年
 在籍 : 2012(平成24)年4月～
 最終学歴 : 東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位 : 博士(法学)
 学位論文 : Affirmative Actionの正当化法理～アメリカの判例と学説を中心に～
 専門分野 : 憲法
 前職 : 熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科特任助教
 受賞・表彰 : 東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門(2010.12)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
Affirmative Actionが憲法上如何なる理由から正当化されるのかについて考察したそれまでの成果をまとめ、博士論文としてまとめ、博士号を取得した。					
2011年度の研究活動概略					
博士學位論文の内容を再度検討した。特に、Affirmative Actionの正当化理由として多様性が如何なる意味を持つのかについて考察を深め、その成果が公刊されるに至った。 (「多様性に基づくAffirmative Actionの正当性 多様性の価値の意味」法学76巻1号38 95頁(2012年4月))。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「Affirmative Actionの正当化法理 アメリカの判例と学説を中心に」	単著	2010年9月	東北大学大学院法学研究科博士学位論文	-	
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Affirmative Actionの正当化理由 過去向きのAffirmative Actionと将来志向のAffirmative Action (沢柳賞受賞記念招待講演)	2010年12月	東北大学男女共同参画シンポジウム	東北大学		
その他					
(表彰・受賞)					
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)		
「東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)」	2010年10月	東北大学男女今日参画委員会			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会 憲法理論研究会 全国憲法研究会 東北大学公法判例研究会 九州公法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年5月～	憲法理論研究会事務局員

賤 機 徳 彦 (しずはた のりひこ) 助教

出 生 年 : 1967(昭和38)年
在 籍 : 2012(平成24)年～
最 終 学 歴 : 筑波大学体育専門学群
前 職 : 桐蔭学園高等学校教員(保健体育)
資 格 : 高校1種保健体育教員免許
日本サッカー協会公認A級ライセンス

芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
全国高校総体サッカー	2011年7月～8月	八橋運動公園他	優勝

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年 : 1956(昭和31)年
 在籍 : 1990(平成2)年3月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程
 学位 : 理学博士、学術修士(環境)
 学位論文 : Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野 : 有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職 : 通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 学内役職等 : 学生部長(2010・2011・2012)
 資格 : (社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 受賞・表彰 : 松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返し学生に伝わるよう配慮した。レポート作成についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,IIにおいて、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレンストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究では課題についての小論文をまとめるための演習としてブレンストーミングを実施した。地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁こどもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
日本科学技術振興機構地域科学技術理解増進人材の活動推進・人材育成事業(文部科学省委託事業)	2003年～現在	助成金を受け、こどもわくわく自然教室、「これが身近な自然だ」、「昆虫飼育教室」、「スライムでエネルギー」色をわけるなどを千葉県、東京都、神奈川県の小学校、児童クラブ、保育園、児童館で実施した。2010年度で見学者を除いて、12,620人の教室参加者となった。
日本化学会 化学教育協議会夢化学小委員会副委員長、実験体験TG委員長	2005、2006、2007、2008、2009、2010年	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。2002年～2010年までに本学の学生の(6)の教室のTAとしての活動に日本化学会会長からの感謝状が計250枚授与されている。

2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくらう」などの資料を作成し、配布した。
(出版教科書・化学分野) 絵解きでわかる「基礎化学」 オーム社	2007年3月発行	大学1,2年向きの教科書を執筆し、必要箇所をコピーして資料として配布。
(出版教科書、教材・環境教育分野) 理科・化学からの提案「総合的な学習の時間」に向けてパート2 日本化学会	2001年2月発行	日本化学会化学教育協議会 分担執筆で「安全で効果的な実施のための虎の巻」を執筆した。
わくわく化学マジックワールド(DVD)日本化学会	2001年8月発行	製作委員として化学普及用デジタルコンテンツを作った。内容の1つも責任担当した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
夏休み子ども化学実験ショー実行委員会委員	2002、2003、2004、2005、2006、2007、2008、2009、2010年度	日本科学未来館を会場として毎年8月下旬の金、土、日の3日間実施。ボランティア学生と共に実験教室「水と高分子の世界」を担当し、3日間18回30分間の講義と実験を行った。
化学教育協議会普及交流委員会実験体験TG主査	2009、2010年度	日本化学会化学教育協議会普及交流委員会実験体験TG主査として助成金を申請し化学会としての地域化学・理科普及活動を行った。上記(5)～(8)は、2010年度で見学者を除いて、12620人の教室参加者となった。2002年～2010年までに本学の学生のこれらの教室のTAとしての活動に日本化学会会長からの感謝状が計250枚授与されている。

研究活動

2010年度の研究活動概略	
ポリアニリンを用いる活性酸素の発生とその応用 内分泌攪乱化学物質(いわゆる環境ホルモン)の分解 環境に優しい工業原料の新合成法 活性酸素の生体内での反応の機構 機能性分子・材料の設計と合成 新しい耐熱性高分子の合成 金属イオンを識別して捉える新しいキレート樹脂の合成	
2011年度の研究活動概略	
ポリアニリンを用いる活性酸素の発生とその応用 内分泌攪乱化学物質(いわゆる環境ホルモン)の分解 環境に優しい工業原料の新合成法 活性酸素の生体内での反応の機構 機能性分子・材料の設計と合成 新しい耐熱性高分子の合成 金属イオンを識別して捉える新しいキレート樹脂の合成	

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「導電性ポリマーを用いる環境調和型活性酸素連続発生装置の開発とその応用」	共著	2011年10月	環境浄化技術、第10巻、6号、92。(日本工業出版)	齋藤潔、山崎 晃一	
「教育普及部門だより 気仙沼の実験教室 - 東日本大震災被災者支援事業 - 」	単著	2012年2月	化学と教育、60巻、2号、84。(日本化学会)	-	
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
(国際学会発表)					
“The continuous generation of active oxygen species and upgrading of the device using polyaniline V”		2010年11月6日	Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2010, Kanagawa, Japan.	Keijiro Horikawa Takuma Oda and Kiyoshi Saito	
“Activation and application of molecular oxygen in air using polyaniline”		2010年11月6日	Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2010, Kanagawa, Japan.	Hiroo Watanabe and Kiyoshi Saito	
“Activation of Oxygen in Air Using Polyaniline and Its Application to Organic Reactions”		2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hiroo WATANABE, Kenta ASAHINA, Takuma ODA and Kiyoshi SAITO	
“Oxidative Reaction Behavior of Protocatechuic Acid and Related Compounds with The Use of Polyaniline Active Oxygen-generating Apparatus”		2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Taichi YOTA, Hitomi KUNIYOSHI and Kiyoshi SAITO	
(国内学会発表)					
「有機分子の環境動態に着目した新規環境保全技術」		2010年10月15日	神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川)	渡邊大雄、青山美有紀、小田拓真、國吉瞳、齋藤潔	
「セダム中の糖およびアブシジン酸産生量の定量による生育状態の診断」		2010年11月2日	植物化学調節学会第45回大会(神戸)	青山美有紀、齋藤潔	
「ポリアニリン電極を用いた活性酸素の連続発生とその効率化」		2010年12月	第19回ポリマー材料フォーラム(名古屋)	堀川慶次朗、小田拓真、齋藤潔	
「ポリアニリン活性酸素連続発生装置を用いる環境中でのプロトカテキユ酸及び関連化合物の酸化反応挙動」		2010年12月	第19回ポリマー材料フォーラム(名古屋)	養田太一、國吉 瞳、齋藤 潔	
「ポリアニリンを用いる空気中の酸素の活性化とその有機反応への応用」		2010年12月	第19回ポリマー材料フォーラム(名古屋)	渡邊大雄、齋藤 潔	
「ポリアニリンを用いる空気中の酸素の活性化とその重合反応への応用」		2010年12月	日本化学会第91春季年会(神奈川)	渡邊大雄、齋藤 潔	
「ポリアニリン / 酸素 / 水系でのカテコール構造を有する天然化合物の酸化反応挙動」		2011年3月	日本化学会第91春季年会(神奈川)	養田太一、齋藤 潔	
「ポリアニリンを用いる空気中の酸素の活性化とその有機反応への応用」		2011年11月	第20回ポリマー材料フォーラム(東京)	渡邊大雄、小田拓真、齋藤 潔	
「ポリアニリン活性酸素連続発生装置を用いる水系でのヒドロキシチロソールの酸化反応挙動」		2011年11月	第20回ポリマー材料フォーラム(東京)	養田太一、小田拓真、齋藤 潔	
「ポリアニリンを用いる空気中の酸素の活性化とその有機反応への応用」		2012年3月	日本化学会第92春季年会(神奈川)	渡邊大雄、小田拓真、齋藤 潔	
「ポリアニリン / 酸素 / 水系でのヒドロキシチロソールの酸化反応挙動」		2012年3月	日本化学会第92春季年会(神奈川)	養田太一、齋藤 潔	

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
第7回微細気泡応用技術研究会講演会	2010年11月	千葉工業大学	千葉県
実験教室研修会	2011年11月	石巻専修大学	宮城県
その他			
(補助金・助成金等)			
小・中学生に対する化学普及と環境教育融合型の教育プログラム	2003、2004、2005、2006、2007、2008、2009、2010年	小・中学生に対する化学普及と環境教育融合型の教育プログラムに対し助成を受けた。	
わくわく実験教室	2011年、2012年	夢！化学21委員会助成金	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2000年～	日本化学会化学教育協議会化学普及委員会委員	
2001年～	日本化学会夢・わくわく化学展実行委員会広報・DVD作製委員会委員	
2004年～	日本化学会化学教育協議会夢化学小委員会委員	
2005年～	日本化学会化学教育協議会夢化学小委員会副委員長	
2009年～	日本化学会化学教育協議会普及交流委員会実験体験TG主査	
2011年～	日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
横浜市立みたま小学校 「わくわくじっけんきょうしつ / スライムと塩」、 「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー?」、 「わくわくじっけんきょうしつ / 君も名探偵! 葉っぱのなかみをしらべてみよう」	2010年7月	JST地域科学舎推進事業「地域活動支援」
東日暮里ふれあい館、西日暮里ふれあい館 「わくわくじっけんきょうしつ / 君も名探偵! 葉っぱのなかみをしらべてみよう」	2010年8月	JST地域科学舎推進事業「地域活動支援」
国立科学博物館 「わくわくじっけんきょうしつ / 君も名探偵! 葉っぱのなかみをしらべてみよう」	2010年8月	日本化学会化学教育協議会普及交流委員会
日本科学未来館 「わくわくじっけんきょうしつ / 君も名探偵! 葉っぱのなかみをしらべてみよう」	2010年8月	日本化学会化学教育協議会普及交流委員会
横浜市立鉄小学校 「わくわくじっけんきょうしつ / 君も名探偵! 葉っぱのなかみをしらべてみよう」	2010年9月	JST地域科学舎推進事業「地域活動支援」
町田市立南成瀬小学校 「わくわくじっけんきょうしつ / 君も名探偵! 葉っぱのなかみをしらべてみよう」	2010年9月	JST地域科学舎推進事業「地域活動支援」
江戸川区立小松川小学校 「わくわくじっけんきょうしつ / 君も名探偵! 葉っぱのなかみをしらべてみよう」	2010年10月	JST地域科学舎推進事業「地域活動支援」
国立科学博物館サイエンススクエア 「君もマジシャン? でんきでぶどうジュースのいろをかえよう!」	2011年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会の4団体で構成)

荒川区道灌山幼稚園 「君もマジシャン？でんきでぶどうジュースの いろをかえよう！」	2011年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会の5団体で構成)
荒川区東日暮里ふれあい館、西日暮里ふれ あい館 「君もマジシャン？でんきでぶどうジュースの いろをかえよう！」	2011年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会の6団体で構成)
町田市立南成瀬小学校 「君もマジシャン？でんきでぶどうジュースの いろをかえよう！」	2011年9月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会の7団体で構成)
江戸川区立小松川小学校 「君もマジシャン？でんきでぶどうジュースの いろをかえよう！」	2011年10月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会の7団体で構成)
江戸川区立小松川幼稚園 カレー焼きそばのなぞ	2011年10月	江戸川区立小松川幼稚園
気仙沼市立唐桑小学校 震災復興支援「光の不思議」	2011年11月	震災支援活動
子供化学実験ショー 「君もマジシャン？でんきでぶどうジュースの いろをかえよう！」	2011年11月	日本化学会化学教育協議会夢化学委員会 (日本科学未来館)
石巻ひばり幼稚園 「スライムのなぞ」	2012年2月	震災支援活動
江戸川区立小松川小学校 理科実験支援授業	2012年3月	江戸川区立小松川小学校

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野：分子生物学、免疫工学
 前職：順天堂大学医学部助教授
 学内役職等：医用工学部長、医用工学専攻長(2010・2011・2012)
 留学：Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 非常勤講師：順天堂大学

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2)演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
2010年度の研究テーマは免疫寛容の分子機序であった。脊椎動物が持つ高度の生体防御能力は、獲得免疫系の機能を担うリンパ系の細胞が、からだを構成する構造「自己」と外来の病原微生物の構造「非自己」を厳密に見分ける能力に依存する。この能力に欠陥が起ると、「自己免疫疾患」という困難な状況に陥る。私たちはこの身体の仕組みを明らかにするために、マウスを用いた免疫遺伝学的方法を用い、「自己」に対して免疫寛容を成立させる上で重要な役割をになっている遺伝子群がマウス第1染色体のテロメア(末端)近傍に位置することを明らかにした。責任遺伝子の候補は抑制性Fc受容体を規定するFcgr2b遺伝子である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
"Antigen-Specific Immune Tolerance Induced by Protein Antigens Conjugated with Polyethylene Glycol"	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢第22号	Masaomi OBATA, Ryu FUJIWARA, Takuma FUJII, Yo KODERA, Mareki OHTSUJI, Sachiko HIROSE and Hiroyuki NISHIMURA	pp.5-12

“Development of a simulation system for SLE disease model mice crossing experiment”	共著	2010年6月15日	Reseach Bulletin No.24	Nobutaka KUWAHARA, Yasuhiro IIDA, Hiroyuki NISHIMURA and Yukiyasu IIDA	pp.159-163
“Inhibitory IgG Fc receptor promoter region polymorphism is a key genetic element for murine systemic lupus erythematosus”	共著	2010年5月18日	J.Autoimmun 34	Q.Lin, R.Hou, A.Sato, M.Ohtsuji, N.Ohtsuji, K.Nishikawa, H.Tsurui, H.Amano, E.Amano, K.Sudo, H.Nishimura , T.Shirai and S.Hirose	pp.356-363
“Mapping of a gene influencing initial dental caries susceptibility to chromosome 11”	共著	2010年3月	Pediatric Dent.J.20	M.Ohta, T.Ohshima, H.Nishimura , N.Maeda and Y.Asada	pp.84-90
“Iron overload inhibits calcification and differentiation of ATDC5 cells”	共著	2011年1月10日	J.Biochem. 2012	T.Ohno, N.Hashimoto, K.Mitsui, H.Nishimura , H.Hagiwara	pp.109-114
“Susceptibility loci to for the defective foreign protein-induced tolerance in NZB mice: Implications of epistatic effects of Fcgr2b and Slam family genes”	共著	2011年5月23日	Eur. J. Immunol. 2011	Fujii T, Hou R, Sato-Hayashizaki A, Obata M, Nishimura N, Ohtuji M, Ikeda K, Toei J, Mitsui K, Kodea Y, Shirai T, Hirose S, Nishimura H	pp.2333-2340
「ポリエチレングリコール修飾抗原による免疫寛容の誘導」	共著	2011年5月30日	臨床免疫・アレルギー科 第56巻4号. 2011	M.Obata, R.Fujiwara, H.Nishimura , Y.Kodera	1-5頁
“Presumptive role of 129 strain-derived Sle16 locus in rheumatoid arthritis in new mouse model with Fcy receptor type I1b-deficient C57BL/6 genetic background”	共著	2011年7月15日	Arthritis Rheum. 2011	A.Sato-Hayashizaki, M.Ohtsuji, Q.Lin, R.Hou, N.Ohtsuji, K.Nishikawa, H.Tsurui, K.Sudo, M.Ono, S.Izui, T.Shirai, T.Takai, H.Nishimura , S.Hirose	pp.2930-2938

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
“Genetics of autoimmunity”	2010年8月22日～27日	14th International Congress of Immunology, Kobe	S. Hirose, Q. Lin, A. Sato, R.Hou, M. Ohtsuji, H. Tsurui, H.Nishimura , T. Shirai
“Mechanism of Thcell tolerance induced with thetolerogenic protein antigen conjugated with polyethylene glycol”	2010年8月22日～27日	14th International Congress of Immunology, Kobe	M. Obata, R Fujiwara, T. Fujii, Y.Kodera, M. Ohtsuji, T. Shirai , S.Hirose, H. Nishimura
“Mechanism of Th-cell Tolerance Induced with The Tolerogenic Protein Antigen Conjugated with Polyethylene Glycol”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Ryu FUJIWARA, Masaomi OBATA, Takumka FUJII, Yo KODERA, Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
(Poster)“Interleukin 21 Chemically Conjugated with Polyethylene Glycol: Potential Application in Tumor Immunotherapy”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hiroki IKEDA, Mareki OHTSUJI, Masaomi OBATA, Yo KODERA, Hiroyuki NISHIMURA
“Role of autoimmunity in the development of ankylosing enthesitis in (BXSB x NZB)F1 male mice.”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Yokohama	K.Fukunaga , Y.Aizawa , M .Ohtsuji, T.Shirai, Y.Kodera, S.Hirose and H.Nishimura
“The role of SAP (SLAM-associated protein) gene in the pathogenesis of Systemic lupus erythematosus.”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Yokohama	Y.Aizawa, K.Fukunaga, M.Ohtsuji, T.Shirai, Y.Kodera, S.Hirose and H.Nishimura
“Differential responses of ovalbumin-specific Th-cells towards chemically-modified immunogenic and tolerogenic ovalbumins”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Yokohama	R.Fujiwara, K.Fukumori, M.Obata,T.Fujii, M.Ohtsuji, Y.Kodera, S.Hirose and H.Nishimura
“Genetic studies on immune tolerance”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Yokohama	M. Obata, R Fujiwara, Y.Kodera, M. Ohtsuji, S.Hirose and H. Nishimura

“Improvement of the simulation program for the analysis of the mouse model of the autoimmune disease”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Yokohama	Nobutaka KUWAHARA, Yasuhiro IIDA, Hiroyuki NISHIMURA and Yukiyasu IIDA
「自己免疫疾患感受性におけるSLAM遺伝子群の関与の可能性」	2010年12月7日 ～10日	第33回日本分子生物学会年会、第83回日本生化学会大会合同学会、神戸	相澤ゆかり、大辻稀樹、藤原龍、福森健、守永梓紗、 西村裕之
“The role of SLAM signal in SLE”	2011年11月27日 ～11月29日	40th Japanese Society for Immunology, 2011, Makuhari	Q. Lin, M.Ohtsuji, A.Sato, N.Ohtsuji, K.Nishikawa, H.Tsurui, K.Sudo, H.Nishimura , M.Ono, T.Shirai, S.Hirose
“Mechanism of Th-cell tolerance induced with the tolerogenic protein antigen conjugated with polyethylene glycol”	2011年11月27日 ～11月29日	40th Japanese Society for Immunology, 2011, Makuhari	R.Fujiwara, M.Obata, T.Fujii, M.Ohtsuji, Y.Kodera, S.Hirose and H.Nishimura
“Presumptive role of 129 strain-derived Sle16 locus for rheumatoid arthritis in a new mouse model with FcyR B-deficient C57BL/6 genetic background”	2011年11月27日 ～11月29日	40th Japanese Society for Immunology, 2011, Makuhari	A.Sato, M.Ohtsuji, Q.Lin, N.Ohtsuji, K.Nishikawa, H.Tsurui, M.Ono, T.Shirai, T.Takai, H.Nishimura , S.Hirose

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年 : 1957(昭和32)年
 在籍 : 2004(平成16)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野 : 生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職 : 東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等 : 工学研究科長、医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長(2012)
 工学研究科長、医用工学部生命・環境システム工学科長、
 医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長
 (2010・2011)
 留学 : 米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格 : 高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 受賞・表彰 : 手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高
 血圧研究会奨励賞(1991年)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方向的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。 毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
骨形成を制御する因子の探索 遺伝子KOマウスの表現形の解析					
2011年度の研究活動概略					
骨形成を制御する因子の探索 遺伝子KOマウスの表現形の解析					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「血管生物医学事典:骨組織血管系と骨髄」	共著	2011年12月10日	朝倉書店	佐藤靖史, 森田育男, 高倉伸幸, 小室一成	42-43頁
(学術論文)					
“Olive Polyphenol Hydroxytyrosol Prevents Bone Loss”	共著	2011年5月25日	European Journal of Pharmacology・662	Keitaro HAGIWARA, Tadashi GOTO, Masahiro ARAKI, Hitoshi MIYAZAKI, Hiromi HAGIWARA	pp.78-84
“Olive polyphenol, oleuropein and hydroxytyrosol, accelerate bone formation in culture and maintain bone density of OVX-mice.”	共著	2010年6月1日	Osteoporosis International・21	Hiromi HAGIWARA , Keitaro HAGIWARA	S122

"Iron Overload Inhibits Calcification and Differentiation of ATDC5 Cells"	共著	2012年1月6日	Journal of Biochemistry・151(1)	Tomoya Ohno, Noriaki Hashimoto, Kanako Yamazaki, Ken-ichi Mitsui, Hiroyuki Nishimura, Hiromi Hagiwara	pp.109-114
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
"Olive Polyphenol, Oleuropein and Hydroxytyrosol, Accelerate Bone Formation in Culture and Maintain Bone Density of OVX-mice"		2010年5月6日	IFO World Congress on Osteoporosis & 10th European Congress on Clinical and Economic Aspects of Osteoporosis and Osteoarthritis, Florence, Italy	Hiromi HAGIWARA , Keitaro HAGIWARA	
"Osteoclast Formation for Bone Resorption Activity Analysis on Chip"		2010年9月16日	The 49th Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan, Himeji	Atsushi KIRA, Ai TANAKA, Shinya SAITO, Kho FUWA, Kyouko NAKATA, Hiromi HAGIWARA	
「オリーブ成分ポリフェノールは骨形成を促進する」		2010年9月24日	第84回日本生化学会大会(京都国際会議場)	萩原啓太郎、後藤忠、宮崎均、 萩原啓実	
"Nephrotoxicity of Trichloroethylene Metabolite DCVC in Mice"		2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Nobuaki SHIRAI, Mareki OHTSUJI, Hiroki TOMISAWA, Naomi OHTSUJI, Sachiko HIROSE, Hiromi HAGIWARA	
(Poster)"Biodistribution of PEG-Modified Gold Nanoparticles in Mice"		2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kenichi HATANNO, Kaoru YOSHIDA, Keitaro HAGIWARA, Yusuke MURATA and Hiromi HAGIWARA	
(Poster)"Localization of Androgen Receptor Corepressor Testicular Zinc-Finger Protein on Mouse Testis"		2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Noriyoshi SAKO, Katsutoshi SASAKI, Shou KAMAKURA, Kanako YAMASAKI, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA	
(Poster)"Effects of Catechin Groups on Osteoblast and Osteoclast Metabolism"		2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Shuhei YABUTA, Takahiro SHIHHARA and Hiromi HAGIWARA	
(Poster)"Effects and Action Mechanism of Polyphenol on Proliferation of Human Cancer Cells"		2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Tatsuya YAMADA, Yuki OGAWA, Kouko SEKI and Hiromi HAGIWARA	
「Fisetinの Maus 破骨細胞の形成と骨芽細胞の分化への影響」		2010年12月9日	第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会(神戸ポートアイランド)	禹信榮、中田享子、禹濟泰、 萩原啓実	
「マウスにおけるトリクロロエチレン代謝産物DCVCの腎毒性」		2010年12月9日	第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会(神戸ポートアイランド)	白井信明、大辻希樹、富澤宏樹、 萩原啓実	
「セサミンは平滑筋細胞の石灰化を抑制するが骨芽細胞の石灰化には影響しない」		2010年12月9日	第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会(神戸ポートアイランド)	椎原誉大、 萩原啓実	
「金コロイド粒子の Maus 体内動態」		2011年6月25日	日本生化学会関東支部例会(東京理科大学)	波田野賢一、萩原啓太郎、村田雄輔、吉田薫、 萩原啓実	
"Effect and Action Mechanism of Polyphenol on Proliferation of Human Cancer Cells"		2011年7月22日	日本動物細胞工学会(東京大学山上会館)	山田達也、小川祐希、關晃子、 萩原啓実	
「ヒトガン細胞の増殖に及ぼすポリフェノールの影響」		2011年7月22日	日本動物細胞工学会2011(東京大学)	山田達也、關晃子、小川祐希、 萩原啓実	
(Poster)"Gene Expression by Trichloroethylene Metabolite DCVC in Mouse Kidney"		2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Nobuaki SHIRAI, Keitaro HAGIWARA, Shou KAMAKURA, Hiroki TOMISAWA, Hiromi HAGIWARA	

(Poster)“Localization of Aldoart1 on Mouse Testis”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Shou KAMAKURA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
(Poster)“Localization of Androgen Receptor Corepressor Testicular Zinc-Finger Protein on Mouse Epididymis”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Norihisa SAKO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
(Poster)“Effects of PEG-modified Gold Nanoparticles on Function of Liver and Kidney and Distribution in Brain and Testis”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Kenichi HATANO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
(Poster)“Apigenin Inhibits Tumor Formation of Human Breast Cancer Cells: Nude Mouse Xenograft Tumor Assay”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Tatsuya YAMADA, Keitaro HAGIWARA and Hiromi HAGIWARA
“Effects of Olive Polyphenols on Bone Loss”	2011年11月12日 (11～13)	TJASST'11, Hammamet, Tunisia	Hiromi HAGIWARA , Tadashi GOTO, Keitaro HAGIWARA
(ポスター/口頭)「TZF遺伝子欠損マウスは雄性不妊である」	2011年12月13日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	吉田薫、佐古典久、萩原啓実、その他10名
(ポスター/口頭)「TZFはマウスの精子形成を制御する」	2011年12月13日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	佐古典久、吉田薫、萩原啓実
(ポスター/口頭)「TZF欠損マウスにおける精巣でのAldoart1の発現変化」	2011年12月13日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	鎌倉将、佐古典久、吉田薫、萩原啓実
「トリクロロエチレン代謝産物DCVCの腎毒性と遺伝子発現」	2011年12月14日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	白井伸明、萩原啓太郎、鎌倉将、富澤宏樹、萩原啓実
“Effects of PEG-modified gold nanoparticles on function of liver and kidney and distribution in brain and testis”	2011年12月14日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	Kenichi HATANO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Olive Polyphenol and Bone: Improvement of Bone Loss”	2011年12月16日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	-
“Phytochemicals and Diseases: A Wide Variety of Phramacological Functions”	2011年12月16日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	Hiromi HAGIWARA , Kazuichi SAKAMOTO
“Functions of Molecules and Complexes”	2011年12月16日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	萩原啓実、坂本和一
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「Award of Excellence」 (Biodistribution of PEG-Modified Gold Nanoparticles in Mice)	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010	Kenichi HATANO, Kaoru YOSHIDA, Keitaro HAGIWARA, Yusuke MURATA, Hiromi HAGIWARA
「Award of Excellence」 (Localization of Androgen Receptor Corepressor Testicular Zinc-Finger Protein on Mouse Testis)	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010	Norihisa SAKO, Katsutoshi SASAKI, Shou KAMAKURA, Kanako YAMAZAKI, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
「Award of Excellence」 (Effects of Catechin Groups on Osteoblast and Osteoclast Metabolism)	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010	Shuhei YABUTA, Takahiro SHIIHARA, Hiromi HAGIWARA
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
トリクロロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2010年4月～2011年3月	株式会社ネモト・サイエンス	

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
IFO World Congress on Osteoporosis & 10th European Congress on Clinical and Economic Aspects of Osteoporosis and Osteoarthritis	2010年5月4日～11日	Florence, Italy
(その他特記事項)		
「横浜地法裁判所委員会委員」(2010年6月14日)		
「日本臨床検査学教育協議会役員」「評議員」(2011年8月17日)		

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会、日本分子生物学会、日本骨代謝学会、米国骨代謝学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本血管生物医学会、日本環境ホルモン学会、日本動物細胞工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事、評議員
2010年6月14日～現在	横浜地方裁判所委員会委員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森 永 茂 生 (もりなが しげお) 教授



出 生 年 : 1956(昭和31)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京都立大学大学院博士課程
 学 位 : 理学博士
 学 位 論 文 : A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen)
 in Recent Sediments by Chemical Degradation Gas
 Chromatography/Mass Spectrometry
 専 門 分 野 : 環境化学、分析化学、有機地球化学
 前 職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学 内 役 職 等 : 学務部副部長(2010・2011・2012)
 受 賞 ・ 表 彰 : とくきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ テキスト	2010～2012年4月	生命医工学科の工学ワークショップ 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ テキスト	2010～2011年9月	臨床工学科の工学ワークショップ 担当のテーマに関するテキストを作成した。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
植物を利用した重金属等の土壤汚染物質除去(ファイトレメディエーション)に関する研究を、涌井・飯島研究室と当研究室および熊谷組との共同研究で、鉛や六価クロムなどの重金属を根などから吸収できる植物の選定とその能力の程度および植物の成長や色調などとの関連を探り出すことを目標に実施し、その中で、植物や土壤中の重金属の分析を担当した。その成果は、地下水・土壤汚染とその防止対策に関する研究集会などの学会で発表し、投稿論文も作成中である。また、酸化チタン以外の金属酸化物触媒として酸化銅を触媒とし、有機物と過酸化水素共存溶液に低周波超音波を照射で有機物が二酸化炭素まで分解することが明らかになったことから、その分解生成物における収支を明らかにすること、その他の触媒とその量と過酸化水素量の最適条件の検討すること、他の触媒の探索などに取り組んでいる。					
2011年度の研究活動概略					
2010年度に引き続き、植物を利用した重金属等の土壤汚染物質除去(ファイトレメディエーション)に関する、涌井・飯島研究室と当研究室および熊谷組との共同研究の分析データを出すことで、鉛や六価クロムなどの重金属を根などから吸収できる植物の選定とその能力の程度および植物の成長や色調などとの関連を探り出すことを目標に実施した。その成果は、地下水・土壤汚染とその防止対策に関する研究集会や土木学会などで発表した。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
"Growth reaction for plants sensor that the several plant planted on Pb soil."	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	Y.Sugano, S.Wakui, S.Morinaga, T.Asai, S.Torobu, S.Yokotsuka, S.Naito, K.Iijima	pp.153-158
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(ポスター)植物による重金属等の汚染土壌物質の除去作用とその効果を指標とする生育反応に関する研究	2010年6月17日	第16回 地下水・土壤汚染とその防止対策に関する研究集会(宮城県仙台市民ホール)	菅野裕一、涌井史郎、内藤敏、堀川朗彦、森永茂生、飯島健太郎		
(poster) "Stress reaction to several plant on Pb pollution soil."	2010年11月6日	Toin international Symposium on bio-Medical Enginnering 2010	Y.Sugano, S.Wakui, S.Morinaga, H.Tanaka, T.Asai, K.Iijima		

(ポスター)「Pb含有土壌へ供試した植物の吸収能および生育反応に関する実験」	2011年6月17日	第17回 地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会(サンピアンかわさき/神奈川県川崎市立労働会館)	菅野裕一、涌井史郎、森永茂生、飯島健太郎、横塚享、内藤敏
(ポスター)「重金属含有土壌の植物体への吸収能と生育反応に関する実験」	2011年6月17日	第17回 地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会(サンピアンかわさき/神奈川県川崎市立労働会館)	土路生修三、横塚享、村上順也、菅野裕一、横山和憲、森永茂生
(口頭)「模擬汚染土壌を用いた植物体への重金属吸収能と生育反応に関する実験」	2011年9月7日	土木学会平成23年度全国大会(四国)第66回年次学術講演会(愛媛大学 城北キャンパス)	土路生修三、横塚享、村上順也、佐々木静郎、門倉伸行、涌井史郎、菅野裕一、森永茂生、飯島健太郎
(poster)“Experiments on the Cr absorption ability and growth reaction of plants in Cr6+ contained soil”	2011年11月5日	Toin international Synpsium on Bio-Medical Enginnering 2011 桐蔭横浜大学	横山和憲、涌井史郎、飯島健太郎、森永茂生、土路生修三、横塚享、内藤敏
(ポスター)「六価クロム汚染土壌における商物の重金属吸収能と生育の基礎研究」	2012年3月27日	日本化学会第92春季年会(慶応義塾大学 日吉キャンパス)	横山和憲、菅野裕一、涌井史郎、土路生修三、内藤敏、横塚享、飯島健太郎、森永茂生
その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
植物による重金属等の土壌汚染物質の除去作用とその効果を指標とする生育反応に関する研究	2009年4月～2011年3月	(株)熊谷組	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会、ソノケミストリー研究会

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
 在籍：2009(平成21)年1月～
 最終学歴：東京理科大学 理学部II部 物理学科
 専門分野：臨床検査学、病院管理概論(管理運営)
 前職：済生会横浜市東部病院
 資格：臨床検査技師
 受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰

研究活動

2010年度の研究活動概略					
臨床検査機器の省エネ化と移動型検査室の構築					
2011年度の研究活動概略					
健康、医療、福祉を支援する包括的システムの構築(国民健康データバンク構想、コメディカルの役割分担を含む)					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
"Study on the mobile clinical laboratory system equipped with a clinical test apparatus"	単著	2010年6月30日	桐蔭論叢第22号	-	pp.37-42
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「日臨技が進める臨床検査技師のキャリアパス」	2010年11月26日	第64回国立病院総合医学会(福岡国際会議場)	-		
「日本臨床衛生検査技師会における技師教育制度のあり方」	2010年5月21日	行列のできるスキルアップ研修会(第58回日本医学検査学会)(神戸国際会議場)	-		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「日臨技の教育プログラムの概要」	2010年12月4日	第1回臨床検査技師臨地実習指導者教育研修会	日本臨床衛生検査技師会館		
(その他特記事項)					
「日本臨床衛生検査技師会 副会長就任」(2010年4月1日)					

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2010年4月～2012年3月	日本臨床衛生検査技師会副会長
2010年4月～現在	結核研究奨励賞選考委員
	衛生検査所専門部会調査指導中央委員会副委員長
	医療機器保守点検部会委員
	衛生検査所業公正取引協議会運営委員

落合 晃 (おちあい あきら) 准教授



出生年 : 1966(昭和41)年
 在籍 : 2003(平成15)年9月～
 最終学歴 : 北海道薬科大学大学院生物薬学専攻
 学位 : 医学博士
 学位論文 : ラット虚血急性腎不全に対するレシチン化superoxide dismutase(PC-SOD)の抑制効果
 専門分野 : 薬理学、再生医療、衛生科学
 前職 : 生化学工業株式会社
 学内役職等 : 学生部副部長(2010・2011)
 留学 : 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター(国内)
 ミシシッピ大学 メディカルセンター(米国)
 資格 : 薬剤師
 非常勤講師 : 聖マリアンナ医科大学

研究活動

2010年度の研究活動概略

軟骨再生を目指した新規スカフォールドの創生
 新規培養基材の開発
 細胞外マトリックスの機能解明

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床検査学教育学会、日本リウマチ学会、日本DDS学会、日本炎症・再生医学会、日本薬学会、日本臨床薬理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
	日本臨床検査学教育学会 評議委員

小寺 洋 (こでら よう) 准教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：1988(昭和63)年4月～
 最終学歴：東京工業大学理学部
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
 専門分野：生物化学、タンパク質工学
 学内役職等：研究推進部副部長(2010・2011・2012)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
生命の作り出す生きるための道具「タンパク質」を、人工的に改変し、その活躍の場を広げることを目指している。					
2011年度の研究活動概略					
生命の作り出す生きるための道具「タンパク質」を、人工的に改変し、その活躍の場を広げることを目指している。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Antigen-Specific Immune Tolerance Induced by Protein Antigens Conjugated with Polyethylene Glycol”	共著	2010年6月30日	桐蔭論叢第22号	Masaomi OBATA, Ryu FUJIWARA, Takuma FUJII, Yo KODERA, Mareki OHTSUJI, Sachiko HIROSE and Hiroyuki NISHIMURA	pp.5-12
“Susceptibility loci to for the defective foreign protein-induced tolerance in NZB mice: Implications of epistatic effects of Fcgr2b and Slam family genes”	共著	2011年5月23日	Eur. J. Immunol. 2011	Fujii T, Hou R, Sato-Hayashizaki A, Obata M, Nishimura N, Ohtuji M, Ikeda K, Toei J, Mitsui K, Kodea Y, Shirai T, Nishimura H	pp.2333-2340
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Mechanism of Thcell tolerance induced with the tolerogenic protein antigen conjugated with polyethylene glycol”	2010年8月22日～27日	14th International Congress of Immunology, Kobe	M. Obata, R Fujiwara, T. Fujii, Y.Kodera, M. Ohtsuji, T. Shirai, S.Hirose, H. Nishimura		
“The role of SAP (SLAM-associated protein) gene in the pathogenesis of Systemic Lupus Erythematosus”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Yukari AIZAWA, Kanami FUKUNAGA, Mareki OHTSUJI, Toshikazu SHIRAI, Yo KODERA, Sachiko HIROSE, Hiroyuki NOSHIMURA		

“Differential responses of ovalbumin-specific Th cells towards chemically-modified immunogenic and tolerogenic ovalbumins”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Ryu FUJIWARA, Ken FUKUMORI, Masaomi OBATA, Takuma FUJII, Mareki OHTSUJI, Yo KODERA , Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
“Role of autoimmunity in the development of ankylosing enthesitis in (BXSB x NZB)F1 male mice”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kanami FUKUNAGA, Yukari AIZAWA, Yukiho OGAWA, Azusa MORINAGA, Mareki OHTSUJI, Toshikazu SHIRAI, Yo KODERA , Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
“Genetic Studies on Immune Tolerance”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Masaomi OBATA, Ryu FUJIWARA, Takuma FUJII, Yo KODERA , Mareki OHTSUJI, Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
“Mechanism of Th-cell Tolerance Induced with The Tolerogenic Protein Antigen Conjugated with Polyethylene Glycol”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Ryu FUJIWARA, Masaomi OBATA, Takumka FUJII, Yo KODERA , Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
“Interleukin 21 Chemically Conjugated with Polyethylene Glycol: Potential Application in Tumor Immunotherapy”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hiroki IKEDA, Mareki OHTSUJI, Masaomi OBATA, Yo KODERA , Hiroyuki NISHIMURA

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本生化学会、日本免疫学会		
(社会における活動)		
横浜新都市ホールにて遺伝子多型に関する体験の提供	2011年7月16日	かながわ発・中高生のための大学セミナー実行委員会、神奈川県
パンフィコ横浜にて遺伝子を扱う実習体験の提供	2011年9月25日	東進予備校、神奈川新聞社主催

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 准教授



出生年 : 1965(昭和40)年
 在籍 : 2001(平成13)年4月～
 最終学歴 : 東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野 : バイオインターフェイス/バイオマテリアル、ドラッグデリバリー、フォトメディカル
 前職 : エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 学内役職等 : 学務部副部長(2012)
 非常勤講師 : 東京農工大学工学部
 受賞・表彰 : 第40回コロイドおよび界面化学討論会ポスター賞「界面活性剤/合成香料/水三成分系相状態図」、1997年度材料技術研究協会技術賞「ハロゲン捕捉剤の開発」、平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」、2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」、2004年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「癌の光線力学的療法における5-Aminolevulinic acidの経皮吸収に及ぼすl-menthol誘導体の添加効果」、2005年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ポリエチレングリコールで改質した金基板表面へのタンパク質の吸着挙動」、2006年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「発光周波数の異なるキセノンフラッシュ光のPDT効果」、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「オゾン-UV処理により表面改質された各種高分子材料への血漿タンパク質の吸着挙動」、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「5-アミノレブリン酸による細胞内プロトポルフィリンIXの集積性に及ぼす各種芳香族アミノ酸の添加効果」、第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」、2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」、Poster Session Award, 2009TOIN International Symposium on Biomedical Engineering, "Effect of crown ethers on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX accumulation in U-937 cell", SPACC-17 Poster Award, "Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells", Toin International Symposium on Biomedical Engineering, "Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells"

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)生体物性工学(臨床工学科2年生)では画像や動画などを多用しながら教授した。	2005年～2010年	生体物性工学では、生理現象を物理学や化学的に考えて学ぶが、その理解を深めるために、実際に生体内で生じている現象を画像や動画などで合わせて図示することで、内容の理解を深めた。実際、授業評価からわかるとおり、授業がわかりやすく、理解しやすかったとの評価で、総合的に満足度が高い授業を提供することができたと考えている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)生体物性工学(臨床工学科2年生)の授業で「生体物性/医用機械工学」(秀潤社)を参考書として使用	2005年～2010年	臨床工学を学ぶ上で重要な生理学をわかりく説明している。

(2)基礎化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2008年～	高校での化学の復習書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
(3)基礎化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師役出版)を教科書として使用	2008年～	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。
(4)バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師役出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明に利用する。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(5)生命工医学セミナー(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師役出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
<p>バイオインターフェイス/バイオマテリアル</p> <p>近年、MCM-41に代表される2～50nmの細孔を有するメソポーラス材料は、大きな比表面積とナノサイズの規則的な細孔を有することから注目されており、さまざまな組成のメソポーラス材料が合成されている。これまでに、MCM-41のようなヘキサゴナル型メソ孔を有するリン酸カルシウム系化合物モネタイトの合成に成功した。2010年度は更に細孔形状の異なるリン酸カルシウム系メソポーラス材料の合成を試み、ラメラ型層構造を有するリン酸カルシウム系メソポーラス材料の調製に成功した。</p> <p>また、一般に、人工血管や人工骨のような生体材料は生体親和性、すなわち生体適合性が要求される。生体適合性向上のためには、生体材料表面へのタンパク質の付着・接着を抑制する必要がある。そこで、親水性高分子であるポリエチレングリコール(PEG)で改質された材料表面へのタンパク質吸着挙動について検討した。実験は、微小な重量変化から吸着量を測定することができる水晶振動子マイクロバランス(QCM)を用いて行った。その結果、PEGの高分子鎖の増加に伴いタンパク質吸着は抑制された。また、高分子鎖の異なるPEGを混合して表面改質し、同様にタンパク質の吸着挙動を測定したところ、吸着抑制に至適なPEG混合比が存在することを見出した。</p> <p>ドラッグデリバリー/フォトダイナミックセラピー</p> <p>癌の光線力学的療法(PDT)は、生体侵襲性が少ない、簡便、副作用が少ないなどの特長を有している。現代の医療において患者の「Quality of Life(QOL)」の向上は時代の要請であり、そのような流れの中でPDTはこれまでの癌の治療の問題点を克服し、QOLを配慮した低侵襲性診断・治療方法として注目されている。2010年度は光線力学的療法の光増感剤として用いられるプロトポルフィリンIX(PpIX)の前駆体である5-アミノレブリン酸塩(ALA)の経皮吸収特性について検討した。その結果、ALAリン酸塩はALA塩酸塩と比較して、皮膚に対する影響が少なく、経皮吸収性が高いことを見出した。</p> <p>また、PpIXによるPDT効果向上のための方法の一つに、PpIXの細胞内集積量の増加が挙げられる。これまで、PpIXの細胞内集積に対する種々の共存物質の影響について検討してきた。2010年度はクラウンエーテルの影響について検討した。その結果、in vitroの実験において、クラウンエーテルを添加することによって、PpIXの細胞内集積量が有意に増加することが確認された。</p>					
2011年度の研究活動概略					
<p>バイオインターフェイス/バイオマテリアル</p> <p>2010年度に成功したラメラ型層構造を有するリン酸カルシウム系メソポーラス材料において、ラメラ層の面間隔制御(増大)を目的に、合成時に油性物質を共存させ、そのラメラ層面間隔に及ぼす影響について検討した。しかし、種々の油性物質を用いて合成を試みたが、面間隔は無添加系の場合とほぼ等しく、面間隔を増大させることはできなかった。</p> <p>ドラッグデリバリー/フォトダイナミックセラピー</p> <p>in vitroの実験において、クラウンエーテルがPpIXの細胞内集積量を優位に増加することを見出した。2011年度はその原因等について検討した。また、新たにピリドン系鉄キレート剤およびフラボノイド系化合物によるPpIXの細胞内集積の対する影響についても検討した。その結果、鉄キレート剤およびフラボノイド系化合物共存によって、PpIXの細胞内集積の増加が認められた。</p> <p>また、成蹊大学との共同実験で、オキソバナジウム錯体の癌細胞に対するアポトーシス誘導能について検討した。その結果、いくつかのオキソバナジウム錯体にアポトーシス誘導能を確認し、さらにその効果は疎水性の高いものほど大きいことを見出した。さらには、アポトーシス誘導はカスパーゼ非依存経路であることを確認した。また、幾つかのニコチンアミド誘導体にもアポトーシス活性があることを見出した。</p>					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Synthesis of nicotinamide derivatives having a hydroxy-substituted benzene ring and the influence of their structures on the apoptosis-inducing activity against leukemia cells”	共著	2011年3月	Drug Development Research, 72, (3)	Tomoko Yamaguchi, Yuriko Matsumura, Takuya Ishii, Yoshikazu Tokuoaka, and Keisuke Kurita	pp.289-297

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Preparation of Hydroxyapatite with Lamellar-Type Mesopores by a Precipitation Method Using Sodium Dodecyl Phosphate”	2010年9月	International Conference on Nanoscopic Colloid and Surface Science (Makuhari messe)	K.Yamamoto, T.Kojima, Y.Tokuoka
“Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells”	2010年11月	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Shinya WATANABE, Takuya ISHII, Tooru TANAKA and Yoshikazu TOKUOKA
“Transdermal adsorption characteristics of 5-aminolevulinic acid·hydrochloride and phosphate”	2010年11月	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Ai YAMAGUCHI, Takuya ISHII, Toru TANAKA, Yoshikazu TOKUOKA
“Preparation of Hydroxyapatite with Lamellar-Type Mesopores by a Precipitation Method Using Sodium Dodecyl Phosphate”	2010年11月	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Keita YAMAMOTO, Taiga KOJIMA and Yoshikazu TOKUOKA
「5-アミノレブリン酸を用いた光線力学的療法における18-クラウン-6誘導体の添加効果」	2010年11月	第31回日本レーザー医学会総会(ウィンクあいち)	渡部信也, 石井琢也, 田中 徹, 徳岡由一
「5-アミノレブリン酸塩酸塩およびリン酸塩の経皮吸収特性」	2010年11月	第31回日本レーザー医学会総会(ウィンクあいち)	山口藍, 徳岡由一 , 石井琢也, 田中 徹
“Synthesis and apoptosis-inducing activities of oxovanadium(IV) complexes.”	2010年12月	Pacificchem 2010 (Honolulu, Hawaii)	Tomoko Yamaguchi, Yuriko Matsumura, Keisuke Kurita, Takuya Ishii, and Yoshikazu Tokuoka
「リン酸系界面活性剤を用いたメソポーラス・ヒドロキシアパタイトの合成および細孔径制御」	2010年12月	2010年材料技術研究協会討論会(東京理科大学野田キャンパス)	山本啓太, 児島大我, 徳岡由一
「プロトポルフィリンIX細胞内集積に及ぼす18-クラウン-6の添加効果」	2010年12月	2010年材料技術研究協会討論会(東京理科大学野田キャンパス)	渡部信也, 石井琢也, 田中 徹, 徳岡由一
「プロトポルフィリンIX細胞内集積性に及ぼす18-クラウン-6の添加効果」	2011年7月	第21回日本光線力学学会学術講演会(大阪大学, 吹田キャンパス)	渡部信也, 石井琢也, 田中 徹, 徳岡由一
“Apoptosis-Inducing Activity of Oxovanadium(IV) Complexes with Pyridinone Ligands against Leukemia Cells: Synthesis and Effect of Long Alkyl Side Chain”	2011年8月	The 18th International SPACC Symposium (Whistler, Canada)	Tomoko Yamaguchi, Yuriko Matsumura, Shinya Watanabe, Yoshikazu Tokuoka , and Akihiro Yokoyama
「ピリジノンとキリン配位子を有するオキソバナジウム錯体の合成とカスパーゼ非依存型アポトーシス誘導活性」	2011年10月	第41回複素環化学討論会(熊本市民会館(崇城大学市民ホール))	山口智子, 渡部信也, 松村有里子, 徳岡由一 , 横山明弘
「長鎖アルキル基を有するニコチンアミド誘導体の合成とヒト白血病細胞U937 に対するアポトーシス誘導活性の評価」	2011年10月	第41回複素環化学討論会(熊本市民会館(崇城大学市民ホール))	木村沙織, 山口智子, 渡部信也, 松村有里子, 徳岡由一 , 横山明弘
“Effect of Organic Compounds on Preparation of Hydroxyapatite with Lamellar-Type Mesopores by a Using Phosphoric Surfactant Aggregates”	2011年11月	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Keita YAMAMOTO, Yoshikazu YAMAMOTO
「油溶性物質共存下におけるリン酸系界面活性剤分子集合体を用いたラメラ型メソポーラス・アパタイトの合成」	2011年11月	第33回バイオマテリアル学会大会(京都府民総合交流プラザ 京都テルサ)	山本 啓太, 徳岡 由一
“Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells”	2011年11月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering (Toin University of Yokohama)	Shinya Watanabe, Takuya Ishii, Tooru Tanaka, Shun-ichiro Ogura and Yoshikazu Tokuoka

その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
SPACC-17 Poster Award "Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells"	2010年10月	The 17th International SPACC (Society of Pure and Applied Coordination Chemistry) Symposium	Tomoko Yamaguchi, Yuriko Matsumura, Takuya Ishii, Hiroshi Harashima, Yoshikazu Tokuoka , and Keisuke Kurita
Presents Poster Session Award "Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells"	2010年11月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010	Shinya Watanabe, Takuya Ishii, Tohru Tanaka, and Yoshikazu Tokuoka
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
奨学寄付金	2009年10月1日 ～2010年9月30日	「新規美白剤の開発」ピラス株式会社	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本化学会コロイドおよび界面化学部会、日本油化学会、材料技術研究協会、日本セラミックス協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、日本美容皮膚科学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在	色材協会編集委員会委員
2009年11月～2010年10月	平成21年度日本化学会関東支部代議員

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部
 専 門 分 野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学、分子生物学
 前 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 資 格 : 臨床検査技師
 非 常 勤 講 師 : 順天堂大学 医学部 非常勤助手

研究活動

2010年度の研究活動概略					
自己免疫疾患発症機序の解析 環境因子が自己免疫疾患の発症および病態に与える影響					
2011年度の研究活動概略					
疾患モデルマウスを用いた自己免疫疾患発症機序の解明					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
"Antigen-Apacific Immune Tolerance Induced by Protein Antigens Conjugated with Polyethylene Glycol"	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	Masaomi OBATA, Ryu FUJIWARA, Takuma FUJII, Yo KODERA, Mareki OHTSUJI , Sachiko HIROSE and Hiroyuki NISHIMURA	pp.5-12
"Vascular, renal and placental effects on pregnant offspring of protein-restricted rat dams"	共著	2011年4月11日	J Obstet Gynaecol Res. 2011 Apr;37(4)	Musha Y, Itoh S, Miyakawa M, Ohtsuji M , Hanson MA, Kinoshita K, Takeda S	pp.343-351
"Susceptibility loci to for the defective foreign protein-induced tolerance in NZB mice: Implications of epistatic effects of Fcgr2b and Slam family genes"	共著	2011年5月23日	Eur. J. Immunol. 2011	Fujii T, Hou R, Sato-Hayashizaki A, Obata M, Nishimura N, Ohtsuji M , Ikeda K, Toei J, Mitsui K, Kodea Y, Shirai T, Hirose S, Nishimura H	pp.2233-2240
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
"Overexpression of protein phosphatase subunit G5PR that suppresses JNKmediated apoptosis caused the increase of B-1 cells associated with autoimmunity"	2010年8月31日	14th INTERNATIONAL CONGRESS OF IMMUNOLOGY Kobe	M. Kitabatake, H. Igarashi, T.Toda, M. Ohtsuji , H. Tsurui, S.Hirose, N. Sakaguchi		
"Effect of CD72c allotype on SLE susceptibility"	2010年8月22日(～27日)	14th INTERNATIONAL CONGRESS OF IMMUNOLOGY Kobe	R. Hou, A. Sato, Q. Lin, M. Ohtsuji , T. Adachi, S. Hirose, T.Tsubata		
"Genetics of autoimmunity"	2010年8月22日、27日	14th INTERNATIONAL CONGRESS OF IMMUNOLOGY Kobe	S. Hirose, Q. Lin, A. Sato, R.Hou, M. Ohtsuji , H. Tsurui, H.Nishimura, T. Shirai		
"Mechanism of Thcell tolerance induced with thetolerogenic protein antigen conjugated with polyethylene glycol"	2010年8月22日、28日	15th INTERNATIONAL CONGRESS OF IMMUNOLOGY Kobe	M. Obata, R Fujiwara, T. Fujii, Y.Kodera, M. Ohtsuji , T. Shirai, S.Hirose, H. Nishimura		

"Nephrotoxicity of Trichloroethylene Metabolite DCVC in Mice"	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Toin University of Yokohama	Nobuaki SHIRAI, Mareki OHTSUJI , Hiroki TOMISAWA, Naomi OHTSUJI, Sachiko HIROSE, Hiromi HAGIWARA
"The role of SAP (SLAM-associated protein) gene in the pathogenesis of Systemic Lupus Erythematosus"	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Yukari AIZAWA, Kanami FUKUNAGA, Mareki OHTSUJI , Toshikazu SHIRAI, Yo KODERA, Sachiko HIROSE, Hiroyuki NOSHIMURA
"Differential responses of ovalbumin-specific Th cells towards chemically-modified immunogenic and tolerogenic ovalbumins"	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Ryu FUJIWARA, Ken FUKUMORI, Masaomi OBATA, Takuma FUJII, Mareki OHTSUJI , Yo KODERA, Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
"Role of autoimmunity in the development of ankylosing enthesitis in (BXSB x NZB)F1 male mice"	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kanami FUKUNAGA, Yukari AIZAWA, Yukiho OGAWA, Azusa MORINAGA, Mareki OHTSUJI , Toshikazu SHIRAI, Yo KODERA, Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
"Genetic Studies on Immune Tolerance"	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Masaomi OBATA, Ryu FUJIWARA, Takuma FUJII, Yo KODERA, Mareki OHTSUJI , Sachiko HIROSE, Hiroyuki NISHIMURA
「マウスにおけるトリクロロエチレン代謝産物 DCVCの腎毒性」	2010年12月9日	第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会 神戸ポートアイランド	白井信明, 大辻希樹 , 富澤宏樹, 萩原啓実
"Interleukin 21 Chemically Conjugated with Polyethylene Glycol: Potential Application in Tumor Immunotherapy"	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hiroki IKEDA, Mareki OHTSUJI , Masaomi OBATA, Yo KODERA, Hiroyuki NISHIMURA

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、日本分子生物学会、超音波検査技師会、日本臨床衛生検査技師会 神奈川県臨床検査技師会

小林 貴 (こばやし たかし) 専任講師



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院博士課程
 学位：理学修士
 学位論文：風の乱れの空間構造
 専門分野：地球物理、環境物理、計算機物理
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目「物理」「物理」における演示実験等の導入	2005年度から導入を開始した。	講義としての板書等だけでは分かり難い各項目において、直接目で見たり耳で聞いたり出来るような演示実験装置を色々工夫・準備し、教卓等で大きな定性実験として披露している。この為、大きな各種装置を棟4階倉庫に置いておき、授業も同階で行っている。
授業補習の導入	2005年度から本格的に導入を開始した。	1年の必修科目を中心に、全体に対する講義・演習だけでは身に入らなかつたり、不十分な学生を対象に、指名者および希望者を授業とは別の空き時間帯にカフェに呼び、個別指導をしている。これによって、個人ごと微妙に異なる不理解具合にかなり対応することが出来る。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「物理」「物理」授業用小冊子	2011年4月 (毎年改訂版を発行)	学内印刷・製本版、共著
「工学ワークショップ」実験テキスト	2011年9月 (毎年改訂版を発行)	学内印刷・製本版、共著

研究活動

2010年度の研究活動概略					
本学周辺の風の吹き方の観測 建物近傍における風の乱れスペクトルの解析 身近にある騒音の量と質の測定 色々な揺らぎの分析やその中にある心地よさを探る 1/fゆらぎの成り立ち					
2011年度の研究活動概略					
「身近なところに見られる1/fゆらぎ」に関して、大学院生時代に所属していた研究室の海の湾の変動記録を音として聞いたらどうなるかを目的として、まず基本的な音の合成に取り組んでいる。また、これとは別で、むしろ上記教育活動の一環とも言えるが、医用系生体の電気計測に関して、従来型の各要素の関する学生実験ではなく、システムの中で理解していけるような、上級生向けの実験を構築中である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「大学における教育方法 -ボトムアップとトップダウン-」	単著	2010年6月30日	桐蔭論叢第22号	-	93-96頁

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、日仏海洋学会、ゆらぎ現象研究会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命工学実験、実習教材	2010年～	

研究活動

2010年度の研究活動概略					
心筋虚血 - 再灌流時の活性酸素による心筋障害度の検討 超長時間持久的負荷(24時間走)における生体反応					
2011年度の研究活動概略					
超長時間持久的負荷(24時間走)における生体反応 自律神経機能について					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「低強度、長時間持続する運動時のサイトカインの動態と小麦グルテン加水分解物Wheat Gluten Hydrolysate(WGH)摂取による生体応答」	共著	2011年9月22日	順天堂医学.2012,58	加治佐知子、渡辺雅之、太田眞、今西昭雄、平田龍三、安藤隆、清水智美、佐藤健司、鈴木良雄、小林弘幸	161-167頁
「超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移」	原著	2011年10月18日	臨床病理Vol.59 No.10	清水智美、今西昭雄、杉本健一、武田信彬、平田龍三、安藤隆、森川征一、鈴木良雄、渡辺雅之、奥田美穂、川名孝幸、清川唯、鈴木政登、渡邊マキノ、岡田隆夫、太田眞	930-935頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭)「超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移」	2010年9月11日	第57回日本臨床検査医学会学術集会 東京都	清水智美、太田眞、今西昭雄、杉本健一、小原誠、平井徳幸、安藤隆、平田龍三、堂満憲一、鈴木政登		
(口頭)「超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症とストレス」	2010年9月18日	第65回日本体力医学会大会 千葉県	清水智美、太田眞、杉本健一、武田信彬、今西昭雄、平田龍三、安藤隆、森川征一、鈴木良雄、渡辺雅之、川名孝幸、奥田美穂、鈴木政登		
(ポスター)「内臓脂肪およびインスリン抵抗性に及ぼすアンギオテンシン受容体拮抗薬(ARB)と運動の併用効果」	2011年9月17日	第66回日本体力医学会大会 山口市	清水智美、進藤大典、石山 郁朗、太田 眞、鈴木 政登		

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
第21回日本体力医学会スポーツ医学研修会	2010月7月28日	日本体力医学会学術委員会・ スポーツ医学研修会実行委員 会	東京慈恵会医科大学西新橋校各 会議室・大学1号館6F機能系 実習室
第22回日本体力医学会スポーツ医学研修会	2011月8月5日	日本体力医学会学術委員会・ スポーツ医学研修会実行委員 会	東京慈恵会医科大学西新橋校各 会議室・大学1号館6F機能系 実習室

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、特定非営利活動法人(NPO法人) いろはにほへと塾 日本運動生理学会、日本臨床検査医学会

瀬川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年 : 1981(昭和56)年
在籍 : 2011(平成23)年4月～
最終学歴 : 獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
専門分野 : 生理学、臨床生理学、
前職 : 恩賜財団済生会横浜市東部病院
留学 : 米国(4年)
資格 : 臨床検査技師

研究活動

2011年度の研究活動概略

2011年度、桐蔭横浜大学生命医工学科着任1年目。病院勤務時の臨床データをまとめ、桐蔭国際シンポジウムにて“The efficacy of SPP for CLI”発表。今後は臨床検査技師養成学科と責任を果たせるよう、生命医工学科1期生の国家試験受験に向けて模擬試験等に携わっていききたい。また、より良い実習が行えるよう改善点を探していこうと思う。

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、超音波検査学会、

(2012年度 新任教員)

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助手



出 生 年 : 1986(昭和61)年
 在 籍 : 2012(平成24)年4月～
 最 終 学 歴 : 大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学 位 : 健康科学士
 専 門 分 野 : 臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前 職 : 東海大学医学部付属病院 院内感染対策室 技術員
 資 格 : 臨床検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析化学認定士(初級)
 非 常 勤 講 師 : 東京農業大学畜産学科家畜衛生学研究室 研究生

研究活動

2010年度の研究活動概略					
2009-2010年シーズンに流行した新型インフルエンザ(2009/pdm)において、その新たな検査方法の確立とウイルスの分子生物学的解析を行った。 Hideki, O. Hasunuma, Y. et al (2010). Severe pneumonia caused by a novel influenza A (H1N1) virus in an asymptomatic emphysematous smoker. Internal Medicine, 49, pp.1667-1670. 蓮沼裕也・大島利夫 他. LAMP法による新型インフルエンザウイルス(A/H1N1 pdm)検出の検討. 日本臨床検査自動化学会第42回大会, 神戸国際会議場, 2010年10月. 口頭発表. 病院内において院内感染サーベイランスを行い、分子疫学的手法により感染制御の一助となった。 浅井さとみ・蓮沼裕也 他. 重症熱傷患者創部の分離緑膿菌における多剤耐性化と分子機構の解析. 第57回日本臨床検査医学会学術集会, 2010年11月. 口頭発表.					
2011年度の研究活動概略					
2009-2010年シーズンに流行した新型インフルエンザ(2009/pdm)において、その新たな検査方法の確立とウイルスの分子生物学的解析を行った。 蓮沼裕也・浅井さとみ 他. (2011). LAMP法による新型インフルエンザウイルス(A/H1N1 pdm)検出システムの基礎的性能評価, 日本臨床検査自動化学会誌, 37, 59-64頁 病院内において院内感染サーベイランスを行い、分子疫学的手法により感染制御の一助となった。 ・浅井さとみ・蓮沼裕也 他. 重症熱傷患者創部の分離緑膿菌における多剤耐性化と分子機構の解析. 第57回日本臨床検査医学会学術集会, 2010年11月. 口頭発表. ・蓮沼裕也・増川敦子 他. 喀痰の客観的品質評価とPCR法による抗酸菌DNA検査への影響. 日本臨床検査自動化学会第43回大会, パンフィコ横浜, 2011年10月. 口頭発表. ・大橋茉耶・蓮沼裕也 他. 重症熱傷患者と周囲環境における薬剤耐性Acinetobacter baumannii の検出. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山コンベンションセンター, 2011年11月. 口頭発表. ・岩下英夫・蓮沼裕也 他. 歯科診療ユニットと周辺設備の細菌学的における感染リスク. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山コンベンションセンター, 2011年11月. 口頭発表. ・浅井さとみ・蓮沼裕也 他. 多剤耐性緑膿菌の臨床分離株における分子機構の解析. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山コンベンションセンター, 2011年11月. 口頭発表. ・大島利夫・蓮沼裕也 他. 抗MRSA薬のMIC値測定における菌液調整と薬剤希釈濃度設定がおよぼす影響について. 第23回日本臨床微生物学会総会, パンフィコ横浜, 2012年1月. 口頭発表.					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Severe pneumonia caused by a novel influenza A (H1N1) virus in an asymptomatic emphysematous smoker.”	共著	2010年8月	Internal Medicine, 49	Hideki, O. Hasunuma, Y. et al	pp.1667-1670
「LAMP法による新型インフルエンザウイルス(A/H1N1 pdm)検出システムの基礎的性能評価」	共著・筆頭	2012年1月	日本臨床検査自動化学会誌, 37	蓮沼裕也、浅井さとみ 他	59-64頁

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(口頭発表)「LAMP法による新型インフルエンザウイルス(A/H1N1 pdm)検出の検討」	2010年10月	日本臨床検査自動化学会第42回大会, 神戸国際会議場	蓮沼裕也、大島利夫 他
(口頭発表)「喀痰の客観的品质評価とPCR法による抗酸菌DNA検査への影響」	2011年10月	日本臨床検査自動化学会第43回大会, パシフィコ横浜	蓮沼裕也、増川敦子 他

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本体力医学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会		
(社会における活動)		
市民マラソン大会における健康増進および救命活動	2011年1月～	NPO法人 ABC Rescue

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

飯田 行 恭 (いいた ゆきやす) 教授



出 生 年 : 1949(昭和24)年
 在 籍 籍 : 2002(平成14)年4月 ~
 最 終 学 歴 : 九州大学工学研究科応用物理課程修了
 学 位 位 : 医学博士
 学 位 論 文 : 一般化回帰分析を用いた検査値予知モデル
 専 門 分 野 : 医療情報学
 前 職 : NTTサイバースペース研究所画像情報処理研究グループ
 主幹研究員
 学 内 役 職 等 : 臨床工学科長(2010・2011)
 非 常 勤 講 師 : 東京医療保健大学
 受 賞 ・ 表 彰 : 逓信医学優秀論文発表者賞(1995)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)講義では、パワーポイント等のプレゼンテーションソフトを使い、アニメーション機能を多用して、直感的な理解できるよう工夫した。	2005年4月～	情報処理やシステム工学の授業では、処理の流れを理解させるのが難しい。そこでアニメーション機能を使って、ステップ毎に処理結果がどのように変わるかを示すことにした。子試みは、学生が直感的に処理の流れを把握するのに役立っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)上記の教育を行うため、教材は、受講者が各自Webのサイトから電子ファイルとしてダウンロードさせることにした。このことで紙資源の節約にも効果があった。	2005年4月～	教材のダウンロードは当初は、教員自身が自宅に立ち上げたサーバーで行うことにしたが、メンテ等に時間がかかるため、途中からMicrosoftが無料で提供するWeb上のストレージサービスSkydriveを利用した。このサービスより、各学生は、パスワードを入力することにより簡単に教材をダウンロードできる。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)MicrosoftやGoogleが提供しているネットサービスは教育に有用なツールとなるのがわかったので、その利用方法について2010年6月発行の桐蔭論叢に投稿した。	2007年4月～	巨大なネットセンターをネットで結び、データセンターに設置しているコンピュータの利用を行う、クラウドコンピューティングは、これからの教育に測り知れない影響力を持っている。今期間の検討では、クラウドサービスの1つであるWebストレージを教育に利用した。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
サーバーサイド技術ASP.NETによるe-Learning 遺伝統計ソフトにおけるアルゴリズムの改良					
2010年度の研究活動概略					
優れたプログラミング機能を持つ統計ソフトRを使い、健診データの解析を行っている。具体的には、Rに用意されている重回帰分析、ロジスティック回帰分析等の多変量解析パッケージを使用し、生活習慣6項目、家族の病歴5項目の計11項目のうち、高血圧、糖尿病の発症に影響を与える項目を定量的に評価している。 遺伝統計では、家系図の分析が非常に重要となる。現在、Excelを使い、家系図の表現と分析についてのソフトを開発している。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Application of Cloud Computing to Academic Education”	共著	2010年6月30日	桐蔭論叢第22号	Yasuhiro Iida and Yukiyasu Iida	pp.117-122

“Development of a simulation system for SLE disease model mice crossing experiment”	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢第24号	Nobutaka Kuwahara, Yasuhiro Iida, Hiroyuki Nishimura and Yukiyasu Iida	pp.159-163
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Improvement of the simulation program for the analysis of the mouse model of the autoimmune disease”	2010年11月6日	TOIN BME 2010(Toin University of Yokohama)	Nobutaka Kuwahara, Yasuhiro Iida, Hiroyuki Nishimura and Yukiyasu Iida		
「PIV及びバスキュラーアクセスエコーによる狭窄病変前後の血流状態の可視化とシャント血管雑音の関係」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、磯野裕佳、星野春奈、黒澤美緒、佐藤敏夫、 飯田行恭 、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利		
「センサ装着位置の影響を受けない吻合部動脈側血管雑音によるVA機能評価の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、 飯田行恭 、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利		
「PIVを用いた血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する実験的検証」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、頼住啓一、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、 飯田行恭 、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利		
「血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する有限要素法を用いた流れ解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	磯野裕佳、中根紀章、頼住啓一、星野春奈、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、 飯田行恭 、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利		
「自己血管内シャント狭窄下流におけるシャント音周波数特性の変化に対する流体-構造連成解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、中根紀章、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、 飯田行恭 、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克		
「嚙下音の評価による嚙下機能判定のための最適なセンサ装着方法の検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、高木雅代、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、 飯田行恭 、川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利		
「血管狭窄前後におけるシャント音の変化に対する実験的検証」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、 飯田行恭 、川島徳道、阿岸鉄三、春口洋昭、小見勝利		
「経時的かつ定量的なシャント音分析に基づくバスキュラーアクセスの非侵襲狭窄評価の検討」	2011年3月23日 (～25日)	日本医工学治療学会第29回学術大会 北海道大学学術交流会館	磯野裕佳、中根紀章、星野春奈、本橋由香、佐藤敏夫、 飯田行恭 、川島徳道、阿岸鉄三		

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
電子情報通信学会、医療情報学会、産業衛生学会、公衆衛生学会

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年 : 1959(昭和34)年
 在籍 : 1999(平成11)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : 光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野 : 信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職 : 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 受賞・表彰 : 電気学会論文発表賞(1992)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)moodleを用いた授業システム	2008年4月 ～2010年9月	プログラミング入門、等において、出欠管理、課題提出管理等をmoodleを用いて行った(導入・管理者は山口助教)。これにより、課題提出がインターネット経由で行えるようになり、課題の採点結果やコメントを速やかに学生に戻せるようになった。
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月	毎年新入生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理 物理	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理」、 「物理」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理 は静力学、物理 は電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。
実習 プログラミング	2010年9月	工学部の「プログラミング入門」および「プログラミング」の教科書であり、C言語の基礎からはじめ、C言語全体を一通り解説している。
コンピュータグラフィックス(講義資料)	2011年4月～7月	工学部の「コンピュータグラフィックス」のための資料として授業中に配布した。B5版74ページ。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「SNS利用におけるリテラシ教育」 山口大輔、片山富美代、佐野元昭、高橋宗雄 公益社団法人 私立大学情報教育協会 ICT利用による教育改善研究発表会	2011年8月10日	本学学生に対しTwitterやFacebookなどのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用について授業を行い、その結果をアンケートにより解析した。

研究活動

2010年度の研究活動概略
<p>植物の健康状態を、CCDカメラや遠赤外線カメラを使って、非侵襲かつリアルタイムに調べる方法の研究を行った。いまのところ実用段階には至っていないが、植物を育成するための負圧灌水システムを構築し、各種カメラを使って、生きた植物の画像を取り込み、同時に植物への給水量、日照、気温・湿度、土壌の水ポテンシャルなどのデータを記録できる、パソコン上で動作するシステムを作った。</p> <p>今後の展望としては、新規に導入したハイパースペクトルカメラを用いて、植物の健康状態を、色(反射スペクトル)から調べる方法の開発と、形状的な特徴から水ストレスを推定する方法を研究する予定である。また、グロースチャンバを導入したので、生育環境を制御しながら、植物の健康状態と水ストレスとの関係を調べて行く予定である。</p>

2011年度の研究活動概略					
ハイパースペクトルカメラを用いて、植物の水ストレス状態を、色(反射スペクトル)から調べる方法を検討していたが、このような分光学的な方法では、水ストレスを感度よく捉えることが難しいことが明らかになった。そこで新しい方法を模索したところ、葉の固有振動数の変化に着目した方法を見出し、葉の固有振動数を計測するためのレーザ変位計を用いたシステムを構築した。また、葉の質量を電子天秤で測ることにより葉の水分量を見積もった結果、葉の振動数が、葉の水分量の変化に対してほぼリニアに変化することが分かった。課題としては、まだ、切り取った葉によって基礎データを取っている段階なので、枝に付いたままの状態の葉について振動数を計測する方法を確立し、水ストレスと振動数変化との関係を明らかにすることである。また、非侵襲的な葉の水分量の計測として、葉の誘電率を計測する方法も検討しており、その準備を始めた。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「新・基礎 物理学」	共著	2010年12月25日	サイエンス社	永田一清、佐野元昭	
(学術論文)					
「就職活動のための情報収集における本学学生のインターネットとコミュニケーション・ツールの利用意識」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢第24巻	山口大輔、片山富美代、佐野元昭、高橋宗雄	217-222頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「SNS利用におけるリテラシー教育」	2010年8月10日	公益社団法人 私立大学情報教育協会「平成23年度ICT利用による教育改善研究発表会」(東京理科大学)	山口大輔、片山富美代、佐野元昭、高橋宗雄		
“Basic study of water distribution measurement in sand using sound vibration”	2011年4月12日	The 31st International Symposium on Acoustical Imaging, Warsaw	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, T. Shirakawa, M.Sano, M.Ohaba, S.Shibusawa		
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil Using a Sound Vibration, -Study on the propagation velocity and the volume water content-”	2011年7月5日	The 4th Asian Conference on Precision Agriculture, (ACPA2011), Tokachi Plaza, Obihiro City	Y.Nakagawa, T.Sugimoto, T. Shirakawa, M.Sano, M.Ohaba, S.Shibusawa		
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil Using a Sound Vibration, -Study on the propagation velocity and the volume water content-”	2011年9月6日	International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU2011), Institute of Experimental Physics University of Gdansk	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, T. Shirakawa, M.Sano, M.Ohaba, S.Shibusawa		
“Detection of a water shortage signal which appears in the leaf of a plant with a hyperspectral camera”	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama	H.Minami, T.Enomoto, T.Sugimoto, M.Sano		
(Poster)“Reading of the Barcode Using a Web Camera”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hideya FUKUMURA, Motoaki SANO		
(Poster)“Reading of an Analog Meter with a Web Camera”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hirokazu SANO, Motoaki SANO		
“Basic study on acoustic imaging of water distribution in the soil using propagation velocity of sound”	2011年11月10日	The 32nd Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2011), Kyoto Univ. Clock Tower Centennial Hall	Y.Nakagawa, T.Sugimoto, T. Shirakawa, M.Sano, S.Shibusawa, M.Ohaba		
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究、-水分分布の鉛直方向検出に関する研究」	2012年2月23日	アコースティック・イメージング研究会 GEヘルスケアジャパン(株) 日野本社5階会議室	中川裕、杉本恒美、白川貴志、佐野元昭、澁澤栄、大幅元吉		

「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究-地中刺突型音波伝播システムの構築-」	2012年3月13日	音響春季研究発表会 神奈川大学	白川貴志, 杉本恒美, 中川裕, 佐野元昭 , 大幅元吉, 澁澤栄
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究-SLDVを用いた水分リアルタイム計測に関する検討-」	2012年3月13日	音響春季研究発表会 神奈川大学	中川裕, 杉本恒美, 白川貴志, 佐野元昭 , 大幅元吉, 澁澤栄
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
戦略的創造推進事業(CREST)	2010年10月～2014年3月	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	
研究成果展開事業	2011年 8月～2012年3月	研究成果最適展開支援プログラム(A-Step)探索タイプ 独立行政法人科学技術振興機構(JST)	
(その他特記事項)			
「CREST研究テーマ採択」(2010年8月19日)杉本恒美・佐野元昭			
「JST(A-STEP) 探索タイプ採択」(2011年7月14日)			

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会

竹内真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年 : 1956(昭和31)年
 在籍 : 1994(平成6)年4月～
 最終学歴 : 武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究(修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging(博士)
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職 : (株)トキメック研究開発センター計測電子システム部副主事
 学内役職等 : 医用工学部臨床工学科長(2012)
 : 学務部副部長(2010・2011)
 資格 : 第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師 : 日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・看護学科、理学療法士学科、作業療法士学科
 受賞・表彰 : 第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびその装置)日本超音波医学会・超音波工学フェロー電子情報通信学会・シニア会員2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞2002年度材料技術研究協会技術賞2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
マイクロバブル・ナノバブルの最新技術 II「音響キャビテーションバブルを用いたナノダイヤモンド微粒子の凝集抑制技術」	共著	2010年5月	シーエムシー出版	竹内真一、内田武吉	応用編マイクロバブル 第2章-3
(総説・論説)					
「Ti製受音膜の裏面に水熱合成PZT多結晶膜を成膜した堅牢な耐音響キャビテーション・ハイドロホン」	共著	2011年9月	超音波TECHNO VOL.23 9-10月号	竹内真一、吉村一穂、川島徳道、内田武吉、吉岡正裕、菊池恒男、黒澤実	36-41頁
「Tiパイプを用いた水熱合成PZTキャビテーションセンサの有効性の評価」	共著	2012年1月	超音波TECHNO VOL.24 1-2月号	竹内真一、椎葉倫久、川島徳道、内田武吉、菊池恒男、黒澤実	63-71頁
(学術論文)					
「チタン製受音膜の裏面に水熱合成PTZ多結晶膜を成膜した耐音響キャビテーションハイドロホンの開発」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	竹内真一、吉村一穂、川島徳道、内田武吉、吉岡正裕、菊池恒男、黒澤実	107-113頁
“Development of Cavitation Sensor with Hydrothermally Synthesized PZT Poly-crystalline Film on Titanium Cylindrical Pipe”	共著	2011年6月15日	Reseach Bulletin No.24	Michihisa Shiiba, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi	pp.115-123

「集束超音波音場の焦点近傍における音響化学反応に関する基礎研究」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	渡邊晶子、村上拓郎、川島徳道、内田武吉、吉岡正裕、菊池恒男、 竹内真一	125-130頁
“Estimation of Cavitation Sensor with Hydrothermally Synthesized Lead Zirconate Titanate Film on Titanium Cylindrical Pipe : Spatial Distribution of Acoustic Cavitation Field and Basic Characteristics of Cavitation Sensor”	共著	2011年7月	Japanese Journal of applied physics, vol. 50, no. 7 issue 2 of 2	Michihisa Shiiba, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi	pp. 07HE02-1-07HE02-5
“Development of Tough Anti Cavitation Hydrophone by Deposition of Hydrothermally Synthesized Lead Zirconate Titanate Poly-Crystalline Film on Reverse Surface of Titanium Front Layer”	共著	2011年9月	AIP Conference Proceedings (accepted)	Shinichi Takeuchi , Mutsuo Ishikawa, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka, Tsuneo Kikuchi, Nagaya Okada and Minoru Kuribayashi Kurosawa	pp.663-666
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
“Development of strong hydrophone with hydrothermally synthesized PZT polycrystalline film for high intensity ultrasound by HIFU device or ultrasound cleaner”		2010年4月15日	10th Annual ultrasonic transducer conference in Omini Hotel at California Plaza Los Angeles, CA	S. Takeuchi , K.Yoshimura, N. Kawashima, T. Uchida, M. Yoshioka, T. Kikuchi and M. Kurosawa	
“Deposition of Nb-doped Pb(Zr Ti)O ₃ films by hydrothermal method and their electromechanical properties”		2010年4月15日	10th Annual ultrasonic transducer conference in Omini Hotel at California Plaza Los Angeles, CA	M. Ishikawa, H.R. Chabok, X. Li, R. Chen, S. Takeuchi , M. Kurosawa, H. Funakubo, Q. Zhou, K. K. Shung and F.T. Djuth	
“Deposition of Nb-doped Pb(Zr Ti)O ₃ films by hydrothermal method for high frequency ultrasonic transducer”		2010年5月	Naval workshop at Pennsylvania State University, PA	M. Ishikawa, T. Hasegawa, H.R. Chabok, S. Lau, X. Li, R. Chen, S. Takeuchi , M. Kurosawa, H. Funakubo, Q. Zhou, K. K. Shung and F.T. Djuth	
「水熱合成PZTキャビテーションセンサを用いたキャビテーション音場測定の基礎検討」		2010年5月	日本超音波医学会第83回学術集会講演抄録集p.469	椎葉倫久、川島徳道、黒澤実、 竹内真一	
「Tiパイプ外周面に水熱合成PZTを成膜したキャビテーションセンサによるキャビテーションの空間分布測定の基礎検討」		2010年9月	2010年日本音響学会秋季研究発表会	椎葉倫久、川島徳道、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、 竹内真一	
「Tiパイプ外周面に水熱合成PZT多結晶膜を成膜したキャビテーションセンサの基本特性の評価」		2010年9月	2010年日本音響学会秋季研究発表会	椎葉倫久、川島徳道、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、 竹内真一	
「Ti製受音膜の裏面に水熱合成PZT多結晶膜を成膜した耐音響キャビテーションハイドロホンの等価回路シミュレーションによる設計」		2010年9月	2010年日本音響学会秋季研究発表会	竹内真一 、川島徳道、内田武吉、菊池恒男、黒澤実	
“Deposition of Nb-doped lead zirconatetitanate films by hydrothermal method and their electrical properties”		2010年10月13日	2010 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2010) in San Diego, California, USA	Mutsuo Ishikawa, Hamid Reza Chabok, Takeshi Morita, Shinichi Takeuchi , Minoru Kurosawa, Hiroshi Funakubo, Frank Djuth, Qifa Zhou, Kirk Shung	
“Hydrophone with hydrothermally deposited lead zirconate titanate poly-crystalline film on titanium film as acoustic receiving surface for estimation of high power acoustic field by HIFU”		2010年10月13日	2010 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2010) in San Diego, California, USA	Shinichi Takeuchi , Kazuho Yoshimura, Hitomi Yagi, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka, Tsuneo Kikuchi, Tetsuji Okuno, Minoru Kurosawa	

“Study of Measurement of the Amount of Generated Acoustic Cavitation : Relationships among Broadband Integrated Voltage, Dissolved Oxygen, and Sonochemical Luminescence”	2010年10月14日	2010 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2010) in San Diego, California, USA	Takeyoshi Uchida, Shinichi Takeuchi , Tsuneo Kikuchi
“Fundamental investigation of novel sonoreactor with 16 piezoelectric elements - Estimation of reaction field with sono-chemical luminescence -”	2010年10月14日	2010 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2010) in San Diego, California, USA	Shinichi Takeuchi , Hidenobu Sato, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Yoshiyuki Asakura, Nagaya Okada
“Cavitation Sensor with hydrothermally synthesized lead zirconate titanate polycrystalline film deposited on Ti cylindrical hollow pipe”	2011年10月19日	2011 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2011) in Orlando, Florida, USA	Shinichi Takeuchi , Michihisa Shiiba, Mutsuo Ishikawa, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi and Minoru Kurosawa
“Measurement of sound field with acoustic cavitation by using cavitation sensor with hydrothermally synthesized PZT”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Michihisa SHIIBA, Norimichi KAWASHIMA, Takeyoshi UCHIDA, Tsuneo KIKUCHI, Minoru KUROSAWA, Shinichi TAKEUCHI
“Measurement for sonochemical reaction near focal point in 1.6MHz focused ultrasound field -Relationships between ultrasound duty cycles and production of active oxygen-”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Akiko WATANABE, Takurou N.MURAKAMI, Norimichi KAWASHIMA, Shinichi TAKEUCHI , Takeyoshi UCHIDA, Masahiro YOSHIOKA, Tsuneo KIKUCHI
「水熱合成法を用いてチタン円筒外側面にPZT多結晶膜を成膜した堅牢なキャビテーションセンサの試作および評価」	2010年10月	日本超音波医学会関東甲信越地方会第22回学術集会抄録集p.140	椎葉倫久, 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「ソノリアクタ内のキャビテーションの空間分布測定 チタンパイプおよび水熱合成PZT膜を用いたキャビテーションセンサによる測定」	2010年10月	2010年ソノケミストリー討論会	椎葉倫久, 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「水熱合成PZT多結晶膜を用いたキャビテーションセンサの基本特性の検討」	2011年3月	電子情報通信学会2011年総合大会	椎葉倫久, 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「耐音響キャビテーションハイドロホンの等価回路シミュレーションによる基礎研究」	2011年5月	日本超音波医学会第84回学術集会	竹内真一 , 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実
「Ti パイプの外側面に水熱合成PZT多結晶膜を成膜したキャビテーションセンサの基本特性」	2011年5月	日本超音波医学会第84回学術集会	椎葉倫久, 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「MHz 帯超音波音場の焦点近傍における音響化学反応の測定に関する基礎研究」	2011年5月24日	電子情報通信学会・日本音響学会共催 超音波研究会(機械振興会館)、信学技法、US2011-11	渡邊晶子、村上拓郎、川島徳道、内田武吉、吉岡正裕、菊池恒男、 竹内真一
“Design of anti cavitation hydrophone by deposition of hydrothermally synthesized lead zirconate titanate polycrystalline film on reverse surface of titanium film front layer”	2011年10月19日	2011 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2011) in Orlando, Florida, USA	Shinichi Takeuchi , Mutsuo Ishikawa, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka, Tsuneo Kikuchi, Nagaya Okada, Minoru Kurosawa
“Cavitation sensor with hydrothermally synthesized lead zirconate titanate polycrystalline film on titanium cylindrical pipe: Estimation of acoustic cavitation field and basic characteristics of cavitation sensor”	2011年9月	International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU 2011) in Gdansk, Poland	Michihisa Shiiba, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Mutsuo Ishikawa, Norimichi Kawashima, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
“Development of Tough Anti Cavitation Hydrophone by Deposition of Hydrothermally Synthesized Lead Zirconate Titanate Polycrystalline Film on Reverse Surface of Titanium Front Layer”	2011年9月	International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU 2011) in Gdansk, Poland	Shinichi Takeuchi , Mutsuo Ishikawa, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka, Tsuneo Kikuchi, Nagaya Okada and Minoru Kuribayashi Kurosawa

“A study on measurement technique for amount of generated acoustic cavitation – investigation of broadband integrated voltage by comparing with sound pressure and sonochemical luminescence”	2011年9月	International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU 2011) in Gdansk, Poland	Takeyoshi Uchida, Shinichi Takeuchi , Tsuneo Kikuchi
「水熱合成PZT膜を用いた円筒形キャビテーションセンサの投入が音響化学反応場に及ぼす影響」	2011年9月	2011年日本音響学会秋季研究発表会	椎葉倫久, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 石河睦生, 川島徳道, 竹内真一
「円筒形キャビテーションセンサがキャビテーションの発生する音場に及ぼす影響」	2011年10月	日本超音波医学会関東甲信越地方会第23回学術集会	椎葉倫久, 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「円筒形キャビテーションセンサがキャビテーションの発生する音場に及ぼす影響」	2011年10月	日本超音波医学会関東甲信越地方会第23回学術集会	椎葉倫久, 川島徳道, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
“Basic research on development of cells for measurement of sonochemical reaction in focused ultrasound field”	2011年11月	The 32nd Symposium on Ultrasonic Electronics in Kyoto	Akiko Watanabe, Takuro N. Murakami, Norimichi Kawashima, Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka, Tsuneo Kikuchi and Shinichi Takeuchi
“A study on spatial distribution of cavitation generation by using cavitation sensor”	2011年11月	The 32nd Symposium on Ultrasonic Electronics in Kyoto	T. Uchida, H. Sato, S. Takeuchi and T. Kikuchi
「サイドホール型ダブルレーメンカテーテル(DLC)の再循環に関するCFD解析」	2011年11月25日 (~27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一, 石垣秀記, 黒澤美緒, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 川島徳道, 阿岸鉄三, 増田俊輔, 宗像佳克
「バルーン付きダブルレーメンカテーテル(DLC)のバルーンによる流れへの影響に関する理論解析」	2011年11月25日 (~27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一, 石垣秀記, 黒澤美緒, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 川島徳道, 阿岸鉄三, 増田俊輔, 宗像佳克
「人工心肺回路の模擬脱血カニューレ先端部に生じるキャビテーション検出の試み」	2011年11月25日 (~27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	春原冨香, 黒澤美緒, 平田和也, 本橋由香, 佐藤敏夫, 椎葉倫久, 竹内真一 , 川島徳道, 百瀬直樹
「人工心肺回路の不連続面で発生するキャビテーション検出に関する基礎検討」	2011年11月9日 (~11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	春原冨香, 黒澤美緒, 椎葉倫久, 本橋由香, 竹内真一 , 佐藤敏夫, 川島徳道
「人工心肺回路の不連続断面で発生するキャビテーションに関する流れ解析」	2011年11月9日 (~11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	丸下洋一, 黒澤美緒, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 川島徳道, 増田俊輔, 宗像佳克
“Development of cells for measurement of sonochemical reaction in 1.6 MHz focused ultrasound field”	2011年11月5日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Akiko Watanabe, Takuro N. Murakami, Norimichi Kawashima, Shinichi Takeuchi , Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka and Tsuneo Kikuchi
“Estimation of acoustic cavitation field by using cavitation sensor with hydrothermally synthesized lead zirconate titanate polycrystalline film on titanium cylindrical pipe”	2011年11月5日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Michihisa Shiiba, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Mutsuo Ishikawa, Norimichi Kawashima, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
“Deposition of high frequency ultrasonic transducer and their application”	2011年11月5日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Mutsuo Ishikawa, Shinichi Takeuchi , Minoru Kurosawa, Hiroshi Funakubo, Qifa Zhou and Kirk Koping Shung
“Time-frequency analysis of shunt murmur frequency characteristics downstream from stenosis and flow analysis using the finite element method”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuka Isono, Noriaki Nakane, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi , Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Yoshikatsu Munakata, Katsutoshi Omi
“A basic investigation of cavitation generated inside cardiopulmonary bypass circuits”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Saeka Sunohara, Kazuya Hirata, Michihisa Shiiba, Mio Kurosawa, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi , Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi

その他		
(産学協同研究)		
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称
「低強度超音波照射の細胞挙動への影響の研究」		日本シグマックス株式会社
「水熱合成法を用いた圧電振動子の研究」		上田日本無線株式会社
「水熱合成法によるハイドロホンの開発」		本多電子株式会社
「高出力超音波音場計測とその応用に関する研究」		独立行政法人産業技術総合研究所
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
10th Annual ultrasonic transducer conference in Omini Hotel at California Plaza Los Angeles, CA	2010年4月13日～16日	USA
2010 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2010) in San Diego, California, USA	2010年10月14日	USA
International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU 2011) in Gdansk, Poland	2011年9月5日～8日	Poland
2011 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2011) in Orlando, Florida, USA	2011年10月18日～21日	USA

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年05月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員(基礎領域・領域責任者)
2008年04月～現在	電子情報通信学会誌・Fundamentals Review誌・編集委員
2008年05月～現在	日本超音波医学会・Scientific Advisory Board委員
2008年05月～現在	日本音響学会・超音波研究会・幹事補佐および幹事
2008年05月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員
2008年11月～現在	超音波シンポジウム運営委員会委員
2009年04月～現在	電子情報通信学会・総合大会・プログラム編集委員
2009年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2009年05月～現在	日本音響学会編集委員会(論文部会)委員
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー
2009年07月～現在	電子情報通信学会・基礎境界サイエティ大会・プログラム編集委員
2009年08月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域責任者)
2010年04月～現在	日本超音波医学会・代議員

Alberlto Palacios Pawlovsky (アルベルト・パラスィオス・パウヴロスキ) 教授



出生年 : 1955(昭和30)年
 在籍 : 1994(平成6)年4月～
 最終学歴 : 長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位 : 工学博士
 学位論文 : レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野 : (情報処理工学)最適化アルゴリズム、(電子工学)携帯医療機器のハードとソフト
 前職 : 株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等 : 精密加工センター長(2012)
 ロボット工学科長、精密加工センター長(2010・2011)
 資格 : アマチュア無線技士(電話級)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の現在全担当科目用のホームページを作成し、一部の授業の講義内容をそのページで公開	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://ajape.org/
(2)本学園の高校の「課題研究」の指導教員	2000年～2010年	2010年度は、女子部の「暗号」のテーマについて指導を行った

研究活動

2010年度の研究活動概略					
論理回路の消費電力の見積もり方法 最適化アルゴリズムの応用 生体認証(打鍵認証) 自己同期システムの設計方法、検査および検証 耐故障化設計 超高速デジタル回路の設計					
2011年度の研究活動概略					
免疫アルゴリズムの実現ができて、その応用の論文も受理され、口頭発表もできた。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Key-typing Biometrics Using Japanese Input Method Characteristics”	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	Kunimi Hirano, Alberto Palacios Pawlovsky	pp.123-128
“A Study on the Effect of the Cooling Scheme in a SA-EA Hybrid Algorithm”	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	Alberto Palacios Pawlovsky and Shigeru Takada	pp.197-205

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(Poster)“A Study on Thought Pattern Analysis Using the Rock Paper Scissor Game”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Tatsuya MARUYAMA and Alberto Palacios Pawlovsky
(Poster)“A Hybrid Implementation of a Genetic Algorithm and Simulated Annealing (GA-SA) for Searching for the Pairs of Inputs that Activates the Maximum Number of Gates in a Combinational Circuit”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Akiko MIYASHITA and Alberto Palacios Pawlovsky
(Poster)“On the Application of an Evolutionary Algorithm for Searching of the Input Pair that Activates the Maximum Number of Switching Gates in a Combinational Circuit”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Shigeru TADAKA and Alberto Palacios Pawlovsky
“A Genetic Algorithm and Simulated Annealing (GA-SA) Algorithm for Searching for the Pair of Inputs that Cause the Maximum Number of Switching Gates in a Combinational Circuit”	2011年2月23日	Iberchip XVII Workshop (IWS'2011), Colombia, Bogota	Akiko Miyashita and Alberto Palacios Pawlovsky
“On The Application of an Immune Algorithm (IA) for Searching The Pair of Inputs That Activates The Largest Number of Gates in a Combinational Circuit”	2011年6月20日	International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC2011), Gyeongju, Korea.	Hirohito Tochinai and Alberto Palacios Pawlovsky
(Poster)“Research on a Prototype of a Manipulator for Use in Medicine”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Takahiro Ishikawa and Alberto Palacios Pawlovsky
(Poster)“Research on Ways to Improve an Immune Algorithm (IA) for Searching”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Tatsuya Maruyama and Alberto Palacios Pawlovsky
“A Study of Methods to Improve an Immune Algorithm for Searching the Pair of Inputs that Causes the Maximum Number of Switching Gates in a Combinational Circuit”	2012年2月29日	Iberchip XVIII (2012) Mexico, Quintana Roo, Playa del Carmen	Tatsuya Maruyama and Alberto Palacios Pawlovsky

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
NPOの日本・ペルー共生協会	2002年から現在まで	理事長

阿部 憲二 (あべ けんじ) 准教授



出生年 : 1964(昭和39)年
 在籍 : 2002(平成14)年9月～
 最終学歴 : サンフランシスコ大学教育学部博士課程国際化に伴う社会教育学科修了
 学位 : 教育学博士(Ed.D.)
 学位論文 : Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野 : 国際化に伴う社会教育・日米の社会病理
 前職 : 北カリフォルニア大学助教授・マリノ郡短期大学講師
 留学 : アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
 サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、
 博士:2000.1～2001.12)
 資格 : 上級心理カウンセラー、英検1級
 中学1級・高校2級教員免許

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コミュニケーション上達のための独自テキスト使用	2005年4月～	英語コミュニケーション(I～IV)に関しては、すべて自作のテキストを使用し、話す・聴く・渡米実践編(下・上)と学生たちに必要とされるであろう前半を攻略する独自のシステムを確立し、授業アンケートでも上位に評価され、医用工学部長からも認められる。
米国のESL教授法に則った最先端の英語教授法を展開	2005年4月～	英語III・IVに関しては、学生たちが専門研究に進んだ場合に必要となる英語論文及び国際学会に対応することを想定した実践を最重視した独自の授業を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「英会話攻略はこれしかない」(洋泉社)を副読本として使用	2005年4月～	初級レベルからネイティブレベルに到達するまでの英会話上達の5ステップを具体的に説明。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
米国ソラノ刑務所視察	2011年3月	
プリズン・フェローシップ・インターナショナル(PFI)国際会議へ日本代表として参加(トロント)	2011年6月	

研究活動

2010年度の研究活動概略			
日米の刑務所視察及び実際に凶悪な犯罪を犯した者達とのやり取りを通し、反社会性の原因を追究し、より安全・健全な社会の在り方を提言した。			
2011年度の研究活動概略			
受験英語と実用英語の学校教育における融合 山形県三川町教育委員会			
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
(ゲストスピーカー) 「小学校外国語活動に関するシンポジウム」	2011年8月5日	山形県三川町教育委員会	なの花 大ホール

学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年4月～現在	日本私学協会教員免許講習講師
2009年8月～現在	PFI Japan(国際矯正施設支援連盟 日本支部)相談役
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員

佐藤 敏夫 (さとう としお) 准教授



出生年 : 1961 (昭和36) 年
 在籍 : 1997 (平成9) 年12月 ~
 最終学歴 : 慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位 : 博士 (医学)、博士 (工学)
 学位論文 : Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs (医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究 (工学博士論文)
 専門分野 : 医用生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職 : (株)東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等 : 教務委員、キャリア情報センター委員 (2012)
 資格 : 第2種ME技術実力検定試験合格、第1種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師 : 千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 受賞・表彰 : 科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞 (1992)
 2002年度材料技術研究協会討論会技術賞
 2003年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞
 2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞

研究活動

2010年度の研究活動概略					
生体雑音の時間-周波数解析による生体の機能評価 有限要素法 (FEM) を用いた各種医療機器内の血液流れ解析					
2011年度の研究活動概略					
従来より実施している「生体雑音の時間-周波数解析による生体の機能評価」、「有限要素法 (FEM) を用いた各種医療機器内の血液流れ解析」に加え「冠動脈狭窄治療の指標に関する実験的評価」など臨床工学分野の多岐にわたる研究テーマを展開している。これらの研究成果は、国内外の学会 (米人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会) で発表し、医療従事者から高い評価を得ている。今後も医療技術の発展に貢献できる計測・診断技術の開発と実用化を目指した研究に従事する予定である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
嚙下音の時間-周波数解析を利用した非侵襲嚙下機能評価の試み (学術論文)	共著	2011年3月1日	医工学治療 Vol.23 No.1	佐藤敏夫、阿岸鉄三	49-52頁
「高齢維持透析患者人口は一般人口より長生きする？」	共著	2010年4月30日	日本透析医会雑誌第25-1号	阿岸鉄三、佐藤敏夫、本橋由香	123-126頁
ダブルルーメンカテーテルの最適設計に関するCAEの手法の導入	共著	2012年6月1日	桐蔭論叢 第26号	丸下洋一、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三	5-14頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「シャント音画像間の正規化相互相関係数の導出による定量的経時変化モニタリング」	2010年4月2日 ~ 4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	本橋由香、村上彩子、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利		

「嚙下音の時間 - 周波数解析を利用した非侵襲嚙下機能評価の試み」	2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26 回学術大会 (都市センターホテル)	佐藤敏夫、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利
「擬似血管狭窄モデルを流れる拍動流の流れ解析に対する流体抵抗モデルの検討」	2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26 回学術大会 (都市センターホテル)	磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「動脈硬化と血液透析中の血圧低下の関連性に対する多変量解析による検討」	2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26 回学術大会 (都市センターホテル)	本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、小島久、吉川学、東ヶ崎明子、阿岸鉄三
「超音波伝搬減衰の変化を利用した血液回路凝固の専用モニタリング」	2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26 回学術大会 (都市センターホテル)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「ミニサーキットに対する血流シミュレーションによる血液滞留の分析」	2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26 回学術大会 (都市センターホテル)	佐藤敏夫、小早川恵子、磯野裕佳、本橋由香、川島徳道、増田俊輔、宗像佳克、中根紀章、山田拓哉、神谷勝弘
「気管内吸引音の時間 - 周波数解析に基づいた吸引効果定量化の試み」	2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26 回学術大会 (都市センターホテル)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、金田恵子、阿岸鉄三、小見勝利
「電子聴診器で収集したシャント雑音データの変換によるバスキュラーアクセス機能評価」	2010年5月13日 ～15日	第85回日本医療機器学会大会(福岡国際会議場)	佐藤敏夫、本橋由香、角川佐保子、村上彩子、川島徳道、阿岸鉄三、澁谷有美、高木絵美子、星野敏久、小見勝利
「効率的な機器運用のための医療機器使用予測」	2010年5月22日 ～23日	第20会日本臨床工学会 (パンフィコ横浜)	里野剛之、梅澤東光、加納敬、佐藤敏夫、川島徳道
「医療機器の使用手法と内蔵バッテリー性能低下の関係」	2010年5月22日 ～23日	第20会日本臨床工学会 (パンフィコ横浜)	加納敬、梅澤東光、里野剛之、佐藤敏夫、川島徳道
「シリンジポンプのサイフォニング現象が起こる条件」	2010年5月22日 ～23日	第20会日本臨床工学会 (パンフィコ横浜)	梅澤東光、加納敬、里野剛之、佐藤敏夫、川島徳道
“ANALYSIS OF PULSATILE FLOW IN A QUASI-ANGIOSTENOSIS MODEL USING THE FINITE ELEMENT METHOD”	2010年5月25日 ～29日	American Society for Artificial Internal Organs, Baltimore Maryland	Naoki Katsura, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Katsuyoshi Munakata, Noriaki Nakane
「多変量解析による動脈硬化症と血液透析中の血圧低下に対する基礎検討」	2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、小島久、吉川学、東ヶ崎明子、阿岸鉄三
「シャント雑音発赤メカニズム検討のための有限要素法による流れ - 構造連成解析」	2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、桂尚樹、磯野裕佳、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「有限要素法の流れ解析によるシャント雑音発生メカニズム検討のための流体抵抗モデルの導入」	2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「嚙下障害を有する血液透析患者の嚙下音に対する時間 - 周波数解析を用いた非侵襲スクリーニング検査」	2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利
「吸引音の時間 - 周波数解析に基づいた気管内吸引を必要とする血液透析患者の吸引効果判定」	2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、金田恵子、阿岸鉄三、小見勝利
「超音波センサを用いた血液回路内凝固の専用のモニタリング」	2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、村上彩子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「吸引シミュレータを用いた吸引前後の模擬呼吸音の比較による定量的吸引効果判定の試み」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「嚙下時の2方向ビデオ画像と嚙下音の同期解析による嚙下機能の定量的評価」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「人工血管静脈側吻合部における狭窄率の変化に対する有限要素法による流体 - 構造連成解析」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、宗像佳克、中根紀章

「シャント音の正規化相互相関係数算出に対する自動波形検出アルゴリズムの検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香、角川佐保子、 佐藤敏夫 、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「体外循環に使用するミニサーキットの最適形状に対する血流シミュレーション」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 、小早川恵子、丸下洋一、本橋由香、川島徳道、増田俊輔、中根紀章、宗像佳克、山田拓哉、神谷勝弘
「血液透析中の回路内血液流動状態に対する光センサを用いた連続的モニタリング」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 、春原冨香、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「超音波センサを利用した血液透析回路内凝固に対するモニタリング方法の検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 、水嶋洋佑、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「有限要素法による長期留置型ダブルルーメンカテーテルの流れ解析に関する基礎検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 、香取優美、丸下洋一、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「血液透析中の徐水に伴うプラズマフィリングレートの推定」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 、徳岡龍之介、本橋由香、川島徳道、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三
「模擬透析による血液透析用ダブルルーメンカテーテルの再循環率に関する検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫 、石垣秀記、丸下洋一、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
“Quantitative evaluation of swallowing function by synchronous analysis of bidirectional video images and swallowing sounds”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kanako Niizuma, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Kenou Takeshi, Katsutoshi Omi
“Evaluation of recirculation rate according to flow change in reverse connection of double lumen catheter for hemodialysis”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki, Yumi Katori, Norimichi Kawashima, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Fluid-structure interaction analysis of stenosis inAVG anastomosis using a finite-element method”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Yuka Isono, Naoki Katsura, Yuka Motohashi, Mio Kurosawa, Norimichi Kawashima, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi, Yoshikatsu Munakata, Noriaki Nakane
“Study of the effective utilization of custom-built, medical device management software”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of	Takeshi Satono, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Norimichi Kawashima
「吸引音及び吸引前後の呼吸音の時間-周波数解析を利用した吸引効果判定の試み」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	新妻可奈子、本橋由香、 佐藤敏夫 、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「外的要因による人工呼吸器回路内の温度変化と対策」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	加納敬、梅沢東光、梶川友学、里野剛之、 佐藤敏夫
「自動波形検出アルゴリズムを用いたシャント音の正規化相互相関係数算出によるVA機能の定量化」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	本橋由香、角川佐保子、 佐藤敏夫 、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「嚥下音及び喉表面の運動を撮影したビデオ画像を用いた嚥下機能の非侵襲的評価」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	新妻可奈子、本橋由香、 佐藤敏夫 、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「効率的な機器運用のための医療機器使用予測」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	里野剛之、梶川友学、梅沢東光、加納敬、本橋由香、 佐藤敏夫 、川島徳道
「ミニサーキット最適化のためのFEMとPIVによる基礎検討」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	丸下洋一、小早川恵子、本橋由香、 佐藤敏夫 、川島徳道、山田拓哉、神谷勝弘、増田俊輔、中根紀章、宗像佳克
「模擬透析を用いたDLCの再循環率に関する検討と有限要素法(FEM)によるDLC先端の流れ解析」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	石垣秀記、丸下洋一、香取優美、本橋由香、 佐藤敏夫 、川島徳道、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「流体抵抗を用いたAVG吻合部の狭窄に対する有限要素法による流体-構造連成解析」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、 佐藤敏夫 、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克

「光-超音波複合センサによる血液回路内凝固の専属的及び早期検出可能性に関する検討」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	佐藤敏夫、春原冴香、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「Double Lumen Catheter(DLC)の順接続・逆接続の定量的解析」	2011年3月5日	第16回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会津田ホール	阿岸鉄三、吉川 学、東ヶ崎明子、小島 久、金岡文志、石垣秀記、丸下洋一、香取優美、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道
「血液透析用バルーン付きダブルルーメンカテーテルの再循環に関するCFD解析」	2011年3月23日 (~25日)	日本医工学治療学会第28回学術大会 北海道大学学術交流会館	丸下洋一、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンバの血液流入部および濾過網部の流れ解析」	2011年3月23日 (~25日)	日本医工学治療学会第28回学術大会 北海道大学学術交流会館	山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「経時的かつ定量的なシャント音分析に基づくバスキュラーアクセスの非侵襲狭窄評価の検討」	2011年3月23日 (~25日)	日本医工学治療学会第29回学術大会 北海道大学学術交流会館	磯野裕佳、中根紀章、星野春奈、本橋由香、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三
「逆接続での使用も考慮したダブルルーメンカテーテルの脱血-送血孔間距離に関する検討」	2011年3月23日 (~25日)	日本医工学治療学会第30回学術大会 北海道大学学術交流会館	石垣秀記、丸下洋一、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「冠動脈内圧測定による狭窄病変評価法に関するCFD解析」	2011年3月23日 (~25日)	日本医工学治療学会第31回学術大会 北海道大学学術交流会館	春原冴香、丸下洋一、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、大塚雅人、鶴見由起夫、木原 昭
「嚙下音の時間-周波数解析による無侵襲嚙下機能モニタリングをそれを応用した気管内吸引効果判定」	2011年4月22日 ~24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	本橋由香、新妻可奈子、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテル先端の血流シミュレーションと流れの可視化」	2011年4月22日 ~24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、中根紀章、増田俊輔、宗像佳克
「ダブルルーメンカテーテルの再循環に関する模擬透析システムによる実験的検討」	2011年4月22日 ~24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	石垣秀記、黒澤美緒、丸下洋一、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「透析回路内凝固の検出を目的とした超音波-光複合センサの検討」	2011年4月22日 ~24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	佐藤敏夫、新妻可奈子、水嶋洋佑、春原冴香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
“Automatically analyzing shunt murmurs using wavelet transform as a new method for evaluating vascular access function”	2011年6月10日 ~12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yuka Motohashi, Mio Kurosawa, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Katsutoshi Omi, Kenou Takeshi
“A study on blood recirculation of double-lumen catheters using computational fluid dynamics”	2011年6月10日 ~12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yoichi Marushita, Mio Kurosawa, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Shunsuke Masuda, Yoshikatsu Munakata
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーン注入量と再循環の定量的評価」	2011年6月17日 ~19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	黒澤美緒、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)逆接続時の再循環に関する流れ解析」	2011年6月17日 ~19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の下流側圧力が再循環率に与える影響」	2011年6月17日 ~19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三
「PTA前後の動脈血管雑音の時間-周波数解析によるVA機能評価の試み」	2011年6月17日 ~19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、土田智子、春口洋昭、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「シャント音自動波形検出アルゴリズムを用いたVA機能の自動的定量評価の試み」	2011年6月17日 ~19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、星野春奈、角川佐保子、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利

「血液回路内凝固の早期かつ専属的検出を目的とした赤外線センサに関する検討」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、春原牙香、 本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、 阿岸鉄三
「超音波センサ受信波振幅の経時変化モニタリングによる血液回路内凝固の専属的検出の可能性」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、水嶋洋佑、 黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、 阿岸鉄三
「クリットラインモニター(CLM)から得られるBV%とPRRの特徴的な経時変化に関する検討」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、 川島徳道、吉川学、金岡文志、阿 岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環発生時における血液流れの空間的かつ定量的流速分布測定」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、磯野裕佳、頼住啓一、 黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、 吉川学、阿岸鉄三
“Investigation of recirculation ratio of hemodialysis double-lumen catheters”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki, Keiichi Yorizumi, Mio Kurosawa, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi
“Time-frequency analysis of shunt murmur frequency characteristics downstream from stenosis and flow analysis using the finite element method”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuka Isono, Noriaki Nakane, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Shinichi Takeuchi, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Yoshikatsu Munakata Katsutoshi Omi
“A basic investigation of recirculation with balloon double-lumen catheters”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita, Hideki Ishigaki, Mio Kurosawa, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Shunsuke Masuda, Yoshikatsu Munakata
“A basic investigation of cavitation generated inside cardiopulmonary bypass circuits”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Saeka Sunohara, Kazuya Hirata, Michihisa Shiba, Mio Kurosawa, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Shinichi Takeuchi, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi
“Investigation of the use of PIV to visualize flow within different types of venous air trap chamber and factors inducing clotting within blood circuits”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi, Keiichi Yorizumi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi
「血液透析用バルーン付ダブルルーメンカテーテルに対する有限要素法による流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、 川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、 宗像佳克
「人工心肺回路の不連続面で発生するキャピテーション検出に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	春原牙香、黒澤美緒、椎葉倫久、 本橋由香、竹内真一、佐藤敏夫、 川島徳道
「自己血管内シャント狭窄下流におけるシャント音周波数特性の変化に対する流体-構造連成解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、中根紀章、本橋由香、 黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、 飯田行恭、阿岸鉄三、増田俊輔、 宗像佳克
「嚙下音の評価による嚙下機能判定のための最適なセンサ装着方法の検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、高木雅代、本橋由香、 黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、 川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテルの再循環率の脱送血孔間距離に関する実験的検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	石垣秀記、頼住啓一、黒澤美緒、 本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、 阿岸鉄三
「粒子画像流速計(PIV)による血液回路内ドリップチャンバ部の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本 橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿 岸鉄三
「人工心肺回路の不連続断面で発生するキャピテーションに関する流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、黒澤美緒、本橋由香、 佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、 増田俊輔、宗像佳克

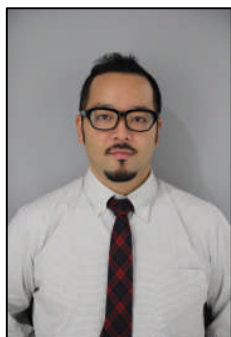
「粒子画像流速計(PIV)を用いたダブルルーメンカテーテル(DLC)先端付近の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、頼住啓一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「血液透析中の回路内血液凝固の連続的モニタリングを目的とした光センサの基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、井上雅結、春原冴香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血液回路内凝固の早期検出用超音波センサの作製と性能評価」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、田宮海貴、春原冴香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血管狭窄前後におけるシャント音の変化に対する実験的検証」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、春口洋昭、小見勝利
「人工心肺回路内キャビテーション発生条件に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	黒澤美緒、平田和也、春原冴香、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンパ内の流れの可視化と回路内凝固発生要因の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の脱血・送血孔間距離と再循環に関する実験的検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	石垣秀記、丸下洋一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「サイドホール型ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環に関するCFD解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーンによる流れへの影響に関する理論解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「PIV及びバスキュラーアクセスエコーによる狭窄病変前後の血流状態の可視化とシャント血管雑音の関係」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、磯野裕佳、星野春奈、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「センサ装着位置の影響を受けない吻合部動脈側血管雑音によるVA機能評価の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「人工心肺回路の模擬脱血カニューレ先端部に生じるキャビテーション検出の試み」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	春原冴香、黒澤美緒、平田和也、本橋由香、佐藤敏夫、椎葉倫久、竹内真一、川島徳道、百瀬直樹
「PIVを用いた血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する実験的検証」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、頼住啓一、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する有限要素法を用いた流れ解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	磯野裕佳、中根紀章、頼住啓一、星野春奈、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
シャント状態検知装置	2011年11月2日	特許2008-109035	学校法人 桐蔭学園 中央電子株式会社
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
平成23年度ものづくり技術交流会 ポスター賞	2011年12月22日	平成23年度ものづくり技術交流会	石垣秀記、佐藤敏夫

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
ASAIO 56th annual conference	2010年5月25日～29日	Baltimore(米国)
ASAIO 57th annual conference	2011年6月10日～12日	Washington DC(米国)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「血液浄化療法に用いられるダブルルーメンカテーテルのANSYS CFXによる流れ解析」	2011年10月1日	CAEのあるものづくり(サイバネットシステム株式会社) 丸下洋一、佐藤敏夫 13-16頁
有限要素法を用いた擬似血管狭窄モデルのシャント雑音解析	2010年7月1日	Clinical Engineering 磯野裕佳、佐藤敏夫

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員

石河 睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランス
 デューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、
 人間工学、福祉工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助
 留学：University of Southern California (USA)
 (2009年11月～2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポ
 ジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞(2009年)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業外における定期的な補講の実施	2011年4月～	物理学や電気工学の基礎に関する補講の実施
インターネットを活用した国家試験対策用自習計画	2011年4月～	臨床工学技士国家試験対策に向けて、学内組織であるインディカフェのスタッフとの連携に活用
国家試験対策用勉強チームにおけるファシリテーターの育成	2011年4月～	臨床工学技士国家試験対策に向けて勉強チームを組織し、チームリーダーをファシリテーターとして育成
2.作成した教科書、教材、参考書		
物理学、電気工学、人間工学、福祉工学におけるそれぞれの教材	2011年4月～	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付
実験系授業における教材	2011年4月～	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布

研究活動

2010年度の研究活動概略					
高解像度の医療用超音波画像診断を実現するために、圧電結晶膜を用いて高周波圧電トランスデューサの作製を行う新しい手法を提案した。スパッタリング法と水熱合成法を組み合わせ、圧電性を向上させるために圧電結晶膜の配向制御を行い、コンパクト化と高周波数化も実現した。成果は学術論文誌および国際会議、国内会議にて発表を行った。					
2011年度の研究活動概略					
先端医療におけるニーズを満たすべく、医療用超音波トランスデューサの開発を行った。また、超音波を利用した気相染色法の開発および超音波アシスト精密加工機を行った。機能性材料の開発と応用にも注目し、断熱塗料を利用した断熱性シートの開発と、圧電効果を利用した振動発電が可能なトランスデューサの開発を行った。成果は順次、学術論文誌および国際会議、国内会議にて発表する予定である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「水熱合成法によるKNbO ₃ エピタキシャル膜の作製と特性評価」	共著	2010年	超音波TECHNO, 2010.5-6	石河睦生, 矢澤慶祐, 藤澤隆志, 安井伸太郎, 長谷川智人, 黒澤実, 森田剛, 舟窪浩	87-91頁

“Chemical vapor deposition of ferroelectric thin films: a critical review”	共著	2010年	Ferroelectric Thin Films at Microwave Frequencies edited by TK Jackson, PM Suherman and P bao, Research Signpost, India	Hiroshi Funakubo, Shintaro Yasui, Mutsuo Ishikawa and Tomoaki Yamada	pp.172-182
(学術論文)					
“Effect of deposition time on film thickness and their properties for hydrothermally-grown epitaxial KNbO3 thick films”	共著	2010年	Jpn. J. Appl. Phys., vol. 49	Mutsuo ISHIKAWA , Hiro EINISHI, Mitsumasa NAKAJIMA, Tomohito HASEGAWA, Takeshi MORITA, Yoshifumi SAIJO, Minoru KUROSAWA and Hiroshi FUNAKUBO	07HF01
“(K,Na)NbO3 lead-free piezoelectric ceramics synthesized from hydrothermal powders”	共著	2010年	Materials Letters, vol. 64	Takafumi MAEDA, Norihito TAKIGUCHI, Mutsuo ISHIKAWA , Tobias HEMSEL and Takeshi MORITA	pp.125-128
“Ultrasonically assisted hydrothermal method for ferroelectric material synthesis”	共著	2010年	J. Korean Phys.Soc., vol. 57, No. 4	Ryo AGEBA, Yoichi KADOTA, Takafumi MAEDA, Norihito TAKIGUCHI, Takeshi MORITA, Mutsuo ISHIKAWA , Peter BORNMANN and Tobias HEMSEL	pp.918-923
“Hydrothermal (K1-xNax)NbO3 lead-free piezoelectric ceramics”	共著	2010年	J. Korean Phys.Soc., vol. 57, No. 4	Takafumi MAEDA, Norihito TAKIGUCHI, Mutsuo ISHIKAWA , Tobias HEMSEL and Takeshi MORITA	pp.924-928
“Growth of orientation-controlled epitaxial KNbO3 thin film by hydrothermal method”	共著	2011年	Key Eng. Mater.,485	Hiro Einishi, Mutsuo Ishikawa , Mitsumasa Nakajima, Shintaro Yasui, Tomoaki Yamada, Minoru Kurosawa, and Hiroshi Funakubo	pp.199-202
“Growth of Epitaxial {100}-Oriented KNbO3-NaNbO3 Solid Solution Films on (100)cSrRuO3// (100)SrTiO3 by Hydrothermal Method and Their Characterization”	共著	2011年	Jpn. J. Appl. Phys., 50	Takahisa Shiraishi, Hiro Einishi, Shintaro Yasui, Mutsuo Ishikawa , Tomohito Hasegawa, Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida, Yukio Sakashita, and Hiroshi Funakubo	09ND11-1-4
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(国際会議)					
“Hydrothermally deposited PZT films and their electrical properties”	2010年9月	UBM2010 Matsushima	-		
“Deposition of Nb-doped Lead Zirconate Titanate Films by Hydrothermal Method and Their Electrical Properties”	2010年10月	2010 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS), Town & Country Inn & Convention Center, San Diego, California	Mutsuo Ishikawa , Hamid Reza Chabok, Takeshi Morita, Shinichi Takeuchi, Minoru Kurosawa, Hiroshi Funakubo, Qifa Zhou, Kirk Koping Shung, Frank T. Djuth		

(招待講演)			
“Deposition of Nb-doped Pb(ZrTi)O ₃ Film by Hydrothermal Method for High Frequency Ultrasonic Transducer”	2010年5月	2010 U.S. Navy Workshop on Acoustic Transduction Materials and Devices, The Penn Stater Conference Hotel, State College, PA	Mutsuo Ishikawa , Tomohito Hasegawa, Hamid R. Chabok, S.-T. Lau, X. Li, R. Chen, Shinichi Takeuchi Minoru Kurosawa, Hiroshi Funakubo, Qifa Zhou, Kark K. Shung, and F.T. Djuth
“Low temperature synthesis of epitaxial KNbO ₃ thick films grown by hydrothermal Method PZT-BZT materials”	2010年11月	3rd International Congress on Ceramics (ICC3) Osaka, Japan, S6-045	Mutsuo Ishikawa , Hiro Einishi, Tomohito Hasegawa, Takeshi Morita, and Minoru Kurosawa, and Hiroshi Funakubo
(国内会議)			
「水熱合成法を用いた(K,Na)NbO ₃ エピタキシャル厚膜の合成と電気的および機械的特性評価」	2010年10月29日	第30回エレクトロセラミックス研究討論会、東京理科大	榮西 弘、白石貴久、安井伸太郎、 石河睦生 、黒澤 実、舟窪 浩
「水熱合成法を用いたエピタキシャル(K,Na)NbO ₃ 厚膜の合成」	2011年3月	2011年春季第58回応用物理学関係連合講演会	榮西 弘、白石貴久、安井伸太郎、 石河睦生 、黒澤 実、内田 寛、坂下幸雄、舟窪 浩
「水熱合成法によるエピタキシャル(K _x Na _{1-x})NbO ₃ 膜の組成依存性」	2011年8月	第72回応用物理学学会学術講演会	白石貴久、榮西 弘、 石河睦生 、安井伸太郎、長谷川智仁、黒澤 実、内田 寛、坂下幸雄、舟窪 浩
「水熱合成PZT 膜を用いた円筒形キャパシタセンサの投入が音響化学反応場に及ぼす影響」	2011年9月	2011年度秋季日本音響学会	椎葉 倫久、 石河 睦生 、川島 徳道、内田 武吉、菊池 恒男、黒澤 実、竹内 真一
“Development of high frequency ultrasonic transducer and their application”	2011年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Mutsuo Ishikawa , Shinichi Takeuchi, Minoru Kurosawa, Hiroshi Funakubo, Qifa Zhou, Kirk Koping Shung
“Development of heat shielding coatings”	2011年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kiego Kimura, Mutsuo Ishikawa , Norimichi Kawashima
“Effective use of lumber development of local original product by fusing Hinoki lumber with cotton”	2011年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shota Motoyama, Masataka Noguchi, Mutsuo Ishikawa , Norimichi Kawashima
“Basic study on root culture using a mist culture system”	2011年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takaaki Muramatsu, Mitsuo Takahashi, Mutsuo Ishikawa , Norimichi Kawashima
「フィルム型断熱材の開発と断熱特性」	2011年11月	2011年度色材研究発表会	木村圭吾、川島徳道、 石河睦生
「間伐材の有効利用綿およびヒノキパイプの混糸に関する研究」	2011年12月	2011年度材料技術研究協会討論会	本山翔太、野口正孝、 石河睦生 、川島徳道
「植物ミスト栽培の基礎研究」	2011年12月	2011年度材料技術研究協会討論会	村松孝章、高橋三男、 石河睦生 、川島徳道
「KNbO ₃ 圧電結晶の製膜と超音波トランスデューサへの応用」	2012年3月	2012年度春季日本音響学会	石河 睦生 、竹内 真一、白石 貴久、黒澤 実、舟窪 浩

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学学会、色材協会、材料技術研究協会、IEEE、MRS、NPO法人健康福祉工学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年8月～現在	NPO法人健康福祉工学会 理事

黒澤美緒 (くろさわ みお) 助教



出生年 : 1983(昭和58)年
 在籍 : 2010(平成22)年8月～
 最終学歴 : 藤田保健衛生大学短期大学専攻科
 学位 : 保健衛生学士(学位認定授与機構にて取得)
 専門分野 : 生体機能代行装置学、臨床工学
 前職 : 石心会 さいわい鹿島田クリニック
 資格 : 国家資格;臨床工学技士、臨床検査技師
 認定資格;ME2種

研究活動

2010年度の研究活動概略			
血液透析用バルーン付DLC再循環率と流れ解析、人工心肺回路内発生条件に関する基礎検討			
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Fluid-structure interaction analysis of stenosis inAVG anastomosis using a finite-element method”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Yuka Isono, Naoki Katsura , Yuka Motohashi , Mio Kurosawa , Norimichi Kawashima, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Yoshikatsu Munakata, Noriaki Nakane
「嚙下音の時間-周波数解析による無侵襲嚙下機能モニタリングをそれを応用した気管内吸引効果判定」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	本橋由香、新妻可奈子、 黒澤美緒 、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテル先端の血流シミュレーションと流れの可視化」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	丸下洋一、石垣秀記、 黒澤美緒 、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、中根紀章、増田俊輔、宗像佳克
「ダブルルーメンカテーテルの再循環に関する模擬透析システムによる実験的検討」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	石垣秀記、 黒澤美緒 、丸下洋一、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「透析回路内凝固の検出を目的とした超音波-光複合センサの検討」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	佐藤敏夫、新妻可奈子、水嶋洋佑、春原牙香、本橋由香、 黒澤美緒 、川島徳道、阿岸鉄三
“Automatically analyzing shunt murmurs using wavelet transform as a new method for evaluating vascular access function”	2011年6月10日～12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yuka Motohashi, Mio Kurosawa , Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Katsutoshi Omi, Kenou Takeshi
“A study on blood recirculation of double-lumen catheters using computational fluid dynamics”	2011年6月10日～12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yoichi Marushita, Mio Kurosawa , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Shunsuke Masuda, Yoshikatsu Munakata
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーン注入量と再循環の定量的評価」	2011年6月17日～19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	黒澤美緒 、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)逆接続時の再循環に関する流れ解析」	2011年6月17日(～19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	丸下洋一、石垣秀記、 黒澤美緒 、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の下流側圧力が再循環率に与える影響」	2011年6月17日～19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記、 黒澤美緒 、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三

「PTA前後の動脈血管雑音の時間-周波数解析によるVA機能評価の試み」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、 川島徳道、土田智子、春口洋昭、 阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「シャント音自動波形検出アルゴリズムを用いたVA機能の自動的定量評価の試み」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、星野春奈、角川佐保子、 黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、 金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、 小見勝利
「血液回路内凝固の早期かつ専属的検出を目的とした赤外線センサに関する検討」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、春原冨香、 本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、 阿岸鉄三
「超音波センサ受信波振幅の経時変化モニタリングによる血液回路内凝固の専属的検出の可能性」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、水嶋洋佑、 黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、 阿岸鉄三
「クリットラインモニター(CLM)から得られるBV%とPRRの特徴的な経時変化に関する検討」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、 川島徳道、吉川学、金岡文志、阿 岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環発生時における血液流れの空間的かつ定量的流速分布測定」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、磯野裕佳、頼住啓一、 黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、 吉川学、阿岸鉄三
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンパ内の流れの可視化と回路内凝固発生要因の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本 橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿 岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の脱血・送血孔間距離と再循環に関する実験的検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	石垣秀記、丸下洋一、黒澤美緒、 本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、 阿岸鉄三
「サイドホール型ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環に関するCFD解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、 川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、 宗像佳克
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーンによる流れへの影響に関する理論解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、 川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、 宗像佳克
「PIV及びパスキュラーアクセスエコーによる狭窄病変前後の血流状態の可視化とシャント血管雑音の関係」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	本橋由香、磯野裕佳、星野春奈、 黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、 川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、 春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「センサ装着位置の影響を受けない吻合部動脈側血管雑音によるVA機能評価の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、 黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、 川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、 春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「人工心肺回路の模擬脱血カニューレ先端部に生じるキャピテーション検出の試み」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	春原冨香、黒澤美緒、平田和也、 本橋由香、佐藤敏夫、椎葉倫久、 竹内真一、川島徳道、百瀬直樹
「PIVを用いた血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する実験的検証」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、頼住啓一、 磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、 飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、 筒石賢央、小見勝利
「血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する有限要素法を用いた流れ解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	磯野裕佳、中根紀章、頼住啓一、 星野春奈、本橋由香、黒澤美緒、 佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、 阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「血液透析用バルーン付ダブルルーメンカテーテルに対する有限要素法による流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県のものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、 川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、 宗像佳克
「人工心肺回路の不連続面で発生するキャピテーション検出に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県のものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	春原冨香、黒澤美緒、椎葉倫久、 本橋由香、竹内真一、佐藤敏夫、 川島徳道

「自己血管内シャント狭窄下流におけるシャント音周波数特性の変化に対する流体-構造連成解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、中根紀章、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、飯田行恭、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「嚙下音の評価による嚙下機能判定のための最適なセンサ装着方法の検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、高木雅代、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテルの再循環率の脱送血孔間距離に関する実験的検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	石垣秀記、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「粒子画像流速計(PIV)による血液回路内ドリップチャンバ部の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「人工心肺回路の不連続断面で発生するキャピテーションに関する流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、増田俊輔、宗像佳克
「粒子画像流速計(PIV)を用いたダブルルーメンカテーテル(DLC)先端付近の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、頼住啓一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「血液透析中の回路内血液凝固の連続的モニタリングを目的とした光センサの基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、井上雅結、春原牙香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血液回路内凝固の早期検出用超音波センサの作製と性能評価」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、田宮海貴、春原牙香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血管狭窄前後におけるシャント音の変化に対する実験的検証」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、春口洋昭、小見勝利
「人工心肺回路内キャピテーション発生条件に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	黒澤美緒、平田和也、春原牙香、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
“Investigation of recirculation ratio of hemodialysis double-lumen catheters”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki , Keiichi Yorizumi, Mio Kurosawa , Yuka Motohashi , Toshio Sato, Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi
“A basic investigation of recirculation with balloon double-lumen catheters”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita, Hideki Ishigaki, Mio Kurosawa , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi, Shunsuke Masuda , Yoshikatsu Munakata
“A basic investigation of cavitation generated inside cardiopulmonary bypass circuits”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Saeka Sunohara , Kazuya Hirata , Michihisa Shiba , Mio Kurosawa, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Shinichi Takeuchi, Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
体外循環技術医学会、人工臓器学会、日本透析医学会、医工学治療学会、日本臨床工学技士会

本橋由香 (もとはし ゆか) 助教



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程修了
 学位：工学修士
 学位論文：血液透析患者におけるシャント音の時間-周波数解析によるバスキュラーアクセスの機能評価
 専門分野：生体計測、医用統計学、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)
 受賞・表彰：桐蔭工学会賞(2007)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)臨床実習における医療人としての自覚を促すための取り組み	2010年4月～	学生の医療人としての自覚をより深めるため、臨床工学技士免許取得の必須科目である臨床実習の導入にあたって、実習生としての心構えやチーム医療における臨床工学技士の役割、医療を介した社会貢献などをテーマにグループディスカッションと発表を行った。
(2)1年次リメディアル教育としての数学補習	2011年4月～	高校までの数学の学習範囲を未履修あるいは不得意とする学生に対して、学力別のクラス編成を行った上で週1コマの臨床工学分野に必要な最低限の知識の充足と問題演習プログラムを実施し、基礎学力向上を図った。
(3)工学へのステップ	2011年4月～	工学に必要な最低限の基礎知識の習得、問題解決力やPCを使ったプレゼンテーション能力向上を目的として、1年次の工学へのステップでは「嘘発見器」を作製後、作製した嘘発見器を使用して学生自身にオリジナル実験の立案・実施を行わせた。また、その成果を学科教員の前で一人ひとりプレゼンテーションさせ、卒業研究や上級学年の講義への準備を行った。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
「血液透析患者のシャント音によるバスキュラーアクセス機能評価方法の検討」、「体外循環時の血液回路内凝血の早期発見、監視装置開発のための検討」、「人工心肺使用時における溶血発生メカニズムの検証」など臨床工学分野で要求が高い諸問題に対する研究を実施し、その成果を米国人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本人工臓器学会などで発表した。2011年度についても引き続き、医学・工学技術を応用して臨床工学の発展に寄与できる研究を推進する予定である。					
2011年度の研究活動概略					
臨床工学分野において重要となる血液透析療法に関連した研究テーマとして、従来より検討を行っている「血液透析患者のシャント音によるバスキュラーアクセス機能評価方法の検討」や「ダブルルーメンカテーテルの最適形状の検討」だけでなく、冠動脈狭窄評価方法の検討等を行っている。これらの研究成果は、米国人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本人工臓器学会などで発表し、臨床工学技士からも高い評価を得ている。来年度以降も安全かつ侵襲の少ない医療に貢献できるような研究テーマを重点的に研究活動を行う予定である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「高齢維持透析患者人口は一般人口より長生きする？」	共著	2010年4月30日	日本透析医会雑誌第25-1号	阿岸鉄三、佐藤敏夫、 本橋由香	123-126頁

(総説・論説)					
「シャント音画像間の正規化相互相関を用いたバスキュラーアクセスの定量的かつ経時的モニタリング」	共著	2011年3月1日	医工学治療 Vol.23 No.1	本橋由香、阿岸鉄三	45-48頁
(学術論文)					
「高齢維持透析患者人口は一般人口より長生きする？」	共著	2010年4月30日	日本透析医会雑誌 第25-1号	阿岸鉄三、佐藤敏夫、 本橋由香	123-126頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
「シャント音画像間の正規化相互相関係数の導出による定量的経時変化モニタリング」		2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	本橋由香、村上彩子、佐藤敏夫、 川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利	
「嚙下音の時間 - 周波数解析を利用した非侵襲嚙下機能評価の試み」		2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	佐藤敏夫、新妻可奈子、本橋由香、 川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利	
「擬似血管狭窄モデルを流れる拍動流の流れ解析に対する流体抵抗モデルの検討」		2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、 佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、 中根紀章、宗像佳克	
「動脈硬化と血液透析中の血圧低下の関連性に対する多変量解析による検討」		2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、 小島久、吉川学、東ヶ崎明子、 阿岸鉄三	
「超音波伝搬減衰の変化を利用した血液回路凝固の専用モニタリング」		2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、 本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三	
「ミニサーキットに対する血流シミュレーションによる血液滞留の分析」		2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	佐藤敏夫、小早川恵子、磯野裕佳、 本橋由香、川島徳道、増田俊輔、 宗像佳克、中根紀章、山田拓哉、 神谷勝弘	
「気管内吸引音の時間 - 周波数解析に基づいた吸引効果定量化の試み」		2010年4月2日 ～4日	日本医工学治療学会 第26回学術大会 (都市センターホテル)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道、金田恵子、阿岸鉄三、 小見勝利	
「電子聴診器で収集したシャント雑音データの変換によるバスキュラーアクセス機能評価」		2010年5月13日 ～15日	第85回日本医療機器学会大会 (福岡国際会議場)	佐藤敏夫、本橋由香、角川佐保子、 村上彩子、川島徳道、阿岸鉄三、 澁谷有美、高木絵美子、星野敏久、 小見勝利	
“ANALYSIS OF PULSATILE FLOW IN A QUASI-ANGIOSTENOSIS MODEL USING THE FINITE ELEMENT METHOD”		2010年5月25日 ～29日	American Society for Artificial Internal Organs, Baltimore Maryland	Naoki Katsura, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Katsuyoshi Munakata, Noriaki Nakane	
「多変量解析による動脈硬化症と血液透析中の血圧低下に対する基礎検討」		2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、 小島久、吉川学、東ヶ崎明子、 阿岸鉄三	
「シャント雑音発赤メカニズム検討のための有限要素法による流れ - 構造連成解析」		2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、桂尚樹、磯野裕佳、 本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、 中根紀章、宗像佳克	
「有限要素法の流れ解析によるシャント雑音発生メカニズム検討のための流体抵抗モデルの導入」		2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、磯野裕佳、桂尚樹、 本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、 中根紀章、宗像佳克	
「嚙下障害を有する血液透析患者の嚙下音に対する時間 - 周波数解析を用いた非侵襲スクリーニング検査」		2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、新妻可奈子、 本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、 小見勝利	
「吸引音の時間 - 周波数解析に基づいた気管内吸引を必要とする血液透析患の吸引効果判定」		2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、新妻可奈子、 本橋由香、川島徳道、金田恵子、 阿岸鉄三、小見勝利	
「超音波センサを用いた血液回路内凝固の専用のモニタリング」		2010年6月19日 ～20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、 村上彩子、本橋由香、川島徳道、 阿岸鉄三	

「吸引シミュレータを用いた吸引前後の模擬呼吸音の比較による定量的吸引効果判定の試み」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	新妻可奈子、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「嚥下時の2方向ビデオ画像と嚥下音の同期解析による嚥下機能の定量的評価」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	新妻可奈子、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「人工血管静脈側吻合部における狭窄率の変化に対する有限要素法による流体 - 構造連成解析」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、桂尚樹、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、宗像佳克、中根紀章
「シャント音の正規化相互相関係数算出に対する自動波形検出アルゴリズムの検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香 、角川佐保子、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「体外循環に使用するミニサーキットの最適形状に対する血流シミュレーション」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、小早川恵子、丸下洋一、 本橋由香 、川島徳道、増田俊輔、中根紀章、宗像佳克、山田拓哉、神谷勝弘
「血液透析中の回路内血液流動状態に対する光センサを用いた連続的モニタリング」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、春原亯香、新妻可奈子、 本橋由香 、川島徳道、阿岸鉄三
「超音波センサを利用した血液透析回路内凝固に対するモニタリング方法の検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、 本橋由香 、川島徳道、阿岸鉄三
「有限要素法による長期留置型ダブルルーメンカテーテルの流れ解析に関する基礎検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、香取優美、丸下洋一、 本橋由香 、川島徳道、阿岸鉄三
「血液透析中の徐水に伴うプラズマリフィングレートの推定」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、徳岡龍之介、 本橋由香 、川島徳道、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三
「模擬透析による血液透析用ダブルルーメンカテーテルの再循環率に関する検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、石垣秀記、丸下洋一、 本橋由香 、川島徳道、阿岸鉄三
“Quantitative evaluation of swallowing function by synchronous analysis of bidirectional video images and swallowing sounds”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kanako Niizuma, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Kenou Takeshi, Katsutoshi Omi
“Evaluation of recirculation rate according to flow change in reverse connection of double lumen catheter for hemodialysis”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki, Yumi Katori, Norimichi Kawashima, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Fluid-structure interaction analysis of stenosis inAVG anastomosis using a finite-element method”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Yuka Isono, Naoki Katsura, Yuka Motohashi , Mio Kurosawa, Norimichi Kawashima, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Yoshikatsu Munakata, Noriaki Nakane
“Study of the effective utilization of custom-built, medical device management software”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Takeshi Satono, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Norimichi Kawashima
「吸引音及び吸引前後の呼吸音の時間-周波数解析を利用した吸引効果判定の試み」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	新妻可奈子、 本橋由香 、佐藤敏夫、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「自動波形検出アルゴリズムを用いたシャント音の正規化相互相関係数算出によるVA機能の定量化」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	本橋由香 、角川佐保子、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「嚥下音及び喉表面の運動を撮影したビデオ画像を用いた嚥下機能の非侵襲的評価」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	新妻可奈子、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「効率的な機器運用のための医療機器使用予測」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	里野剛之、梶川友学、梅沢東光、加納敬、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道

「ミニサーキット最適化のためのFEMとPIVによる基礎検討」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	丸下洋一、小早川恵子、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、山田拓哉、神谷勝弘、増田俊輔、中根紀章、宗像佳克
「模擬透析を用いたDLCの再循環率に関する検討と有限要素法(FEM)によるDLC先端の流れ解析」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	石垣秀記、丸下洋一、香取優美、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「流体抵抗を用いたAVG吻合部の狭窄に対する有限要素法による流体-構造連成解析」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	磯野裕佳、桂尚樹、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「光-超音波複合センサによる血液回路内凝固の専属的及び早期検出可能性に関する検討」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	佐藤敏夫、春原冴香、新妻可奈子、 本橋由香 、川島徳道、阿岸鉄三
「Double Lumen Catheter(DLC)の順接続・逆接続の定量的解析」	2011年3月5日	第16回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会津田ホール	阿岸鉄三、吉川学、東ヶ崎明子、小島久、金岡文志、石垣秀記、丸下洋一、香取優美、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道
「血液透析用バルーン付きダブルルーメンカテーテルの再循環に関するCFD解析」	2011年3月23日(～25日)	日本医工学治療学会第28回学術大会 北海道大学学術交流会館	丸下洋一、石垣秀記、 本橋由香 、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンバの血液流入部および濾過網部の流れ解析」	2011年3月23日(～25日)	日本医工学治療学会第28回学術大会 北海道大学学術交流会館	山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「経時的かつ定量的なシャント音分析に基づくバスキュラーアクセスの非侵襲狭窄評価の検討」	2011年3月23日(～25日)	日本医工学治療学会第29回学術大会 北海道大学学術交流会館	磯野裕佳、中根紀章、星野春奈、 本橋由香 、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三
「逆接続での使用も考慮したダブルルーメンカテーテルの脱血-送血孔間距離に関する検討」	2011年3月23日(～25日)	日本医工学治療学会第30回学術大会 北海道大学学術交流会館	石垣秀記、丸下洋一、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「冠動脈内圧測定による狭窄病変評価法に関するCFD解析」	2011年3月23日(～25日)	日本医工学治療学会第31回学術大会 北海道大学学術交流会館	春原冴香、丸下洋一、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、大塚雅人、鶴見由起夫、木原昭
「嚙下音の時間-周波数解析による無侵襲嚙下機能モニタリングをそれを応用した気管内吸引効果判定」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	本橋由香 、新妻可奈子、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテル先端の血流シミュレーションと流れの可視化」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、中根紀章、増田俊輔、宗像佳克
「ダブルルーメンカテーテルの再循環に関する模擬透析システムによる実験的検討」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	石垣秀記、黒澤美緒、丸下洋一、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「透析回路内凝固の検出を目的とした超音波-光複合センサの検討」	2011年4月22日～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会 (岡山コンベンションセンター)	佐藤敏夫、新妻可奈子、水嶋洋佑、春原冴香、 本橋由香 、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
“Automatically analyzing shunt murmurs using wavelet transform as a new method for evaluating vascular access function”	2011年6月10日～12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yuka Motohashi , Mio Kurosawa, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Katsutoshi Omi, Kenou Takeshi
“A study on blood recirculation of double-lumen catheters using computational fluid dynamics”	2011年6月10日～12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yoichi Marushita, Mio Kurosawa, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Shunsuke Masuda, Yoshikatsu Munakata
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーン注入量と再循環の定量的評価」	2011年6月17日～19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	黒澤美緒、石垣秀記、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の下流側圧力が再循環率に与える影響」	2011年6月17日～19日	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三

「PTA前後の動脈血管雑音の時間-周波数解析によるVA機能評価の試み」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、土田智子、春口洋昭、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「シャント音自動波形検出アルゴリズムを用いたVA機能の自動的定量評価の試み」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、星野春奈、角川佐保子、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「血液回路内凝固の早期かつ専属的検出を目的とした赤外線センサに関する検討」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、春原冨香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「超音波センサ受信波振幅の経時変化モニタリングによる血液回路内凝固の専属的検出の可能性」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、水嶋洋佑、黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「クリットラインモニター(CLM)から得られるBV%とPRRの特徴的な経時変化に関する検討」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環発生時における血液流れの空間的かつ定量的流速分布測定」	2011年6月17日 ～19日	第56回(社)日本透析医学会 学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、磯野裕佳、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三
“Investigation of recirculation ratio of hemodialysis double-lumen catheters”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki , Keiichi Yorizumi, Mio Kurosawa , Yuka Motohashi , Toshio Sato, Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi
“Time-frequency analysis of shunt murmur frequency characteristics downstream from stenosis and flow analysis using the finite element method”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuka Isono, Noriaki Nakane, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Shinichi Takeuchi , Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi, Yoshikatsu Munakata Katsutoshi Omi
“A basic investigation of recirculation with balloon double-lumen catheters”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita, Hideki Ishigaki, Mio Kurosawa , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi, Shunsuke Masuda , Yoshikatsu Munakata
“A basic investigation of cavitation generated inside cardiopulmonary bypass circuits”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Saeka Sunohara , Kazuya Hirata , Michihisa Shiba , Mio Kurosawa, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Shinichi Takeuchi, Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi
“Investigation of the use of PIV to visualize flow within different types of venous air trap chamber and factors inducing clotting within blood circuits”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi , Keiichi Yorizumi , Yuka Motohashi, Toshio Sato , Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi
「血液透析用バルーン付ダブルルーメンカテーテルに対する有限要素法による流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「人工心肺回路の不連続面で発生するキャビテーション検出に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	春原冨香、黒澤美緒、椎葉倫久、本橋由香、竹内真一、佐藤敏夫、川島徳道
「自己血管内シャント狭窄下流におけるシャント音周波数特性の変化に対する流体-構造連成解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、中根紀章、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、飯田行恭、阿岸鉄三、増田俊輔
「嚙下音の評価による嚙下機能判定のための最適なセンサ装着方法の検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、高木雅代、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテルの再循環率の脱送血孔間距離に関する実験的検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	石垣秀記、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「粒子画像流速計(PIV)による血液回路内ドリップチャンバ部の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三

「人工心肺回路の不連続断面で発生するキャピテーションに関する流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、黒澤美緒、 本橋由香 、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、増田俊輔、宗像佳克
「粒子画像流速計(PIV)を用いたダブルルーメンカテーテル(DLC)先端付近の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、頼住啓一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香 、川島徳道、阿岸鉄三
「血液透析中の回路内血液凝固の連続的モニタリングを目的とした光センサの基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、井上雅結、春原冨香、 本橋由香 、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血液回路内凝固の早期検出用超音波センサの作製と性能評価」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、田宮海貴、春原冨香、 本橋由香 、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血管狭窄前後におけるシャント音の変化に対する実験的検証」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香 、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、春口洋昭
「人工心肺回路内キャピテーション発生条件に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	黒澤美緒、平田和也、春原冨香、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンパ内の流れの可視化と回路内凝固発生要因の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の脱血・送血孔間距離と再循環に関する実験的検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	石垣秀記、丸下洋一、黒澤美緒、 本橋由香 、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「サイドホール型ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環に関するCFD解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香 、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーンによる流れへの影響に関する理論解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、 本橋由香 、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「PIV及びバスキュラーアクセスエコーによる狭窄病変前後の血流状態の可視化とシャント血管雑音の関係」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香 、磯野裕佳、星野春奈、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「センサ装着位置の影響を受けない吻合部動脈側血管雑音によるVA機能評価の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香 、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「人工心肺回路の模擬脱血カニューレ先端部に生じるキャピテーション検出の試み」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	春原冨香、黒澤美緒、平田和也、 本橋由香 、佐藤敏夫、椎葉倫久、竹内真一、川島徳道、百瀬直樹
「PIVを用いた血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する実験的検証」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香 、星野春奈、頼住啓一、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する有限要素法を用いた流れ解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	磯野裕佳、中根紀章、頼住啓一、星野春奈、 本橋由香 、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
American Society for Artificial Internal Organs 57th annual conference	2010年6月8日～6月14日	WashingtonDC(アメリカ合衆国)	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会

(2012年度 新任教員)

山内 忍 (うまうちしのぶ) 助手



出生年 : 1976(昭和51)年
 籍 : 2012(平成24)年4月～
 最終学歴 : 日本工学院専門学校工業専門課程臨床工学科
 専門分野 : 臨床工学、生体機能代行装置学
 職 : 日本工学院専門学校臨床工学科
 資格 : 臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格

研究活動

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンバの血液流入部および濾過網部の流れ解析」	2011年3月23日 (～25日)	日本医工学治療学会第28回 学術大会 北海道大学学術交流会館	山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、川岸鉄三
“Investigation of the use of PIV to visualize flow within different types of venous air trap chamber and factors inducing clotting within blood circuits”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi , Keiichi Yorizumi , Yuka Motohashi, Toshio Sato , Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi
「粒子画像流速計(PIV)による血液回路内ドリップチャンバ部の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県のつくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンバ内の流れの可視化と回路内凝固発生要因の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会 (都市センターホテル)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三

工学部 (Faculty of Engineering)

電子情報工学科 (Department of Electronics and Information Engineering)

杉本 恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
 学内役職等 : 研究推進部副部長(2010・2011)
 環境エネルギー学環 研究推進チームメンバー
 資格 : 第一種情報処理技術者
 受賞・表彰 : 日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999-2013)
 Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
芝浦工大・田中研との合同発表会	2010年9月6日	今年で15回目となる芝浦工業大学・田中直彦研究室との合同発表会を実施した。今年は芝浦工業大学の東大宮キャンパスで行い、桐蔭側9件、芝浦側7件の発表があった。芝浦側は主に医用応用、桐蔭側は主に地中探査応用という違いはあったものの、共通してチャープ波を使用するということから、学生側の交流にも役立ったようである。
2.作成した教科書、教材、参考書		
Scilabプログラミング基礎	2010年6月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。3年セミナーで使用。
CAD演習I	2010年9月～	機械製図の基礎とSolidworksの入門
工学基礎実験II	2010年9月～	工学基礎実験II用の学内テキスト
CAD演習II	2011年4月～	Solidworksの応用
デジタル信号処理	2011年4月～	Scilabを用いてさらに応用信号処理として、最大エントロピー法、短時間フーリエ変換、ウェーブレット変換、ケプストラム解析およびヒルベルト変換を実行する方法について解説。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
桐蔭学園中等教育学校 特別講演「中等4年生の諸君へ、-いま伝えておきたいこと-」	2011年12月19日	大学・大学院の仕組みや理系文系の選択と就職に関する話に加えて、現在行っている最新の研究内容(例えば非接触音響探査法)についての紹介(参加者、中等4年生、約180名)。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
「音波による計測・映像化」 桐蔭学園中等教育学校第8期課題研究	2012年3月1日	実験室にある砂槽を用いた空中放射音波を用いた非接触音響探査法もしくは音響振動を利用した植物根圏における水分分布計測などが実施。桐蔭学園中等教育学校第8期生8名が参加。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
農工融合計測					
1. 超節水精密農業技術の開発(JST CREST 分担研究者 1年目)					
2. 音波による土壌水分分布に関する研究(科研費 挑戦萌芽研究 2年目)					
地中計測					
1. 遺跡遺構の探査のための地中探査ソーナの研究					
2. 空中放射音波を用いた非接触音響探査(国土交通省委託研究 FS研究)					
医用計測					
1. コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究(科研費 基盤研究(C) 分担研究者 3年目)					
2011年度の研究活動概略					
農工融合計測					
1. 超節水精密農業技術の開発(JST CREST 分担研究者 2年目)					
2. 音波による土壌水分分布に関する研究(科研費 挑戦萌芽研究 3年目)					
地中計測					
1. 遺跡遺構の探査のための地中探査ソーナの研究					
2. 空中放射音波を用いた非接触音響探査(国土交通省委託研究 本研究1年目)					
3. 長距離音響放射装置を用いた浅層音響探査法の騒音制御に関する研究(JST A-STEP(H23))					
医用計測					
1. コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究(科研費 基盤研究(C) 分担研究者 1年目)					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「空中放射音波による極浅層地中映像化-応答周波数帯を用いた埋設物の識別に関する検討-」	共著	2010年6月22日	超音波TECHNO, Vol.22, No.3	阿部冬真、杉本恒美	26-30頁
「遺跡・遺構のための横波音波を用いた地中映像化の検討」	共著	2010年8月21日	検査技術、Vol.15 No.9	川崎拓、杉本恒美	32-38頁
「遺跡・遺構のための横波音波を用いた地中映像化の検討」	共著	2011年4月20日	IIC REVIEW, No.45	杉本恒美、川崎拓	3-10頁
(学術論文)					
「SLDVを用いた極浅層地中探査法の研究 埋設物の識別に関する検討」	共著	2010年6月22日	文化財と探査, Vol.11, No.2	阿部冬真、杉本恒美	33-38頁
「遺跡・遺構のための横波音波を用いた地中映像化の研究 計算機シミュレーションによる映像分解能の検討」	共著	2010年6月22日	文化財と探査, Vol.11, No.2	杉本恒美、川崎拓	39-43頁
「遺跡・遺構のための横波音波を用いた地中映像化の研究 チャープ波の周波数依存減衰を考慮した検討」	共著	2010年6月22日	文化財と探査, Vol.11, No.2	杉本恒美、川崎拓	44-48頁
「SLDVを用いた極浅層地中探査法の研究 埋設物の識別に関する検討」	共著	2010年6月22日	桐蔭論叢 第22号	阿部冬真、杉本恒美	13-18頁
“Distinguishing Buried Objects in Extremely Shallow Underground by Frequency Response Using Scanning Laser Doppler Vibrometer”	共著	2010年8月19日	Jpn. J. Appl. Phys. 49	Touma Abe, Tsuneyoshi Sugimoto	07HC15 pp.1-4
「SLDVを用いた極浅層地中探査法の研究 最適応答周波数帯を用いた映像化法」	共著	2010年12月28日	文化財と探査, Vol.12, No.1 & No.2	杉本恒美、阿部冬真	21-29頁
「SLDVを用いた極浅層地中探査法の研究 位相差を用いた映像化法の検討」	共著	2010年12月28日	文化財と探査, Vol.12, No.1 & No.2	杉本恒美、阿部冬真	30-39頁
「遺跡・遺構のための横波音波を用いた地中映像化の研究 種類の異なるチャープ波の比較検討」	共著	2010年12月28日	文化財と探査, Vol.12, No.1 & No.2	杉本恒美、北澤貴浩、川崎拓	40-46頁

「音波振動を用いた土壌中の水分分布測定に関する基礎研究」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	中川裕、 杉本恒美	235-238頁
「遺跡・遺構のための横波音波を用いた地中映像化の研究、-地中映像化における種類の異なるChirp波の比較検討-」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	北澤貴浩、 杉本恒美	223-227頁
「長距離音響発生装置を用いた非接触極浅層探査法に関する研究」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	赤松亮、 杉本恒美	229-234頁
「健康指標値としてのコロトコフ音の活用法に関する検討、-上腕部および指尖部波形の解析-」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	小山賢太郎、 杉本恒美 、片山富美代	239-243頁
“Buried object detection method using optimum frequency range in extremely shallow uderground”	共著	2011年7月22日	Jpn. J. Appl. Phys., Vol.50	Tsuneyoshi Sugimoto , Touma Abe	07HC18 pp.1-8

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
“Non contact acoustic imaging method in the extremely shallow underground using optimum frequency range method by SLDV”	2010年8月24日	The 20th International Congress on Acoustics, (ICA 2010), Sydney Convention Centre	Tsuneyoshi Sugimoto , Touma Abe
“Study on the health index value using the waveform of the Korotkoff sounds”	2010年8月24日	The 20th International Congress on Acoustics, (ICA 2010), Sydney Convention Centre	Tsuneyoshi Sugimoto , Fumiyo Katayama
「SLDVを用いた極浅層地中映像化に関する研究(VI)-最適応答周波数帯を用いた映像構成法」	2010年9月14日	日本音響学会春季研究発表会(関西大学)	杉本恒美 、阿部冬真
「コロトコフ音解析における循環機能検査、-高齢者の波形解析-」	2010年9月14日	日本音響学会春季研究発表会(関西大学)	杉本恒美 、片山富美代
「SLDVを用いた極浅層地中映像法に関する研究 - 最適応答周波数帯を用いた埋設物検出法 - 」	2010年9月17日	電子情報通信学会 2010年ソサイエティ大会 (大阪府立大学)	杉本恒美 、阿部冬真
「空中放射音波を用いた極浅層地中映像化に関する研究、 最適応答周波数帯による埋設物識別 」	2010年9月29日	物理探査学会 第123回学術講演会(東北大学)	杉本恒美 、阿部冬真
「コロトコフ音の波形解析による循環機能検査に関する研究-若年者と高齢者の波形比較-」	2010年10月30日	日本超音波医学会・関東甲信越地方会第22回大会(東京ファッションタウン(TFT)ビル 東館9階906号室)	杉本恒美 、片山富美代
“Underground Imaging using shear waves, - Study on the influence by the kind of chirp wave on underground image-”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Paulownia Hall, Toin memorial academium B2F	T.Kitazawa and T.Sugimoto
“Study on the Healthy index value by the Korotkov's sound analysis”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Paulownia Hall, Toin memorial academium B2F	Kentaro Koyama, Tsuneyoshi Sugimoto , Fumiyo Katayama
“Basic study of water distribution measurement in soil using a sound vibration.”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Paulownia Hall, Toin memorial academium B2F	Kentaro Koyama, Tsuneyoshi Sugimoto , Fumiyo Katayama
“Study on the non-contact Acoustic imaging method for non-destructive inspection using SLDV and LRAD”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Paulownia Hall, Toin memorial academium B2F	I.Uechi, R.Akamatsu, T.Shirakawa and T.Sugimoto
“Extremely shallow underground imaging using optimum frequency range method”	2010年11月17日	The 160th ASA , 2nd Pan-American/Iberian Meeting on Acoustics, Cancun, Mexico	Tsuneyoshi Sugimoto , Touma Abe

“Optimum frequency range method for non contact acoustic imaging in extremely shallow underground”	2010年12月7日	Proc., Symp. Ultrason., Vol. 31, pp 305-306 (2010.11.07 明治大学 駿河台アカデミーコモン)	Tsuneoyoshi Sugimoto, Touma Abe
「長距離音響発生装置を用いた非接触極浅層探査法」	2011年2月4日	産学連携ワークショップ(パシフィコココハマ展示ホール)	赤松亮、杉本恒美
「SLDVを用いた極浅層地中映像化に関する研究、-位相差を用いた埋設物の検出-」	2011年2月21日	アコースティックイメージング研究会(産総研)	杉本恒美、阿部冬真
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する検討、伝搬音速値と含水比についての検討」	2011年2月21日	アコースティックイメージング研究会(産総研)	中川裕、杉本恒美
「コロトコフ音解析における循環機能検査、-上腕部と指尖部の波形比較-」	2011年3月9日	日本音響学会春季研究発表会(早稲田大学)	小山賢太郎、片山富美代、杉本恒美
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する基礎研究()」	2011年3月11日	日本音響学会春季研究発表会(早稲田大学)	中川裕、杉本恒美
「遺跡・遺構のための横波音波を用いた地中映像化の研究、-Cosine chirpを用いた埋設深度による地中映像化への影響に関する研究-」	2011年3月11日	日本音響学会春季研究発表会(早稲田大学)	北澤貴浩、川崎拓、杉本恒美
「SLDVとLRADを用いた非破壊探査のための非接触音響映像法に関する研究」	2011年3月11日	日本音響学会春季研究発表会(早稲田大学)	赤松亮、杉本恒美
“Non contact acoustic imaging using optimum frequency range method in extremely shallow underground”	2011年4月11日	The 31st International Symposium on Acoustical Imaging, Warsaw	T.Sugimoto, T.Abe
“Basic study of water distribution measurement in sand using sound vibration”	2011年4月12日	The 31st International Symposium on Acoustical Imaging, Warsaw	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, T.Shirakawa, M.Sano, M.Ohaba, S.Shibusawa
「コロトコフ音解析による健康指標値に関する検討上腕部と指尖部の波形比較」	2011年4月30日	第50回日本生体医工学会(東京電機大学第7号館5F)	杉本恒美、小山賢太郎、片山富美代
「空中放射音波を用いた極浅層地中映像化に関する研究、-位相差を用いた埋設物の輪郭抽出法-」	2011年5月12日	(社)物理探査学会 第124回学術講演会(早稲田大学 国際会議場)	杉本恒美、阿部冬真
“Basic study of water distribution measurement in soil using a sound vibration, -study on the propagation velocity and the volume water content-”	2011年7月5日	Proc. of the 4th Asian Aonference on Precision Agruiculture, Abstracts book O-30, p45, (2011.7.5, Tokachi Plaza)	Y.Nakagawa, T.Shirakawa, M.Sano, T.Sugimoto, M.Ohaba and S.Shibusawa
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil Using a Sound Vibration, -Study on the propagation velocity and the volume water content-”	2011年9月6日	International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU2011), Institute of Experimental Physics University of Gdansk	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, T.Shirakawa, M.Sano, M.Ohaba, S.Shibusawa
“Contour Imaging of Buried Object at Extremely Shallow Underground using Phase Differenece”	2011年9月7日	International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU2011), Institute of Experimental Physics University of Gdansk	T.Sugimoto, R.Akamatsu, T.Abe
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発」	2011年9月8日	土木学会全国大会 第66回 年次学術講演会(愛媛大学)	歌川紀之、赤松亮、杉本恒美
「SLDVを用いた極浅層地中映像化に関する研究(VII) -最適応答周波数帯を用いた映像構成法-」	2011年9月22日	日本音響学会秋季研究発表会(島根大学)	杉本恒美、阿部冬真
“Health survey of concrete in urban infrastructures by non contact acoustic imaging method”	2011年10月13日	The 10th International symposium on new technologies for urban safety of mega cities in asia (USMCA2011), Chaing mai, Tailand (The Empress Hotel)	N.Utagawa, R.Akamatsu, T.Sugimoto

"Study on non contact acoustic imaging method for non destructive inspection using SLDV and LRAD"	2011年10月19日	IEEE International Ultrasonic Symposium 2011 Caribe Royale, Orland, Florida	T.Sugimoto , R.Akamatsu, N.Utagawa , S.Tsujino
"Basic study of water distribution measurement in soil using SLDV"	2011年10月19日	IEEE International Ultrasonic Symposium 2011, Caribe Royale, Orland, Florida	Y.Nakagawa, T.Sugimoto
"Study on the buried object detection method using optimum frequency rangemethod in extremely shallow underground"	2011年10月19日	IEEE International Ultrasonic Symposium 2011, Caribe Royale, Orland, Florida	T.Sugimoto , T.Abe
"Development of handheld soil-water sensor for agricultural purposes"	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama, Yokohama	T.Shirakawa , T.Sugimoto
"Basic Study on the Non-Destructive Inspection for the Concrete using SLDV and Air-coupled sound wave Feasibility Study on the Long-Distance Measurement "	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama, Yokohama	R.Akamatsu , T.Sugimoto
"Underground Imaging Using Shear Waves - Comparison of the under ground image by the two different size vibrators-"	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama, Yokohama	T.Kitazawa, T.Sugimoto
"Study on the Healthy Index Value by the Korotkoff Sound Analysis -A comparison with the waveform acquired from an arm model-"	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama, Yokohama	K.Koyama, T.Sugimoto , F.Katayama
"Detection of a water shortage signal which appears in the leaf of a plant with a hyperspectral camera"	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama, Yokohama	H.Minami, T.Enomoto , T.Sugimoto , M.Sano
"Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil -Study on the Measurement using Sound Vibration and Electric Detection-"	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama, Yokohama	Y.Nakagawa T.Sugimoto
"Non Contact Acoustic Contour Imaging Method using Phase Difference in Extremely Shallow Underground"	2011年11月9日	The 32nd Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2011), Kyoto Univ. Clock Tower Centennial Hall	T.Sugimoto , R.Akamatsu, T.Abe
"Non-contact acoustic imaging method using SLDV and LRAD, -Basic study on the non-destructive inspection for concrete-"	2011年11月10日	The 32nd Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2011), Kyoto Univ. Clock Tower Centennial Hall	R.Aakamatsu, T.Sugimoto , H.Kasawaki, N.Utagawa, S.Tsujino
"Basic study on acoustic imaging of water distribution in the soil using propagation velocity of sound"	2011年11月10日	The 32nd Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2011), Kyoto Univ. Clock Tower Centennial Hall	Y.Nakagawa, T.Sugimoto, T.Shirakawa , M.Sano, S.Shibusawa, M.Ohaba

“Study on the Inspection for Shallow Area under Concrete Surface using Air-coupled Sound Wave”	2011年11月20日	The 10th SEGJ International symposium, -Imaging and Interpretation-, Clock Tower Centennial Hall, Kyoto Univ.	R.Akamatsu, T.Sugimoto , H.Kawasaki, N.Utagawa, S.Tsujino
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート表層部の欠陥映像化に関する研究」	2012年2月23日	アコースティック・イメージング研究会 GEヘルスケアジャパン(株) 日野本社5階会議室	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 辻野修一
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究、-水分分布の鉛直方向検出に関する研究」	2012年2月23日	アコースティック・イメージング研究会 GEヘルスケアジャパン(株) 日野本社5階会議室	中川裕, 杉本恒美 , 白川貴志, 佐野元昭, 澁澤栄, 大幅元吉
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究 -地中刺突型音波伝播システムの構築-」	2012年3月13日	音響春季研究発表会 神奈川大学	白川貴志, 杉本恒美 , 中川裕, 佐野元昭, 大幅元吉, 澁澤栄
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究-SLDVを用いた水分リアルタイム計測に関する検討-」	2012年3月13日	音響春季研究発表会 神奈川大学	中川裕, 杉本恒美 , 白川貴志, 佐野元昭, 大幅元吉, 澁澤栄
「SLDVとLRADを用いた非破壊探査のための非接触音響映像法に関する研究 遠距離コンクリート探傷検査としての実用可能性に関する検討」	2012年3月13日	音響春季研究発表会 神奈川大学	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 辻野修一
「コロコフ音解析における循環機能検査 -腕モデルを用いた波形比較-」	2012年3月14日	音響春季研究発表会 神奈川大学	杉本恒美 , 小山賢太郎, 片山富美代
「非接触音響探査法によるコンクリート欠陥検出」	2012年3月23日	安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム、つくばカピオ	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 辻野修一
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「作物吸水量リアルタイム計測と音波による土壌水分探査」	2011年12月22日	CREST水領域・農学研究分野合同ワークショップ「農学から発信する水問題最前線」	東京キャンパス・イノベーションセンター
その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
「音波を用いた探知方法、非接触音響探知システム、そのシステムで用いるプログラム、およびそのプログラムを記録した記録媒体」	2010年5月26日	特願2010-120901号	桐蔭学園、佐藤工業(株) (杉本恒美 、阿部冬真)
「音波を用いた探知方法、非接触音響探知システム、そのシステムで用いるプログラム、およびそのプログラムを記録した記録媒体」	2010年8月23日	特願2010-186206号	桐蔭学園、佐藤工業(株) (杉本恒美 、阿部冬真)
「音波を用いた探知方法、非接触音響探知システム、そのシステムで用いるプログラム、およびそのプログラムを記録した記録媒体」	2011年7月27日	特願2011-164004号	桐蔭学園、佐藤工業(株) (杉本恒美 、阿部冬真、赤松亮、歌川紀之)
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Poster Session Award”	2011年11月5日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2011	Y.Nakagawa, T.Sugimoto
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
政策領域8「道路資産の保全」 「非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発」	2010年度～2013年度	国土交通省「道路政策の質の向上に資する技術開発研究」 政策領域8「道路資産の保全」 研究代表者： 杉本恒美	

研究領域名「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」 研究課題名「超節水精密農業技術の開発」	2010年度～2014年度	JST(独)科学技術振興機構 CREST(戦略的創造研究推進事業) 研究代表者:東京農工大 澁澤栄教授 総事業費約2億円(5年間)
基盤研究(C)「コロトコフ音の波形分析による新たな健康管理指標の検討」	2009年度～2010年度	文部科学省科研費、研究代表者:片山富美代、 分担研究者:杉本恒美
挑戦的萌芽研究「音波による土壌水分分布計測に関する研究」	2010年度～2012年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本恒美
基盤研究(C)「コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究」	2011年度～2013年度	文部科学省科研費、研究代表者:片山富美代、 分担研究者:杉本恒美
A-STEP 探索タイプ「長距離音響放射装置を用いた浅層音響探査法の騒音制御に関する研究」	2011年度	JST(独)科学技術振興機構 研究代表者:杉本恒美
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
第20回 国際音響学会 発表 (20th International Congress on Acoustics)	2010年8月21日～30日	Sydney Convention Centre (Sydney, Australia)
2nd PAN-AMERICAN/IBERIAN MEETING ON ACOUSTICS 出席・発表	2010年11月13日～21日	Fiesta Americana Grand Coral Beach Hotel (Cancun, Mexico)
31st International Symposium on Acoustical Imaging 出席・発表	2011年4月9日～15日	Hotel GROMADA Centrum, Hall MALWA (Warsaw Poland)
International Congress on Ultrasonics 2011 (ICU2011) 出席・発表	2011年9月4日～12日	Gdansk University (Gdansk Poland)
10th International symposium on new technologies for urban safety of mega cities in asia (USMCA2011) 出席・発表	2011年10月9日～15日	The Empress Hotel (Chaing mai, Thailand)
IEEE International Ultrasonic Symposium 2011出席・発表	2011年10月17日～24日	Caribe Royale, (Orland, Florida)
(その他特記事項)		
「国交省「道路政策の質の向上に資する技術開発研究」に採択」(2010年7月12日)		
「CREST研究テーマ採択」(2010年8月19日)		
2010年9月14日 「秋季音響学会 副座長(アコースティック・イメージング)」		
2010年12月6日～8日 「第31回超音波シンポジウム運営委員」		
2011年2月2日～4日 「テクニカルショウヨコハマ2011出展」(パシフィコヨコハマ)		
2011年3月11日 「春季音響学会 座長(アコースティック・イメージング)」		
「第32回超音波シンポジウム運営委員」(2011年6月17日)		
「JST(A-STEP) 探索タイプ採択」(2011年7月14日)杉本恒美、佐野元昭		
「日本音響学会秋季研究発表会 アコースティックイメージングセッション座長」(2011年9月22日)		
「音響学会アコースティックイメージングセッション座長」(2012年3月13日)		

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、日本文化財科学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、 日本土木学会、日本非破壊検査協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年 7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2005年 6月～2010年6月	日本文化財探査学会評議員
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員

須藤 昭一 (すどう しょういち) 教授



出生年 : 1952(昭和27)年
 在籍 : 2005(平成17)年9月～
 最終学歴 : 金沢大学工学部電子工学科
 学位 : 工学博士(東京大学)
 学位論文 : Studies on the Vapor-Phase Axial Deposition Method for Optical Fiber Fabrication (東京大学 1982年)
 専門分野 : 光ファイバ、IT、医用センサ、脳科学
 前職 : NTTマイクロシステムインテグレーション研究所 所長、NTTエレクトロニクス株式会社技師長
 学内役職等 : 工学部長、工学部ロボット工学科長、知的財産本部長(2012)
 工学部長、知的財産本部長(2010・2011)
 留学 : Stanford University (米国; 1986～1987)
 受賞・表彰 : (社)電子通信学会 学術奨励賞(1979)
 (社)電子情報通信学会 論文賞(1981)
 (社)電子情報通信学会 論文賞(1995)
 (財)光産業技術振興協会 第13回桜井健二郎氏記念賞(1997)
 米国IEEEフェロー賞(1999)
 (社)電子情報通信学会業績賞(2001)
 文部科学大臣賞(2002)

研究活動

2010年度の研究活動概略			
・生体センシング ・脳システム ・コミュニケーションの科学			
2011年度の研究活動概略			
・最新脳科学 ・コミュニケーションの科学			
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(Poster)“Studies on The Effect of Music on The Human Brain Behavior in The Frontal Association Area”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kouichi HATA, Manabu YAMANE and Shoichi SUDO
(Poster)“Studies on the Effect of Laugh on the Human Brain Behavior in the Frontal Association Area”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Manabu YAMANE, Koichi HATA and Shoichi SUDO

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
IEEE、電子情報通信学会、日本医療情報学会

高橋 宗雄 (たかはし むねお) 教授



出生年 : 1944(昭和19)年
 在籍 : 1991(平成3)年10月～
 最終学歴 : 千葉大学工学部電気工学科
 学位 : 工学博士
 学位論文 : ソフトウェアの信頼性評価法に関する研究
 専門分野 : ソフトウェア工学、情報システム学、コンピュータ科学
 前職 : 日本電信電話(株)ソフトウェア研究所主幹研究員
 学内役職等 : 情報・機械工学専攻長、電子情報工学科長
 (2010・2011・2012)
 非常勤講師 : 鳥取大学工学部(1995)
 徳島大学工学部(1997)
 受賞・表彰 : 情報処理学会論文賞(1984)
 日経品質管理文献賞(1991)
 精密測定技術振興財団品質工学賞(論文賞)(1997)
 ISO/IEC JTC1/SC7 Achievement Award(1999)
 情報処理学会標準化貢献賞(2000)
 プロジェクトマネジメント学会論文賞(2006)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
(1)PSP演習の実績データを用いて統計的手法により小規模ソフトウェアに適用可能な工数見積りモデルの導出と評価を行い、その結果をまとめてプロジェクトマネジメント学会春期研究発表大会(2011.3.10)で発表した。(2)腎癌データを用いてニューラルネットワークとラフ集合の組み合わせによる機械学習の予備実験を行い、腎癌診断支援システムの診断精度向上に効果が期待できる見通しを得た。今後は、さらにSVMを導入することによる診断精度向上の効果を確認し、実用に供し得るシステムの構築を目指す。					
2011年度の研究活動概略					
(1)腎癌診断支援システムにSVMを導入することにより診断精度は向上することが確認できたが、同時に腎癌データに誤差が多いと、ニューラルネットワーク単独のシステムに比べてかえって診断精度が低下するという問題があることも分った。SVMの限界を見極めるとともに、データの誤差の影響を受けにくいシステム開発が今後の課題である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「プロジェクトマネジメント」	共著	2012年2月15日	共立出版	高橋宗雄, 江崎和博, 高根宏士, 山田 茂	240頁
(学術論文)					
“Functional Web Component Generation For Visual Web Application Programming”	共著	2011年2月18日	International Journal of Computers and Applications, Vol.33, No.2, 2011	Takao Shimomura, Kenji Ikeda, Muneo Takahashi	pp.167-174
「就職活動のための情報収集における本学学生のインターネットとコミュニケーション・ツールの利用意識」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢第24号	山口大輔, 片山富美代, 佐野元昭, 高橋宗雄	217-222頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“An Approach to GA-driven Automatic Refactoring based on Design Patterns”	2010年8月22日(～27日)	2010 Fifth International Conference on Software Engineering Advances Nice, France	Takao Shimomura), Kenji Ikeda, Muneo Takahashi		

“PSP Practice Support System using Defect Types based on Phenomenon”	2011年1月27日 ～ 29日	THE SIXTEENTH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ARTIFICIAL LIFE AND ROBOTICS (AROB 16th '11) B-Con Plaza, Beppu, Oita, Japan	Daisuke Yamaguchi, Ayahiko Niimi , Fumiyo Katayama , Muneo Takahashi
「PSP演習におけるPROBE法の適用とその評価」	2011年3月10日、 11日	プロジェクトマネジメント学会 2011年度春季研究発表大会 東洋大学 白山キャンパス	市川祥之, 山口大輔, 高橋宗雄

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
電子情報通信学会、情報処理学会、日本品質管理学会、プロジェクトマネジメント学会

飯 島 健太郎 (いじま けんたろう) 准教授



出 生 年 : 1969(昭和44)年
 在 籍 : 2002(平成14)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京農業大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程
 修了
 学 位 : 農学博士、造園学修士
 学 位 論 文 : 緑化用植物としてのSedumの生育特性の解明に関する研究
 専 門 分 野 : 造園学、都市緑化、環境植栽学
 前 職 : 東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手
 学 内 役 職 等 : 学生部副部長(2010・2011・2012)
 資 格 : 学芸員資格
 受 賞 ・ 表 彰 : 大日本農会賞(1992年3月)
 日本造園学会賞・研究奨励賞(2003年5月)
 道路緑化保全協会菊池奨励賞(2008年5月)
 日本造園学会賞(研究論文部門)(2011年5月)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
福祉と環境分野の社会的ニーズに鑑み、屋上・壁面緑化による暑熱環境緩和効果ならびに節電効果、遮熱塗料における住宅の断熱効果、改良型人工芝を用いた輻射熱軽減効果、野草を用いた土壌中の重金属除去ならびにその指標化、室内における植物の配置と癒し効用、高齢者に対する園芸療法による心理的・身体的効用の検証に取り組み、そのほとんどは企業等からの受託研究により実施した。					
2011年度の研究活動概略					
前年度と同様、福祉と環境分野の社会的ニーズに鑑み、受託研究、寄付金研究を誘致して研究活動を進めた。内容は、屋上・壁面緑化による暑熱環境緩和効果ならびに節電効果、仮設住宅におけるグリーンカーテンによる冷涼効果、改良型人工芝を用いた輻射熱軽減効果、大橋JCT巨大構造物の熱環境特性の調査、国内緑化用植物の生産量調査、緑化用植物の品種改良、高齢者に対する園芸療法による心理的・身体的効用の検証である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「東南アジア主要都市の環境緑化とグラウンドカバープランツ」	単著	2011年3月	芝草研究39(2)	-	113-126頁
「屋内緑化の効用と演出手法」	単著	2011年6月	桐蔭論叢24号	-	185-196頁
「屋上等の薄層軽量緑化を可能とするセダム類の生理生態の解明に関する研究」	単著	2011年7月	ランドスケープ研究75(2)	-	124-127頁
「コンテナ緑化とグラウンドカバープランツ」	単著	2011年10月	芝草研究40(1)	-	1-11頁
「サーモスケープから見た都市緑化とグラウンドカバープランツ」	単著	2012年3月	芝草研究40(2)	-	105-119頁
(学術論文)					
“On the Insulating Effect and Air Temperature Moderation by Planting From In Rooftop Gardening”	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢22号	Tetsuro YOKOBORI , Shiro WAKUI , Kentaro IIJIMA	pp.43-49
“Effect of Wall Greenery on Improving the Thermal Environment”	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢22号	Nobuaki ISHII , Shiro WAKUI , Kentaro IIJIMA	pp.51-54
“Psychological Effect of Horticultural Therapy on Elderly People in the Nursing Home”	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢22号	Masashi TAKEUCHI , Shiro WAKUI , Kentaro IIJIMA	pp.55-58

「薄層緑化が夏期の折板屋根へもたらす暑熱環境緩和効果について」	共著	2011年3月	芝草研究39(2)	石井伸明、梅原沙和子、涌井史郎、北島信行、内山直明、佐藤忠継、 飯島健太郎	127-131頁
“Thermal Intercept Effect of Formed Ceramic Paint on House”	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢24号	Jun ARAKAWA・Shiro WAKUI・Hideo KOYAMA・Takahiko TSUKAMOTO・Takashi ODA・ Kentaro IJIMA	pp.131-136
“Comparison of Effects of Heat Environment easing by Rooftop Gardening that uses Shrub Tree with Different Height”	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢24号	Tetsuro YOKOBORI, Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA	pp.137-142
“Effects of Wall Greening Panels Planted Shrubs on Improving the Thermal Environment ”	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢24号	Nobuaki ISHII, Shiro WAKUI, Tadatsugu SATO, Kentaro IJIMA	pp.143-148
“Effect of improving the Thermal-environment and Energy-saving Effect of Room By the Sheet Roof Planting ”	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢24号	Ken KANAZAWA, Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA	pp.149-152
“Growth Reaction for Plants Sensor that the Several Plant Planted on Pb Pollution Soil”	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢24号	Yuichi SUGANO, Shiro WAKUI, Shigeo MORINAGA, Toshimitsu ASAI, Shuzo TOROBU, Susumu YOKOTSUKA, Kentaro IJIMA	pp.153-158
「配置位置の異なる小型観葉植物による心理的効用の比較」	共著	2011年10月	芝草研究40(1)	八郷隆太、涌井史郎、 飯島健太郎	37-42頁
「チャンパー内においたセダム類とコウライシバによる二酸化窒素除去能について」	共著	2012年3月	ランドスケープ研究75(5)	浅井俊光、田中麻美、 飯島健太郎 、水庭千鶴子、近藤三雄	399-402頁

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(口頭発表) “The Role of Greenery in Urban Environments in Relieving Stress”	2010年5月21日	国際シンポジウムURBIO 2010 Organizing Committee	飯島健太郎
(口頭発表) 「土壌中の有害物質が与える植物生育反応を指標とした評価手法に関する基礎実験」	2010年6月17日	第16回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究会	土路生修三、菅野裕一、佐々木静郎、村上順也、門倉伸行、 飯島健太郎
(口頭発表) 「植物による重金属等の土壌汚染物質の除去作用とその効果を指標とする生育反応に関する研究」	2010年6月17日	第16回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究会	菅野裕一、涌井史郎、内藤敏、堀川朗彦、森永茂生、 飯島健太郎
(Poster) “The Experiment on Thermal Intercept effect of Formed Ceramic Thermal Intercept Painting Material for Housing”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Jun ARAKAWA, Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA
(Poster) “Effects of Wall Greening Panels Planted Shrubs on Improving the Thermal Environment”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Nobuaki ISHII, Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA
(Poster) “Thermal-environment relieve effect and energy-saving effect are due to verification by the sheet roof planting”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Ken KANAZAWA, Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA
(Poster) “Stress reaction to Several Plant on Pb Pollution soil”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Yuichi SUGANO, Shiro WAKUI, Shigeo MORINAGA, Hiroya TANAKA, Toshimitsu ASAI, Kentaro IJIMA
(Poster) “The inspection about the summer heat environment relaxation effect according to the planting height of the tree in the roof tree planting”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Tetsuro YOKOBORI, Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA

(ポスター)“Growth Reaction for Plants Sensor that The Several Plant Planted on Pb Pollution Soil”	2011年3月29 ~30日	BioPharma Asia 2011	Kentaro IJIMA, Shiro WAKUI, Shigeo MORINAGA, Yuichi SUGANO, Takashi KIKUCHI, Toshimitsu ASAI, Shuzo TOROBU, Susumu YOKOTSUKA, Satoshi NAITO
(口頭発表)「Pb含有土壌へ供試した植物の吸収能及び生育反応に関する実験」	2011年6月16日	第17回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会	菅野裕一、涌井史郎、森永茂生、横塚享、内藤敏、 飯島健太郎
「模擬汚染土壌を用いた植物体への重金属吸収能と生育反応に関する実験」	2011年9月7日	土木学会平成23年度全国大会 愛媛大学 城北キャンパス	土路生修三、横塚享、村上順也、佐々木静郎、門倉伸行、涌井史郎、菅野裕一、森永茂生、 飯島健太郎
(Poster)“The Effect of The Stress Relaxation by Pot Plants in Indoor Space”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Ryuta HACHIGOU, Shiro WAKUI and Kentaro IJIMA
(Poster)“Effect of Improving the Thermal Environment by Compounded of Sheet Roof Planting and Facade Planting”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Ken KANAZAWA, Shiro WAKUI and Kentaro IJIMA
(Poster)“Stress reaction to Several Plant on Pb Pollution Soil”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Yuichi SUGANO, Shirou WAKUI, Shigeo MORINAGA, Toshimitsu ASAI, Kentaro IJIMA
“Experiments on the Cr absorption ability and growth reaction of plants in Cr6+ contained soil”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	横山和憲、涌井史郎、 飯島健太郎 、森永茂生、土路生修三、横塚享、内藤敏
「六価クロム汚染土壌における商物の重金属吸収能と生育の基礎研究」	2012年3月27日	日本化学会第92春季年会 慶応義塾大学日吉キャンパス	横山和憲、菅野裕一、涌井史郎、土路生修三、内藤敏、横塚享、 飯島健太郎 、森永茂生
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「園芸療法の理論と演習」	2010年7月27日	雇用能力開発機構 資格講座 講義 / 訪問介護員養成講座 (委託・緑成会緑の郷)	緑成会緑の郷
「サボテンと緑化利用」	2010年9月25日	山形大学勉強会にて講話	かみのやま温泉
「屋上・壁面緑化の最新事情、GCPの現状と課題」	2010年10月27日	日本植木協会コンテナ部会、 国内研修会講演	東京都内
「屋上緑化の多様性と期待される効果」	2010年11月9日	薄層屋上緑化技術協会屋上 緑化講演会講演	東京国際フォーラム
「園芸療法の理論と演習」	2011年2月17日	雇用能力開発機構 資格講座 講義 / 訪問介護員養成講座 (委託・緑成会緑の郷)	緑成会緑の郷
「室内緑化の心理的効用」	2011年3月12日	東京都議会 オフィス室内緑 化調査研究ミーティング・講演	中野サンプラザ
「屋上等の薄層緑化を可能とするセダムの生理生態の解明に関する研究」	2011年5月21日	日本造園学会賞 受賞者講演	東京農業大学
「自然とふれあうまちづくり」	2011年7月30日	みどりの東北元気プログラム 実行委員会 みどりの東北元 気キャンプにて講話	小野川湖キャンプ場
「園芸療法の理論と演習」	2011年9月8日	雇用能力開発機構 資格講座 講義 / 訪問介護員養成講座 (委託・緑成会緑の郷)	緑成会緑の郷
「緑化と節電の最新事情について」	2011年10月6日	日本植木協会	日本植木協会コンテナ部会、 国内研修会講演

その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
日本造園学会賞・研究論文部門「屋上等の薄層緑化を可能とするセダム類の生理生態の解明に関する研究」	2011年5月21日	日本造園学会	飯島健太郎
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
土壌汚染サイト修復後の安全安心のための植物を用いた視覚化技術に関する研究	2010年4月～2011年3月	(株)熊谷組	
遮熱・断熱塗料による断熱効果の性能比較検証研究	2010年7月～2011年3月	(株)日進産業	
折板屋根の薄層緑化がもたらす暑熱環境緩和効果	2011年8月～2012年3月	イピデングリーンテック(株)	
環境緑化用コケの品種改良	2011年8月～2012年3月	東鉄工業(株)	
環境緑化用コケの品種改良	2011年8月～2012年3月	(株)モス山形	
復興仮設住宅に設置したグリーンカーテンによる暑熱環境緩和効果に関する研究	2011年8月～2011年12月	(株)東急住生活研究所	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
熱帯植物園、熱帯地方の都市緑化調査	2010年9月9～17日	シンガポール、マレーシア、インドネシア	
BioPharma2011にて、ポスター発表	2011年3月29～30日	シンガポール	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本多肉植物の会、日本造園学会、日本緑化工学会、日本芝草学会、日本ウェルネス学会、日本プロメリア協会、日本生理人類学会、人間植物関係学会、国際多肉植物協会、Sedum Society	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年4月～現在	国際多肉植物協会日本支部(ISIJ)総合学術委員
2001年9月～現在	NPO 法人日本多肉植物の会 顧問
2004年1月～現在	日本緑化工学会論文校閲担当
2005年4月～現在	(社)日本造園学会ランドスケープ建設技術研究委員会幹事
2005年4月～現在	薄層緑化技術向上協会技術顧問
2006年4月～現在	日本造園学会代議員
2006年10月～現在	日本芝草学会編集委員
2006年10月～現在	日本芝草学会グラウンドカバープランツ緑化部会部会長
2006年12月～現在	(社)日本インドア・グリーン協会活性化検討特別委員会委員
2007年10月～現在	(社)日本造園学会校閲担当
2008年7月～現在	日本芝草学会学術担当理事
2009年4月～現在	(財)日本公園緑地協会 公園緑地 有識者校正委員
2009年7月～現在	首都高速大橋ジャンクション周辺緑化アドバイス会議アドバイザー
2009年9月～現在	低炭素社会における高速道路空間のあり方に関する研究委員会委員
2010年1月～現在	(財)環境情報科学センター、平成21年度ヒートアイランド現象による環境影響等に関する調査業務委員
2011年4月～現在	高速道路調査会 高速道路のグリーンマネージメント委員会委員(～現在に至る)
2011年4月～現在	神奈川県公園等審査会委員(～現在に至る)

吉田 清 範 (よしだ きよのり) 准教授



出 生 年 : 1949(昭和24)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学大学院修士課程
 学 位 : 工学博士
 学 位 論 文 : 初等的図形の交差判定法 計算法及び計算精度の立場から
 専 門 分 野 : 量子光エレクトロニクス
 前 職 : 山梨大学助手

研究活動

2010年度の研究活動概略					
・レーザーリング ・近接場光学					
2011年度の研究活動概略					
量子ブラウン運動は調和振動子熱浴に接触する調和振動子の散逸運動としてモデル化されるが、熱浴自由度の無限大移行に問題があり、単純マルコフ近似の場合でさえ矛盾のない無限大移行が困難で“繰りこみ”が必要である事が分かった。量子ブラウン運動熱力学第2法則破綻説が2000年頃から現れ続けているので、今後も議論を深めていきたい。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「熱浴による調和振動子の減衰のビームスプリッター表現」	単著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	-	207-208頁

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
応用物理学会

山口大輔 (やまぐち だいすけ) 助教



出生年 : 1975(昭和50)年
 在籍 : 2007(平成19)年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻修了
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : Study on Autonomous Learning System Based on Intelligent Multiagent Techniques and its Applications
 専門分野 : 知能情報学、ソフトウェア工学
 学内役職等 : 工学系AO副委員長
 資格 : 高等学校教諭一種免許状(数学)、中学校教諭一種免許状(数学)、中学校教諭一種免許状(技術)、高等学校教諭専種免許状(数学)、中学校教諭専種免許状(数学)、初級システムアドミニストレーター
 受賞・表彰 : IEEE SMC HIROSHIMA CHAPTER Incentive Award

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
moodleを用いた授業支援システムの提供	2010年4月12日 ～2011年2月15日	工学部並びに法学部の情報処理系講義でのeLearningシステムとして課題、出席、試験を含む教育コミュニケーションサービスの提供
外部SNSサービス利用での公式アカウント設置	2010年9月28日 ～2011年3月15日	工学部プログラミングII並びに法学部情報処理IIにおいて外部サービスでの公式アカウントを解説し、課題、出席、掲示を含む教育コミュニケーションサービスの提供
2.作成した教科書、教材、参考書		
wikiを用いた講義ノート	2010年9月28日 ～2011年3月15日	学内サブドメインintlabにおいてpukiwiki, mediawikiを通じて、学生が講義ノートを取れるよう教材としてサービス提供した
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
SNS利用におけるリテラシー教育	2010年9月28日 ～2011年3月15日	Twitter, Facebookなど学外サービスを含むSNSのサービス加入と利用に関する講義と演習の実施
外部講師による特別講演	2010年4月12日 ～2011年3月15日 (全6回)	東京BasicTechnology勉強会、GenesisLightningTalks、Azabu.gemなどのIT系勉強会と日本オラクル株式会社、株式会社ディー・エヌ・エーなど企業を招いて先端的ICT技術講演を行って頂いた。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
前年に引き続き、マルチエージェントシステムをベースとしたパーソナルソフトウェアプロセスでの演習支援システムの開発に着手した。本年は、フレームワークに記述のある拡張された型エラーの適応範囲の確認並びに新規型番号の検討を実施した。また、北里大学、東京情報大学の3大学共同で実施の研究テーマである「泌尿器科で取り扱う癌の予測診断」の支援システムの改良にも着手した。これまで用いていた強化学習にラフ集合論を組み合わせた学習効率の最適化にも取り組んだ。					
2011年度の研究活動概略					
前年に引き続き、マルチエージェントシステムをベースとしたパーソナルソフトウェアプロセスでの演習支援システムの開発に着手した。本年は、Android端末を利用した開発現場に適した作業環境構築方法の検討を実施した。その際、公立はこだて未来大学と複数の企業やIT系勉強会に協力を依頼し、研究開発が開発現場の実情にあうよう、インターフェースの面でも最適化に取り組んだ。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「情報倫理(第4版)」	共著	2010年9月1日	桐蔭横浜大学出版	倉持内武、浅見秀雄、山口大輔	41-57頁

(学術論文)					
“The Medical Diagnostic Support System using Extended Neural Network Based on Intelligent Multiagent Techniques”	共著	2010年12月8日	Proceedings of The 5th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 11th International Symposium on Advanced Intelligent Systems 2010	Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi	pp.1341-1342
“PSP Practice Support System using Defect Types based on Phenomenon”	共著	2011年1月27日 (～29日)	Proceedings of THE SIXTEENTH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ARTIFICIAL LIFE AND ROBOTICS	Daisuke Yamaguchi, Ayahiko Niimi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi	pp.435-438
「就職活動のための情報収集における本学学生のインターネットとコミュニケーション・ツールの利用意識」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢第24号	山口大輔, 片山富美代, 佐野元昭, 高橋宗雄	217-222頁
“The PSP Low Layer Practice Support used on The Android Personal Digital Assistant”	共著	2012年1月18日 (～21日)	Proceedings of The 17th International Conference on Artificial Life and Robotics	Daisuke Yamaguchi, Ayahiko Niimi	pp.226-229
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
「エージェント指向を用いたPSP演習支援システムのエラー型詳細設計」	2010年9月13 ～15日	日本知能情報ファジィ学会第26回ファジィシステムシンポジウム(広島大学 東広島キャンパス)	山口大輔, 塩谷啓, 新美礼彦, 高橋宗雄		
「ラフ集合を用いた医療診断データフィルタリングにおけるエージェント学習機能のためのニューラルネットワーク構築」	2010年9月13 ～15日	日本知能情報ファジィ学会第26回ファジィシステムシンポジウム(広島大学 東広島キャンパス)	山口大輔, 片山富美代, 高橋宗雄		
「PSP演習におけるPROBE法の適用とその評価」	2011年3月10 ～11日	プロジェクトマネジメント学会2011年度春季研究発表大会(東洋大学 白山キャンパス)	市川祥之, 山口大輔, 高橋宗雄		
「SNS利用におけるリテラシー教育」	2011年8月10日	公益社団法人 私立大学情報教育協会「平成23年度ICT利用による教育改善研究発表会」(東京理科大学)	山口大輔, 片山富美代, 佐野元昭, 高橋宗雄		
「Android携帯端末を用いたPSP演習ベースラインプロセス支援」	2011年9月12日 (～14日)	日本知能情報ファジィ学会第27回ファジィシステムシンポジウム(福井大学)	山口大輔, 新美礼彦, 高橋宗雄		
(Poster)“An Application of PROBE Method to PSP Exercises and Its Evaluation”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Yoshiyuki ICHIKAWA, Daisuke YAMAGUCHI and Muneo TAKAHASHI		
「企業SNSを利用した就職広報に対する大学生への指導方法の展望」	2011年11月7 ～8日	電子情報通信学会第二種研究会Webインテリジェンスとインタラクション研究会第21回(大阪大学中之島センター)	山口大輔, 丸山達也		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「プロセス改善～個人で取り組むソフトウェア工学～」	2011年8月16日	公立はこだて未来大学	公立はこだて未来大学 R791		

その他
(その他特記事項)
2010年7月29日 (資格取得)「.com Master 2010」(NTTコミュニケーションズ株式会社)
「夏休み期間中の大学施設利用」(2011年8月15日～19日)
“The 17th International Conference on Artificial Life and Robotics GS10 Data Mining I Session Chair”

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
人工知能学会、日本知能情報ファジィ学会、IEEE、IEEE SMC、IEEE Computer、ソフトコンピューティング研究会SENSE勉強会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2008年12月～現在	ソフトコンピューティング研究会SENSE勉強会東京版 幹事	
2011年4月～現在	日本知能情報ファジィ学会学会誌編集委員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
株式会社万葉においての「とびだせ！mixiアプリ勉強会」運営	2010年4月14日	東京BasicTechnology勉強会
楽天株式会社においての「情熱プログラマー読書会」運営	2010年4月28日	東京BasicTechnology勉強会
日本オラクル株式会社においての「勉強会夏祭り2010」運営	2010年7月17日	東京BasicTechnology勉強会、日本電子専門学校電設部
日本オラクル株式会社においての「GLT×とべとべ×DevLOVE LT祭り ～5分で世界を凌駕せよ～」運営	2010年11月6日	東京BasicTechnology勉強会、GenesisLightningTalks、DevLove

ロボット工学科 (Department of Robotics and Bio-mechatronics)

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : A Study of Macbeth
 専 門 分 野 : 英文学
 前 職 : 静岡大学助教授
 受 賞・表 彰 : 市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
学習支援センター(インディ・カフェ)の管理運営	2005年4月～現在	学習支援センターのスタッフ指導、補習日程の決定、補習指導など。
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当

研究活動

2010年度の研究活動概略
エリザベス朝演劇研究:ベン・ジョンソンのTimber or Discoveries 研究 時事英語研究
2011年度の研究活動概略
エリザベス朝演劇研究:ベンジョンソンのThe Forest. 研究 時事英語研究:時事英語記事に現れる教養としての文学表現について

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2004(平成16)年7月～
 最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位：博士(学術)、修士(看護学)
 学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究(博士論文)
 専門分野：基礎看護学、健康心理学
 前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
 資格：看護師免許、専門健康心理士資格
 受賞・表彰：日本ヒューマ・ケア心理学会第一回学会論文賞
 (2011年7月)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
コトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究、運動部活動の適応と精神的健康に関する研究					
2011年度の研究活動概略					
コトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究、慢性疾患患者の病気対処構造に関する研究					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「看護・介護・保育の心理学シリーズ4 生活の質を高める教育と学習」	共著	2011年1月16日	新曜社	廣瀬清人(編者)	131-144頁
(学術論文)					
「血液透析患者の病気認知が病気適応に及ぼす影響」	共著	2010年5月31日	ヒューマン・ケア研究 第11巻1号	片山富美代、小玉正博、長田久雄	21-31頁
「大学野球部のやる気と部活動適応、精神的健康の関係」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	片山富美代、齊藤博久、竹内正顯	209-215頁
「健康指標値としてのコトコフ音の活用法に関する検討、-上腕部および指尖部波形の解析-」	共著	2011年6月16日	桐蔭論叢 第24号	小山賢太郎、杉本恒美、片山富美代	239-243頁
「就職活動のための情報収集における本学学生のインターネットとコミュニケーション・ツールの利用意識」	共著	2011年6月16日	桐蔭論叢 第24号	山口大輔、片山富美代、佐野元昭、高橋宗雄	217-222頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「大学野球部一年生の部活動適応と精神的健康の関係」	2010年7月18日	日本ヒューマン・ケア心理学会 第12回大会	片山富美代、平野賢志		
「SNS利用におけるリテラシー教育」	2010年8月10日	公益社団法人 私立大学情報教育協会「平成23年度ICT利用による教育改善研究発表会」(東京理科大学)	山口大輔、片山富美代、佐野元昭、高橋宗雄		
“Study on the health index value using the waveform of the Korotkoff sounds”	2010年8月24日	The 20th International Congress on Acoustics, (ICA 2010), Sydney Convention Centre	Tsuneyoshi Sugimoto, Fumiyo Katayama		
「ラフ集合を用いた医療診断データフィルタリングにおけるエージェント学習機能のためのニューラルネットワーク構築」	2010年9月13日	Fuzzy System Symposium 2010(広島大学)	杉本恒美、片山富美代		

「コロトコフ音解析における循環機能検査,-高齢者の波形解析-」	2010年9月14日	日本音響学会春季研究発表会(関西大学)	杉本恒美、片山富美代
「コロトコフ音の波形解析による循環機能検査に関する研究-若年者と高齢者の波形比較-」	2010年10月30日	日本超音波医学会・関東甲信越地方会第22回大会(東京ファッションタウン(TFT)ビル東館9階906号室)	杉本恒美、片山富美代
“Study on the Healthy index value by the Korotkov's sound analysis”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Paulownia Hall, Toin memorial academium B2F	Kentaro Koyama, Tsuneyoshi Sugimoto, Fumiyo Katayama
“The Medical Diagnostic Support System using Extended Neural Network Based on Intelligent Multiagent Techniques”	2010年12月8日	The 5th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 11th International Symposium on Advanced Intelligent Systems 2010, Okayama Convention Center, Okayama, Japan	Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama , Muneo Takahashi
“PSP Practice Support System using Defect Types based on Phenomenon”	2011年1月27 ~ 29日	THE SIXTEENTH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ARTIFICIAL LIFE AND ROBOTICS (AROB 16th '11), B-Con Plaza, Beppu, Oita, Japan	Daisuke Yamaguchi, Ayahiko Niimi, Fumiyo Katayama , Muneo Takahashi
「コロトコフ音解析における循環機能検査,-上腕部と指尖部の波形比較-」	2011年3月11日	日本音響学会春季研究発表会(早稲田大学)	小山賢太郎、片山富美代、杉本恒美
「コロトコフ音解析による健康指標値に関する検討上腕部と指尖部の波形比較」	2011年4月30日	第50回日本生体医工学会(東京電機大学第7号館5F)	杉本恒美、小山賢太郎、片山富美代
「精神的健康を支える運動部の部活動適応の要因」	2011年7月23日	日本ヒューマン・ケア心理学会第13回大会	片山富美代、竹内正顯
“Study on the Healthy Index Value by the Korotkoff Sound Analysis -A comparison with the waveform acquired from an arm model-”	2011年11月5日	6th TOIN INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOMEDICAL ENGINEERING Toin University of Yokohama, Yokohama	K.Koyama, T.Sugimoto, F.Katayama
「コロトコフ音解析における循環機能検査-腕モデルを用いた波形比較-」	2012年3月14日	音響春季研究発表会 神奈川大学	杉本恒美、小山賢太郎、片山富美代
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
日本ヒューマン・ケア心理学会第1回学会論文賞記念講演	2011年7月24日	日本ヒューマン・ケア心理学会第13回大会	大阪市立大学阿部野キャンパス
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
第1回学会論文賞(血液透析患者の病気認知が病気適応に及ぼす影響)	2011年7月24日	日本ヒューマン・ケア心理学会	片山富美代、長田久雄、小玉正博
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金 基盤研究(C)、「コロトコフ音の波形解析による新たな健康管理指標の検討」	2008年4月~2011年3月	日本学術振興会	
科学研究費補助金 基盤研究(C)、「コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究」	2011年4月~2104年3月	日本学術振興会	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
任期、活動期間等	学会等における役職等
日本看護研究学会、日本カウンセリング学会、日本健康心理学会、日本教育工学会、日本ヒューマン・ケア心理学会	
2007年12月～2012年4月	日本健康心理学会広報・ニューズレター編集委員

森 下 武 志 (もりした たけし) 准教授



出 生 年 : 1967(昭和42)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学 位 : 博士(工学)
 学 位 論 文 : 小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専 門 分 野 : ロボット工学、教育工学
 前 職 : 神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学 内 役 職 等 : 学生部副部長(2012)
 留 学 : 東京大学大学院知能機械情報学系研究科情報システム工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 受 賞・表 彰 : 3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サンフランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)課外活動において各種ロボットコンテストへの取り組み支援・指導	2007年9月～2012年3月	NHKロボコン、ヒューマノイド、マイコンカー等各種競技技術指導および運営支援
(2)ゼミ生全員に対して、外部マイクロロボット国際大会参加への指導	2008年4月～2012年3月	大会準備の実践的、体験的工学教育と大会を通じた国際規模の人達との交流教育実践
(3)スポーツ系学生に対する運動解析手法の授業展開	2008年9月～現在	自分自身や他者の運動をビデオ映像によって解析する手法の展開と教授
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:運動とメカニズム教材	2008年9月～現在	動画像記録設備の整備と、動画解析システムの操作、解析方法指導資料の新規作成
(2)科目:ロボット工学用教材	2009年4月～現在	授業計画書、演習課題の新規作成
(3)科目:工学基礎実験教材・テキストの改訂	2009年4月～現在	実験マイコン基板の製造と実装を専門メーカーで行い時間短縮と信頼性を確保
(4)科目:ロボット実験	2010年4月～現在	ロボットの制御に必要な信号増幅、ADC、デジタル情報処理、プログラミングを行える実習装置とテキストの開発

研究活動

2010年度の研究活動概略
小型両眼視覚ロボット 知能ロボットシステム マイクロメカニズム 福祉環境工学
2011年度の研究活動概略
システム統合学 福祉環境エンジニアリング 美容と健康エンジニアリング

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「消化管内カプセルのための多方向推進力発生型アクチュエータの開発」	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	小柳拓人, 森下武志, 伊藤高廣, 林輝	129-134頁
「4脚ロボットにおける腹ばい歩容と鱗の影響 - 生物が進化の過程で獲得した機能をふりかえりながら新たな発見をめざす - 」	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	森田由香里, 森下武志	135-140頁
“Inverse Kinematics Algorithm based on Fuzzy Control Model”	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	Osamu Tojo , Takeshi Morishita	pp.129-134
「産学・高大連携という4者の枠組みから生み出される新たな技術教育の展開をめざして」	単著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	森下武志	97-102頁
“Creating Attraction for Technical Education Material and Educational Benefit”	単著	2011年10月20日	Journal of Robotics and Mechatronics Vol.23 No5	Takeshi Morishita	pp.665-675
“Inverse Kinematics using Fuzzy Logic and its Application”	共著	2010年11月5日	Proceedings of TOIN International Symposium on	Osamu TOJO, Takeshi MORISHITA	p.117
“Method for Integer Inverse Kinematics and its Application”	共著	2010年11月23日	Proceedings of The 7th International Conference on Ubiquitous Robots and Ambient Intelligence (URAI 2010)	Osamu TOJO, Takeshi MORISHITA	pp.233-236
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「福祉支援者支援のための生活環境振動計測と生活状態推定情報発信システム」	2010年6月15日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'10	熊田 明央, 森下武志		
「鱗を備えた腹ばいロボットの歩行における弾性効果の影響」	2010年6月15日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'10	森田由香里, 森下武志		
「上下対称型ロッカボギーリンク移動機構による昇段能力の調査」	2010年6月15日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'10	大島 悠, 森下武志		
「ファジィ論理を用いた整数逆運動学の提案とその適用」	2010年6月16日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'10	東條純, 森下武志		
「3次元という魅力を取り入れたものづくり教材」	2010年9月22日	日本ロボット学会学術講演会'10	森下武志		
(Poster)“Inverse Kinematics using Fuzzy Logic and its Application”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Osamu TOJO, Takeshi MORISHITA		
「整数逆運動学の運動学再現性と離散化に関する調査」	2011年5月27日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'11	東條純, 松下幸平, 森下武志		
「高齢孤立化社会支援のための安否情報発信システムを活用する次世代型コミュニティモデル」	2011年5月28日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'11	津田裕也, 熊田 明央, 神奈川県高齡福祉課, 鈴木秀志, Emily Ra, 森下武志		
「ロボット技術を活用した近未来実現可能な次世代地域社会ネットワークモデルの紹介と県管住宅を用いた福祉支援者の支援を含む単居高齡世帯支援システム予備実験中間報告」	2011年9月8日	日本ロボット学会学術講演会'11	津田裕也, 熊田 明央, 神奈川県高齡福祉課, 鈴木秀志, Emily Ra, 森下武志		

「魅力づくりをめざすものづくり教材の模擬授業実践と評価」	2011年9月8日	日本ロボット学会学術講演会'11	大島 悠, 森下武志
「ステレオビジョンと3D CAD/CAMを用いたものづくり教材の開発」	2011年9月18日	日本教育工学会第26回全国大会	森下武志
講演会・研究会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研究会等名	開催場所
(招待講演)福祉支援者支援を含めた要介護者生活状態の情報発信と次世代型地域社会	2011年7月6日	テクノトランスファinかわさき2011 主催:公益財団法人神奈川産業振興センター、神奈川県、川崎市	かながわサイエンスパーク
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
神奈川県知事賞	2011年3月14日	神奈川県	森下武志
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
福祉支援者支援のための要介護者生活状態情報発信スマートシステムの研究	2011年4月～2012年3月	神奈川県	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
平成22年度大学発・政策提案制度	2011年4月～2012年3月	共同事業費	
ロボット産業振興会議	2010年4月～2011年3月	平成22年度ロボットFS支援事業助成金	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
The 8th International Conference on Ubiquitous Robots and Ambient Intelligence (URAI 2011)	2011年11月23日～26日	Songdo ConvensiA(韓国)	
The 6th International Conference on Ubiquitous Robots and Ambient Intelligence (URAI 2010)	2010年11月24日～27日	BEXCO (韓国)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
県、団地や特養出運用桐蔭横浜大とモデル事業	2010年9月17日	日本経済新聞	
介護従事者の負担軽減へ 高齢者の安否確認でモデル事業	2010年10月25日	神奈川新聞	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本ロボット学会、日本機械学会、日本教育工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～2010年9月	日本ロボット学会 学術講演会実行委員
2009年4月～2010年9月	日本ロボット学会 ロボット教育専門委員会委員
2009年5月～2010年9月	日本ロボット学会 会員5000名拡大計画委員会 若年層啓発活動WG委員
2011年7月～現在	日本ロボット学会RSJ「ロボット教育論文特集号」拡大査読委員会委員
2011年9月	日本ロボット学会学術講演会ロボット教育セッション 座長
2010年4月～2011年3月	NEDO特別講座(教育)委員会委員

(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
大学発提案制度県政事業の実現に貢献	2011年4月～現在	神奈川県

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

井筒次郎 (いづつ じろう) 教授



出生年 : 1949(昭和24)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学大学院体育研究科修了
 学位 : 修士(体育学)
 学位論文 : 横浜市における社会体育の振興に関する調査研究
 専門分野 : スポーツ教育学、保健体育科教育学、安全教育学
 前職 : 流通経済大学スポーツ健康科学部教授
 学内役職等 : 大学情報センター長(2012)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
保健体育科教育学	2009年9月～	体育・スポーツ専攻学生のための体育科教育学、保健科教育学講義用教科書。学習指導要領の改訂に伴って新たに出版されて。高等学校の「陸上競技」の部分執筆。106-109頁
「学校安全」講義資料	2011年9月～	教職必修科目である「学校安全」16回分の教材を冊子として作成。110頁
4.その他教育活動上特記すべき事項		
大学基準協会大学評価委員会全学評価分科会委員	2010年4月～2011年3月	財団法人大学基準協会による大学評価委員会全学評価分科会委員として委嘱を受ける。

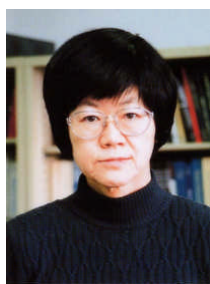
研究活動

2010年度の研究活動概略					
「安全能力」の一つであり、その評価の在り方が問われている「規範・道徳」に着目し、その向上方策の可能性をディベートという方法を用いて検討した。本研究の成果は、『桐蔭論叢』第24号(平成23年6月)65-72頁に掲載されている。					
2011年度の研究活動概略					
トップアスリートの競技観から勝利とスポーツマンシップについて考察を深める。第一段階として、トップアスリートによってあらわされた著書をできる限り収集、読破することに努めた。個々の競技者の競技観から、競技力向上に重要な要因を分析中。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「教員養成課程におけるディベート教育の試み - 論題「危険防止に関するルール違反があった場合、当該クラス全員に罰則を科すべきである」 - 」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	中馬充子、井筒次郎	65-72頁
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
平成22年度高等学校保健体育2年経験者研修講座講師「2年間の振り返りと今後の取り組みの展望」	2010年9月10日	神奈川県立体育センター	神奈川県立体育センター(藤沢市)		
平成23年度品川区立源氏前小学校学校保健委員会講師「学校健康教育の推進策」	2012年2月4日	品川区教育委員会	源氏前小学校(品川区)		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	(財)日本学校保健会健康教育推進学校表彰審査委員会委員
2007年8月～現在	品川区立学校校区外部評価委員長
2008年9月～現在	日本安全教育学会監事
2010年4月～現在	(財)大学基準協会大学評価委員会全学評価分科会委員

河部 裕子 (かわべ ひろこ) 教授



出生年 : 1947(昭和22)年
 在籍 : 1988(昭和63)年4月～
 最終学歴 : 東京大学理学系大学院修士課程
 学位 : 理学博士(理学)
 学位論文 : On the Conjugation of Local Diffeomorphisms Infinitely Tangent to the Identity
 専門分野 : 微分位相幾何学
 前職 : 東京工業大学理学部数学科助手フーリエ研究所(グルノーブル)客員教授(1985.1～6)
 学内役職等 : 研究推進部副部長(2010・2011・2012)
 留学 : M.S.R.I.(カリフォルニア・バークレー・数理学研究所)(1988.8～9)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
数学・数学(工学系学部)	2005年～現在	大学入学時において基礎的数学の習得が不十分な学生を対象に、基礎数学の習得を支援する課目を設置。必修科目として、半数の学生が履修している。少人数対応で演習中心の授業を実施。さらに集団での講義についていけない学生のために、特別に講師の個人指導を実施している。
微分方程式(工学系学部)	2005年～2009年 2010年	工学部の学生を対象に、物理現象・化学現象において考えられる典型的な微分方程式を紹介し、その解法を学ぶことを中心課題とする。到達度別のクラス分けをし、それぞれに適した講義をしている。 工学部募集停止に伴い受講者が減少し、クラス分けを中止。
線形代数学(工学系学部)	2005年～2009年 2010年	工学部においての必須の科目であるが、講義が半期で終了するため後半の固有値の計算は、希望者だけの特別補習となる。到達度別にクラス分けをし、それぞれに適した講義をしている。 工学部募集停止に伴い受講者が減少し、クラス分けを中止。
代数学概論(工学系学部)	2005～現在	工学では必須の「複素数の微分積分学」が中心課題である。Cauchy-Riemannの方程式やCauchyの積分定理までを講義内容とする。
幾何学(工学系学部)	2005年～現在	工学の基礎となるベクトルの微分積分学(初等ベクトル解析)を中心課題とする。高校でベクトルの授業を受けていない学生もいるため、講義はベクトルの四則演算から始める。
算数概論(スポーツ健康政策学部)	2008年～現在 2010年～2011年	小学校教員養成のための講義。将来、小学校教員として教壇に立つ学生のための講義で、講義と演習の形式で進めている。半期のため、内容は詰め込み過ぎるくらいはあるが、必要と思われる内容は提示しようと思う。 学芸大付属竹早小学校より、現任教諭2名に算数の授業を依頼。学生に現場の大変さ・興味深さを体験してもらう。
数学概論(スポーツ健康政策学部)	2010年～2011年	数学の基礎に不安のある学生が受講。演習の形式をとるため、それぞれが自分のペースで進められる良さがある。
数学(スポーツ健康政策学部)	2011年	数学概論の続編・数学基礎を演習形式で修得する。
数学・教材 数学基礎:ブラッシュアップ(学内版)	2005年 2006年 2007年 2009年 2010年 2010年 2011年	数学(基礎数学)の教材として、数学教室で作成。 共著者:河部裕子、土屋信雄、矢作由美 内容の一部を改訂(学生・院生などが協力) 内容の一部を改訂(学生・院生などが協力) 内容の一部を改訂(担当の三浦氏が協力) 内容の一部を改訂(担当の相田氏が協力) 数学概論のテキストとしても使用 内容の一部を改訂(担当の相田氏が協力)

4. その他教育活動上特記すべき事項		
学生会文化部所属A.V.C.部(Audio Visual Computer部)顧問	2005年～現在	

研究活動

2010年度の研究活動概略
2010年1月のKodai Mathematical Journal に発表された結果を、さらに進める作業をした。目標は、holomorphic bubble tree map の gluing をharmonic bubble tree map の gluing につなげる結果を得ることである。
2011年度の研究活動概略
2010年から進めている harmonic bubble tree map の gluing に関して、ある程度の結果を得たので、2012年2月に、Canadian Journal of Mathematics に投稿した。2012年9月1日に掲載可の結果を受けた。Refereeのコメントで、さらに研究を進められそうな感触を感じている。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本数学会、日本数学教育学会

園山和夫 (そのやま かずお) 教授



出生年：1945(昭和20)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：島根大学教育学部教育専攻科教育学専攻修了
 学位：学士(教育学)
 専門分野：保健体育科教育学、健康教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部長(2012)
 スポーツ教育学科長(2010・2011)
 受賞・表彰：日本スポーツ教育学会功労賞

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
多様な方法を用いた授業の展開	2007年～現在	DVD, パワーポイント等を利用した講義、ブレインストーミングやディスカッションなどを用いた授業などの展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
スポーツ指導・実務ハンドブック	2010年4月10日	国際的、国内的なスポーツの動向や法規などを学習するのに役立つテキスト。「生涯スポーツ論」で活用。
教育課程改善への協力	2007年～2010年	学習指導要領改訂協力者委員として解説書作成等に参加。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
学校における保健体育科教育の効果的な展開に関する研究に取り組んでいる。保健体育科教育の本質、目標、学習内容、学習指導、学習評価などがその対象である。併せて、保健体育教師としての資質能力、生涯学習社会におけるスポーツ教育の意義、地域スポーツと学校運動部のかかわりなどについても取り組んでいる。成果は、教育関係の書籍の原稿依頼、各種研修会などの講演依頼などの折に生かしている。					
2011年度の研究活動概略					
2010年度と同様であるが、小学校、中学校で新学習指導要領が全面实施されるため、より学校教育現場とのかかわりを深めた研究活動に取り組んだ。成果は、教育関係の書籍の原稿依頼、各種研修会などの講演依頼などの折に生かしている。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「スポーツ指導・実務ハンドブック」	共著	2010年4月10日	道和書院	園山和夫 他(執筆分担)	213-311頁
(総説・論説)					
「不審者対策・危機管理」	単著	2010年6月3日	教職研修総合特集	-	70-73頁
「学校管理職選考要点整理」	単著	2011年6月3日	教職研修総合特集	-	1-410頁
(学術論文)					
「疑似スポーツが世代間交流に果たす役割」	共著	2011年8月31日	人間工学V0147	栗山裕、橋下友茂、園山和夫、山下利之	61-66頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「地域スポーツ振興と体育指導委員の役割」	2011年11月25日	第51回全国体育指導委員研究協議会(文部科学省)	全体会コーディネーター：園山和夫		

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「小学校における体育学習の考え方・進め方」 (教員免許更新講習会)	2011年8月8日 ～29日	公益社団法人日本一輪車協会、開催地教育委員会	大分県、大阪府、奈良県、茨城県、千葉県
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
日本体育協会・日本オリンピック委員会創立 100周年功労者表彰	2011年7月16日	記念事業実行委員会	園山和夫
(その他特記事項)			
スポーツ基本法制定時における各政党役員によるヒアリングに対応(2009年～2011年:自由民主党、公明党、民主党)			
スポーツ基本法制定時における文部科学省のヒアリングに対応(2011年:文部科学副大臣及び政務官)			
スポーツ基本計画策定に向けた中央教育審議会のヒアリングに対応(2011年:スポーツの推進に関する特別委員会)			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年4月～現在	公益財団法人日本スポーツクラブ協会理事	
2008年4月～現在	公益財団法人日本体育協会評議員	
2008年6月～現在	公益社団法人全国スポーツ推進委員連合専務理事	
2008年6月～現在	公益財団法人スポーツ安全協会理事	
2008年10月～現在	公益財団法人日本レクリエーション協会評議員	
2009年4月～現在	体育の日ポスター・標語選定審査委員(文部科学省・日本体育協会)	
2010年4月～現在	公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会専務理事	
2011年4月～現在	公益財団法人日本体育協会総合企画委員会財務部会委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
月刊誌「みんなのスポーツ」編集責任者	2008年4月～現在	公益社団法人全国スポーツ推進委員連合機関紙

角 替 弘 規 (つのがえ ひろき) 教授



出 生 年 : 1969(昭和44)年
 在 籍 : 1997(平成9)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科
 学 位 : 修士(教育学)
 学 位 論 文 : イギリスの大学における学術研究体制に関する研究 - 教育
 改革以降の財源配分方法を中心に -
 専 門 分 野 : 教育社会学
 資 格 : 高等学校教諭一種免許状(英語)
 中学校教諭一種免許状(英語)
 非 常 勤 講 師 : 金沢大学(2000)、国立音楽大学(2002～2008)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教職課程科目「総合演習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	「総合演習」においては常に教育実践を念頭において、学生たちに自ら考えさせ知的活動をさせることを念頭に、いた授業を展開できるよう配慮している。「総合演習」では学生数名(2～6名)のグループをつくり、環境問題や青少年文化等それぞれの関心に応じてテーマを設定させ、授業形式の発表を行わせることによって教材研究の方法や討議の方法、発表の仕方などを身につけさせるようにしている。テーマ設定においてはワークショップ的な作業を行わせることによって関心とテーマの明確化やテーマに関する資料収集、調査の計画立案を効率的に立てられるよう工夫した。また個別に学生の事前の発表準備などの相談にのり、教材研究の方法に関するアドバイスなどを行っている。
教職課程科目「事前・事後指導」「教育実習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	教職課程科目「事前事後指導」は教育実習に先立って行われる演習形式の授業である。最初の段階では教育実習についての視聴覚教材を視聴させ教育実習の具体的なイメージを抱かせ、かつそれに対する心構えを形成させている。続いて、各学生が取得しようとする教員免許の教科に対応した指導案の作成を指導する。また生徒の問題行動への対応、実践的な内容に焦点を絞ったディスカッションを行い実習に備えている。「事後指導」は教育実習後に行われるが、ここでは各学生の教育実習における体験の共有化を目標として、各学生から教育実習の様々な側面からの反省点を互いに議論させ、自らの実習の総括と全体への位置づけを行っている。「教育実習」においてはその一環として、他の担当教員と分担し訪問指導を例年行っている。訪問指導は原則として首都圏の受け入れ校について行っているが、可能な限り全学生を訪問できるように努力している。実習先では学生の研究授業(あるいは通常の授業)の参観を行い、また反省会にも同席するなどして、学生の指導を入念に行うよう心がけている。
大学における授業評価の結果 教育上の能力に関する大学等の評価 学生による授業評価の結果	2005年4月～現在	毎年度半期ごとに行われる学生による授業評価によれば、講義内容や授業の進め方について学生から高い評価を得ている。より具体的には、説明の仕方について、身近な具体例や自分自身の体験談を交えながら説明している点や、より難解な語句や概念の説明について多くの時間を割いていること等である。非常勤講師として勤務していた国立音楽大学における学生による授業評価においても、授業内容や授業方法についてきわめて高い評価を受けていた。

2.作成した教科書、教材、参考書		
講義での使用教材	2005年4月～現在	一般教育科目「教育学」、「教育学」、「社会学」、「社会学」、教職課程科目「教育原理」「教育制度論」の講義を主たる方法とした授業においては、毎回の授業ごとに、講義の流れとポイントを明記したB5およびA4サイズのプリントを作成し、学生に配付している。

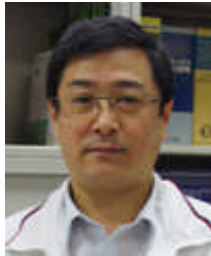
研究活動

2010年度の研究活動概略					
「国際結婚家庭に育つフィリピン系・タイ系ニューカマーの学校適応に関する実証研究」として科学研究費補助金基盤研究(B)を取得し(課題番号22330238、研究代表者:角替弘規)、神奈川県大和市をはじめとする地域及び学校でフィールドワークを行った。この研究成果については、日本教育社会学会第62回大会及び桐蔭論叢において発表した。					
2011年度の研究活動概略					
昨年度に引き続き、「国際結婚家庭に育つフィリピン系・タイ系ニューカマーの学校適応に関する実証研究」として科学研究費補助金基盤研究(B)を取得し(課題番号22330238、研究代表者:角替弘規)、神奈川県大和市をはじめとする地域及び学校でフィールドワークを行った。また、調査対象となったニューカマーの母国調査を行い、家族インタビューと学校訪問を行った。これら調査の成果については日本教育社会学会第63回大会及び桐蔭論叢において発表した。(一部については2012年度に発表予定。) また、東日本大震災時における避難時の活動について、学研総合教育研究所の委託によるインターネット調査に参画した。この調査結果についてはネット上で公開されている(http://www.gakken.co.jp/kyouikusuouken/whitepaper/201106/index.html)。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「ニューカマーと学校組織の再構築 - 学校における国際教室の位置取りをめぐる -」	単著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	-	159-173頁
「フィリピン系ニューカマーの教育意識に関する一考察 - 大和市の国際結婚家庭の事例を中心に -」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	角替弘規、家上幸子、清水睦美	89-97頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「フィリピン系ニューカマーと国際結婚 教育に対する意識と資源の多様性に着目して」	2010年9月	日本教育社会学会第62回大会(関西大学)	角替弘規、家上幸子、三浦綾希子、額賀美紗子、清水睦美、金侖貞		
(口頭発表)「フィリピン系ニューカマー生徒の不登校現象に関する一考察」	2011年9月	日本教育社会学会第63回大会(お茶の水女子大学)	-		
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
国際結婚家庭に育つフィリピン系・タイ系ニューカマーの学校適応に関する実証研究(研究代表者)	2010年4月～2013年3月	科学研究費補助金(基盤研究(B)) (課題番号22330238、研究代表者:角替弘規)			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
フィリピン系ニューカマーの家族インタビューおよび現地学校等訪問	2011年11月17日～27日	フィリピン共和国			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本教育社会学会、日本高等教育学会、日本比較教育学会、日本教育制度学会、筑波大学教育学会、日英教育学会、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2007年4月～現在	NPO法人日本ペルー共生協会(AJAPE)会員	
2009年9月～2011年9月	日本教育社会学会企画部副部長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大和市立柳橋小学校学校関係者評価委員会委員	2010年11月～	大和市立柳橋小学校

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学 位 : 体育学修士(日本体育大学)、博士(医学)(順天堂大学)
 専 門 分 野 : 環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前 職 : 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学 内 役 職 等 : 学務部長(2012)

研究活動

2010年度の研究活動概略

我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。

2011年度の研究活動概略

我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。

著書・論文等

著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
からだと温度の辞典(C.予防医学:熱中症の予防分担)	共著	2010年4月20日	朝倉書店	彼末一之監修	190-192頁
(総説・論説)					
(総説)わが国における熱中症死亡の地域差	単著	2011年12月31日	ウォーキング研究15号	-	19-22頁
(学術論文)					
「わが国における熱中症死亡の地域差」	共著	2010年12月1日	日本生気象学会雑誌47(4)	星 秋夫、中井誠一、金田英子、山本 享、稲葉裕	175-184頁
大学生の熱中症に関する知識および自覚症状の実態、	共著	2011年	日本生気象学会雑誌、48(3)	坂手誠治、澤井睦美、南和広、寄本明、星秋夫	5045-5045頁
わが国の主要都市における熱中症死亡率	共著	2011年	日本生気象学会雑誌、48(3)	星秋夫、中井誠一、櫻村修生、澤井睦美、坂手誠治、稲葉裕	5053-5053頁
“Rectal temperature, heart rate and body weight loss in a master athlete during a summer ultra-marathon a case report”	共著	2011年12月1日	Jpn. J. Biometeor. 48(4)	Osamu Kashimura, Seiichi Nakai, Mutsumi Sawai, Akio Hoshi	pp.145-151
「フィットネス施設における水中歩行実施者の飲水意識および飲水行動とその実態」	共著	2011年12月31日	ウォーキング研究15号	坂手誠治、清水陽子、星 秋夫、寄本 明	19-22頁

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(口頭発表)「夏季暑熱環境下作業時の口渇感」は脱水が関与する」	2011年3月21日	第81回日本衛生学会総会(東京)	鈴木英悟、櫻村修生、原 健太、星 秋夫
(口頭発表)「水中歩行実施者における飲水意識と現状について」	2011年6月4日	2011年度ウォーキング学会(東京)	坂手誠治、清水陽子、星 秋夫、寄本 明
(シンポジウム)「わが国における熱中症死亡の地域差」	2011年6月4日	2011年度ウォーキング学会(東京)	星 秋夫

(口頭発表)「大学陸上競技選手における夏季練習時の脱水および口渇感」	2011年9月16日	第66回日本体力医学会大会(山口)	石橋祐理子、鈴木英悟、櫻村修生、原 健太、星 秋夫
(口頭発表)「暑熱環境下作業時の体温調節反応が口渇感に与える影響」	2011年9月16日	第66回日本体力医学会大会(山口)	鈴木英悟、原 健太、石橋祐理子、星 秋夫、櫻村修生
(ポスター)「水中運動実施者の水分摂取と脱水状況および体温変化」	2011年9月17日	第66回日本体力医学会大会(山口)	坂手誠治、寄本 明、星 秋夫
(口頭発表)「大学生の熱中症に関する知識および自覚症状の実態」	2011年11月4日	50回日本生気象学会(京都)	坂手誠治、澤井睦美、南 和広、寄本 明、星 秋夫
(口頭発表)「屋外環境が農業ハウス内環境に及ぼす影響」	2011年11月4日	50回日本生気象学会(京都)	澤井睦美、櫻村修生、星 秋夫、中井誠一
(口頭発表)「わが国の主要都市における熱中症死亡率」	2011年11月4日	50回日本生気象学会(京都)	星 秋夫、中井誠一、櫻村修生、澤井睦美、坂手誠治、稲葉 裕
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「熱中症講座」	2010年5月22日	バイオクリマ研究会健康気象アドバイザー認定講座	立正大学(東京)
「熱中症講座」	2011年6月18日	バイオクリマ研究会主催一般公開セミナー	立正大学(東京)
「高齢者の熱中症について」	2011年6月27日	品川区主催品川シルバー大学	品川区立中小企業センター(品川区)
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「2011年日本体力医学会・大塚スポーツ医・科学賞 特別賞」 (水中運動実施者の水分摂取と脱水状況および体温変化)	2011年9月17日	第66回日本体力医学会大会	坂手誠治、寄本 明、星 秋夫
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
日本学術振興会基盤研究(C)	2008年3月～2011年3月	日本学術振興会科学研究費補助金	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
皇居ランニングは体に悪かった	2010年6月1日	MONOQLO特別増刊号	
熱中症の教訓	2010年9月21日	産経新聞	
夏の熱中症の防ぎ方	2011年8月1日	日経ヘルス 8月号	
熱中症	2011年7月15日	健生ニュース	
熱中症の教訓	2011年9月21日	産経新聞	
(その他特記事項)			
2010年・熱中症予防対策の解説(TV:TBS,カラダのきもち 10回,テレビ朝日,報道ステーション2回,東京MX TVnews1回; NHK第一ラジオ,ニュースこころ一番 出演)			
2011年・熱中症予防対策の解説(TV:TBS,カラダのきもち 4回,フジテレビ,知りたがり1回,なるほど!ハイスクール1回 出演)			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本運動生理学会、バイオクリマ研究会	
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員
2009年4月～現在	日本生気象学会編集委員長
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
2009年4月～2011年3月	日本体育学会代議員

松原 静郎 (まつばら しずお) 教授



出生年：1951(昭和26)年2月
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了
 学位：理学修士
 学位論文：「鉄-57およびスズ-119を含む化合物のメスバウアー分光学的研究」(修士論文)
 専門分野：科学教育、化学教育
 前職：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
 学内役職等：学務部副部長(2012)
 留学資格：オーストラリア教育研究所(オーストラリア)(1985.8-1986.6)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(理科), 高等学校教諭二級普通免許状(理科)
 非常勤講師：東京理科大学大学院科学教育研究科
 受賞・表彰：日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞(1988年7月)
 日本科学教育学会「年会発表賞」受賞(2007年8月)
 日本化学会「化学教育賞」受賞(2010年3月)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
組立ブロックによる表現力育成に関する活動	2009年4月～現在	組立ブロックを用いて組み立てた形を、絵や文字で示し、他の人がそれを読んで同じものを再現する活動を行った。自分の表現方法を評価するとともに、再現に重要な点を確認した。重要な点は、科学におけるレポートの記載にも通じると考えている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
持続可能な発展に関する教材(プリント)	2008年4月～現在	持続可能な発展を目指した科学技術のあり方について、発電を題材として考察する。水力発電から火力発電、原子力発電、新エネルギーへと発電方法が広がっていく過程を知ること、その過程がそれぞれの発電の問題点を積極的に解決していく努力によるものであることを理解し、自らの判断・意思決定や活動について考察していくとともに、次世代のことも考慮に入れる必要性について理解する。

研究活動

2010年度の研究活動概略
<p>科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1)学習教材の開発及び改訂：中・高等学校理科における持続可能な発展の学習教材(以下、SD教材と記す)として、新学習指導要領中学校理科の内容に加わるプラスチック教材を新たに開発・改訂し、プラスチックの利用について持続可能な社会の観点から考えさせた。(2)国際協働研究：9月に東京地区で国際ワークショップを開催し、フィリピン、マレーシア、韓国での実践結果の報告やわが国での実践の視察をし、共通理解を深めた。また、アジア版として大気汚染対策教材にSDやGSC(グリーン・サステイナブルケミストリー)の理念を活用するワークシートを追加することについて検討し、それを採用することにして、今後各国で実践を行うなど協働研究を進めていくことを確認した。(3)センサを用いた実験等に関する実践：これまで開発してきた高精度で二酸化炭素濃度と酸素濃度の時間変化を同時に計測できる二酸化炭素/酸素計測システムを理科教育で活用する実験教材について、15道府県の教育センター等指導主事から意見をいただき、さらに4道県の教育センターには二酸化炭素/酸素計測システムを貸し出して、活用事例の研究調査と研修講座等での実践をしていただいた。</p> <p>そのほか、引き続き小学校理科教科書の記述内容に関する研究を進めた。</p>

2011年度の研究活動概略					
<p>科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1)学習教材の改訂:中・高等学校理科における持続発展教材(SD教材)として開発したプラスチック教材の改訂版として、図を入れ簡易化した教材を作成し、中学校で実践した。(2)科学的態度の育成:科学の重要な概念であるモデル化に関して、ロウソクの消炎現象を使った研究授業を中等教育学校で実施し、8道県の教育センター等の指導主事から意見をいただいた。(3)国際協働研究:昨年度に引き続き9月に東京地区で第2回国際ワークショップを開催し、アジア版として大気汚染対策教材にSDやGSCの理念を活用するワークシートをフィリピン、マレーシア、インドネシアで実践した結果の報告やわが国での実践の視察をし、検討を進めた。参加できなかった韓国とは3月に打合せと意見交換をする。(4)センサを用いた実験等に関する実践:開発してきた二酸化炭素/酸素計測システムには読み上げ機能もあり、その機能を使って視覚障害者に対する理科教育での活用を行った。また、空気電池を利用した酸素センサキットを教育センターに貸し出して、活用事例の研究調査と研修講座等での実践をしていただいた。</p> <p>そのほか、気仙沼市立面瀬中学校と連携して、持続発展教育ESDにおける「文化としてのスポーツ」の実践研究の準備を進めた。また、小学校が新教育課程に移行したことにより、新しい理科の教科書と旧教科書との比較研究を行った。</p>					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 教科別報告書 理科」	共著	2011年10月31日	教科書研究センター	松原静郎、鳩貝太郎、後藤顕一、山下修一、大辻永、李禧承、藤川広	5-8頁、23-28頁
(学術論文)					
「諸外国では大学への入学を許可するためにどのような制度を設けているか(その1)国際的にみたわが国の高等学校から大学への接続関係」	単著	2010年11月20日	化学と教育、58巻11号	-	546 547頁
“Educational Significance of "Fish Dissection" -For Realizing Preciosness of Life-”	共著	2010年11月(デジタルで日付なし)	Asian Journal fo Biology Education, Vol.4	IWAMA Junko, HATOGAI Taro, MATSUBARA Shizuo, YAMAGISHI Ryoko and SHIMOJO Takashi	pp.19-27
「小学校理科における生命観育成及び科学的概念形成のための生物教材の分析 「動物の誕生(人)」を例にして」	共著	2010年12月10日	科学教育研究(34・4)	岩間淳子、松原静郎	322-337頁
小・中・高等学校理科教育における「動物解剖」の実態	共著	2011年4月30日	生物教育(51・4)	岩間淳子、小林辰至、松原静郎、鳩貝太郎	129頁
「教育研究者と実践者が一緒になった教材研究」	共著	2011年4月15日	理科の教育、60巻4号	松原静郎、高野裕恵	245 254頁
「学習指導要領にみる文化としてのスポーツ」	単著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	-	11-18頁
「小学校理科教科書における「物の溶け方」の変遷 - 粒子概念の導入に向けて -」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	松原静郎、岩間淳子	73-88頁
“Department and Practice of “Air Pollution” Educational Material Unit Aiming at Education for Sustainable Development (ESD)”	共著	2011年6月15日	Reseach Bulletin No.24	MATSUBARA Shizuo, GOTO Kenichi, NOUCHI Yorikazu, MIYAUCHI Takuya and TERATANI Shousuke	pp.245-251
「理科教育における生命倫理のあり方とその意義-教員養成科目における「魚の解剖」の実践からの考察-」	共著	2011年11月1日	理科教育学研究(52・2)	岩間淳子、松原静郎、小林辰至	23-32頁
「観察・実験を通じた生命倫理教育の実践的研究-看護学科における「動物の発生(魚)」を例に-」	共著	2012年3月2日	理科教育学研究(52・3)	岩間淳子、鳩貝太郎、松原静郎、小林辰至	23-32頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「手作り酸素センサの開発と理科教育への活用(8) 簡易型酸素センサキットの作成と実験例の紹介」	2010年8月7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集、8、269頁、第60回全国大会(山梨大学)	高橋三男、園部幸枝、佐藤道幸、山本勝博、堀哲夫、寺谷敬介、松原静郎		

「O ₂ /CO ₂ 計測システムを用いた燃焼実験の 実践」	2010年8月7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集、8、271頁、第60 回全国大会(山梨大学)	柳澤秀樹、 松原静郎 、寺谷敞介、 高橋三男
「中学校理科における植物教材の適切性- 「花のつくり」を例に-」	2010年8月7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集、8、283頁、第60 回全国大会(山梨大学)	岩間淳子、 松原静郎 、小林辰至
「化学教材・教育法」座長	2010年8月8日	日本理科教育学会第60回全 国大会(山梨大学)	-
「相互評価表」を用いた生徒間の考察課題の 評価	2010年8月8日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集、8、380頁、第60 回全国大会(山梨大学)	北川輝洋、森響一、 松原静郎 、 後藤顕一
「相互評価表」を用いる学習法の開発	2010年8月8日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集、8、381頁、第60 回全国大会(山梨大学)	後藤顕一、鮫島朋美、寺谷敞介、 松原静郎
「定型文学習法の実践」	2010年8月8日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集、8、382頁、第60 回全国大会(山梨大学)	野内頼一、後藤顕一、寺谷敞介、 松原静郎
「相互評価表」を用いた高等学校化学実験の 取り組み	2010年9月12日	日本科学教育学会年会論文 集第34号、373-374頁、日本 科学教育学会第34回年会 (広島大学)	後藤顕一、寺谷敞介、 松原静郎
「理科教育のためのO ₂ /CO ₂ 計測(2) 赤ビー マンの内呼吸実験」	2010年9月12日	日本科学教育学会年会論文 集第34号、409-410頁、日本 科学教育学会第34回年会 (広島大学)	高橋三男、山本勝博、堀哲夫、寺 谷敞介、 松原静郎
“Development of O ₂ and CO ₂ measurement system for science education”	2010年12月19日	The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu, Hawaii, USA)	Mitsuo Takahashi, Norimichi Kawashima, Tetsuo Hori, Katsuhiko Yamamoto, Shousuke Teratani, Shizuo Matsubara , Kenichi Goto
「小・中・高等学校理科教育における「動物解 剖」の実態」	2011年1月8日	日本生物教育学会第90回全 国大会予稿集、33頁	岩間淳子、 松原静郎 、小林辰至、 鳩貝太郎
「化学教材・教育法」座長	2011年8月20日	日本理科教育学会第61回全 国大会(島根大学)	-
「SD理科教材に関する国際ワークショップ」	2011年8月20日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第9号、169頁、第 61回全国大会(島根大学)	松原静郎 、後藤顕一、松原憲治、 鮫島朋美、堀哲夫、寺谷敞介
「SD理科教材アジア版開発 - 開発展望と大 気汚染対策教材の展開例 -」	2011年8月20日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第9号、170頁、第 61回全国大会(島根大学)	寺谷敞介、後藤顕一、野内頼一、 松原静郎
「酸素 / 二酸化炭素センサの活用」	2011年8月20日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第9号、171頁、第 61回全国大会(島根大学)	林誠一、後藤顕一、近藤浩文、石 黒光弘、飯田寛志、 松原静郎 、高 橋三男
「手作り酸素センサの開発と理科教育への活 用(9) - 手作り酸素センサキットによるソラマメ の内呼吸の実験例 -」	2011年8月21日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第9号、271頁、第 61回全国大会(島根大学)	高橋三男、雑賀章浩、園部幸枝、 佐藤道幸、柳澤秀樹、飯田寛志、 田島公基、石黒光弘、近藤浩文、 後藤顕一、林誠一、山本勝博、堀 哲夫、寺谷敞介、 松原静郎
「観察・実験を通じた生命倫理教育の実践- 「動物の発生」を例に-」	2011年8月21日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第9号、304頁、第 61回全国大会(島根大学)	岩間淳子、鳩貝太郎、 松原静郎 、 小林辰至
「相互評価表活用によるレポート記述の変容 - 総合学習での実践 -」	2011年8月21日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第9号、352頁、第 61回全国大会(島根大学)	柳澤秀樹、 松原静郎 、寺谷敞介、 後藤顕一
「プラスチックを考えるSD理科教材の改訂と実 践」	2011年8月21日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第9号、363頁、第 61回全国大会(島根大学)	宮内卓也、後藤顕一、久保博義、 松原静郎
「小・中学校における生命倫理の変遷とその 意義」	2011年8月24日	日本科学教育学会年会論文 集第35号、259-260頁、日本 科学教育学会第34回年会 (東京工業大学)	岩間淳子、 松原静郎 、稲田結美、 小林辰至

「理科教育のためのO2/CO2計測(2) 生姜の内呼吸実験」	2011年8月24日	日本科学教育学会年会論文集第35号、363-364頁、日本科学教育学会第35回年会(東京工業大学)	高橋三男、雑賀章浩、福司稔、飯田寛志、田島公基、石黒光弘、近藤浩文、後藤顕一、林誠一、山本勝博、堀哲夫、寺谷敞介、 松原静郎
「空気電池を酸素センサとして利用するための教材開発」	2011年8月30日	日本化学会第5回関東支部大会(東京農工大学小金井キャンパス)、講演予稿集、85	高橋三男、山内峯生、堀哲夫、山本勝博、寺谷敞介、後藤顕一、林誠一、 松原静郎
特別企画講演「世界の化学教育 - 中等教育・大学入学者選抜制度を中心に」、「大学入学に求められる化学とは」	2011年8月31日	日本化学会第5回関東支部大会(東京農工大学小金井キャンパス)	-
「理科教育のための身の回りの電池を利用した酸素センサキットの開発 亜鉛空気電池を酸素センサへ応用した実験例」	2011年10月1日	平成23年度日本理科教育学会北海道支部大会(北海道大学)	高橋三男、雑賀章浩、園部幸枝、佐藤道幸、柳澤秀樹、飯田寛志、大平和之、石黒光弘、近藤浩文、後藤顕一、林誠一、山本勝博、堀哲夫、寺谷敞介、 松原静郎
「組立ブロックを用いた表現法学習」	2011年10月20日	平成23年度全国理科教育センター所長協議会化学部会研究発表会(富山市・プレバラン高志会館)	松原静郎 、後藤顕一、林誠一
「一般講演セッションD1」座長	2011年12月3日	日本理科教育学会第50回関東支部大会(横浜国立大学)	-
「小学校教科書における「水溶液の性質」の実験に関する記述の変化」	2011年12月3日	日本理科教育学会第50回関東支部大会(横浜国立大学)	久木田健太、岩間淳子、 松原静郎
「理科教育のための空気電池を利用した酸素センサキットの開発(1) ロウソクの消炎反応の実験」	2011年12月3日	日本理科教育学会第50回関東支部大会(横浜国立大学)、研究発表要旨集、66頁	高橋三男、雑賀章浩、園部幸枝、佐藤道幸、飯田寛志、大平和之、石黒光弘、近藤浩文、後藤顕一、林誠一、山本勝博、堀哲夫、寺谷敞介、 松原静郎
「理科教育における生命倫理の実態と今後の課題」	2012年1月7日	日本生物教育学会第92回全国大会予稿集、44頁	岩間淳子、小林辰至、 松原静郎 、鳩貝太郎
第19回化学教育フォーラム「新教育課程への期待とその課題」趣旨説明	2012年3月25日	日本化学会第92春季年会(慶応義塾大学日吉キャンパス)	-
「化学教育・化学史」座長	2012年3月26日	日本化学会第92春季年会(慶応義塾大学日吉キャンパス)	-
「理科教育のための空気電池を利用した手作り酸素センサキットの開発」	2012年3月27日	日本化学会第92春季年会(慶応義塾大学日吉キャンパス)	高橋三男、園部幸枝、佐藤道幸、後藤顕一、林誠一、堀哲夫、山本勝博、寺谷敞介、 松原静郎
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「持続可能な発展に関する化学的視点」	2010年6月21日	SSH科学講演会	福井県立武生高等学校
「学習指導要領にみる文化としてのスポーツ」	2011年6月9日	平成23年度気仙沼市立面瀬中学校ESD研修会	宮城県気仙沼市
「ESD及び表現力に関する校内研修会」	2012年2月23日	平成23年度気仙沼市立面瀬中学校ESD研修会	宮城県気仙沼市
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「理科での持続可能な発展に関する教材の開発とそれを用いた科学的表現力の育成」	2008年4月～2011年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号20300263)研究代表者	
「科学の有用性を意識させ科学的な態度を育成する持続発展教材の国際協働研究」	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号23300292)研究代表者	
「化学実験レポート作成における「相互評価表」を活用した表現力育成に関する実証的研究」	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号23501087)研究分担者	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
協働研究打合せ及びSD教材に関する意見交換	2012年3月11日～14日	晋州教育大学校(韓国)ほか	

(その他特記事項)
文部科学省・科学技術振興機構主催 平成22年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会第1分科会審査委員 (パシフィコ横浜)2010年8月3日
文部科学省・科学技術振興機構主催 平成23年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会第1分科会A会場審査委員 (神戸国際展示場)2011年8月11 12日
International Workshop of Science Education for Sustainable Developmentの開催 (University of Philippines, University of Malaya, 韓国晋州教育大学校等より外国人研究者及び教育関係者8名参加) 2010年9月21-24日
Second International Workshop of Science Education for Sustainable Developmentの開催 (University of Philippines, University of Malaya, University of Malan等より外国人研究者及び教育関係者6名参加) 2011年9月8-10日
日本化学会第92春季年会 優秀講演賞(学術)審査委員 2012年3月

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会、教科「理科」関連学会協議会委員	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年3月～2011年2月	日本化学会 化学教育協議会 学校教育委員会 国際調査ワーキンググループ主査
2003年3月～2011年2月	日本化学会 化学教育協議会 学校教育委員会委員
2011年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会 化学教育フォーラム企画小委員会委員長
2011年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会委員
2011年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 学校教育委員会 化学教育カリキュラム構築小委員会委員
2006年7月～2010年6月	日本科学教育学会 監事
2007年4月～現在	日本理科教育学会 評議員
2010年4月～2012年3月	日本理科教育学会 理事
2004年4月～2012年3月	東京都立立川高等学校 運営連絡協議会委員
2007年4月～現在	教科「理科」関連学会協議会委員(日本理科教育学会代表)
2009年4月～2012年3月	広島大学附属福山中学・高等学校 研究開発運営指導委員

松 本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出 生 年 : 1952(昭和27)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 修士(体育学)
 学 位 論 文 : 小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討 - チャレンジ運動とボール運動の授業実践を通して -
 専 門 分 野 : 体育科教育学
 前 職 : びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学 内 役 職 等 : スポーツ教育学科長(2012)
 資 格 : 保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非 常 勤 講 師 : 桜美林大学

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り。
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。
体育科教育学入門(大修館書店)	2010年4月	大学授業や授業研究で活用されている体育科教育学に関する代表的な書籍。分担執筆。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
茨城県教育委員会主催 「体力向上をめざした体育授業づくり」	2011年1月28日	茨城県の小学校・中学校の保健体育の主任を対象とした、体育授業を中核とした体力づくりに関する講演。
NPO法人「ハートオブゴールド」主催・チャイカ後援 カンボジアへの教育支援「小学校体育の教育課程の作成と指導者の「育成事業」指導者	2011年7月15日 ～22日	
福岡県体育研究所主催 「授業づくりの基礎基本」講座の担当 2007年から継続して講座を担当して5年目	2011年8月17日 ～19日	中学校教員対象の講習会1日、小学校教員対象の講習会2日を担当。それぞれ70名、120名の参加者があった。

研究活動

2010年度の研究活動概略
主に教材・教具や指導方法を工夫し、研究会等で実際に試行しその有効性について確認した。 例えば、器械運動の回転補助具や指導系統を明確にした教材づくりや体づくり運動である。 体づくり運動でいえば、学習指導要領解説に新たに示された「すもう」の安全で男女が取り組め、しかも全力を発揮するための短棒の作成・導入である。新潟県の小学校や島根県の小学校で実際に使用していただいたが、中々好評であった。ただし、棒が高く持ち上がる事例があったことが今後の改善点である。また、鉄棒運動のかかこみ回りで肘や腹部が鉄棒に直接接して苦痛を感じる事が無いよう回転補助具を開発し活用している。これについては、先生方対象の実技講習会(複数)でその有効性が確認されている。
2011年度の研究活動概略
学習指導要領の改訂に伴って注目を浴びている「体づくり運動」の教材づくりについて検討してきている。特に、小学校の「多様な動きをつくる運動(遊び)」について教育現場の理解を得るために、文部科学省が「多様な動きをつくる運動(遊び)」についてのパンフレットを作成し、全国の小学校教員全員に配布した。しかし、その内容は授業で使用するためのものにはなっていない。そこで、特に「単元計画」および「単元計画に沿って展開するさいの留意点」について、小学校現場の先生方と毎月1回の会合を持って実践的・実証的に検討しているところである。

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『すべての子どもが必ずできる体育の基本』	共著	2010年4月27日	学研教育みらい	高橋健夫、松本格之祐 他編	16頁
『体育科教育学入門』	共著	2010年4月10日	大修館書店	高橋健夫、松本格之祐 他	6頁
『体育授業のジャンケンゲーム集』	共著	2011年9月1日	大修館書店	松本格之祐、木下光正 他	21頁
(学術論文)					
『体育の可能性を拓げるために』	単著	2011年6月	体育科教育59巻6号	-	4頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
学会大会での座長を担当 (小学校・器械運動関係の発表4本を担当)	2011年11月12日	日本スポーツ教育学会第31回大会(兵庫教育大学)	座長:松本格之祐		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
『体力向上指導者養成研修会』 中学校・高等学校「器械運動」担当	2010年5月	教員研修センター主催・文部科学省後援	中日本地区(富山市)		
『第7回山口県小学校体育学習セミナー』 どの子どもも楽しめる器械運動の授業づくり (講演と実技指導)	2011年7月29日	山口県教育委員会	防府市・ソルトアリーナ		
『第49回 熊本県小学校体育研究発表大会』 講演『体育授業を改善しよう!』	2011年11月2日	熊本県小学校体育研究会	天草市佐伊津小学校		
その他					
(その他特記事項)					
カンボジア教育支援事業(体育の学習指導要領作成、授業づくりの支援)(2010年7月22日～7月28日) NPO法人・ハートオブゴールド(代表・有森裕子)					
カンボジア教育支援事業(体育の学習指導要領作成、授業づくりの支援)(2011年7月15日～7月22日) NPO法人・ハートオブゴールド(代表・有森裕子)					

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	体育授業研究会理事長
2009年4月～現在	研筑波学校体育研究会会長

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出 生 年 : 1956(昭和31)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科
 コース修了
 学 位 : 教育学修士(筑波大学)
 専 門 分 野 : 教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前 職 : 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総
 括研究官
 学 内 役 職 等 : 学務部副部長(2010・2011・2012)
 資 格 : 中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級普
 通免許状(社会)
 非 常 勤 講 師 : 東京学芸大学、静岡大学人文学部

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
東京学芸大学「学生による授業アンケート」	2000年4月～現在	東京学芸大学FD委員会が、毎年前期・後期各期に学生を対象として行う授業評価アンケート。結果は教員に還元され、授業改善のために使用される。大学により指定された「授業の分かりやすさ」「シラバスとの整合性」「宿題等の指示の確かさ」など、約15項目の授業に関するアンケートである。毎年、すべての項目が5段階評価の3以上であるとともに、平均点以上の結果であった。
桐蔭横浜大学授業アンケート	2009年4月～現在	2008年度集中講義「社会科概論」における授業評価を踏まえ、学生の基礎学力、理解能力等を考慮した具体的な教材等を活用した授業を実施している。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「改訂版政治・経済」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「政治・経済」大項目(3)の課題追究学習の部分を担当し、政治と経済の理論的な学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、大学受験に向けて自学自習にも耐えうるような文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月より～平成19年3月の改訂版である。
「改訂版現代社会」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、大学受験に向けて自学自習にも耐えうるような文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月～平成19年3月の改訂版である。
「改訂版新現代社会」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、主に大学に進学しない生徒のために基礎・基本的な内容に厳選してわかりやすい文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月～平成19年3月の改訂版である。

「改訂版新政治・経済」(第一学習社)	2008年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、主に大学に進学しない生徒のために基礎・基本的な内容に厳選してわかりやすい文章を執筆するように心掛けた。 平成16年4月～平成20年3月の改訂版である。
日本公民教育学会編『テキストブック中学校・高等学校公民教育』第一学習社	2004年3月～	日本公民教育学会出版委員会事務局として、テキストブックの企画・編集作業等を行った。この事典は、大学学部における公民科教育法等において活用されることを目的としている。 東京学芸大学「中等社会科・公民科教育法」、「中等社会科・公民科教育法」、静岡大学「社会科教育法」において教科書として使用している。
日本公民教育学会編『公民教育事典』第一学習社	2009年6月～	日本公民教育学会出版委員会事務局として、事典の企画・編集作業等を行った。この事典は、大学学部における公民科教育法等において活用されることを目的としている。 東京学芸大学「中等社会科・公民科教育法」、「中等社会科・公民科教育法」、静岡大学「社会科教育法」において教科書として使用している。
「小学生の社会」(日本文教出版)	2011年4月～	
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「学校運営におけるミドルリーダーの役割」	2010年5月12日	北海道立教育研究所 教育課程経営研修講座
「新学習指導要領における社会科」	2010年7月28日	町田市教育委員会 中学校社会科教育研修
「授業力向上のための授業研究研修講座」新指導要領と新しい評価について」	2010年8月2日	岡山県総合教育センター 15年経験者研修講座
「小学校社会」	2010年8月24日	神奈川県立総合教育センター 確かな学力を育む教科指導研修講座2
今求められる教師力とミドルリーダーの役割 ～校内研修で学校を変えるために～	2010年10月5日	平成22年度室蘭市教育研究会研究大会 (室蘭市立天沢小学校)
「公民科学習の課題と授業づくり」	2010年11月11日	宮城県教育委員会平成22年度高等学校地歴科・公民科研修会
「授業改善の推進」	2010年12月1日・3日	神奈川県立総合教育センター 新任教頭研修講座 (県立学校)(県立学校・高校・中等・特別支援)
「小学校社会」	2011年8月24日	神奈川県立総合教育センター 確かな学力を育む教科指導研修講座2

研究活動

2010年度の研究活動概略					
科研費研究「教員の免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム作成のための研究」の2年次として、講習プログラムの作成に取り組んだ。また、科研費研究「主権者教育充実のための基礎的研究」に向けた準備を行った。					
2011年度の研究活動概略					
科研費研究「教員の免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム作成のための研究」の最終年次として、講習プログラムをまとめた報告書を作成するとともに、科研費研究「主権者教育充実のための基礎的研究」、財団法人教科書研究センター平成23～25年度教科書等調査研究委託事業「社会科教科書改善のための調査研究」を行った。 また、科研費研究「指導法と教科内容を統合した養成・研修一貫プログラムによる社会科授業力育成研究」に向けた準備を行った。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『社会科教育実践ハンドブック』 「NIE」	共著	2011年10月	明治図書	全国社会科教育学会	193-196頁

『免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム』	編者	2012年3月		平成21～23年度科学研究費補助金(基板研究B)「教員の免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム作成のための研究」研究成果	
(学術論文)					
公民教科書の効果的な使用法		2011年3月	『学習材としての社会科教科書の効果的な使用法に関する調査研究 研究成果報告書』	財団法人平成20～22年度教科書研究に対する奨学寄付金による調査研究(委託研究)	80-85頁 90-98頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
シンポジウム「NIEの新たな展開に向けて」コーディネーター	2011年11月26日	日本NIE学会第8回研究大会(鳴門教育大学)	-		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
公民教育の現状について	2010年11月12日	財団法人明るい選挙推進協会都道府県明推協会長等研修(関東甲信越静ブロック)	静岡労政会(静岡市)		
公民教育の現状について	2010年12月15日	財団法人明るい選挙推進協会都道府県明推協会長等研修(中国四国ブロック)	徳島市		
学校における金融経済教育の進め方	2010年12月27日	証券知識普及プロジェクト金融経済教育フォーラム	名古屋栄 東急イン		
学校における金融経済教育の進め方	2010年12月28日	証券知識普及プロジェクト金融経済教育フォーラム	石川県地場産業振興センター(金沢市)		
中学・高等学校における金融経済教育のあり方	2011年2月26日	日本証券業協会 証券教育広報センター中部支部 名古屋金融経済研究会	名古屋証券取引所		
新教育課程とNIE	2011年7月10日	高等学校NIE研究会全国研究大会	八王子高等学校		
生きる力を養うための金融経済教育のポイント～学生のうちに学ばせておきたい必須項目とは～	2011年8月5日	日本証券業協会 教員のための金融・経済セミナー	日本銀行長崎支店		
生きる力を養うための金融経済教育のポイント～学生のうちに学ばせておきたい必須項目とは～	2011年8月17日	日本証券業協会 教員のための金融・経済セミナー	えひめ共済会館		
日本の学校教育における政治教育	2011年9月28日	総務省常時啓発事業のあり方等研究会	中央合同庁舎第2号館		
政治経済・教員養成 ナビゲーター	2011年12月8日	東京都立小山台高等学校 学問の面白さ体験講座	東京都立小山台高等学校		
金融経済教育の導入方法と授業の工夫の仕方	2011年12月26日	証券知識普及プロジェクト金融経済教育フォーラム	RCC文化センター(広島市)		
金融経済教育の導入方法と授業の工夫の仕方	2011年12月27日	証券知識普及プロジェクト金融経済教育フォーラム	天神ビル(福岡市)		
金融経済教育の導入方法と授業の工夫の仕方	2011年12月30日	証券知識普及プロジェクト金融経済教育フォーラム	東京証券取引所		
新学習指導要領とNIE	2012年2月18日	東京都NIE研究会 実践報告会	日本プレスセンタービル		
学校教育における有権者教育の現状と課題	2012年2月21日	青葉区明るい選挙研修会	横浜市青葉区役所		

その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
日本教育研究連合会表彰 「社会科教育・公民科教育に関する研究」	2010年12月25日	日本教育研究連合会	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「教員の免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム作成のための研究」	2009年4月～2012年3月	科学研究費補助金基盤研究B 研究代表者	
主権者教育充実のための基礎的研究	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 研究代表者	
市民性諸教科における教科書及び指導・評価の一体化に関する国際比較研究	2010年4月～2013年3月	科学研究費補助金基盤研究B 研究分担者	
社会系教科における発達段階をふまえた小中高一貫有権者教育プログラムの開発研究	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究B 研究分担者	
社会科教科書改善のための調査研究 - 教科書と現実の社会を近づけるために -	2011年4月～2014年3月	財団法人教科書研究センター 平成23～25年度教科書等調査研究委託事業	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
「教員の免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム作成のための研究」のための米国における講習調査	2010年8月30日～9月5日	インディアナ大学、シカゴ大学等(アメリカ合衆国)	
上記など、毎年数回主に調査のために外国出張			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、日本国際理解教育学会、日本生活科総合的学習教育学会、日本NIE学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1990年4月～2012年3月	日本公民教育学会常任理事・事務局	
1990年4月～2012年3月	日本公民教育学会事務局長	
1998年4月～現在	日本社会科教育学会幹事	
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員	
2002年6月～現在	全国高等学校NIE研究会顧問	
2005年3月～現在	日本NIE学会理事・常任理事	
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事	
2005年11月～現在	中等社会科教育学会副会長	
(社会における活動)		
2002年4月～2011年3月	品川区立学校外部評価者委員会委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
「常時啓発事業のあり方等研究会」メンバー	2011年4月27日～2011年12月20日(全9回)	総務省
品川区教育研究会社会科部会年間講師	2011年4月～2013年3月(全16回)	品川区教育委員会
「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究」社会科部会部会長	2010～2011年度	公益財団法人教科書研究センター

相 良 憲 昭 (さがら のりあき) 特任教授



出 生 年 : 1943(昭和18)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学文学部仏語仏文学科卒業
 学 位 : 文学士
 専 門 分 野 : 国際理解教育、文化論
 前 職 : 京都ノートルダム女子大学学長
 学 内 役 職 等 : 大学図書館長(2010・2011)
 留 学 : フランス国パリ大学文学部(1967.9～1968.6)
 資 格 : 国家公務員試験上級職(行政職)合格
 非 常 勤 講 師 : 京都ノートルダム女子大学大学院人間文化研究科
 常葉学園大学大学院言語文化研究科

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本国際理解教育学会、日本比較教育学会、日本フランス教育学会、世界法学会、日本平和学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2002年4月～現在	ユネスコ・アジア太平洋地域国際理解教育センター理事
2002年9月～現在	(財)国立京都国際会館評議員
2003年9月～現在	(財)ユネスコ・アジア文化センター評議員
2003年10月～現在	(財)国際連合大学協力会評議員
2004年10月～現在	(財)京都市文化芸術振興財団評議員
2005年4月～現在	(財)日本高等教育評価機構評価員

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察
 - 世界トップレベルのセット・オフenseの傾向 -
 専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
 前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
 非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター

研究活動

2010年度の研究活動概略					
バスケットボールの競技力向上のために必要な技術練習法や指導法、ゲーム分析の研究が主なもの。特に、6月に「バスケットボールアタッキング・ゾーンディフェンス」というゾーンディフェンス攻略本を出版した。					
2011年度の研究活動概略					
バスケットボールは2010年の国際ルールの大きな変更(3ポイントラインの拡大、ポストエリアの変更等)に伴って、益々ゲームの様相が変化している。新ルールをどのようにして利用していくのか、勝利するためにはどのようなアプローチ(練習法、指導法、分析)が必要なのか、国内外(アメリカ・ヨーロッパなど)に目を向けて研究に取り組んでいます。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
バスケットボールアタッキング・ゾーンディフェンス	共著	2010年6月20日	大修館書店	加藤大仁、木村和宏	2-143頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、スポーツ方法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年10月～現在	公認バスケットボール上級コーチ
2009年4月～現在	関東大学女子バスケットボール連盟理事
2009年4月～2011年	日本バスケットボール協会指導者育成委員会WG

徳田英次 (とくだ ひでじ) 准教授



出生年 : 1969(昭和44)年
在籍 : 2004(平成16)年4月～
最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻中退
学位 : 修士(心理学)
学位論文 : 覚醒度変化が注意機能に及ぼす影響 - 主観的覚醒度2因子モデルからの検討(未公刊)
専門分野 : 臨床心理学
前職 : 東京成徳大学文学部講師

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、日本カウンセリング学会、日本催眠医学心理学会、日本心理臨床学会、Society for Clinical and Experimental Hypnosis	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	日本催眠医学心理学会広報委員

宮津 大蔵 (みやづ だいぞう) 准教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学教育学部卒業
 学位：教育学士
 専門分野：国語科教育学
 前職：東京都新宿区立余丁町小学校教諭
 非常勤講師：東京家政学院大学現代生活学部

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校国語教科書(学校図書) 小学校国語音声言語教材台本 小学校国語教師用指導所 小学校教科書単元別到達目標と評価規準 国語 (日本標準)	2005年度版 ～2011年度版	教科書改訂に伴う執筆、編集。説明文教材の執筆、「聞く・話す」教材の執筆、言語教材の開発、文学教材の選定など小学校国語科の全ての分野、全ての学年の教材開発に携わっている。 教師用指導書音声編の台本を執筆する。解説書に収録内容を解説し、学習目標を設定し、発展的な学習活動例を開発する。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
「神話」を教材とした国語科授業の開発					
2011年度の研究活動概略					
ソーシャルスキルトレーニングのユニバーサルデザイン化、教材開発					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「新しい教科書と授業改善」	共著	2012年2月25日	学校図書	宮津大蔵、高階玲治	70-73頁
「日本語検定公式練習問題集5級」	単著	2012年3月20日	東京書籍	-	全100頁
(学術論文)					
「小学校国語科における「神話」の授業は、どのようなものであればよいか。」	単著	2010年6月15日	桐蔭論叢第22号	-	151-158頁
「神話」を教材とした小学校国語科授業に関する一考察	単著	2011年3月31日	教材学研究第22巻	-	53-56頁
「学級経営に生かすU-SSTソーシャルスキルワーク」	単著	2012年3月31日	教材学研究第23巻	-	141-144頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「公立劇場が地域社会に果たす役割とは何かー神奈川芸術劇場の取組を通して」(口頭発表)	2011年6月	日本演劇学会 (日本大学芸術学部江古田校舎)	-		
「ユニバーサルデザイン型ソーシャルスキルトレーニングの試みー人間関係力を高め、支え合う学級づくりに向けて」(シンポジスト)	2011年9月	日本LD学会 (跡見女子大)	-		
「学級経営に生かすソ-シャルスキルワーク」	2011年10月	日本教材学会 (東京学芸大学)	-		

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
公開講座講演講師	2011年11月	所沢市立北小学校公開講座	所沢市立北小学校
静岡県東豆地区教科等指導リーダーによる授業研究会講師	2011年12月	熱海市教育委員会	熱海市立第一小学校

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、表象文化論学会

谷本直美 (たにもと なおみ) 専任講師



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：教育学
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：学生部副部長(2012)
 資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭2種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：東京学芸大学附属竹早小学校(音楽) 早稲田大学

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～現在	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3レベルに編曲し、学生が互いに合わせたり、上級者が初心者に教えたりできるような教材を作成した。
研究授業参加学生への事前指導	2009年6月～2011年2月	学外の小学校で行われる研究授業や公開研究発表会に参加する学生が、より多くのことを吸収できるよう、授業の見方や予定されている内容について事前に指導した。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。その後ビデオを通してグループ協議を行い、学生の音楽の授業に対する理解を深めている。2011年度前期学生授業評価は平均値3.84であった。

研究活動

2010年度の研究活動概略			
初等教員養成において、音楽を専門としない本学学生がどのような学習過程を経て音楽の授業に対する理解を深めるのかについて授業実践を通して研究している。2010年度は初めて音楽劇を近隣の小学校で発表し、音楽の授業理解にどのようにつながるかについて検証を試み、学会にて口頭発表を行った。			
2011年度の研究活動概略			
10年度の研究成果と課題に基づき継続して授業実践を通して研究を進め、前期の実践をもとに学会にて口頭発表を行った。後期の実践では小学校での発表の後に模擬授業を設定し、学生の授業理解がさらに進んだかどうかレポート等をもとに検証を試みた。音楽実習(ピアノ)については10年度までの楽譜の作り方から変え、メロディーを演奏せずに伴奏型を繰り返し練習する教材に差し替え、学生の技能習得にどのような変化が見られるかの検証を試みた。			
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(口頭発表)「初等教員養成における音楽科教育法のカリキュラムデザイン - 音楽劇を通して子どもと出会う -」	2010年10月9日	第46回日本教育方法学会(国土館大学/東京)	-
(口頭発表)「初等教員養成におけるピアノ初心者のための教材開発 - 既知曲のレベル別編曲とグループアンサンブルの導入 -」	2010年10月16日	第22回日本教材学会(帝京短期大学/東京)	-
(口頭発表)「初等教員養成における音楽科教育法のカリキュラムデザイン(2) - 体育系学生がアウトリーチ活動から音楽の授業づくりを学ぶことができるか -」	2011年9月18日	第21回日本教師教育学会(福井大学/福井)	-

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
秦野市南中学校区幼保小中一貫教育講演会 「子どもにとって教師にとって意味のある幼小 中連携教育を目指して - 東京学芸大学附 属竹早地区の取り組み - 」	2011年8月17日	秦野市教育委員会	秦野市立南公民館

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立鉄小学校において卒業式音楽伴奏	2011年3月18日	横浜市立鉄小学校

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位：体育学修士
 学位論文：中高年齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野：体育科学
 前職：学校法人了徳寺学園職員
 資格：講道館柔道五段
 非常勤講師：國學院大學

研究活動

2011年度の研究活動概略			
全日本柔道連盟の国際委員に選ばれたことや海外の出張が数回あったことから、外国の柔道事情について実態調査を行った。(海外柔道指導者の実際) 加えて、学生を積極的に海外へ派遣(大会や短期留学)することで、更なる情報を収集した。今後はこれらのデータを基に分析を進める予定。			
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
全日本柔道連盟柔道教室 中央講師	2010年11月13日、14日	全日本柔道連盟	香川県武道館
日本文化の春 日本文化紹介派遣(主催)/日本武道(空手・柔道)	2011年2月3日～19日	国際交流基金	ニカラグア、ジャマイカ、ドミニカ共和国
宮崎県 優秀指導者講習会	2011年11月5日、6日	宮崎県高体連柔道専門部	宮崎県武道館
全日本柔道連盟柔道教室 中央講師	2011年11月26日、27日	全日本柔道連盟	北海道 きたえーる
中国安徽省 柔道チーム技術指導	2011年12月16日～18日	中国 安徽省体育局	中国 安徽省
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
スポーツ功労賞(B項)	2011年1月22日	横浜市体育協会	廣川充志
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
国際交流基金 日本文化の春 日本文化紹介派遣(主催)/日本武道(空手・柔道)	2011年2月5日～19日	ニカラグア、ジャマイカ、ドミニカ共和国	
中国安徽省 柔道チーム技術指導	2011年12月16日～18日	中国	
(その他特記事項)			
講話集「柔道への想い」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当			
「柔道ルネッサンススピーチ集」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～2011年3月	全日本柔道連盟 柔道ルネッサンス特別委員会委員
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2010年4月～現在	全日本柔道連盟 国際委員会委員

芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(柔道部監督)第29回全日本学生柔道体重別選手権大会	2010年10月	日本武道館	宮崎賢司 100kg級優勝

福井 元 (ふくい げん) 専任講師



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：金属バットの導入が高校野球の技術・戦術に及ぼした影響
 - 野球の技術史に関する研究の一環として -
 専門分野：スポーツ史
 前職：国土舘大学大学院 助手
 学内役職等：学務部副部長(2010・2011・2012)
 資格：中学校教諭 専修免許状(保健体育)
 高等学校教諭 専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：流通経済大学スポーツ健康科学部、日本体育大学体育学
 部

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
パワーポイント及びVTRを使用したスポーツ実技授業	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技(ソフトボール・野球等)において、実技授業での目標と獲得すべき技能についてパワーポイントで毎時学習を行い、実技の授業を展開し、学生の実際の動きをVTRに記録・放映し学習を促進してきた。
レポートによる実技学習内容の定着工夫	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技において、毎時、実技授業で学習した内容をレポートさせ、提出させ、学習内容を定着させるための工夫を行っている。
自然活動論実習	2008年7月～現在	桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の学外実習(夏冬の登山指導)を担当・指導。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
2008年より日本体育大学大学院博士後期課程に研究生として入学し、「戦後日本における野球の技術史に関する研究 -施設・用具史の視点から-」というタイトルの論文執筆に関わる資料収集及び、執筆作業を行った。					
2011年度の研究活動概略					
2010年に引き続き、「戦後日本における野球の技術史に関する研究 -施設・用具史の視点から-」というタイトルの論文執筆に関わる資料収集及び、執筆作業を行っているが、その論文の一部を著書『スポーツビジネス概論』の「スポーツの施設と用具」及び、学会の会報「ひすぼ」にて発表した。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『知るスポーツ事始め』 「金属バットが野球を変えた」	共著	2010年6月1日	明和出版	編著者：石井隆憲、田里千代 執筆：青山健太、阿部貴弘、石井綾、石井昌幸、荻浩三、福井元 他	210-214頁
『スポーツビジネス概論』 「スポーツの施設と用具」	共著	2012年3月20日	叢文社	編著者代表：黒田次郎 執筆：佐野昌行、綿貫慶徳、福井元 他	25-30頁
(学術論文)					
「統一球の導入による戦術の帰帰」	単著	2012年2月25日	ひすぼ NO.81(スポーツ史学会・会報)	-	8-9頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、スポーツ史学会、日本スポーツ運動学会

木原 洋一 (きはら よういち) 助教

出生年 : 1976(昭和51)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位 : 修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文 : 演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 - 1931-45年
 の日本における体育的身体論を射程として - (教育学)
 専門分野 : スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職 : 筑波大学大学院博士課程
 資格 : 中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段
 受賞・表彰 : 平成23年度第9回茗溪会顕彰

研究活動

2010年度の研究活動概略			
・修士論文(演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践)および中間評価論文(心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 - 1931-45年の日本における体育的身体論を射程として)の各々のテーマについて、より細部にいたるまで研究を進めた。その研究の成果をもとに、各々、投稿論文にまとめる予定であるが、現段階ではまだ未脱稿であるため、引き続き取り組みを進めていく。			
2011年度の研究活動概略			
・教師教育(体育)について、日本における先行研究のレビューをおこなった。その成果と課題については、2012年度には紀要論文にまとめ、2012年度以降の授業(「体育科教育学演習 ～ 」)に生かしていく予定である。後者については、競争的資金の獲得も視野に、研究を進めていく。また、上記遂行の下準備として、「スポーツ教育によるボランティア活動・地域貢献活動 体操教室での実践をとおして」と題して、大学近隣の小学校で運動指導をおこなった。その実践は、社団法人茗溪会より顕彰され、同団体の別事業において補助金も獲得している。 ・バランスボールについて、日本における浸透過程について、各種雑誌等をもとにレビューした。その内容については、2011年度中に紀要論文にまとめる予定である。また、現在申請中の2012年度基盤研究(C)『中学校での持続発展教育における「文化としてのスポーツ」の実践研究』(研究代表者:徳田英次)に、バランスボールの側面から連携研究者として参画している。			
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
バランスボールを使ったエクササイズ	2012年2月23日	気仙沼市面瀬中学校ESD研修会	気仙沼市立面瀬中学校ホール
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
平成23年度第9回茗溪会顕彰	2011年11月25日	社団法人 茗溪会	
(補助金・助成金等)			
平成23年度茗溪会学生活動支援事業	2011年4月～2012年3月	社団法人 茗溪会	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
デパートめぐりで楽しく健康増進	2010年6-7月号	アルク	

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川体育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2011年10月～2011年3月	小学校体育ST派遣実施委員 (平成23年度文部科学省「スポーツコミュニティの形成促進」事業)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたけ台小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～ (毎週火・木 3コマ)	団体等名称: 体操教室

(2012年度 新任教員)

箱崎 (李) 禧承 (はこざき(い) ひすん) 専任講師



出生年 : 1973(昭和48)年
 在籍 : 2012(平成24)年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学位 : 博士(教育学)
 学位論文 : 学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究(博士論文)
 専門分野 : 教育工学、教育方法学、教育学
 前職 : 筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 留学 : 筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資格 : 中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非常勤講師 : 釧路公立大学経済学部

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
教職シリーズ3「教育内容・方法論」第17章 視聴覚メディアの教育利用	2010年7月6日	教育における情報技術利用の議論の始まりである視聴覚教育についてその歴史と理論について詳述し、情報技術を利用する本来の意図について述べた

研究活動

2010年度の研究活動概略					
科学研究費補助金の研究課題「小・中学校の歴史学習におけるハイパーメディア教材利用の有効性の検討」の最終年度を迎え、2009年度の研究成果として提案した歴史学習における「論争性」の理解を支援するための「議論モデル」に基づき、歴史ハイパーメディアのデザインモデル及びモデル教材を作成し、その学習効果を検討することを目的とした。そして、3つの実施計画を立てた。 (1)「論争性」を有する歴史的課題(日本と韓国の教科書に掲載された歴史的な事件とする)を設定し、関連する資料とデータ(日本と韓国)を収集する。(2)「議論モデル」に基づき、(1)の資料・データを配置し、具体的な歴史ハイパーメディアのデザインモデルを作成する。(3)デザインモデルからモデル教材を作成し事例調査で実施・教材効果を検討する。その成果は、次の2点にまとめられる。(1)「論争性」の理解を支援するために生徒が習得すべき「グローバル議論モデル」の構成要素として「(1)歴史事件に関する対立の見解」、「(2)各見解の根拠」、「(3)根拠間の関係性」の3つとし、ハイパーメディア・デザインモデルを作成するための歴史的課題として加藤公明(1991)の「植民地はどっちだ-大和政権と朝鮮」の授業実践の援用が適することを指摘した。(2)「植民地はどっちだ-大和政権と朝鮮」の授業実践を「グローバル議論モデル」の3つの構成要素に照らし、不十分であった「(2)各見解の根拠」と「(3)根拠間の関係性」の内容を追加し、内容構成を行った(下記の「雑誌論文」)。特に、「論争性」の理解のために生徒に不可欠な「グローバル議論モデル」の構成が、具体的にどのような歴史的課題となるのかを理論的な根拠に基づいて提案したこと、またその「グローバル議論モデル」の内容構成を行うことで、ハイパーメディア・モデル教材を作成するためのデザインモデルとして提示した。					
2011年度の研究活動概略					
(財)教科書研究センターの研究プロジェクト「教科書・教材のデジタル化に関する調査」の研究委員会委員として日本と韓国のデジタル教科書に関する調査にかかわった。特に、韓国調査では調査デザインを担当し、具体的な調査内容は下記のようなものである。 (1)韓国のデジタル教科書開発の政策調査 - 韓国教育科学技術部、韓国教育科学情報院(KERIS) (2)韓国のデジタル教科書の開発会社担当者の面談 - (株)Wedu Communications (3)韓国の研究実践学校(小・中)の利用状況調査 - 韓国の研究実践校[ソウルギル初等学校、グァンヒ中学校] 調査の成果は下記の報告書にまとめられた。 「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究」(外国調査報告書)、(財)教科書研究センター、2011年6月30日					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「教職シリーズ3「教育内容・方法論」第17章 視聴覚メディアの教育利用」	共著	2010年7月6日	培風館	根津朋美・吉江森男編著	162-170頁

(学術論文)					
情報メディア活用と体験活動 その接点を探る	単著	2010年4月1日	教職研修 4月号	教育開発研究所編	54-57頁

その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
若手研究(B) 研究課題「小・中学校の歴史学習における ハイパーメディア教材利用の有効性の検討」	2008年4月～2011年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本教育メディア学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 委員会委員としての韓国調査	2010年7月～現在	(財)教科書研究センター

元 安 晴 香 (もとやす はるか) 助手



出 生 年 : 1987(昭和62)年
在 籍 : 2012(平成24)年4月～
最 終 学 歴 : 順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ科学科
学 位 : 学士
専 門 分 野 : バスケットボール、コーディネーショントレーニング、
コーチング
前 職 : 順天堂大学
資 格 : 中学校・高等学校教諭一種免許(保健体育)
日本バスケットボール協会公認C-2級コーチ
日本体育協会公認バスケットボール指導員
日本コーディネーショントレーニング協会公認ブロンズライセンス
障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員(初級)
日本体育施設協会公認体育施設管理士

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 2009(平成21)年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学体育学部健康学科卒業
 社会医学技術学院理学療法科卒業
 日本柔道整復専門学校卒業
 学位 : 体育学士
 専門分野 : アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職 : 日立戸塚総合病院リハビリテーション室
 学内役職等 : スポーツテクノロジー学科長(2012)
 資格 : 日本体育協会公認アスレティックトレーナー、理学療法士、
 柔道整復師、中学・高等学校教諭(保健体育)
 非常勤講師 : 東京有明医療大学

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。 (対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)
2.作成した教科書、教材、参考書		
アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング(分坦執筆)スポーツ動作の観察・分析 泳ぐ	2010年11月17日	陸上と水中動作の違いに着目し、バイオメカニクスの観 察分析を行うと共に、障害・外傷の発生、予防に言及。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

研究活動

2010年度の研究活動概略					
研究課題として「水泳選手の障害・外傷の予防」をメインテーマとして掲げ、障害・外傷調査 障害・外傷予防のための教育 障害・外傷予防のための実践的コンディショニング などについて調査・研究を行った。具体的には水泳トップアスリートに対して定期的なコンディショニングチェック、指導。国際大会における障害・外傷調査などを行った。研究成果は関連団体等での報告・発表や書籍等への執筆である。					
2011年度の研究活動概略					
継続研究課題は「水泳選手の障害・外傷の予防」であり、障害・外傷調査 障害・外傷予防のための実践的コンディショニング などについて調査・研究を行った。具体的には水泳トップアスリートに対して定期的なコンディショニングチェック、指導。国際大会における障害・外傷調査などを行った。研究成果は関連団体等での報告・発表や書籍等への執筆であり、かつ、障害・外傷予防のためのコンディショニングについて選手・コーチのためのマニュアルを作成中である。 また、「小学校教育におけるからだづくり」について調査・研究を行った。体力的指標と校内におけるケガの発生状況によって「からだづくり」の効果判定を行う予定である。「からだづくり」のためのストレッチングや体操はすでに生徒とともに作成、定期的実施している。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング上巻:外傷学総論/検査・測定と評価」	共著	2010年11月7日	文光堂	加藤知生	211-223頁

「復帰をめざすスポーツ整形外科：水泳における腰痛症のリハビリテーション」	共著	2011年4月10日	メディカルビュー社	加藤知生	326-331頁
「新スポーツトレーナーマニュアル：種目別外傷・障害の特徴とスポーツトレーナーの役割・注意点」	共著	2011年8月30日	南江堂	加藤知生	328-329頁
(総説・論説)					
第16回アジア大会 帯同報告	単著	2011年2月	月刊水泳	-	15-18頁
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「アスレティックリハビリテーションの実際」	2011年10月21日	財)日本体育協会 公認AT養成講習会	スポーツ医・科学研究所		
「コンディショニングと理学療法：トップレベル・アスリートのコンディショニング - 1 物理療法の活用」	2011年12月16日	SPORTEC 2011	東京ビックサイト		
「競技団体におけるトレーナー部会の活動事例 水泳」	2012年1月8日	公益財団法人)日本体育協会 AT連絡協議会	KFCホール		
その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
メディカルスタッフとして日本代表帯同	2010年9月15日～22日	アジア大会 中国 広州			
メディカルスタッフとして日本代表帯同	2011年7月13日～24日	世界水泳 上海大会			
メディカルスタッフとして日本代表帯同	2011年12月17日～26日	ドイツ遠征			
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
第16回アジア大会 帯同報告	2011年2月	「月刊水泳」(財)日本水泳連盟、15-18頁			
シンクロナイズドスイミングと水泳トレーナーの関わり	2011年4月	「月刊水泳」(財)日本水泳連盟、52-53頁			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本理学療法士協会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1991年9月～現在	日本水泳トレーナー会議 代表
1996年4月～現在	JOCオリンピック強化スタッフ
2003年3月～現在	日本体育協会公認アスレティックトレーナー検定委員
2007年4月～現在	日本水泳連盟医・科学委員

河崎 賢三 (かわさき けんぞう) 教授



出生年 : 1966(昭和41)年
在籍 : 2004(平成16)年4月～
最終学歴 : 島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
学位 : 医学博士
専門分野 : 整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
前職 : 島根医科大学文部教官助手

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など

箱木 北斗 (はこぎ ほと) 教授



出生年 : 1949(昭和24)年
 在籍 : 1990(平成2)年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院制御システム工学専攻博士後期課程修了
 学位 : 工学博士
 学位論文 : 関節拘縮治療支援装置の開発及びその評価に関する研究
 専門分野 : 制御工学、ロボット工学
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師

教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
工学基礎実験 (2年)マイコン基礎実験テキスト	2008年4月～現在	マイコンボードの組み立て、加速度センサ、ステッピングモータ、RCサーボ実験のテキストを作成した。36頁
工学基礎実験 (2年)マイコンシーケンス制御実験テキスト	2008年9月～現在	時間制御、コンベア制御、センサ制御、コインホッパーなどのシーケンス制御用実験テキストを作成した。41頁

研究活動

2010年度の研究活動概略		
肢体障害者支援システムの一環として、小型筋電位回路の開発を行った。また、野球選手などを対象にしたの動体視力測定装置の開発を行った。		
2011年度の研究活動概略		
筋電位回路の情報処理をターゲットに多目的超小型マイコンボードの開発を行った。これにより簡便に体に装着ができるため、足裏圧力測定器をはじめとする、身体計測が可能となった。今後は、更に範囲を広げ、新しい測定システムを開発する予定である。		
その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
学ぶ育てる「専門演習 足裏圧力測定器について」	2012年2月6日	毎日新聞

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
計測自動制御学会、日本ロボット学会、バイオメカニズム学会、電気学会、ライフサポート学会

竹内正顯 (たけうち まさあき) 特任教授



出生年：1944(昭和19)年
 在籍：1988(昭和63)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院修士課程
 学位：工学博士
 学位論文：有風時の着衣の伝熱に関する基礎研究
 専門分野：熱工学
 前職：東海大学工学部助教授

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
「熱と流れ」の各現象を端的に示すデモ装置の整備	2005年～現在	以下の現象を視覚的、体感的に感じられる装置を整えて講義を実施した。1)水位と流出量 2)流量と粘性抵抗 3)水位と負圧 4)流路面積と圧力 5)パスカル原理6)ニュートン冷却則 7)気体の圧縮、膨張の温度変化 8)真空化と製氷
2.作成した教科書、教材、参考書		
「機械計測」に表れるセンサーの整備	2005年～現在	以下のセンサーによる電気出力を確認できるように回路化し揃えた。1)熱電対 2)サーミスタ 3)白金測温体 4)ひずみゲージ 5)ポテンショメータ6)ロータリーエンコーダ 7)フォトインタラプタ 8)磁気ピックアップ 9)焦電素子

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「大学野球部のやる気と部活動適応、精神的健康の関係」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	片山富美代、齊藤博久、 竹内正顯	209-215頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「精神的健康を支える運動部の部活動適応の要因」	2011年7月23日	日本ヒューマン・ケア心理学会 第13回大会(大阪)	片山富美代、竹内正顯		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「衣があしらう水」	2011年11月26日	第48回縫製研究会	文化女子大学		
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
「無線通信による熱中症予防支援システム構築と被服環境デザインの最適化」	2011年～2014年	科学研究費補助金(分担者)			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本機械学会、日本熱物性学会、繊維学会、日本伝熱学会、日本フルードパワーシステム学会、日本家政学会

芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(硬式野球部長) 「第42回明治神宮野球大会」	2011年11月23日	明治神宮野球場	1回戦 vs東北福祉大(3-4)

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年 : 1957(昭和32)年
 在籍 : 1991(平成3)年4月～
 最終学歴 : 東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程
 学位 : 学術博士
 学位論文 : 大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野 : 知能情報処理、感性情報処理
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等 : 学生部副部長(2012)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
情報処理教育	2008年4月 ～2012年3月	<p> 新入生PCガイダンスや授業科目「情報機器の操作」「ネットワークの利用」「データベースの利用」「スポーツ情報処理論」を担当し、スポーツ情報処理に必要とされる知識や技術を実践的に教育した。学生が作成した、Webページやビデオ映像を学内向けに発信するWebページを整えた。 URL http://sv3.edu.toin.ac.jp/ daikon </p>
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ実習 (平成23年度)	2011年4月1日	<p> 本学における情報処理教育の入門教科書。 内容:Windowsの基本操作、電子メール操作、日本語ワープロWord、表計算ソフトExcelの基本操作など。 共著者:佐野元昭、栗山裕、関根註明、河原田弘 (FFFTPの執筆担当:pp.107-109) </p>
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生の情報通信技術に関する支援	2011年1月 ～(継続中)	<p> 日頃より、担当して授業を問わず、学生の情報通信技術(ICT)やビデオ映像制作などの支援を教員研究室で行っている。たとえば、ゼミ生以外の学生(2グループ)がビデオ映像の制作のため1カ月程度、栗山研究室の情報機器を利用した。また、ゼミ生以外の学生に対しても「情報処理技術者試験(ITパスポート試験)経済産業省主催 国家試験」の勉強の支援を行い、2011年7月試験において合格者(1名)を輩出した。 </p>
4.その他教育活動上特記すべき事項		
ビデオ映像制作講習会の企画および運営	2011年4月 ～2011年7月	<p> 講習会の目的は、学生がビデオ映像の制作プロセスを通して、地域社会との接点を持ちながら基礎的な技術や知識を身につけることである。なお、青葉区民メディアリポーターチームに講師をお願いした。講習会実施日:5月12日、5月26日、6月9日、6月23日、7月7日 </p>
サービス・ラーニング実習受け入れ先の紹介ビデオ映像の制作	2011年9月 ～(継続中)	<p> 「大学生の就業力育成支援事業(文部科学省助成金)」の柱であるサービス・ラーニング実習の受け入れ先、紹介ビデオ映像の制作を行った。学生および青葉区民メディアリポーターチームの協力を受けた。 </p>

研究活動

<p>2010年度の研究活動概略</p> <p>日本は高齢社会に入り、ますます世代間の交流が重要になってきた。そこでテレビゲームの疑似スポーツゲームが世代間の交流のきっかけになることを実験で明らかにした。さらに、疑似スポーツが果たす効果について研究を進めている。</p>
<p>2011年度の研究活動概略</p> <p>世代間の交流の道具としてのテレビゲーム(疑似スポーツゲーム)の活用や効果について実験で明らかにした。現在、距離や空間の制限を意識しない世代間の交流の場として“インターネット放送”の活用について基礎調査を行っている。また、2012年に“インターネット放送”ができるように準備を進めている。</p>

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「疑似スポーツが世代間交流に果たす効果」	共著	2011年4月15日	人間工学会論文誌 Vol.47, No.2	栗山裕、橋下友茂、園山和夫、山下利之	61-64頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「テレビゲームによる疑似スポーツ体験が世代間交流に与える影響」	2012年3月16日	第38回ファジィ・ワークショップ(首都大学東京)	並木勇知、栗山裕、山下利之		
その他					
(その他特記事項)					
(DVD制作および学校等公共施設に贈呈)「鉄古典獅子舞全篇」 2010年9月22日 青葉区民メディアリポーターチーム運営委員会として参加					

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
電子情報通信学会、人工知能学会、日本ファジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2009年4月～2011年3月	首都大学東京 客員研究員(人文科学研究科 所属)	
2010年4月1日	青葉区民メディアリポーターチーム 会員証番号 018 (現在に至る)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
「青葉区民まつり」おいてのビデオ撮影を担当した	2010年11月3日	青葉区民メディアリポーターチーム
「青葉区民まつり」おいてのビデオ撮影を担当した	2011年11月3日	青葉区民メディアリポーターチーム
「田奈交流センターまつり」おいてのUSTREAM Live中継を担当した	2011年11月23日	青葉区民メディアリポーターチーム
「バリアフリーコンサート」おいてのUSTREAM Live中継を担当した	2011年12月11日	青葉区民メディアリポーターチーム
「青葉区コラボレーションフォーラム」おいてのUSTREAM Live中継を担当した	2012年2月18日	青葉区民メディアリポーターチーム

澤井 睦美 (さわい むつみ) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育学研究科
 学位：体育学修士
 学位論文：静的筋労作の影響と回復に関する研究
 血行動態の観察から
 専門分野：体操(からだづくり・動きづくり)、身体教育、健康科学
 前職：流通経済大学社会学部非常勤講師
 淑徳大学国際コミュニケーション学部非常勤講師
 学内役職等：学生部副部長(2010・2011・2012)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
1. 「体操」の定義に関する調査研究・・・日本の体育・体操史から、本来健康づくりや体づくり・動きづくりのために行われてきた「体操」という語は、一般的に「体操競技」や「新体操」を意味する言葉として捉えられるようになってきた。また、学校教育においても「トレーニング」「ストレッチング」「エアロビクス」等フィットネス・エクササイズを指し、「体操」の特性とともにその言葉の存在自体が薄れつつある。しかし、その一方で高齢者の健康維持法として「ウォーキング」に次いで「体操」(体操競技、新体操)が挙げられている。このような現状から、「体操」という語がどのようにとらえられているか質問紙法により調査し、定義づけることを試みるものである。 2. 環境と熱中症に関する研究・・・東京都内で熱中症発症で搬送データを元に同日24時間の屋内外環境測定を行い、熱中症が発症しやすい環境特性について検討したものである。					
2011年度の研究活動概略					
1. 「体操」の定義に関する調査研究(継続)・・・アンケート回収済み。結果入力および分析を実施する。 2. 環境と熱中症に関する研究(継続)・・・スポーツ現場における熱中症予防の観点から運動時の簡便な脱水状態の評価法を確立するとともに、脱水時の生体反応について調査・研究を行うものである(学内倫理委員会受理済み)。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「大学生の熱中症に関する知識および自覚症状の実態」	共著	2011年	日本生気象学会雑誌, 48(3),	坂手誠治, 澤井睦美, 南和広, 寄本明, 星秋夫	5045-5045頁
「わが国の主要都市における熱中症死亡率」	共著	2011年	日本生気象学会雑誌, 48(3),	星秋夫, 中井誠一, 櫻村修生, 澤井睦美, 坂手誠治, 稲葉裕	5053-5053頁
“Rectal temperature, heart rate and body weight loss in a master athlete during a summer ultra-marathon,”	共著	2011年12月	Jpn. J. Biometeor., 48(4)	Kashimura O., Nakai S., Sawai M., Hoshi A.	pp.145-151
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)屋外環境が農業ハウス内環境に及ぼす影響	2011年11月4日	第50回日本生気象学会(京都女子大学)	澤井睦美, 櫻村修生, 星秋夫, 中井誠一		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
人類動態学会、日本生気象学会、日本産業衛生学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2009年～現在	(有)Endose Your Life 健康プログラムアドバイザー
2012年～現在	(株)サロンデイ パーソナルトレーニングプログラムアドバイザーおよびマニュアル監修

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市青葉区6大学連携講座 「健康運動教室」	2011年11月19日	横浜市青葉区

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 准教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクスの研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : 学務部副部長(2012)
 資 格 : 専修免許状(保健体育)
 受 賞・表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

研究活動

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「競技柔道の教育的価値に関する再認識 全日本強化選手の心理データから」	2010年9月	日本武道学会第43回大会 (明治大学)	船越正康、斉藤正俊、吉鷹幸春、 内村直也
“Re-recognition about Educational Value of Judo Competition From Psychological Data of International Players stored in All Japan Judo Federation”	2010年9月	2010 International JUDOSymposium - Mwdical and Scientific Aspect - (於: 文京シビックセンター)	M.Funakoshi, M.Saito, Y.Yoshitaka , R.Watanabe, N.Uchimura
暑熱環境下におけるフィリピン人柔道選手と 日本人柔道選手の発汗比較	2011年9月	日本武道学会第44回大会 (国際武道大学)	保科知彦、木村昌彦、矢島明、佐 藤康宏、吉鷹幸春、田中力、 田中秀昌
“Results of partici- pation players in a World Judo Chanpionships 2010 Tokyo and the analysis by UK method - Regarding the represe- ntative of Japan - ”	2011年9月	2011 International JUDOSymposium - Mwdical and Scientific Aspect - (Kodokan)	M.Funakoshi , Y.Yoshitaka , R.Watanabe , N.Uchimura , T.Yokoyama

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
日本武道館派遣 日本・メキシコ交流400周年 記念事業文化交流・武道演武会	2010年11月9日 ～2010年11月18日	日本武道館派遣武道使節団12武道
国際交流基金派遣カターナ柔道シヨナル チーム指導	2011年11月21日 ～2011年12月3日	外務省・国際交流基金

芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学 柔道部総監督 全日本学生柔道優勝大会(団体)	2010年6月	日本武道館	桐蔭横浜大学 団体 ベスト8
桐蔭横浜大学 柔道部総監督 全日本学生柔道体重別選手権大会(個人)	2010年10月	日本武道館	宮崎賢司(法学部2年) 100kg級 優勝
桐蔭横浜大学 柔道部総監督 全日本学生柔道体重別団体優勝大会 (体重別団体)	2010年11月	日本武道館	桐蔭横浜大学 団体 ベスト8

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年 : 1973(昭和48)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～
 最終学歴 : 国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
 学位 : 修士(武道・スポーツ)
 学位論文 : 異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野 : ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
 前職 : 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、
 JOCジュニア強化コーチ

研究活動

2010年度の研究活動概略
ハンドボールにおける競技力向上のため、トレーニング方法論の構築を研究した。
2011年度の研究活動概略
ハンドボールにおける競技力向上のための実践的研究を行った。 ハンドボールにおけるコーディネーショントレーニング導入のDVD視覚化を検討。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2001年10月	日本体育協会公認ハンドボールコーチ	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
愛媛国体ハンドボール競技専属アドバイザー コーチ	2011年4月～	愛媛県ハンドボール協会

芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(ハンドボール部監督) 2010年秋季リーグ戦(女子)	2010年10月		関東1部昇格
(ハンドボール部監督) 2011年第33回東日本学生選手権	2011年8月	札幌キタエール	2勝1敗ブロック2位

廣瀬 立郎 (ひろせ たつろう) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京大学大学院
 学位：博士(学術)
 学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
 専門分野：運動生理学、運動生化学
 前職：日本体育大学 助教
 非常勤講師：上智大学

研究活動

2010年度の研究活動概略			
骨格筋萎縮時におけるアポトーシスといくつかの成長因子や筋分化制御因子との関連を検討した。ラットに尾部懸垂を施しヒラメ筋を萎縮させた。ヒラメ筋を摘出しアポトーシス反応を検出するTUNEL法とmyostatin, myogenin, myoDそれぞれと共染させた。筋萎縮によりTUNELによるアポトーシス反応は増加し、myostatinとmyoDとの共染核数も増加した。筋分化制御因子であるmyoDがアポトーシス反応と関連性が見られたことは興味深い。この結果はPhysiology(Manchester)と日本体力医学会にて発表した。今後はmyoDをsiRNAを用いて抑制させアポトーシス反応を抑えることができるかを検討する予定である。			
2011年度の研究活動概略			
骨格筋萎縮時における神経栄養因子とその受容体の発現について検討した。ラットに尾部懸垂を施しヒラメ筋を萎縮させた後、ヒラメ筋と脊髄(L5)を摘出した。神経栄養因子であるNGF, BDNF, NT-3とそれらの受容体であるTrkA, TrkB, TrkC, p75のタンパク発現量を検討した。これらのタンパク量は筋萎縮に伴い減少した。これは筋活動量にともない神経栄養因子は発現量を増減させることが示唆された。近年神経栄養因子が心筋細胞を肥大させることが報告されている。骨格筋のサイズにも神経栄養因子が影響を与える可能性が考えられる。これを検討するために、骨格筋細胞に神経栄養因子を添加することを予定している。			
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
"The effects of hindlimb suspension on myostatin, myoD and myogenin expression in hindlimb muscle in rat"	2010年5月29日	KACEP Korea	Tsutaki A, Min SK, Ochi E, Nakazato K, Hirose T
"The effect of myoD, myogenin and myostatin expression on apoptosis during hindlimb suspension"	2010年6月30日	Physiology England	Tsutaki A, Min SK, Ochi E, Nakazato K, Hirose T
"Effect of hindlimb suspension on the expressions of neurotrophins in rat soleus muscle"	2011年7月11日	Physiology England	Tsutaki A, Min SK, Ochi E, Nakazato K, Hirose T
「尾部懸垂によるミオスタチン・myoD発現とアポトーシスの関連性」	2011年9月16日	第66回日本体力医学会	鳶木新, ミンソッキ, 越智英輔, 中里浩一, 廣瀬立郎
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金分担金(23500788)	2011年4月～2013年3月	日本学術振興会	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
Physiologyにおいて発表	2010年6月30日～2010年7月2日	マンチェスター大学(イギリス)	
Physiologyにおいて発表	2011年7月	オックスフォード大学(イギリス)	

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体力医学会 physiology

(2012年度 新任教員)

小山 桂史 (こやま けいじ) 専任講師



出生年 : 1984年(昭和59年)
 在籍 : 2012(平成24)年4月～
 最終学歴 : 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程満期退学
 学位 : 修士
 学位論文 : 外側広筋のモーメントアーム長と走能力の関係(卒業論文) 筋腱複合体の機能的特性が身体運動のパフォーマンスに及ぼす影響(修士論文)
 専門分野 : スポーツバイオメカニクス
 前職 : 順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 資格 : 中学校教諭一種免許(保健体育) 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 受賞・表彰 : 第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12) 栗本閔夫記念奨学金受賞(2006.3) 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝(2007.3) 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞(2010.9)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
歩行の着地時に作用する衝撃力は体重相当、もしくは高速度の歩行であれば体重の2倍相当にもなりえる。これらの衝撃力は、特に高齢者や障害者にとって非常に大きな負荷となり、障害の誘発や再発させる危険因子である。そのような背景を基に、シューズの踵部には衝撃緩衝材が挿入されてきた。そこで、2010年度ではシューズの踵部に挿入した衝撃緩衝材が歩行時の衝撃力に及ぼす影響について検討した。その結果、衝撃緩衝材を挿入するのみでは衝撃力は減衰されなかった。しかし、衝撃緩衝材の面積を拡大することによって、衝撃力は減衰された。ただ本研究では、その面積をどの程度、拡大すれば効果が得られるかまでは明らかには出来なかったため、その点については今後の課題点である。					
2011年度の研究活動概略					
エネルギー消費量が高められる機能を持つと謳われたシューズが人気を集めている。そのシューズは、前後方向に湾曲したソール形状で、ソールの材質が柔らかく、着用者に不安定性を高める構造で作られていることから、Unstable shoes(US)と呼ばれてきた。USを着用した際には、姿勢を安定させるために筋活動量やエネルギー消費量が増大すること期待されてきたが、それらの効果については特に歩行では一致していない。そこで、2011年度ではUSの着用が歩行の生理学的反応に及ぼす影響を検討した。その結果、USを着用することによって、いずれの速度においても主観的運動強度や至適速度を変化させることなく、筋活動量やエネルギー消費量が増大することが明らかとなった。今後、USのソールの湾曲率や材質の柔らかさを変えて、それらに及ぼす影響を検討する必要がある。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「大腿直筋と中間広筋の筋厚比が陸上競技における長距離走選手の走動作に及ぼす影響」	共著	2011年7月	トレーニング科学 Vol.22 No.4	小山 桂史, 仲村 明, 柳谷 登志雄	347-355頁
“The influence of position and area of shock absorbing material of shoes on ground reaction force during walking”	共著	2011年8月	IFMBE Proceedings, Volume 31	Keiji Koyama, Joji Umezawa, Toshiyuki Kurihara, Hisashi Naito, Toshio Yanagiya	pp.262-265
「世界一流男子中距離走者のレースパターンと走動作」	共著	2011年8月	日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究報告書	門野 洋介, 榎本 靖士, 鈴木 雄太, 芦澤 宏一, 法元 康二, 小山 桂史	105-121頁
「世界一流女子中距離走者のレースパターンと走動作」	共著	2011年8月	日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究報告書	門野 洋介, 榎本 靖士, 鈴木 雄太, 芦澤 宏一, 法元 康二, 小山 桂史	122-134頁
「長距離レースにおける世界一流選手の走動作の特徴」	共著	2011年8月	日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究報告書	榎本 靖士, 門野 洋介, 法元 康二, 鈴木 雄太, 小山 桂史, 千葉 哲	135-153頁

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「下肢スティフネスの性差に関する研究」	2010年8月	第21回日本バイオメカニクス学会大会, ポスター発表	渡辺 圭佑, 小山 桂史, 青木 和浩, 勝俣 康之, 越川 一紀, 柳谷 登志雄
“Laterality of the Foot and Ankle Joint Kinematics during Contact Phases of Sprint Running in a Curved Lane for Children.”	2010年8月	6th World Congress of Biomechanics, poster presentation, poster presentation	Toshio Yanagiya, Joji Umezawa, Keiji Koyama, Keisuke Watanabe, Takafumi Shimizu, Toshiyuki Kurihara, Sakura Tanaka, Hideyuki Ishi, Hisashi Naito
「SORBORの面積が歩行時の衝撃力に及ぼす影響」	2010年9月	第24回 日本靴医学会学術集会, 口頭発表	小山 桂史, 渡辺 圭佑, 柳谷 登志雄
「シューズを履くことで歩行の接地における衝撃力は軽減されるのか？」	2010年9月	第61回 日本体育学会, ポスター発表	小山 桂史, 渡辺 圭佑, 柳谷 登志雄
「衝撃吸収材SORBORをシューズへ挿入することが歩行時の衝撃力に及ぼす影響」	2010年9月	第21回 日本バイオメカニクス学会, ポスター発表	小山 桂史, 渡辺 圭佑, 柳谷 登志雄
“The influence of position and area of shock absorbing material of shoes on ground reaction force during walking”	2010年9月	6th World Congress of Biomechanics, poster presentation, poster presentation	Keiji Koyama, Joji Umezawa, Toshiyuki Kurihara, Hisashi Naito, Toshio Yanagiya
「着地時におけるソール材の衝撃緩衝性について」	2010年12月	第23回 日本トレーニング科学学会大会, ポスター発表	柳谷 登志雄, 各務 泰輝, 小山 桂史, 渡辺 圭佑
“Difference in the impact force and muscle activity during barefoot and shod walking”	2011年3月	Inaugural International Academy of Sportology, poster presentation	KOYAMA Keiji, NAITO Hisashi, YANAGIYA Toshio
「Unstable shoesを着用して歩行する際の下腿三頭筋の動態」	2011年9月	第62回 日本体育学会大会, ポスター発表	柳谷 登志雄, 小山 桂史, 内藤 久士
「靴の着用が歩行中の下肢の動作および骨格筋の力発揮に及ぼす影響」	2011年9月	第66回 日本体力医学会大会, 口頭発表	小山 桂史, 内藤 久士, 柳谷 登志雄
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
国際学会参加助成 受賞(2010.9)	2010年9月	日本バイオメカニクス学会	小山 桂史
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
シューズの機能性の検証	2009年4月～2012年3月	アキレス株式会社株式会社	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
共同研究費 研究課題: シューズの形状および機能性が腓腹筋内側頭の筋腱複合体の動態に及ぼす影響	2010年4月～2011年3月	順天堂大学 共同研究者: 渡辺 圭佑, 柳谷 登志雄, 内藤 久士	
共同研究費 研究課題: Unstable shoesを履いて歩行した時の筋腱複合体の長さ変化	2011年4月～2012年3月	順天堂大学 共同研究者: 柳谷 登志雄, 内藤 久士	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
第6回 World Congress of Biomechanicsでポスター発表	2010年8月	Suntec Convention Centre(Singapore)	

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本バイオメカニクス学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本トレーニング科学会, 日本バレーボール学会, 日本靴医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
負荷心電図の測定員	2010年4月～2012年3月 (全3年)	印西市役所ふれあいセンターいんば健康づくりセンター
研究補助員「リサーチアシスタント」	2010年5月～2012年3月 (全3年)	順天堂大学
日本陸上競技選手権大会の測定員	2010年6月	日本陸上競技連盟科学委員会
瞬足陸上教室で疾走動作の指導	2010年8月	アキレス株式会社
陸上競技の長距離競技を指導	2011年4月～2012年3月 (1年)	千葉県佐倉市立千代田小学校
運動に関するアドバイザー	2011年4月～現在	西武池袋本店

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 助手



出生年 : 1983(昭和58)年
在籍 : 2012(平成24)年~
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士
前期課程修了
学位 : 修士(体育科学)
学位論文 : スポーツと暴力に関する文化論的研究 - 運動部活動の指
導場面に着目して - (修士論文)
専門分野 : スポーツ哲学、バレーボール、コーチング
職前資 : 宮城県石巻市立稲井中学校臨時的教員(保健体育科)
格 : 国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
実用フランス語技能検定3級

スポーツ健康政策学科 (Department of Culture and Sport Policy)

岡本 真佐子 (おかもと まさこ) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 2007(平成19)年4月～
 最終学歴 : 大阪大学人間科学研究科博士後期課程単位取得退学
 学位 : 修士(人間科学)
 専門分野 : 文化人類学、文化政策、国際文化交流
 前職 : 国土館大学21世紀アジア学部 教授
 学内役職等 : スポーツ健康政策学科長(2010・2011)
 留学 : トルコ・ボアチ大学歴史学部 客員研究員
 英・オックスフォード大学東洋研究所 客員研究員

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実践を取り入れた授業展開 (文化プログラム、文化プログラムマネジメント)	2008年9月～	「文化プログラム」および「文化プログラムマネジメント」授業において、学外の専門家と共同して身体運動を伴う実践や、ジャーナリスト体験等を取り入れた授業を実施。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本社会学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年12月～現在	国土交通省 交通政策審議会委員

清水 麗 (しみず うら) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程国際政治経済学研究科 単位取得満期退学
 学位：修士(地域研究)、修士(学術)、博士(国際政治経済学)
 学位論文：「戦後日中台関係とその政治力学-台湾をめぐる国際関係-」(博士論文)
 専門分野：日台関係、東アジアの国際関係論、地域研究、日中台関係
 前職：国士舘大学21世紀アジア学部教授
 学内役職等：学務部副部長(2010・2011)
 非常勤講師：東京外国語大学

研究活動

2010年度の研究活動概略					
1950年代からの東アジアにおいて、「反共」ファクターがどのような意味をもち、日台、日中関係にどのように影響を与えていたのかについて研究活動を行い、日本台湾学会学術大会での報告、シンポジウムでの報告を行った。この研究にあたり、台湾での資料収集等を行った。					
2011年度の研究活動概略					
2010年度に引き続き、1950年代から70年代までの東アジアにおける「反共ファクター」の研究を行い、日台・日中・日韓関係それぞれへの影響を考察した。これについては、研究会での議論・報告を重ね、12月で共同研究としての活動は終了した。また、日中国交正常化40周年を迎える2012年を前に、共同研究での成果に基づき、日中関係の社会・文化的面から、台湾ファクターが日中関係におよぼす影響について考察を行った。これについては、2012年度に出版予定。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
(報告論文)「1960年代中華民国の対日関係強化の模索 『反共』と宣伝戦」	単著	2010年5月29日	日本台湾学会第12回学術大会	-	pp.0-12
(報告論文)「台湾の中華民国対外政策における『反共』ファクター 1950年代の韓国と日本のはざま」	単著	2010年12月11日	立教大学アジア地域研究所主催シンポジウム「冷戦と東アジア地域の諸相 日・韓・台関係らの東アジア国際関係史再考」	-	pp.0-8
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「1960年代中華民国の対日関係強化の模索 『反共』と宣伝戦」	2010年5月29日	日本台湾学会第12回学術大会	-		
(口頭発表)「台湾の中華民国対外政策における『反共』ファクター 1950年代の韓国と日本のはざま」	2010年12月11日	立教大学アジア地域研究所主催シンポジウム「冷戦と東アジア地域の諸相 日・韓・台関係らの東アジア国際関係史再考」	-		
(口頭発表)「台湾外交史研究の課題」	2011年10月12日	早稲田大学和台湾研究所ワークショップ	-		
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
東アジア冷戦と地域主義の交錯 日韓国交正常化と台湾ファクター	2010年4月～2011年12月	JFE21世紀財団「アジア歴史研究助成」			

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
研究調査	2010年8月9日～17日	台湾
研究調査	2011年3月7日～12日	台湾
研究調査	2011年9月13日～17日	台湾
研究調査	2012年3月14日～17日	台湾
(その他特記事項)		
東京外国語大学大学院 博士学位論文審査(2010年9月)		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アジア政経学会、日本国際政治学会、日本台湾学会

時 本 識 資 (ときもと つねつぐ) 教授



出 生 年 : 1959(昭和34)年
 在 籍 籍 : 2006(平成18)年4月～
 最 終 学 歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科 修了
 学 位 位 : 修士(体育学)、博士(政治学)
 学 位 論 文 : 戦後日本におけるスポーツ行政構造と政策に関する研究
 専 門 分 野 : スポーツ政策論
 学 内 役 職 等 : スポーツ健康政策学部長(2010・2011)
 資 格 : 国会議員政策秘書資格

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『社団法人化の歩み』 『日本体育学会60年記念誌』	共著	2010年9月	(社)日本体育学会	福永哲夫 他	36-37頁
『モスクワ・オリンピックボイコットから30年』 『スポーツゴジラ13号』	共著	2010年9月	スポーツネットワーク ジャパン	伊藤公、中条一雄、 太田章、時本識資、 落合博	5-20頁
『スポーツと地域政策』 『スポーツ政策論』	共著	2011年11月	成文堂	菊幸一 他	370-376頁
(学術論文)					
『「山を登る(登山)」こと、「山を歩く(ウォーキング)」こと』	単著	2010年4月	帰れ 自然へ・アルク (財団法人日本万歩クラブ)	-	4-5頁
『「スポーツ立国戦略」の具現化に向けた“戦略”を描く』	単著	2010年11月	体育科教育11月号	-	30-33頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
『1980年モスクワ五輪から30周年』	2010年5月	日本スポーツ学会	中条一雄、伊藤公、大田章、 時本識資、落合博		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
『スポーツ政策論』	2010年7月	財団法人日本スポーツクラブ 協会			
『スポーツ政策論』	2011年7月	財団法人日本スポーツクラブ 協会			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2002年4月～2011年3月	(財)日本アンチ・ドーピング機構倫理委員会委員
2005年4月～現在	日本体育・スポーツ政策学会理事
2007年4月～現在	(在)日本スポーツクラブ協会専門委員
2008年4月～現在	(独)大学評価・学位授与機構学位審査会専門委員

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 准教授



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
 単位修得退学
 学位：修士(文学)
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 資格：中学校教員専修免許状(国語)
 高等学校教員専修免許状(国語)
 博物館学芸員資格

研究活動

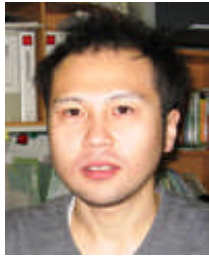
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『新版 能・狂言事典』	共著	2011年1月25日	平凡社	西野春雄、羽田昶編集	319頁、427頁、502頁、564頁、「佐竹昭弘」「明宿集」項目執筆、「参考図書目録」増補改訂担当)
『明治時代史辞典』	共著	2011年11月	吉川弘文館	宮地正人、佐藤能丸、櫻井良樹 編集	「坂元雪鳥」「丸岡桂」「山崎楽堂」項目執筆
(学術論文)					
「番外曲 高安 と「高安の女」」	単著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	-	1-12頁
「野球から「文化スポーツ」を考える 付：押川春浪「野球團の海外遠征に就いて」(抄)」	単著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	-	19-29頁
「謡曲にみる宗教喧伝の一側面 - 番外曲 姥火 二種についてのノート -」	単著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	-	253-260頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「謡曲にみる宗教喧伝の一側面：番外曲 姥火 二種について」	2010年9月4日	日本宗教学会 第69回学術大会(第13部会)、東洋大学(東京都文京区)	-		
(口頭発表)「謡曲における仏僧：僧ワキの宗教的機能について」	2011年9月4日	日本宗教学会 第70回学術大会(第11部会)、関西学院大学(兵庫県西宮市)	-		
(パネルディスカッションパネラー)「八尾・高安と能楽の関わりを探るシンポジウム 名曲の数々を生んだこの地 高安」	2011年10月22日	主催 高安新能実行委員会、高安ルーツの能実行委員会、共催 大阪経済法科大学、後援 八尾ライオンズクラブ・八尾市・八尾市教育委員会・八尾文化財調査研究会・八尾市文化振興事業団・エリーニユネスコ協会・日本ユネスコ協会連盟、大阪経済法科大学(大阪府八尾市)	棚橋利光、坂上弘子、橋場夕佳、今泉隆裕		

その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
(エッセイ)「歩くことの日常性 / 走ることの非日常性」	2010年11月	帰れ自然へアルク(535)、2-3頁、財団法人日本万歩クラブ
(エッセイ)「春日野の、飛火の野守出でて見れば、いまいく程ぞ若菜摘む」	2011年3月	日本文学誌要(83)、22-23頁、法政大学国文学会
(その他特記事項)		
(発表要旨)「謡曲にみる宗教喧伝の一側面: 姥火 姥が火 を例として」日本宗教学会 第69回学術大会(第13部会)、宗教研究 84(4)、428-429頁、2011年3月		
(発表要旨)「謡曲における仏僧: 僧ワキの宗教的機能について」日本宗教学会 第70回学術大会(第11部会)、宗教研究 85(4)、1212-1213頁、2012年3月		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年 : 1977(昭和52)年
在籍 : 2008(平成20)年4月～
最終学歴 : 国土舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
単位取得後退学
学位 : 修士(体育科学)
学位論文 : 戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究
- 「体育政策」から「スポーツ政策」への転換 -
専門分野 : スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
前職 : 国土舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手

研究活動

2010年度の研究活動概略

新しい公共・ナショナリズム等をキーワードとし研究会を毎月開催。

2011年度の研究活動概略

研究会での発表内容等を学会用で発表

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

(2012年度 新任教員)

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 2012(平成24)年4月～
 最終学歴 : 京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻
 修了
 学位 : 博士(学術)
 学位論文 : モーリス・ベジャール研究 メディアと芸術の関係を軸と
 して(博士論文)
 専門分野 : メディア論、表象文化論、身体論
 前職 : 大同大学情報学部教授
 学内役職等 : スポーツ健康政策学科長(2012)
 資格 : 一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 [*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)]

研究活動

2010年度の研究活動概略					
『デジタル映像アーカイヴ』について個人研究、および『オンデマンド出版とパブリックドメイン・コンテンツ』について個人研究。いずれも大学紀要(大同大学、映画専門大学院大学)に論文発表。					
2011年度の研究活動概略					
モーリス・ベジャールについて個人研究。紀要論文1編を発表。同テーマでの以前からの成果をまとめ、学位論文を作成、京都造形芸術大学に提出。博士(学術)取得。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
『デジタル映像アーカイヴは映画研究にどう寄与するか パレエ映画を例に』	単著	2010年12月	CreBiz(映画専門大学院大学紀要)第5号	-	44-54頁
『オンデマンド出版とパブリックドメイン・コンテンツの親和性 『エスプレッソ・ブック・マシーン』の示唆』	単著	2010年12月	大同大学紀要第46巻	-	63-68頁
『1960年代～1980年代の写真集メディアとモーリス・ベジャール』	単著	2011年12月	大同大学紀要第47巻	-	131-138頁
『モーリス・ベジャール研究 メディアと芸術の関係を軸として』	単著	2012年3月	博士論文(京都造形芸術大学)	-	

大野 哲也 (おおの てつや) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程 指導認定退学
 学位：博士(人間・環境学)、修士(社会学)、修士(人間・環境学)
 学位論文：書き換えられる記憶, 定型化する物語 日系アルゼンチン移民の過去の再構成の試みから (修士論文:社会学)
 『自分探し』の旅という神話を超えて アジアにおける日本人バックパッカーの調査から (修士論文:人間・環境学)
 冒険的な旅から冒険的な生き方へ アジアにおける日本人バックパッカーの「自分らしさ」の軌跡から(博士論文:人間・環境学)
 専門分野：文化人類学、社会学、環境人間学
 前職：京都大学GCOE短時間研究員
 資格：中学校教諭1級普通免許(保健体育)
 高等学校教諭2級普通免許(保健体育)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
千里金蘭大学 生涯学習公開講座(全5回)	2010年5、6月	千里金蘭大学が一般人を対象にしている公開講座で「旅と異文化理解」と題して、私自身の自転車世界一周旅行の経験を題材にしながら、文化人類学的に異文化理解について講義を行いました。
立命館大学 土曜講座	2010年12月	これは立命館大学が行っている主に社会人の方を対象にした生涯学習講座である。当日は、「グローバル化と人の移動」というテーマの下、「日本人バックパッカーの身ぶり」というタイトルで現代社会におけるツーリズムの文化、社会的意味について講演を行いました。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
東南アジアと南アジア諸国における観光研究 三重県東紀州地域における地域研究					
2011年度の研究活動概略					
東南アジアと南アジア諸国における観光社会学的研究 三重県東紀州地域における地域研究 ケニアにおける環境社会学的研究とスポーツ人類学的研究					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『観光研究レファレンスデータベース 日本編』	共著	2011年3月	ナカニシヤ出版	江口信清・藤巻正己編	94-105頁
(学術論文)					
「冒険的な旅から冒険的な生き方へ アジアにおける日本人バックパッカーの「自分らしさ」の軌跡から」	単著	2010年11月	京都大学大学院人間・環境学研究科に提出した博士論文	-	
“Backpacking as a Means of Self-Discovery –The Case Study of Japanese Backpackers Traveling around Asia–”	単著	2011年3月	Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities.Ritsumeikan University	-	pp.47-57

「アイデンティティの再肯定 アジアを旅する日本人バックパッカーの『自分探し』の帰結」	単著	2011年3月	『関西学院大学社会学部紀要111号』 関西学院大学	-	177-192頁
「標準化する『放浪』 ネパール・カトマンズにおける日本人宿の形成過程から」	単著	2012年3月	立命館大学人文科学研究紀要	-	173-207頁
「スポーツと地域おこし イベントの持続可能性を探る」	単著	2012年3月	『社会学実習調査報告書 地域にまなぶ 第16集』	-	164-175頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
“Backpacking as the Means of “Seeking the Self”: A Case Study of Japanese Backpackers in Asia”	2010年11月6日	International Tourism Seminar(Campus Plaza Kyoto/Kyoto,Kyoto)	-		
「冒険的な旅から冒険的な生き方へ - アジアにおける日本人バックパッカーの『自分らしさ』の軌跡から -」	2011年7月24日	日本人類学会近畿地区研究懇談会博士論文発表会(立命館大学/京都府京都市)	-		

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本社会学会、日本文化人類学会、日本南アジア学会、日本環境社会学会、社会学研究会

乗松 優 (のりまつ すぐる) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：九州大学大学院比較社会文化学府日本社会文化専攻博士後期課程修了
 学位：博士(比較社会文化)
 学位論文：国際労働力としてのフィリピン人ボクサーに関する一考察
 サスキア・サッセンの議論から(修士論文)
 プロボクシング東洋選手権とは何だったのか(博士論文)
 専門分野：スポーツ社会学、文化社会学、社会史
 前職：九州大学大学院特別研究者
 資格：プロボクシングプロテスト合格(C級)
 NAUIスクーバダイビングライセンス取得
 非常勤講師：関東学院大学

研究活動

2010年度の研究活動概略					
日本政府の支援を受けたボクシングの国際大会を事例に、東南アジアへの再進出を図る岸政権の政策を分析した。研究論文として、「岸信介の東南アジア政策とスポーツ プロボクシング『東洋チャンピオン・カーニバル』を中心に」を『スポーツ社会学研究』で発表。今後の課題は、スポーツを文化政策の根幹に据えた政治家の人間関係と政治的な影響力を明らかにすることである。					
2011年度の研究活動概略					
日本人とフィリピン人との間で戦われたプロボクシング東洋選手権の意義を明らかにした。なかでも、いかに東洋選手権が敗戦によって傷ついた「日本人」のアイデンティティを回復するのに貢献したかを取り上げた。2011年度の研究は、九州大学大学院・博士論文として受理された。今後、石風社から単著、『ボクシング東洋選手権と大東亜の夢』を上梓する予定である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「プロボクシング東洋選手権とは何だったのか」	単著	2011年3月	学院論文(博士)	乗松優	
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「『接触領域』としてのボクシング 大戦間期ハワイにおける日本人とフィリピン人の関わりに注目して」	2010年6月	福岡・フィリピン友好協会	福岡山王病院大ホール(福岡市)		
「ボクシングと愛国社 田辺宗英、野口進はいかにして日本とフィリピンを結びつけたか」	2011年7月	同時代史学会定例研究会	立教大学(東京都)		
その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「キャンプ座間ボクシング大会—日本初の試みに寄せて」	2011年9月1日	Pacific Boxing Showdown in Camp Zama			
「ふたつの世界を身体文化で繋ぐ 推薦の言葉にかえて」	2012年3月	FIL-JAPAN BOXING FESTIVAL			

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本スポーツ社会学会、日本社会学会、東南アジア学会		
(主な活動内容)		
岩手県・野田村での復興支援	2012年3月～現在	受け入れ先:野田村役場

高橋 茉生 (たかはし まお) 助手



出生年 : 1981(昭和56)年
在籍 : 2012(平成24)年4月～
最終学歴 : 筑波大学大学院体育研究科スポーツ科学専攻修士課程修了
学位 : 体育学修士
学位論文 : ラフミラーの非行少年キャンプにおける治療的要因に関する研究～援助の構造と内容から～
専門分野 : 野外教育
前職 : 明治学院大学教養教育センター健康・スポーツ科学研究室 教学補佐
資格 : 四級小型船舶操縦士免許
サーフライフセービング オーストラリアリミテッド ブロンズメダル(Bronze Medallion)
日本ライフセービング協会 C級審判員
日本ライフセービング協会 ベーシックサーフライフセーバー
日本赤十字社 救急法救助員
日本ライフセービング協会 アドバンスサーフライフセーバー
中学校第一種教員免許(保健体育)
高校第一種教員免許(保健体育)
中学校専修教員免許(保健体育)
高校専修教員免許(保健体育)
四級アマチュア無線技士
財団法人全日本スキー連盟 スキー検定1級
コンフィダレーション モンディオール デス アクティビティーズ サブアクウォーターズ(CMAS)スクーバダイビングオープンウォーターライセンス(1STAR DRIVER)
日本ライフセービング協会 CPR
日本赤十字社 水上安全法救助員
全日本スキー連盟 スキー準指導員
非常勤講師 : 尚美学園大学
受賞・表彰 : 第13回全日本室内ライフセービング選手権大会
女子200M自由形障害物レース2位 (2000)

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本野外教育学会

大学院

工学研究科 (Graduate School of Engineering)

宮坂 力 (みやさか つとむ) 教授



出生年 : 1953(昭和28)年
 在籍 : 2001(平成13)年12月～
 最終学歴 : 東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位 : 工学博士
 学位論文 : 光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野 : 光電気化学、環境エネルギー科学
 前職 : 富士写真フイルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等 : 研究推進部長(2012)
 留学 : カナダ・ケベック大学トアリピエール校生物物理学科
 (1979～1980)
 資格 : 危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰 : 2002年 (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」
 2004年 横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」
 2005年 Scientific American 50 selection (2005)
 2009年 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞
 2012年 日本写真学会 学術賞

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディアとして、ビデオ等を使った最新技術の紹介	2005年度～2012年度	「環境エネルギー工学」ならびに「環境工学概論」の授業において、地球環境にやさしいエネルギー生産技術(バイオ燃料、太陽電池等)の導入を行っている国内・海外の社会情勢取材した内容を、PowerPointの映像とビデオで紹介した。
2.作成した教科書、教材、参考書		
環境エネルギー工学に関するテキスト	2005年度～2012年度	「環境エネルギー工学」ならびに「環境工学概論」の授業において、環境工学とエネルギー工学を学ぶために必要な論理と技術のトピックスをまとめたオリジナルテキストを作成し、配布した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学外の専門家(企業人、大学教授)を招いた講演会を開催し、授業を履修する学生にも聴講させた。	2008年度～2012年度	エネルギー生産や環境科学に携わる企業ならびに大学研究機関(国内ならびに海外)から専門の研究者を呼んで、学内の教室で講演会と自由討論会を行った。講演会が授業内容に関連している場合は、授業を履修する学生に授業の一環として聴講させ、社会への環境貢献に向けたアンケートを提出させ、学生の環境・エネルギーの改善に向けた価値観を啓発した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
海外の大学から大学院学生の短期研修の受け入れ	2009年～2012年度	カナダ、中国、台湾などの国立大学で学ぶ大学院生(修士課程、博士課程)を、学生交換の支援団体(交流協会等)を通じて、本学における短期研修のために研究室で受け入れ、実験研究を指導するとともに海外の大学との研究協力につなげる機会を設けた。

研究活動

2010年度の研究活動概略

色素増感型太陽電池と光蓄電素子の創製を中心とする研究開発を進め、研究成果を7件の総説にまとめ、この分野の基礎である光電気化学エネルギー論について欧文書籍を出版した。他大学(東京都市大学等)や企業との研究協力によって博士号を取得した学生2名を企業に送り出した。また、太陽電池開発においては内閣府による最先端研究開発支援プログラム(FIRST)「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」に参画し、東京大学との共同実施による研究がスタートした。

2011年度の研究活動概略

最先端研究開発支援プログラム(FIRST)「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」において、東京大学の先端科学技術研究センターに実験室を設け、新しい設計コンセプト(米国の学術論文誌で紹介)による有機無機ハイブリッド太陽電池の研究を本格的にスタートした。博士課程に学生2名が入学し色素増感を用いるハイブリッド太陽電池の新しい研究テーマもスタートした。一方で経済産業省NEDOによる次世代高性能光発電プロジェクトにおいて、プラスチック色素増感太陽電池の開発を他大学・企業の連携体制で進め、国際学会ならびにNEDO報告会において成果発表を行った。10月には大分県別府市において宮坂研究室が実行委員事務局を務める有機太陽電池関連の国際会議を開催した。

著書・論文等

著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『色素増感太陽電池のモジュール化・材料開発・評価技術』 プラスチックセル創製技術 高効率化と高耐久化	共著	2010年4月23日	技術教育出版社	瀬川浩司、内田聡編集 宮坂力、手島健次郎、池上和志	第五章
『人工光合成と有機系太陽電池』 「Photovoltaically Self-Charging battery」 「大面積フィルム型色素増感太陽電池」	共著	2010年7月20日	化学同人	宮坂力、他	第13章
『太陽電池の基礎と応用』 「フレキシブル色素増感太陽電池開発の現状と課題」 (総説・論説)	共著	2010年7月20日	培風館	小長井 誠、近藤 道雄、山口 真史、宮坂力、他	270-274頁
『プラスチックセル創製技術 高効率化と高耐久化』	共著	2010年4月23日	色素増感太陽電池のモジュール化・材料開発・評価技術 (技術情報出版社)	宮坂力、手島健次郎、池上和志	第5章
『太陽電池の基礎と応用』 「フレキシブル色素増感太陽電池の現状と課題」	共著	2010年7月20日	培風館	日本学術振興会 第175委員会監修、小長井誠他、編著	ISBN 9784563067809 270 - 274頁
『人工光合成と有機系太陽電池』 「大面積フィルム型色素増感太陽電池」	単著	2010年7月20日	日本化学会編、化学同人	福住 俊一、民秋均、宮坂力、他	ISBN 9784759813623 Part I, 13章
『人工光合成と有機系太陽電池』 「論文にみる最重要概念と革新実験データ」	単著	2010年7月20日	日本化学会編、化学同人	福住 俊一、民秋均、宮坂力、他	ISBN 9784759813623 Part II, 4章
“Polymer-based engineering for high-efficiency plastic dye-sensitized solar cells”	共著	2010年8月5日	J. Photopolymer Sci. Tech., 23	T. Miyasaka and M. Ikegami	pp.269-277
『プラスチック色素増感太陽電池の高効率化とモジュール化』	単著	2010年10月1日	「有機薄膜太陽電池の開発動向」、シーエムシー出版	上原赫,吉川暹監修	第6章 3.,3.1-3.5 項
『色素増感半導体を用いる光キャパシタの開発』	共著	2010年10月1日	「有機薄膜太陽電池の開発動向」、シーエムシー出版	上原赫,吉川暹監修	第6章 4.,4.1-4.4 項
“Quantum Conversion Management of the Sensitized Semiconductor Electrodes: Strategies against Energy Dissipation”	単著	2010年12月1日	Electrochemistry, Vol.78 No.12	-	pp.960-969
『プリンタブル、フレキシブル色素増感太陽電池の開発動向』	共著	2011年3月1日	ロールtoロール技術の最新動向 プロセス最適化への課題と解決策、シーエムシー出版	監修 杉山征人	238-249頁

『ロールtoロール技術の最新動向』 「プリンタブル、フレキシブル色素増感太陽電池の開発動向」 (学術論文)	単著	2011年3月1日	シーエムシー出版	杉山征人 監修、井口誠他	ISBNコード: 978-4-7813-0321-5
“Polythiophene-based mesoporous counter electrodes for plastic dye-sensitized solar cells”	共著	2010年6月26日	J. Electrochem. Soc., 157	T. Muto, M. Ikegami, and T. Miyasaka	B1195-B1200
“Co-sensitization promoted light harvesting for plastic dye-sensitized solar cells”	共著	2011年2月15日	Journal of Power Sources, 196(4)	Kun-Mu Lee, Ying-Chan Hsu, Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka , K. R. Justin Thomas, Jiann T. Lin, and Kuo-Chuan Ho	pp.2416-2421
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
「光蓄電機能を持つ色素増感太陽電池の最新技術」	2010年4月19日	光機能材料研究会 第26回講演会「光触媒と色素増感太陽電池の研究開発」、東京大学先端科学技術研究センター4号館講堂	東京大学先端科学技術研究センター4号館講堂		
“Development of Film-type bifacial dye-sensitized solar cells”	2010年6月13日 ～18日	CIMTEC 2010, 5th Forum on New Materials(国際学会), Montecatini, Terme, Italy in Symposium FG, PHOTOVOLTAIC SOLAR ENERGY CONVERSION: MATERIALS AND TECHNOLOGY CHALLENGES	-		
“Polymer-based engineering for high-efficiency plastic dye-sensitized solar cells” (invited)	2010年6月22日 ～25日	Photopolymer conference(国際学会), 千葉大学、けやき会館	-		
“Experimental Study of Photo-electrochemical Characteristic of Photocapacitor”	2010年6月28日 ～7月1日	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) パシフィコ横浜	山本慶太、手島健次郎、池上和志、 宮坂 力		
“High viscosity electrolytes containing polyvinyl alcohol and imidazolium iodide for the dye-sensitized solar cell”	2010年6月28日 ～7月1日	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) パシフィコ横浜	田村壮礼、池上和志、 宮坂力		
“Plastic Dye-sensitized Solar Cells with Organic Dyes: Efficiency Improvement with TiOx Buffer Layers”	2010年6月28日 ～7月1日	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) パシフィコ横浜	森田紗織、池上和志、 宮坂力		
“Photoelectrochemical study on the characteristic of photocapacitors”	2010年6月28日 ～7月1日	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) パシフィコ横浜	山本慶太、池上和志、 宮坂力		
“Recent progress in the plastic dye-sensitized solar cell with high- extinction organic dyes and thin TiO2 films”, (invited)	2010年 7月19日 ～20日	International Symposium on Mesoscopic Solar Cells(国際学会), Wuhan National Laboratory for Optoelectronics (WNLO)、武漢(Wuhan)、中国	-		
“Plastic dye-sensitized photovoltaic cells with metal-free organic sensitizers”	2010年7月25日 ～30日	The 18th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-18), Seoul, Korea	Tsutomu Miyasaka, Saori Morita, and Masashi Ikegami		
“Plastic dye-sensitized solar cells with high extinction organic dyes” (invited)	2010年8月25日 ～28日	The 5th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells(国際学会)、黄山市、中国	-		
「色素増感太陽電池の直列及び並列接続における電気化学特性の検討」	2010年8月30日 ～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	山本慶太、手島健次郎、池上和志、 宮坂力		

「新規吸着基を持つカルバゾール系有機色素を用いた色素増感太陽電池1、増感色素の合成とデバイス評価」	2010年8月30日 ～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	甲村長利、原浩二郎、X.H. Zhang、池上和志、手島健二郎、宮坂力
「新規吸着基を持つカルバゾール系有機色素を用いた色素増感太陽電池2、プラスチック電極への応用と高効率化」	2010年8月30日 ～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	森田沙織、河野正教、池上和志、手島健二郎、宮坂力、甲村長利、原浩二郎、張雪華
「白金触媒と導電性高分子対極を用いた色素増感太陽電池の電気化学特性」	2010年8月30日 ～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	塚本直、池上和志、宮坂力
「イオン液体ハロゲン化物を電解液に用いた電気二重層キャパシタの初期特性」	2010年8月30日 ～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	伊奈隼人、池上和志、手島健二郎、宮坂力
「白金/導電性高分子複合膜を用いる色素増感太陽電池プラスチック対極の電気化学特性」	2010年9月2日 ～3日	電気化学会2010年秋季大会、神奈川工科大学	塚本直、池上和志、宮坂力
“Bifacial Plastic Photovoltaic Cells with Thin TiO2 Films Sensitized by Metal-Free Organic Dyes”	2010年9月23日 ～26日	The 17th China-Japan Bilateral Symposium on Intelligent Electrophotonic Materials and Molecular Electronics (SIEMME' 17) (国際学会),北京	Tsutomu MIYASAKA
“Low Temperature Preparation of Counter-electrodes for Full Plastic Film Type Dye-sensitized Solar Cells (Invited)”	2010年10月24日 (～26日)	2010 Korean-Japan Bilateral Symposium on Frontier Photoscience (2010KJFP), Inter-Bulgo Hotel, 300, Manchon-dong, Soosung-gu, Daegu, Korea	Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka
“New Trends in Developments of Sensitized Photovoltaic and Storage devices: From Quantum Dot Sensitization to Photo-rechargeable systems”	2010年11月1日 ～4日	4th International Conference on the Industrialization of Dye Solar Cells (DSC-IC2010) (国際学会), Colorado Springs, Colorado, USA	Tsutomu MIYASAKA
“Electric Double Layer Capacitors That Use Ionic Liquid Having as Electrolytes”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hayato INA, Masashi IKEGAMI, Kenjiro TESHIMA, Tsutomu MIYASAKA
“Application of Carbazole Dyes with Novel Adsorption Derivatives for Molecular Photovoltaics”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Saori MORITA, Masanori KAWANO, Masashi IKEGAMI, Kenjiro TESHIMA, Nagatoshi KOURUMURA, Koujiro HARA, X.-H.Zhang, Tsutomu MIYASAKA
“Electric Double Layer Capacitors with MnO2 for use in High Capacitance “Photocapacitors””	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hiroki NAKAMURA, Kenjiro TESHIMA, Masashi IKEGAMI, Tsutomu MIYASAKA
“A Study on the Module Characteristic of Electrically Connected Dye-sensitized Solar Cells”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Keita YAMAMOTO, Kenjiro TESHIMA, Masashi IKEGAMI, Tsutomu MIYASAKA
“Low-cost, printable design for dye-sensitized semiconductor solar cells (Invited)”	2010年11月18日	3rd International Congress on Ceramics (ICC3) (大阪国際会議場)	Tsutomu MIYASAKA
“Film-type low cost dye-sensitized solar cells and material solutions to high performance and durability”.(Invited)	2010年12月7日 ～11日	DAE-BRNS 3rd International Symposium on Materials Chemistry (ISMC-2010) (国際学会), Mumbai, India	Tsutomu MIYASAKA
「フレキシブル色素増感太陽電池の開発と性能・耐久性解析」	2011年3月10日	第25回エレクトロニクス実装学会春季講演大会、横浜国立大学	Tsutomu MIYASAKA
「有機・無機増感剤を用いるプリンタブル太陽電池の展望」	2011年3月29日	日本化学会第91春季年会、神奈川大学	Tsutomu MIYASAKA
「イミダゾリウム系イオン液体を電解液に用いた色素増感光キャパシタの充放電特性」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、横浜国立大学	伊奈隼人、池上和志、手島健次郎、宮坂力

「色素増感半導体電極を用いる活性酸素種発生と環境浄化システム」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、 横浜国立大学	副田知宏、池上和志、 宮坂力
「ポリビニルアルコールを電解質に用いる擬固体色素増感太陽電池の熱依存特性」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、 横浜国立大学	田村壮礼、池上和志、 宮坂力
「酸化ニオブバッファ層による色素増感太陽電池の電子移動制御と高性能化」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、 横浜国立大学	森田紗織、池上和志、 宮坂力
“Toward Printable Sensitized Solar Cells Using Molecular and Solid-state Light Harvesters”	2011年4月6日 ～9日	The Spring Meeting of Korean Electrochemical Society (国際学会・招待講演) 慶州市、韓国	Tsutomu MIYASAKA
“Printed photovoltaic devices based on molecular and solid-state light-harvesting sensitizers”	2011年5月16日	3rd international Conference on Hybrid and Organic photovoltaics (HOPV2011)(国際学会), Valencia, Spain	T. Miyasaka and M. Ikegami
“Toward high efficiency design of printed thin-film sensitized solar cells”	2011年11月1日	「エネルギー変換技術のシンポジウム 色素太陽電池、化学発行に関するシンポジウム」、遼寧科技大学(中国)	宮坂 力
“Efficient Plastic Film type Dye-sensitized Photoelectrode Prepared by Low Temperature TiO ₂ Coating Paste”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Kousuke AOYAMA, Masashi IKEGAMI and Tsutomu MIYASAKA
“Fabrication of Low-temperature Screen Printing method paste for plastic Dye Sensitized Solar Cell”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Shankar BARAILI, Masashi IKEGAMI and Tsutomu MIYASAKA
“Solar Energy Storage by Two-electrode Type Photocapacitors Containing Imidazolium Ionic Liquids”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hayato INA, Masashi IKEGAMI, Kenjiro TESHIMA and Tsutomu MIYASAKA
“High Efficient Plastic Dye-sensitized Solar Cell With Nb ₂ O ₅ Buffer layer on ITO-PEN”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Saori MORITA, Masashi IKEGAMI and Tsutomu MIYASAKA
“Towards Optimal Combination of Photovoltaic Devices for Facade and Architectural Applications(2)”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Katsuyoshi SATO, Tsutomu MIYASAKA and Masashi IKEGAMI
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「薄型プラスチックフィルム型色素増感太陽電池の開発」	2010年5月19日	プラスチック技術協会平成22年度特別講演会	大阪市立工業研究所4階小講堂
「プラスチック色素増感太陽電池の耐久性向上」	2010年5月24日	主催:情報機構 色素増感太陽電池セミナー第二部	中央大学駿河台記念館 6階620
「有機・色素増感太陽電池の耐久性向上と最新技術動向」	2010年5月25日	セミナー「色素増感太陽電池の封止技術と信頼性・寿命評価(技術情報教会)」	ゆうほうと(東京・五反田)
「色素増感太陽電池のフィルム化と固体ハイブリッド化」	2010年7月2日	主催:日本材料学会 第70回高分子材料セミナー 『色素増感型太陽電池の最前線』	日本材料学会3階会議室(京都市)
「色素増感太陽電池と有機太陽電池」	2010年7月14日	金属学会ナノプレーティング研究会第34回例会、 特集:電池の現状と将来	ホテル竹島(愛知県蒲郡)
「色素増感型太陽電池の基礎」	2010年7月22日	社団法人日本能率協会(JMA)主催 TECHNO-FRONTIER2010「エネルギー・ハーベスティングゾーン/環境発電開発者2010年第1回会議	東京ビッグサイト

「色素増感太陽電池におけるプリント技術開発」	2010年9月28日	プリントエレクトロニクス研究会公開シンポジウム	大阪大学産業科学研究所 インキュベーションセンター
「有機系太陽電池産業のこれから」	2010年9月28日	第15回ユニバーサルソーラーセル研究会	村田製作所、長岡京(京都)
「フレキシブル色素増感太陽電池の開発、～アプリ市場とビジネス化、実用化に向けた研究開発～」	2010年11月16日	平成22年度静岡県環境産業創出事業、色素増感太陽電池の現状と将来の展望	静岡市産学交流センター
「色素増感太陽電池の最新技術」	2010年11月19日	第35回顔料物性講座「環境にやさしい色材技術と太陽電池」	東京塗料会館
「サイエンス アンド テクノロジー」	2010年11月24日	色素増感太陽電池モジュールセミナー 大田区産業プラザ(東京)	-
「色素増感太陽電池の低コスト・高性能化に向けたモジュール開発」	2010年11月25日	有機系太陽電池の高効率化・信頼性向上への開発最前線、R&D支援センターセミナー、商工情報センターカメラプラザ(東京)	-
「プリンタブル太陽電池の現状と最新動向」	2011年3月30日	主催:電子ジャーナル 第287回シンポジウム「プリンタブル・エレクトロニクス徹底検証」、総評会館(東京・新御茶ノ水)	-
「色素増感太陽電池と薄膜フレキシブル化技術」	2011年5月20日	化学工学会、関西支部主催講演会 ここまで来た次世代太陽電池の要素技術	大阪科学技術センター(大阪)
「色素増感太陽電池の現状と課題」	2011年6月30日	第8回光機能材料セミナー、日本写真学会光機能性材料研究会主催	日本印刷会館(東京)
「色素増感太陽電池の印刷式工程に向けた技術開発」	2012年1月25日	セットプリントデバイスPD Tec技術研究会第2回技術交流会	キャンパスイノベーションセンター(東京)
「薄膜プリンタブル色素増感太陽電池の開発」	2012年1月27日	有機太陽電池研究会	総評会館(和歌山・和歌山大学産学連携・研究支援センター)、主催:和歌山大学システム工学部
その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
「光発電可能な車両用日除け装置」	2012年3月5日	実願2012-001203	発明者:宮坂力 出願人:ベクセル・テクノロジーズ株、学校法人桐蔭学園
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「学生講演賞」	2010年8月30日	日本化学会関東支部(筑波大学)	山本慶太、池上和志、手島健次郎、宮坂力
「優秀ポスター賞」	2010年8月30日	日本化学会関東支部(筑波大学)	森田紗織、池上和志、宮坂力
「最優秀ポスター賞」	2011年10月18日	第6回色素増感・有機太陽電池アジア会議	田村壮礼
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」	2010年4月～2013年3月	世界最先端研究支援強化プログラム、(総額28億円)リーダー:東京大学瀬川教授、サブリーダー:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)、本学の受託研究費、1億円	
「有機無機ハイブリッド太陽電池の開発」	2010年4月～2014年3月	最先端研究開発支援プログラム(FIRST) リーダー:東京大学瀬川教授、サブリーダー:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)	

NEDO太陽光発電システム次世代高性能技術の開発	2010年4月～現在	受託テーマ「フィルム型軽量低価格色素増感太陽電池の研究開発」、産学連携型
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
CIMTEC 2010, 5th Forum on New Materials (国際学会)	2010年6月13日～18日	Montecatini, Terme, Italy
The 18th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-18) (国際学会)	2010年7月25日～30日	Seoul, Korea
The 5th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (国際学会)	2010年8月25日～28日	黄山市、中国
4th International Conference on the Industrialization of Dye Solar Cells (DSC-IC2010) (国際学会)	2010年11月1日～4日	Colorado Springs, Colorado, USA
“Toward Printable Sensitized Solar Cells Using Molecular and Solid-state Light Harvesters”	2011年4月6日～9日	The Spring Meeting of Korean Electrochemical Society (国際学会・招待講演) 慶州市、韓国
“Printed photovoltaic devices based on molecular and solid-state light-harvesting sensitizers”	2011年5月16日	3rd international Conference on Hybrid and Organic photovoltaics (HOPV2011) (国際学会), Valencia, Spain
“Toward high efficiency design of printed thin-film sensitized solar cells”	2011年11月1日	「エネルギー変換技術のシンポジウム 色素太陽電池、化学発行に関するシンポジウム」 遼寧科技大学(中国)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
世界最先端研究支援プログラムに東大有機系太陽電池開発のサブリーダーとして参加	2010年6月2日	日刊工業新聞
「ソーラーパネルからソーラーフィルムへ」	2011年7月5日号	小学館「DIME」No.13 7月5日号
(その他特記事項)		
(TV放映) 番組名 世の中 可視化バラエティ マルミセ! 百聞一見録 放送日時 2010年5月30日(日) 14:00～15:25 テレビ朝日系 上記番組内で、最新科学「色素増感太陽電池」について取りあげる。		
(TV取材ならびに放映) 「NIKKEI Japan Report #15」 CNBCアジア 6月27日(日) 9:00/18:00 日経CNBC 6月26日(土)9:00 6月27日(日)22:00 7月1日(木)21:00 7月2日(金)21:00 BSジャパン 7月9日(金)4:45		
2011年3月2日～4日、第4回国際太陽電池展 “PV EXPO 2011” 各種プラスチック色素太陽電池モジュールの展示、東京ビッグサイト		
TV放送用取材・放送 (テレビ朝日「奇跡の地球物語」 “肌～なぜシワはできるのか～” 2011年5月22日18:30～放送予定 収録)		

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会、MRS(Material Research Society)、写真学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年4月～現在	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 技術委員(若手研究ナノテクノロジー分野評価委員)
2009年4月～現在	(独)科学技術振興機構(JST) 国際科学技術協力推進委員、審査委員
2010年4月～現在	研究開発支援プログラム(FIRST) サブテーマリーダー
2010年4月～現在	(社)電気化学会評議員

大塚 雅人 (おおつか まさと) 准教授



出生年 : 1965 (昭和40)年
 在籍 : 2004 (平成16)年4月 ~
 最終学歴 : 岡山大学医学部
 学位 : 医学博士
 学位論文 : Otsuka M, Itagane H, Haze K : "Clinical significance of improved persistent defect by thalium-201 reinjection imaging in the subacute phase of myocardial infarction." J Cardiol 33; 67-74, 1999
 専門分野 : 循環器病学、心血管カテーテルインターベンション、血管内超音波、心臓CT
 前職 : 大阪市立総合医療センター循環器内科医長
 留学 : Erasmus Medical Center, Rotterdam (2005.11-2007.3)
 資格 : 医師免許、日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定内科医、日本心血管インターベンション治療学会専門医
 受賞・表彰 : 日本冠疾患学会賞(1999)
 日本心臓病学会Cardiovascular Imaging Award (2003)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
冠動脈疾患カテーテルインターベンションにおけるイメージングモダリティの有効活用に関する研究と実践					
2011年度の研究活動概略					
高分解能CTによる冠動脈疾患診断の有効性評価と適正使用に関する研究と実践					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「冠動脈を見るCT vs. IVUS」	単著	2012年3月15日	心臓血管画像MOOK5	-	22-27頁
「この画像にだまされるな～MDCTビットフォール集」	共著	2012年3月15日	心臓血管画像MOOK5	小倉一郎, 大塚雅人	142-145頁
(学術論文)					
“Optimal Stent Positioning with Intravascular Ultrasound Marking Technique as a Method for Minimizing Geographic Miss”	共著	2010年9月	J Am Coll Cardiol 56(13)Suppl	Masato Otsuka, Ken Umeda, Mitsuchika Nakamura, Sou Takenaka, Shigetada Sugahara, Ryuji Higashida, Yukio Tsurumi	pp. B81
“How Much Calcium Is Too Much for CT Coronary Angiography?”	共著	2011年8月	Circulation Journal 75 (Suppl.1)	Masato Otsuka, Issei Ishida, Haruki Sekiguchi, Yoshie Uchida, Yoichi Ajiro, Yukio Tsurumi, Kazunori Iwade, Naohide Tanaka	pp. I-613
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Optimal Stent Positioning with Intravascular Ultrasound Marking Technique as a Method for Minimizing Geographic Miss”	2010年9月22日	Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2010, Washington DC	Masato Otsuka, Ken Umeda, Mitsuchika Nakamura, Sou Takenaka, Shigetada Sugahara, Ryuji Higashida, Yukio Tsurumi		

「吸引血栓の組織所見とIB-IVUSから neointimal plaque ruptureが原因と考えられた 植え込み後8年のBMSのVLSTの1例」	2010年10月23日	第37回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会(東京)	大塚雅人、尾崎弘幸、竹中創、中村光哉、鶴見由起夫
「重症下肢虚血や糖尿病性足潰瘍に対する多血小板血漿(PRP)療法の有用性」	2010年10月14日	第51回日本脈管学会総会(旭川)	東田隆治、大塚雅人、小宮宏一郎、林淳也
「冠動脈CTA不成功を予測する冠石灰化指数閾値 64列、高分解能CTを用いた検討」	2011年1月21日	第21回心血管画像動態学会(松山)	大塚雅人、長沼通郎、小倉一郎、相澤敬人、内田吉枝、岩出和徳、田中直秀、加賀山智史、尾崎弘幸、竹中創、中村光哉、鶴見由起夫
「心室性期外収縮により左室機能障害、うっ血性心不全を来した1例」	2011年2月12日	日本内科学会関東支部主催第578回関東地方会(東京)	竹中創、尾崎弘幸、中村光哉、大塚雅人、鶴見由起夫
「Bare Metal Stent留置8年後にstent内血栓症を起こした1例」	2011年2月26日	第16回青葉区医師会学術集談会(横浜)	尾崎弘幸、大塚雅人、竹中創、中村光哉、鶴見由起夫
「冠動脈内圧測定による狭窄病変評価法に関するCFD解析」	2011年3月23日(～25日)	日本医工学治療学会第31回学術大会 北海道大学学術交流会館	春原冴香、丸下洋一、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、大塚雅人、鶴見由起夫、木原 昭
“Intravascular ultrasound findings in patients with very late stent thrombosis of bare-metal stent: Integrated backscatter ultrasonic and pathological evaluation”	2011年7月23日	第20回日本心血管インターベンション治療学会学術集会(大阪)	Masato Otsuka, Hiroyuki Ozaki, Sou Takenka, Mitsuchika Nakamura, Yukio Tsurumi
「当院の多職種介入による患者教育への取り組み」	2011年7月17日	第17回日本心臓リハビリテーション学会学術集会(大阪)	重村太郎、武田直人、久保雅昭、村田真奈美、鶴見由起夫、大塚雅人、石塚陽子、原博美、植田和美、田村千佳、佐村優、廣瀬直樹、鯉淵寛之
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
“TERUMO IVUS for PPI”	2010年4月24日	Japan Endovascular Treatment Conference 2010	東京
「チーム医療を考える」 講義「チーム医療における医療従事者の役割」	2010年11月13日	桐蔭横浜大学医用工学部主催医療系キャリア講座(第2回)	桐蔭横浜大学
「身近になった冠動脈CTA」	2010年5月31日	第3回麻生区の医療連携を考える会	川崎
「冠動脈CTの現状」	2011年2月16日	横浜青葉循環器研修会	横浜
「身近になった冠動脈CTA」	2011年6月10日	第2回横浜医療センター病診連携循環器講演会	横浜
「現代医療を支える人たち」 講義「医師の仕事」	2011年7月9日	桐蔭横浜大学医用工学部主催医療系キャリア講座(第3回)	桐蔭横浜大学
「冠動脈ステント内にも生じる動脈硬化と遠隔期冠イベント 最近の自験例より」	2011年11月17日	横浜・川崎北部M&CV expert meeting	横浜
その他			
(海外出張)			
要件	出張期間	出張先	
Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2010での発表	2010年9月	Washington DC(米国)	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本循環器学会、日本心臓病学会、日本内科学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本心血管画像動態学会、日本冠疾患学会

任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年～現在	日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会運営委員
2004年～現在	日本心血管画像動態学会評議員
2004年～現在	関東甲信越IVUS研究会世話人

三浦 康弘 (みうら やすひろ) 准教授



出生年 : 1962(昭和37)年
 在籍 : 1996(平成8)年4月～
 最終学歴 : 東京理科大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : Studies on Structure and Properties of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films Based on Metal(dmit)2
 専門分野 : 物理学、分子エレクトロニクス
 前職 : University of Houston, Department of Chemistry
 Postdoctoral Research Fellow, State Employee of Texas
 留学 : University of Houston(1994～1996)
 非常勤講師 : 埼玉大学工学部非常勤講師(2011～現在)
 受賞・表彰 : 東京理科大学理事長賞(1992)
 1998年、2002年材料技術研究会討論会ポスター賞
 Award of Excellence, Oral Session Award, Toin
 International Symposium on Biomedical Engineering,
 “Fabrication of Highly Conductive Patterns in Molecular
 Thin Films”
 財団法人 池谷科学技術振興財団 研究助成 受賞

研究活動

2010年度の研究活動概略					
2010年度は、2007年度～2009年度の間、私立大学学術研究高度化推進事業「社会連携推進事業」(文部科学省)の助成を受けて推進したプロジェクト(題目:「低環境負荷・自己組織化プロセスで創製する機能性有機デバイス」、研究代表者:三浦康弘)[期間終了後の事後評価:AA、2名のPeer Reviewerによる]の後継プロジェクトを立てるまでの探索期間と捉えて研究を展開した。ただし、2010年度にも、科学研究費補助金 基盤研究(C)(2010年度～2012年度、研究代表者 三浦康弘、課題名:分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索)が採択され、今後、高額の外部資金が得られる魅力的なプロジェクトが立ち上げられるよう、学内外での共同研究の輪を広げた。この期間は、プロジェクト移行期ということもあり、査読付き英文論文を出版していないが、3つの国際会議で口頭発表(一般発表)を行った。また、研究室WEBを整備し、英文・和文の両方で研究活動をPRし始めた。(参考: http://www.cc.toin.ac.jp/sc/miura/index.html 、ヒットが増え、アジア諸国、欧州から大学院生・博士研究員としての研究指導を受けられないか、との問い合わせメールが届いています)。					
2011年度の研究活動概略					
科学研究費補助金 基盤研究(C)(2010年度～2012年度、研究代表者 三浦康弘、課題名:分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索)で採択された研究課題を中心に、研究を進めた。査読付き英文論文が一報出版され、複数の国際学会で研究発表(一般口頭講演、及びポスター発表)を行い(招待講演を含む)、9月には、ドイツエナ大学固体物理学研究所所長Prof. Dr. Torsten Fritzの招きで同研究所でセミナー(招待講演)を行なった。また、12月には、Materials Research Society of Japanのシンポジウムに於いて、基調講演を行うなど、本学で展開してきた有機分子膜に関する研究の成果を外部に積極的に発信することができた。また、World Scientific社から、英文著書(分担・共著)を出版した。今後、大型の外部資金の獲得を目指し、これらの研究成果を、エネルギー問題、環境問題、材料開発、さらに国家の元素戦略に応用していくことを目指す。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「J-aggregates Volume 2(英文著書 単行本)」	共著	2012年3月25日	World Scientific Publishing Co. Pte Ltd.	Yasuhiro F. Miura, Keiichi Ikegami	443-514頁
(学術論文)					
“Crystal Structure of Ditetradecyldimethylammonium-Au(dmit) ₂ Salt”	共著	2011年3月22日	Jpn. J. Appl. Phys., Vol. 50 (2011) No. 3	Yasuhiro F. Miura, Michio Sugi, Kazumasa Honda	038001-1 - 038001-2 頁

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Structure and Electrical Properties of Highly Conductive Au(dmit) ₂ Langmuir-Blodgett Films”(ポスター発表)	2010年7月4日 ~9日	International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals (ICSM2010) (京都国際センター)	Y. F. Miura, K. Inoue, J. Hoshino, M. Sugi, K. Matsubayashi, Y. Uwatoko
“Fabrication of Highly Conductive Patterns in Alkylammonium-Au(dmit) ₂ LB Films”(一般口頭講演)	2010年7月21日	13th International Conference on Organized Molecular Films, Quebec City, Canada	Yasuhiro F. Miura, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, Hironari Akiyama, Naoki Sugimoto, Hiroyuki Hasegawa, Michio Sugi
“Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films based on Dialkyldimethylammonium-Au(dmit) ₂ Salt”(ポスター発表)	2010年9月7日	European Conference on Molecular Electronics (ECME) 2011, Auditorio Axa., Barcelona, Spain	三浦康弘、杉本直樹、秋山弘成、杉道夫、長谷川裕之
「熱処理を用いるアルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ LB膜の構造制御(II)」(一般口頭講演)	2010年9月17日	第71回 応用物理学会学術講演会 (長崎大学文教キャンパス)	三浦康弘、杉本直樹、秋山弘成、星野純一、井上杏子、杉道夫
“Structural Control of Langmuir-Blodgett Films based on Dye Molecules”(一般口頭講演)	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 (Toin BME 2010), Toin University of Yokohama	Yasuhiro F. Miura and Michio Sugi
“Metallic Electrical Conductivity in Langmuir-Blodgett Films based on Alkylammonium-Au(dmit) ₂ salt”(ポスター発表)	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 (Toin BME 2010), Toin University of Yokohama	Naoki Sugimoto, Hironari Akiyama, Jun-ichi Hoshino, Kyoko Inoue, Yasuhiro F. Miura
“Structural Characterization of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films based on Dialkyldimethylammonium-Au(dmit) ₂ Salt”(ポスター発表)	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 (Toin BME 2010), Toin University of Yokohama	Hironari Akiyama, Naoki Sugimoto, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, Yasuhiro F. Miura
「メロシアン色素分子超薄膜の会合体形成制御」(一般口頭講演)	2010年12月11日	第10回琉球物性研究会 (琉球大学)	三浦康弘、星野純一、井上杏子、杉道夫
“Fabrication of Highly Conductive LB Films based on Alkylammonium-Au(dmit) ₂ Salt”(一般口頭講演)	2010年12月15日	The 9th International Conference on Nano-molecular Electronics (ICNME2010), Kobe Convention Center, Kobe	Yasuhiro F. Miura, Naoki Sugimoto, Hironari Akiyama, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, Michio Sugi, Hiroyuki Hasegawa
「交流および直流電解酸化法を用いたラングミュア・プロジェクト膜中の導電性パターンの形成」(一般口頭講演)	2010年12月21日	第20回日本MRS学術シンポジウム「エコイノベーションを切り拓く先進材料研究II」: SessionH「分子性薄膜の作製・評価・応用」 (横浜情報文化センター)	杉本直樹、秋山弘成、井上杏子、星野純一、三浦康弘、長谷川裕之
「ジアルキルジメチルアンモニウム-Au(dmit) ₂ 塩に基づくLB膜のアニーリング効果」(ポスター発表)	2010年12月21日	第20回日本MRS学術シンポジウム「エコイノベーションを切り拓く先進材料研究II」: SessionH「分子性薄膜の作製・評価・応用」 (横浜情報文化センター)	秋山弘成、杉本直樹、辻由香、井上杏子、星野純一、三浦康弘、杉道夫
「長鎖アルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ LB膜の構造と電気的性質()」(東日本大震災の影響で講演会は中止されましたが、3月9日付の予稿原稿が出版され、会場における質疑応答はなかったものの、予稿原稿の出版が、公式な発表扱いと認められました)	2011年3月9日	2011年(平成23年)春季第58回応用物理学会関係連合講演会(予稿原稿出版)	三浦康弘、杉本直樹、秋山弘成、杉道夫、長谷川裕之
「Metal(dmit) ₂ 塩に基づく高導電性ラングミュア・プロジェクト(LB)膜の作製と評価」(一般口頭講演)	2011年11月12日	第11回琉球物性研究会 (琉球大学)	三浦康弘、杉本直樹、秋山弘成、長谷川裕之

「長鎖アルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ LB膜の構造と電気的性質()」(一般口頭講演)	2012年3月15日	2012年春季 第59回 応用物理学会関係連合講演会 早稲田大学早稲田キャンパス	三浦康弘, 杉本直樹, 秋山弘成, 長谷川裕之
「水熱処理によるメロシアニン含有LB膜の光学特性の改質-超構造生成を伴うJ-会合体の再編-」(一般口頭講演)	2012年3月25日	日本化学会第92春季年会(2012) 慶應義塾大学日吉キャンパス・矢上キャンパス	三浦康弘, 佐野元昭, 杉本恒美
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
“Highly conductive thin films based on alkylammonium-Au(dmit) ₂ salt fabricated by Langmuir-Blodgett technique”(国際会議 招待講演)	2011年6月30日	Collaborative Conference on 3D & Materials Research (3DMR) (Yasuhiro F. Miura, Naoki Sugimoto, Hironari Akiyama, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, Michio Sugi, Hiroyuki Hasegawa, 登壇者に下線)	Ramada Plaza Hotel, 韓国濟州島
“Highly conductive thin films based on alkylammonium-Au(dmit) ₂ salt fabricated by Langmuir-Blodgett technique”(招待講演、イエナ大学固体物理学研究所セミナー)	2011年9月12日	Friedrich-Schiller-University of Jena, Institute of Solid State Physics, Seminar (Yasuhiro F. Miura)	Friedrich-Schiller-University Jena, Institute of Solid State Physics, Jena, Germany
“Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films -From Metallic toward Superconducting Properties-”(シンポジウム基調講演)	2011年12月21日	第21回日本MRS 学術シンポジウム「エコイノベーションを切り拓く先進材料研究III」(三浦康弘、盛田伸一、杉道夫、登壇者に下線)	横浜市開港記念会館、神奈川県横浜市
その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索」	2010年4月～2011年3月	平成22年度科学研究費補助金(基盤研究C) 平成22年度交付額:1,430,000円 (内間接経費 330,000円)	
「分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索」	2011年4月～2012年3月	平成23年度科学研究費補助金(基盤研究C) 平成23年度交付額:1,170,000円 (内間接経費 270,000円)	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
13th International Conference on Organized Molecular Films (LB13)に於いて研究発表(ポスター発表)を行うため	2010年7月17日～23日	Laval大学医学部, Quebec City (カナダ)	
Collaborative Conference on 3D & Materials Research (3DMR)に於いて招待講演を行なうため。また、Scientific Programm Committeeの委員、及び、セッションXの座長を務めるため	2011年6月25～7月2日	Ramada Plaza Jeju Hotel, 濟州島 (韓国)	
European Conference on Molecular Electronics (ECME) 2011に於いて研究発表(ポスター発表)を行ない、その後、ドイツ・イエナ大学固体物理学研究所においてセミナー(招待講演)を行うため	2011年9月6日～9月14日	Barcelona (スペイン)、及びJena (ドイツ)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「レースから課題が見えてくる～自分でカンタン分析法」	2010年7月17日	三浦康弘, 「月刊SWIM」, 2010年9月号, 22-23頁 (発行所 株式会社アールピーズ)	

(その他特記事項)
東京大学物性研究所 平成22年度(前期)共同利用制度 採択(一般):「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」(2010年4月1日)(旅費・宿泊費等の支給)
東京大学物性研究所 平成22年度(後期)共同利用制度 採択(一般):「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」(2010年10月1日)(旅費・宿泊費等の支給)
東京大学物性研究所 平成22年度(後期)共同利用制度 採択(一般):「長鎖アルキル基を含む電荷移動塩の結晶育成」(2010年10月1日)(旅費・宿泊費等の支給)
第20回日本MRS学術シンポジウム「エコイノベーションを切り拓く先進材料研究II」 :Session H 「分子性薄膜の作製・評価・応用」,セッションチェア (2010年12月21日)
第20回日本MRS学術シンポジウム:Session L 「分子性薄膜の作製・評価・応用 高度な配向制御、配向解析、および機能発現を目指して-」,セッションチェア (2010年12月21日)
東京大学物性研究所 平成23年度(前期)共同利用制度 採択(一般):「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」(2011年4月1日)(旅費・宿泊費等の支給)
東京大学物性研究所 平成23年度(前期)共同利用制度 採択(一般):「長鎖アルキル基を含む電荷移動塩の結晶育成」(2011年4月1日)(旅費・宿泊費等の支給)
「TOEIC Score:870点」Educational Testing Service (2011年5月29日)
国際会議, Collaborative Conference on 3D & Materials Research (3DMR)(韓国済州島)におけるセッションチェア(2011年6月30日)
東京大学物性研究所 平成23年度(後期)共同利用制度 採択(一般):「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」(2011年10月1日)(旅費・宿泊費等の支給)
東京大学物性研究所 平成23年度(前期)共同利用制度 採択(一般):「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」(2012年4月1日)(旅費・宿泊費等の支給)

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
応用物理学会、応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会、日本化学会、材料技術研究協会、日本MRS、高圧力学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1997年4月1日～現在	材料技術研究協会 『材料技術』誌 編集委員
2005年～現在	Transaction of Materials Research Society of Japan誌 特別編集委員
2007年4月1日～現在	東京都狛江市水泳協会 監事

芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
日本マスターズ水泳短水路大会	2009年4月17日	アクアパラダイスパティオ(深谷会場)	200M バタフライ 男子45-49歳区分 3位(銅メダル)
日本マスターズ水泳短水路大会	2011年5月15日	川崎多摩スポーツセンター	100Mバタフライ男子45-49歳区分 2位(銀メダル)
日本マスターズ水泳短水路大会	2011年5月15日	川崎多摩スポーツセンター	50M 背泳ぎ 男子45-49歳区分 優勝(金メダル)

池上 和志 (いけがみ まさし) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ペクセル・テクノロジーズ(株)研究開発部博士研究員
 資格：甲種危険物取扱者
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。 特開2008-198488

研究活動

2010年度の研究活動概略					
<p>共役系分子である新規ポリフェニレンピニレン類の発光挙動に関する、光化学的研究を進めた。各種異性体の異性化量子収率、蛍光量子収率、蛍光寿命の解析をすすめ、励起状態のポテンシャル曲面を明らかにした。この研究は、新規の発光材料設計に寄与することができると思われる。研究成果は、学術論文として投稿した。</p> <p>色素増感太陽電池の実用化に向けて、非ヨウ素系電解液の開発を進めた。色素増感太陽電池では通常必須成分である腐食性のヨウ素を用いた電解液でも、実用的には十分な変換効率が見出された。研究成果については、電気化学会等で発表を行った。</p>					
2011年度の研究活動概略					
<p>色素増感太陽電池の実用化に向けて、非ヨウ素系電解液の開発を進めた。非ヨウ素系電解液の電荷移動機構を解明するために、交流インピーダンス測定等の電気化学計測を行った。その結果、非ヨウ素系電解液では、光電変換効率の温度依存性が従来型電解液よりも小さいという特長を見出すことができた。周辺温度の低下によるエネルギー変換効率の低下の割合が小さいため、実用的にも有利な特長であると考えられた。</p> <p>色素増感太陽電池の酸化チタン膜の新規低温成膜法の開発も進めた。室温付近で酸化チタン多孔膜を効率よく作製することができれば、色素増感太陽電池の製造プロセスの低コスト化にもつながる。スプレー塗布装置の設計と、成膜条件の検討をすすめ、従来の低温成膜法よりも、きわめて密着性の高い、酸化チタン膜を成膜することができた。研究成果は、電気化学会等で発表を行った。</p>					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『色素増感太陽電池のモジュール化・材料開発・評価技術』プラスチックセル創製技術 高効率化と高耐久化	共著	2010年4月23日	技術教育出版社	瀬川浩司、内田聡編集 宮坂力、手島健次郎、 池上和志	243-253頁
『色素増感太陽電池 徹底解説』	単著	2010年8月30日	電子ジャーナル	-	124頁
『色素増感太陽電池の全貌 徹底解説』	単著	2011年10月31日	電子ジャーナル	-	140頁

(総説・論説)					
"Polymer-based engineering for high-efficiency plastic dye-sensitized solar cells"	共著	2010年8月5日	J. Photopolymer Sci. Tech., 23	T. Miyasaka and M. Ikegami	pp.269-277
(学術論文)					
"Polythiophene-based mesoporous counter electrodes for plastic dye-sensitized solar cells"	共著	2010年6月26日	J. Electrochem. Soc., 157	T. Muto, M. Ikegami , and T. Miyasaka	B1195-B1200
"Co-sensitization promoted light harvesting for plastic dye-sensitized solar cells"	共著	2011年2月15日	Journal of Power Sources, 196(4)	Kun-Mu Lee, Ying-Chan Hsu, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka, K. R. Justin Thomas, Jiann T. Lin, and Kuo-Chuan Ho	pp.2416-2421
"Stereocontrolled Synthesis and Photoisomerization Behavior of All-Cis and All-Trans Poly(m-phenylenevinylene)s"	共著	2010年8月9日	Macromolecules, 2010, 43 (17)	Masayuki Wakioka, Masashi Ikegami , Fumiyuki Ozawa	pp.6980-6985
"AE Monitoring of Damage Accumulation in Transparent Conductive Oxide Film under the Mechanical Strain"	共著	2011年12月28日	Journal of Solid Mechanics and Materials Engineering Vol. 5 (2011)	Shuichi WAKAYAMA, Nobuyuki TAKAGI, Takenobu SAKAI, Tsutomu MIYASAKA, Masashi IKEGAMI	pp.774-779
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「光蓄電機能を持つ色素増感太陽電池の最新技術」	2010年4月19日	光機能材料研究会 第26回講演会「光触媒と色素増感太陽電池の研究開発」、東京大学先端科学技術研究センター4号館講堂	-		
"Experimental Study of Photo-electrochemical Characteristic of Photocapacitor"	2010年6月28～7月1日	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) パシフィコ横浜	山本慶太、手島健次郎、 池上和志 、宮坂 力		
"High viscosity electrolytes containing polyvinyl alcohol and imidazolium iodide for the dye-sensitized solar cell"	2010年6月28～7月1日	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) パシフィコ横浜	田村壮礼、 池上和志 、宮坂力		
"Plastic Dye-sensitized Solar Cells with Organic Dyes: Efficiency Improvement with TiOx Buffer Layers"	2010年6月28～7月1日	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) パシフィコ横浜	森田紗織、 池上和志 、宮坂力		
"Plastic dye-sensitized photovoltaic cells with metal-free organic sensitizers"	2010年7月25～30日	The 18th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-18) (国際学会), Seoul, Korea	Tsutomu Miyasaka, Saori Morita, and Masashi Ikegami		
「色素増感太陽電池の直列及び並列接続における電気化学特性の検討」	2010年8月30～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	山本慶太、手島健次郎、 池上和志 、宮坂力		
「新規吸着基を持つカルバゾール系有機色素を用いた色素増感太陽電池1、増感色素の合成とデバイス評価」	2010年8月30～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	甲村長利、原浩二郎、X.H. Zhang、 池上和志 、手島健二郎、宮坂力		
「新規吸着基を持つカルバゾール系有機色素を用いた色素増感太陽電池2、プラスチック電極への応用と高効率化」	2010年8月30～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	森田紗織、河野正教、 池上和志 、手島健二郎、宮坂力、甲村長利、原浩二郎、張雪華		
「白金触媒と導電性高分子対極を用いた色素増感太陽電池の電気化学特性」	2010年8月30～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	塚本直、 池上和志 、宮坂力		
「イオン液体ハロゲン化物を電解液に用いた電気二重層キャパシタの初期特性」	2010年8月30～31日	日本化学会2010年関東支部大会、筑波大学	伊奈隼人、 池上和志 、手島健二郎、宮坂力		
「白金/導電性高分子複合膜を用いる色素増感太陽電池プラスチック対極の電気化学特性」	2010年9月2日～3日	電気化学会2010年秋季大会、神奈川工科大学	塚本直、 池上和志 、宮坂力		

“Low Temperature Preparation of Counter Electrodes for Full Plastic Film Type Dye-sensitized Solar Cells”	2010年10月23日 ～27日	2010 Korea-Japan Birateral Symposium on Frontier Photoscience 招待講演、韓国テグ市インターブルゴホテル	Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka
「有機色素を用いる両面発電型色素増感太陽電池」	2010年12月21日	京都大学化学研究所セミナー(世話人:小澤文幸教授) 京都大学化学研究所 京都府宇治市	-
「イミダゾリウム系イオン液体を電解液に用いた色素増感光キャパシタの充放電特性」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、 横浜国立大学	伊奈隼人、池上和志、 手島健次郎、宮坂力
「色素増感半導体電極を用いる活性酸素種発生と環境浄化システム」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、 横浜国立大学	副田知宏、池上和志、宮坂力
「ポリビニルアルコールを電解質に用いる擬固体色素増感太陽電池の熱依存特性」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、 横浜国立大学	田村壮礼、池上和志、宮坂力
「酸化ニオブバッファ層による色素増感太陽電池の電子移動制御と高性能化」	2011年3月29日 ～31日	電気化学会第78回大会、 横浜国立大学	森田紗織、池上和志、宮坂力
“Printed photovoltaic devices based on molecular and solid-state light-harvesting sensitizers”	2011年5月16日	3rd international Conference on Hybrid and Organic photovoltaics (HOPV2011)(国際学会), Valencia, Spain	T. Miyasaka and M. Ikegami
“Photoelectrochemical study on the characteristic of photocapacitors”	2010年6月28日 (～7月1日)	Renewable Energy 2010(再生可能エネルギー国際会議) (パシフィコ横浜)	山本慶太、池上和志、宮坂力
“Fluorescence Properties and Isomerization Mechanism of Poly-Phenylene Vinylene”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	-
“Electric Double Layer Capacitors That Use Ionic Liquid Having as Electrolytes”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hayato INA, Masashi IKEGAMI, Kenjiro TESHIMA, Tsutomu MIYASAKA
“Application of Carbazole Dyes with Novel Adsorption Derivatives for Molecular Photovoltaics”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Saori MORITA, Masanori KAWANO, Masashi IKEGAMI, Kenjiro TESHIMA, Nagatoshi KOUMURA, Koujiro HARA, X.-H.Zhang, Tsutomu MIYASAKA
“Electric Double Layer Capacitors with MnO ₂ for use in High Capacitance “Photocapacitors””	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hiroki NAKAMURA, Kenjiro TESHIMA, Masashi IKEGAMI, Tsutomu MIYASAKA
“A Study on the Module Characteristic of Electrically Connected Dye-sensitized Solar Cells”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Keita YAMAMOTO, Kenjiro TESHIMA, Masashi IKEGAMI, Tsutomu MIYASAKA
(Poster)“Efficient Plastic Film type Dye-sensitized Photoelectrode Prepared by Low Temperature TiO ₂ Coating Paste”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Kousuke AOYAMA, Masashi IKEGAMI and Tsutomu MIYASAKA
(Poster)“Fabrication of Low-temperature Screen Printing method paste for plastic Dye Sensitized Solar Cell”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Shankar BARAILI, Masashi IKEGAMI and Tsutomu MIYASAKA
(Poster)“Solar Energy Storage by Two-electrode Type Photocapacitors Containing Imidazolium Ionic Liquids”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hayato INA, Masashi IKEGAMI, Kenjiro TESHIMA and Tsutomu MIYASAKA
(Poster)“High Efficient Plastic Dye-sensitized Solar Cell With Nb ₂ O ₅ Buffer layer on ITO-PEN”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Saori MORITA, Masashi IKEGAMI and Tsutomu MIYASAKA

(Poster) "Towards Optimal Combination of Photovoltaic Devices for Facade and Architectural Applications(2) "	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Katsuyoshi SATO, Tsutomu MIYASAKA and Masashi IKEGAMI
講演会・研究会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研究会等名	開催場所
「大学発ベンチャー企業における太陽電池研究」	2010年5月17日	筑波大学大学院数理物質科学研究科、第5回研究科修士によるオムニバス講座	筑波大学3A204講義室
「色素増感太陽電池の作製・測定技術」	2010年5月24日	主催:技術情報協会 色素増感太陽電池実習付きセミナー	ゆうぼうと5階(東京・五反田)
「色素増感太陽電池 徹底解説」	2010年7月14日	主催:電子ジャーナル Electronic Journal 第534回 Technical Seminar	総評会館(東京・お茶の水)
「色をぬったら電気ができる! 有機太陽電池」	2010年8月21日	第16回 ミーツ・ザ・サイエンス	つくばエキスポセンター
「色素増感太陽電池の測定」	2010年8月27日	電気化学会主催 2010電気化学セミナー3	横浜国立大学
「色素増感太陽電池用電解液の封止技術」	2010年10月29日	サイエンス&テクノロジー株式会社主催 色素増感太陽電池における電解液の使用特性向上と固体化技術	大井町きゅりあん
「色素増感太陽電池製造技術の現状と将来展望」	2011年5月17日	電子ジャーナル、2011 太陽電池製造技術・装置 徹底検証	総評会館(東京)
「色素増感太陽電池の測定」	2011年8月26日	電気化学会主催 2010電気化学セミナー3	横浜国立大学
「色素増感太陽電池の全貌 徹底解説」	2011年9月28日	主催:電子ジャーナル Electronic Journal 第923回 Technical Seminar	総評会館(東京・お茶の水)
「色素増感型太陽電池の開発状況」	2011年11月24日	ナノエレクトロニクス研究会	(社)電子情報技術産業協会 410会議室(大手町)
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「学生講演賞」	2010年8月30日	日本化学会関東支部 (筑波大学)	山本慶太、池上和志、手島健次郎、宮坂力
「優秀ポスター賞」	2010年8月30日	日本化学会関東支部 (筑波大学)	森田紗織、池上和志、宮坂力
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」	2010年4月～2013年3月	世界最先端研究支援強化プログラム、(総額28億円) リーダー:東京大学瀬川教授、サブリーダー:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)、本学の受託研究費、1億円 (NEDOが経費管理を担当)	
非ヨウ素系電解質層を用いた色素増感光電変換素子の構築と電荷移動機構の解析	2009年～2012年3月	科学研究費補助金 若手研究B	
ポリ(フェニレンピニレン)類の光化学的挙動	2010年～2011年3月	京都大学化学研究所 共同利用・共同研究拠点	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
2010 Korea-Japan Birateral Symposium on Frontier Photoscience(招待講演)	2010年10月23日～27日	韓国テグ市インターブルゴホテル	
色素増感太陽電池の作成、測定方法のレクチャー	2010年11月21日～25日	オーストラリア、Wollongong大学AIIIMセンター、超伝導研究室	

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
ソーラーパネルからソーラーフィルムへ	2011年7月5日	小学館「DIME」 No.13 7月5日号
(その他特記事項)		
NHK水戸放送局 8月21日ニュース つくばエキスポセンター太陽電池実験教室		

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ベクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ベクセル・テクノロジーズ株式会社

石井 あゆみ (いしい あゆみ) 助教



出生年：1981(昭和56)年
 在籍：2011(平成23)年2月～
 最終学歴：青山学院大学大学院理工学研究科機能物質創成コース博士後期課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：「フェナントロリンを配位子とするPr(III)錯体の配位子-金属間のエネルギー移動に関する研究」(修士論文)
 「発光性ランタノイド錯体の構造制御と機能に関する研究」(博士論文)
 専門分野：分子分光学、有機光エレクトロニクス、錯体化学
 前職：ソニー(株)先端マテリア研究所研究員
 受賞・表彰：第1回SPring-8萌芽的研究アワード 優秀賞(2008年)

研究活動

2010年度の研究活動概略			
「最先端研究開発支援プログラム-低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」における研究プロジェクトとして、東京大学先端科学技術研究センターに桐蔭横浜大学宮坂研究室の分室を立ち上げをおこなった。本研究室では色素増感太陽電池の固体化に関わる研究開発を行うための新しい環境(蒸着装置、クリーンブースなど)を備えており、従来の研究室所有の装置と合わせ活用することで、新型有機太陽電池の創製を目指している。			
2011年度の研究活動概略			
有機材料のもつ柔軟性と無機材料のもつ高い伝導性を組み合わせた有機無機ハイブリッド太陽電池の創製を進めてきた結果、金属酸化物(二酸化チタン)に有機色素(アントラセン)が化学結合してできる錯体が可視光を吸収する増感材料となり、これに有機伝導材料として芳香族系のペリレンを接合することによって、太陽電池としては高い電圧である1.2Vを出力することのできる固体ハイブリッド太陽電池を試作することに成功した(日刊工業新聞7月31日掲載、英国科学雑誌Chemical Communications掲載予定)。また、色素増感有機太陽電池に関する国際会議(DSC-OPV6)を宮坂研究室主催で開催した(別府国際コンベンションセンター、10月17-19日)。会議の参加者はおよそ250名であり、中国、韓国、台湾からも80件を超える発表があった。			
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(ポスター) "New concepts for hybrid photovoltaic cells based on organic-inorganic coordination compounds"	2011年5月16日	Japan-UK Dye-sensitized & Organic PV (JUDO PV) Workshop(Oxford大学/イギリス)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka
(ポスター) "Control of Molecular Arrangement in Inorganic-Organic Hybrid Photovoltaic Cells"	2011年10月17日	The 6th Aceanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells - DSC-6 (別府、大分県)	Ayumi Ishii, Tsutomu Miyasaka
(座長) 光触媒	2011年9月9日	2011年電気化学秋季大会(朱鷺メッセ)	石井あゆみ
(口頭発表) 「有機-無機ハイブリッド構造を有する薄膜太陽電池の開発: アントラキノン系感光層の検討」	2012年3月25日	日本化学会第92春季年会(慶應義塾大学日吉キャンパス)	石井あゆみ、宮坂力
(座長) 「有機系太陽電池」	2012年3月26日	日本化学会第92春季年会(慶應義塾大学日吉キャンパス)	石井あゆみ
(口頭発表) 「有機-無機ハイブリッド構造を有する薄膜太陽電池の開発 2: ホール輸送層の検討」	2012年3月31日	電気化学会第79回大会(アクトシティ浜松)	石井あゆみ、宮坂力
(座長) 「有機系太陽電池」	2012年3月30日	電気化学会第79回大会(アクトシティ浜松)	石井あゆみ
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「有機-無機配位積層構造を有するハイブリッド型薄膜太陽電池の開発」	2011年9月3日	青山学院大学、碧き山の会	青山学院大学相模原キャンパス

その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
3rd international Conference on Hybrid and Organic Photovoltaics(HOPV2011)での研究調査	2011年5月14日～19日	Valencia(スペイン)
Japan-UK Dye-sensitised & Organic PV (JUDO PV) Workshop での発表	2011年7月25日～30日	Oxford大学(イギリス)

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本化学会、光化学協会、電気化学会、錯体化学会、複合系の光機能研究会

法科大学院 (Law School)

井口 寛二 (いぐち かんじ) 教授



出生年 : 1945(昭和20)年
 在籍 : 2005(平成17)年4月～
 最終学歴 : 東京教育大学
 専門分野 : 労働法
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会所属)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
受講生に授業に積極的に参加させること	2005年～	講義方式の講義において、3分の1の時間だけ1人または2人の院生にメモを作成させて、自ら講義させた。そして疑問点、問題点を教員が質問して、担当院生、受講者に答えさせた。これは、院生の授業参加のほか、受講者に講義に興味を抱かせた。更に、院生に発表させることによって、院生一般が理解出来ないところ、共通の弱点が明らかになった。
受講生に数多く起案させること	2006年～	ゼミ方式の講義において、可能な限り毎回課題を出して、講義前までに起案として提出させる。講義前に添削して院生に返した。講義において院生は戻された起案を参考にして講義を聴くこと、また講義内容は主として起案において、理解不足であること、重要な論点であることに説明の時間を割いた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
労働法講義		論点、考え方が判るように作成
労働法主要判例綴り(3部)		事実関係、論点が判るように判例を編集

法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1975年4月～	第二東京弁護士会所属弁護士
1998年4月～	警察大学校講師
2003年4月～	財団法人日弁連法務研究財団所属評価委員
2003年4月～	財団法人トステム建材産業振興財団評議員
2006年4月～	日本弁護士連合会 法科大学院センター委員
2006年4月～	財団法人労災年金福祉協会理事
2006年4月～	財団法人労災保険情報センター理事
2007年6月～	財団法人民事法務協会理事

江口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
 在籍 : 2007(平成19)年4月～
 最終学歴 : 神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 : 企業の社会的責任について - フランス法におけるsocieteとassociationに関する法の歴史の変遷を通じて
 専門分野 : 商法、金融商品取引法
 前職 : 平成国際大学法学部助教授
 学内役職等 : 法科大学院 教務委員長(2010・2011)
 留学 : ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
新基本法コンメンタール「会社法1」	2010年10月	会社法の逐条解説。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
フランスにおけるEU公開買付指令の国内法化 - 公開買付けに関する2006年3月31日の法律の施行後における、公開買付事例の収集および検討を行った。					
2011年度の研究活動概略					
フランスにおける公開買付事例についてさらに検討を進めるとともに、我が国の公開買付制度がここから何を学び取ることができるかの考察をおこなった。2012年度以降に成果を報告予定である。また、商法典の源とされるJacque Savary著Le parfait negociantの翻訳・研究を開始した。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
新基本法コンメンタール「会社法1」	共著	2010年10月	日本評論社	奥島孝康、落合誠一、浜田道代編著、田村詩子、江口眞樹子	476-488頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本経済法学会

大澤 恒夫 (おおさわ つねお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：「弁護士業務における対話の理念と技法 法と対話の専門家をめざして」
 専門分野：法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR論、(弁護士としての主要業務)IT分野における知的財産法、競争法、企業再建
 学内役職等：メディアエーション・交渉研究所センター長(2010・2011・2012)
 資格：弁護士(1981年～現在)
 非常勤講師：中央大学法科大学院客員教授(裁判外紛争解決)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ケースメソッド	2005年4月～	裁判例(特に第1審判決)等により、具体的事実やそこから伺われる現実の複雑さ、法実践での事実の切り出し方、自分自身の取り組みとしてどのように考えるか、などを検討する。
実演、ロールプレイと振り返り	2005年4月～	人と人が話し合うプロセスについて、台詞を用意して行う実演やケースを設定して行うロールプレイを実施し、参加者全員で振り返りを行うことにより、法運用をめぐる実践知の内面化への契機をつかむ。
プレゼンテーションとファシリテーション	2005年4月～	プレゼンテーション(発表)とファシリテーション(議論の支援)について、その技法を理解し、実践してみることを通じて、コミュニケーション力の向上への契機をつかむ。
授業ごとの短時間小レポート課題	2005年4月～	各授業の最後の15～20分程度を使い、その日の授業(または前回の授業)の復習になる事項について、設問を示して(あるいは自由に課題を設定させ)その場で、ミニレポートを書かせることにより、授業内容の理解の促進と短時間での手書き文章力の向上を図る。
学生自身の紛争体験から紛争プロセスを振り返る	2005年4月～	学生自身の紛争体験(大小や種類は問わない)を振り返り、そのプロセスを丁寧に辿ることにより、紛争の発生から解決・克服への過程の中に含まれる重要な実践知に気付くとともに、これからの法律学習への動機付けを高める。
4.法律実務教育に関する特記事項		
東京弁護士会紛争解決センターR&S研修会	2010年12月15日	あっせん仲裁と対話 何のために、どのように、人と人との対話にかかわるかを検討する。
ソフトウェア情報センター:ソフトウェア紛争セミナー	2012年1月31日	ソフトウェア開発に伴う紛争の予防と解決の在り方について
5.その他教育活動上特記すべき事項		
ソフトウェア情報センター「ソフトウェアの知的財産権入門講座」講師	2001年2月～現在	IT関連の法務担当者や若手弁護士等を対象に、ITに関連する知的財産と独占禁止法上の諸問題について解説。
大学間交渉コンペティション審査員	2004年12月～現在	大阪大学・上智大学「平成16年度・特色ある教育支援プログラム(特色GP)」事業(住友グループ広報委員会・日本仲裁人協会等後援)により、国際的に活躍する交渉者の育成を目指して、毎年2日間にわたる模擬仲裁、模擬交渉による競技会が行われ、その審査員を務めている。

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『対話が創る弁護士活動 交渉、ADR、司法アクセス、法教育』	単著	2010年12月	信山社	大澤恒夫	

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	法とコンピュータ学会理事
2005年4月～現在	財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員
2006年4月～現在	司法アクセス学会理事
	ソフトウェア紛争解決センター運営委員
	「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員
	日本仲裁人協会会員、日弁連業務改革委員会幹事
	インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

岡田 泰亮 (おかだ やすあき) 教授



出生年 : 1945(昭和20)年
在籍 : 2004(平成16)年4月 ~
最終学歴 : 早稲田大学法学部
専門分野 : 取引法、民事法
資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長(2010・2011・2012)
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの配布	2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した(科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。
4.法律実務教育に関する特記事項		
講演:「情報の適切な取扱いを怠ることによる社員及び企業のリスクについて～近時のSNSの普及を視野に入れて」	2011年6月24日	株式会社サイバー・コミュニケーションズ 主催
講演:「情報の適切な取扱いを怠ることによる社員及び企業のリスクについて～近時のSNSの普及を視野に入れて」	2011年10月20日	ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社 主催
研修:「2011年における個人情報漏洩事件を振り返って」	2012年1月19日	ジ・プラン株式会社 主催

研究活動

(その他特記事項)
2011年10月5日放映「クローズアップ現代」に出演

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員

小林 幸夫 (こばやし ゆきお) 教授



出生年：1954(昭和29)年6月7日
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学法学部法律学科卒業
 学位：法学士
 専門分野：知的財産権法, 特に特許法, 著作権法, 商標法
 資格：弁理士(1979年登録), 弁護士(1995年登録, 小林・弓削田法律事務所)
 受賞・表彰：2011年日本弁理士会会務貢献にて表彰

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2004年～	知的財産権法を教えるに際して、実際の訴訟となった商品を持参すること、著作権侵害訴訟において対象となった書籍、写真、映像を実際にロースクール生にみせるなどして、授業への興味が沸くような工夫をしている。特に、特許などは抽象的な概念であることからわかりやすいような授業になるよう工夫している。よって、当方の研究室には様々な商品がおいてある。また、見学実習として、2年次には特許庁、3年次の夏期特別講義では、東京地方裁判所の知的財産権部の事件傍聴、担当部長の講話をお願いして実施している。知財高裁への見学も行っている。これらの見学により、合格後の仕事に対するイメージとモチベーションを高めることになればと考えている。エクスターンシップの事務所として平成17年に1人より、毎年年に1人を受け入れ、指導をしている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメや独自の教材を作成		レジュメや独自の教材を作成しているが、教科書はまだ出版していない。教材としては、授業の終了のたびに行う小テストとその講評をするのが当方の授業の特徴である。これにより、あやふやな知識を地についた知識として身につけさせるようにしている。

研究活動

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「知的財産権研修(上級コース)」において、「特許等審決取消訴訟、税関認定処分取消訴訟の実務」	2011年11月11日	財務省関税研修所(LEC東京リーガルマインド)	財務省関税研修所
「商標に関わる紛争」(当事者系審判・商標審決取消訴訟)	2012年2月16日	日本商標協会	日本商標協会
「弁理士のための審決・判例DB・調査方法の実務 入門編 -PC持参で実践:知って得する無償DB利用方法-」	2012年2月6日～20日	日本弁理士会研修課	日本弁理士会(東京), 同東海支部, 同近畿支部

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会、司法アクセス法学会

法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2008年～	日本知的財産仲裁センター仲裁人候補者

清水 宏 (しみず ひろし) 教授



出生年 : 1969(昭和44)年
在籍 : 1999(平成11)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位 : 法学修士
学位論文 : 懲罰的損害賠償を命じる外国判決および外国仲裁裁判の承認・執行
専門分野 : 民事手続法
学内役職等 : 研究推進部副部長(2012)

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、日本交渉学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年11月～2010年11月	司法アクセス学会・事務局長
2010年1月～2011年11月	日本交渉学会・理事

鈴木 純 (すずき じゅん) 教授



出生年 : 1949(昭和24)年
 在籍 : 2005(平成17)年4月～
 最終学歴 : 東京大学法学部
 専門分野 : 一般民事事件
 資格 : 弁護士

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2005年4月～	<p>小職が担当する主要な課目は民事法総合演習である。本学では、仕事を持ちながら新司法試験受験を目指す学生の教育に力を入れており、小職が担当するクラスの学生も大半が、仕事を持ちながら、勉学に励む学生達であった。</p> <p>民事法総合演習においては、現実が生じる具体的なケースを設問化した課題(全30問)を素材として、1年次に習得した民法・商法・民訴法の基礎理論を、いかに適用し、妥当な結論を導くか、そのための思考訓練を繰り返した。換言すれば、民事法総合演習の目的は民法・商法・民訴法の基礎理論を徹底的に身に付けさせ、体得させること、応用能力の鍛錬にある。</p> <p>民事法総合演習において使用した課題の多くは、判例を素材とするものである。</p> <p>学生は、課題を読めれば、その課題が、どの判決を素材としたものか、おおよその見当が付く。従って、学生は、当該判決を検索し、当該判決の判決理由に即して、意見を述べる(後記するとおり、小職は事前配布された課題について、予め簡単なレポートを提出させ、事前提出されたレポートを基礎に授業を進めた)。</p> <p>しかしながら、多くの学生は、当該判決の判決理由を知ることをもって、「事足れり」とし、当該判決の判決理由が民法・商法・民訴法の基礎理論とどのように関連し、基礎理論からどのような思考経路を辿ってそのような判決理由に至るのか、その過程についてまで突きつめて考えていない。</p> <p>従って、小職の授業においては、「当該判決の判決理由が、民法・商法・民訴法の基礎理論と、どのように関連するのか」、「基礎理論からどのような思考経路を辿って、そのような判決理由に至ったのか」を考えさせることに力点を置いた。そのための具体的方法は下記のとおりである。</p> <p>ア) 民事法総合演習については、4人の教師が4つのクラスを分担する関係上、各教師間の共通見解を形成する必要があるため、各課題について、ティーチャーズ・マニュアルが作成されている。しかしながら、各課題について作成されたティーチャーズ・マニュアルは優れたものが多いものの、各教師間の共通見解を示すという性格上、最大公約数的なものになりがちである。</p> <p>特に小職が担当したクラスの学生は大半が職業を持ちながら、勉学に励む方であったため、必ずしも十分に民法・商法・民訴法の基礎理論が身に付いていない学生も少なくなかった。このため、事前に用意されたティーチャーズ・マニュアルどおりに授業を進めたのでは、単に知識を伝えるだけに終始し、「基礎理論から考える」という最も重要な要素が欠落してしまう危険があった。</p>

		<p>そのような難点を克服するため、各課題すべてについて、事前に用意されたティーチャーズ・マニュアルを基礎としつつ、小職独自の授業マニュアルを作成した。小職独自の授業マニュアル作成にあたって、最も留意した要素は、「民法・商法・民訴法の基礎理論から考える」という点である。</p> <p>イ) 各課題について、学生に事前にレポートを提出させた。前記したとおり、小職が担当したクラスの学生の大半は職業を持っているため、レポートの内容は、各課題の素材になっている判決の判決理由をそのまま引用した簡潔なものが多かった。それでも、事前に各課題の素材となった判決に目を通してもらうという意味では、メリットがあったと思う。</p> <p>ウ) 現実の授業においては、各課題の素材となった判決の判決理由が、民法・商法・民訴法の基礎理論とどのように関連し、基礎理論からどのような思考経路を辿ってそのような判決理由に至るのかについて、徹底的に議論した。議論の方法は、所謂「ソクラテス・メソッド」(対話方式)である。このやり方により、学生は、当該判決の判決理由がどのような基礎理論に基づくものなのかを理解するとともに、民法・商法・民訴法の基礎理論それ自体を体得することができたのではないかと自負している。</p> <p>エ) 民事法総合演習 において用いられている課題は、各々かなり複雑な事案を内容としている。各課題が、かなり複雑な事案を内容としているだけに、各課題に即して授業を進めると、民法・商法・民訴法の基本原則が看過されてしまうおそれがある(たとえば、不法行為に関する課題について言えば、事例解析に相当のエネルギーを要し、「契約法と不法行為法の相異」という不法行為法の基本問題への考察が抜け落ちてしまう危険がある)。</p> <p>このため、必要と思われる課題については、小職独自に基本問題を作成し、これも小職独自の基本問題に関するマニュアルを作成した。この方法により、学生は、どんな複雑な事案であっても、基本原則に立ち帰って考えるならば、適切な結論が導き出せるということを体得できたのではないかと考えている。</p>
2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書、参考書は作成していない。作成した教材の概要は右記のとおりである。	2005年4月～	<p>(1)1記載のとおり、30課題すべてについて小職独自の授業マニュアルを作成した(学生には配布していないので、厳密な意味では教材とは言えないかもしれない)。</p> <p>(2)各課題の素材となっている判決の判決理由を、より深く理解してもらうため、判例解説(最高裁判所判例解説を用いることが多かった)、関連する論文等を教材として配布した。</p> <p>(3)1記載のとおり、課題によっては、小職独自に基本問題を作成し、学生に配布し、基本問題ごとに小職独自の授業マニュアルを作成し、学生に解説した。</p> <p>(4)課題によっては、当該課題に関連する関連問題を作成し、学生に配布し、学生に解説した。</p>
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2005年4月～	<p>教育方法・教育実践に関する発表、講演は特段に行っていない。ただし、平成17年4月1日以降平成18年3月31日までは、毎月1日開催される教員研修会において、民事法総合演習 及び に関する課題の作成、ティーチャーズ・マニュアルの作成等にあたってきた(平成18年4月1日以降平成19年3月31日までは、後記するとおり、小職が第二東京弁護士会副会長の職にあったため、教員研修会には参加できなかった)。</p>

		<p>平成18年4月1日以降は、民事法総合演習 について新規の課題を作成するため、随時、担当教員と合議を重ね、新規の課題及びティーチャーズ・マニュアルを作成してきた。</p> <p>また、平成21年3月以降は民法の基礎理論を体得させるべく、任意参加のゼミを開催している。</p>
5.その他教育活動上特記すべき事項		
	2005年4月～	<p>(1)1ないし3においては、民事法総合演習 について述べたので、本項においては小職が担当するもう一つの課目であるエクスターンシップについて述べる。</p> <p>(2-1)小職はエクスターンシップにおいては民事手続、刑事手続の概要を体得してもらうことに主眼を置いている。民事訴訟法、刑事訴訟法の教課書を読み、また授業を受けるだけでは、民事訴訟手続、刑事訴訟手続を完全に理解することは困難だからである。</p> <p>(2-2)このため、小職はエクスターンシップにおいては学生に実際の民事法廷、刑事法廷を必ず傍聴させるようにしている。民事法廷、刑事法廷を傍聴することにより、教課書を読むだけでは理解できなかった訴訟手続を簡単に理解することが可能になるからである。また、特に刑事法廷の傍聴については、刑事手続の理解に資するだけでなく、実際に発生した刑事事件に触れることにより、事件それ自体に対する興味を抱かそう、実務家法曹への意欲をかきたてる効果も期待できるからである。</p> <p>(3)エクスターンシップにおいては、法廷傍聴以外に、小職の事務所において、係属中の事件、既済の事件について記録(ほとんどが民事事件の記録)を読んでいただくことが多い。訴状、答弁書、準備書面等の書き方を学んでいただくとともに、実際に発生した民事事件の姿に触れていただき、紛争解決のため、弁護士、裁判所がどのような努力をしているのかを知っていただくためである。</p> <p>(4)その他、数は多くはないが、法律相談への立ち会い、簡単な文書(たとえば内容証明郵便)の起案などをしていただくこともある。</p> <p>(5)いずれにせよ、エクスターンシップにおいては、実務家法曹の仕事に興味を抱いていただくことを主眼に行っている。</p>

法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2002年1月～	東京地方裁判所鑑定委員

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955(昭和30)年
 在 籍 籍 : 2007(平成19)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学法学部
 専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前 職 : 東京高等裁判所判事

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生のレポートをたたき台として文章の書き方を指導	2010年6月	数人の学生のレポートを授業でたたき台として講評を兼ねて文章の書き方に言及
2.作成した教科書、教材、参考書		
レポート課題作成	2010年6月	上記のレポートの課題を作成

研究活動

2010年度の研究活動概略					
1. 農業経営法務研究会 2. 裁判実務研究会研究員(商事法務・最高裁判所)					
2011年度の研究活動概略					
1. 信託法研究会幹事 2. 裁判実務研究会研究員(商事法務・最高裁判所) 3. 農業経営法務研究会幹事					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「最新実務解説一問一答民事再生法」	共著	2011年9月	青林書院	園尾隆司その他	
(学術論文)					
「権利能力のない社団所有不動産の差押え・仮差押え」	共著	2011年9月	銀行法務21	狩野信太郎	
「労働法規遵守の徹底」	共著	2011年9月	日本医療企画・介護経営白書2011年版	狩野信太郎	

学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験考査委員(商法)	
	全農福岡パルライス株式会社不適正取引調査委員会 委員長	
	事業再生研究機構(理事長・多比羅誠) 会員研究員	
	地方自治法務研究会(座長・交告尚史東大教授) 監事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
参議院情報後悔苦情審査会委員	2011年4月～現在	参議院事務局
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
	弘済事業株式会社民事再生手続申立代理人(東京地方裁判所)
	国際書房民事再生事件申立代理人(東京地方裁判所)
	破産事件管財人3件(東京地方裁判所)

行方美彦 (なめかた よしひこ) 教授



出生年 : 1953(昭和28)年
在籍 : 2010(平成22)年4月～
最終学歴 : 中央大学法学部
専門分野 : 民法法(特に不動産取引法)
前職 : いちよう坂法律事務所
資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	東京簡易裁判所民事調停委員
2008年～現在	(財)全国中小企業取引振興協会下請適正取引推進センター調停人候補者
2009年～現在	災害復興まちづくり支援機構代表委員

西本 靖宏 (にしもと やすひろ) 教授



出生年：1968(昭和43)年
 在籍：2003(平成15)年4月～
 最終学歴：明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 Master of Legal Institutions (University of Wisconsin)
 学位論文：会社合併の法的構造と課税理論
 専門分野：租税法、行政法
 前職：大分大学経済学部 助教授
 役職：法務研究科法務専攻長
 留学：University of Wisconsin Law School (97～99年)

研究活動

2010年度の研究活動概略					
所得税法における譲渡所得について研究を行い、「譲渡所得課税のあり方」という題名で論文を執筆し、『租税法の発展』という題名の論文集に収録された。					
2011年度の研究活動概略					
固定資産税の取消訴訟等の手続を経ない場合の国家賠償請求の可否が争われた最高裁平成22年6月3日第1小法廷判決と、所得税法の退職所得に該当するかどうか争われた京都地裁平成23年4月14日判決について研究を行い、それぞれ研究会で報告をした。今後、それぞれを論文にまとめて、公表する予定である。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「譲渡所得課税のあり方」	単著	2010年11月	金子宏編『租税法の発展』	-	96-114頁
「10年退職金事件」	単著	2011年12月	有斐閣『租税判例百選(第5版)』	-	72-73頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表) 「最高裁平成22年6月3日第1小法廷判決」	2011年4月	行政判例研究会(第一法規株式会社)	-		
(口頭発表) 「京都地裁平成23年4月14日判決」	2012年2月	第713回租税判例研究会(法務省)	-		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2010年6月	財団法人全国市町村研修財団市町村職員中央研修所	市町村職員中央研修所(千葉市)		
(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2010年7月	財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所	全国市町村国際文化研修所(大津市)		
(講師)「行政争訟法」本校短期研修「訴訟(訟務官)」(全3回)	2010年8月	税務大学校	税務大学校和光校舎		
(講師)「行政争訟法」本校短期研修「訴訟(実査官)」(全5回)	2010年10月	税務大学校	税務大学校和光校舎		
(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2011年6月	財団法人全国市町村研修財団市町村職員中央研修所	市町村職員中央研修所(千葉市)		

(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2011年7月	財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所	全国市町村国際文化研修所(大津市)
(講師)「行政争訟法」本校短期研修「訴訟(訟務官)」(全3回)	2011年8月	税務大学校	税務大学校和光校舎
(講師)「行政争訟法」本校短期研修「訴訟(実査官)」(全5回)	2011年10月	税務大学校	税務大学校和光校舎

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
租税法学会、公法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2009年8月～現在	一般社団法人アコード租税総合研究所研究顧問

早坂 禧子 (はやさか とみこ) 教授



出生年 : 1944(昭和19)年
 在籍 : 1998(平成10)年4月～
 最終学歴 : 東北大学大学院法学研究科修士課程
 学位 : 法学修士
 専門分野 : 行政法
 前職 : 東京大学法学部助手

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 教育内容・方法の工夫	2008年4月～	3年次選択科目として、行政手続と法を開講し、基本科目で習得した行政法の知識を展開させ、実務能力の養成にあてている。具体的問題の解決方法をさぐる実践訓練をこころがけている。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、国際憲法学会、日米法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2001年4月～現在	横浜市情報公開・個人情報保護審査会委員
2001年8月～現在	神奈川県国民健康保険審査会会長
2002年6月～現在	東京都中央区情報公開審査会々長
2004年4月～現在	会計検査院情報公開・個人情報保護審査会委員
2006年8月～現在	神奈川県医療審議会委員

廣江 健司 (ひろえ けんし) 教授



出生年 : 1948(昭和23)年
 籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 早稲田大学大学院法学研究科修士課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 : 植物新品種の国際的保護
 専門分野 : 国際私法、国際取引法、国際民事手続法
 前職 : 東京大学助手、九州国際大学法経学部助教授
 資格 : 弁護士(第一東京弁護士会)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫		国際私法・国際取引法・国際民事手続法の各講義において、レジュメを事前に配布し、双方向の授業形式により、学生の知的好奇心を喚起しつつ、議論の深化を図っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの作成		国際私法・国際取引法・国際民事手続法の各講義用に、毎回、1200字詰め約20枚の参考文献を列举しつつ、図示するなどの工夫を施したレジュメを作成し、これを事前に配布した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
FD		学内のFDにおいて、積極的に意見交換をした。
4.法律実務教育に関する特記事項		
その他		実定法上の解釈論について学説上の論争の概要を講義し、判例の原文を読解し、そのうえで、判例が学説に対してどのように応説しているかを検討の中心的課題とした。

研究活動

2010年度の研究活動概略
国際裁判管轄に関する解釈の方法論、涉外法律関係の準拠法の選定方法論、国際取引の法的问题とその解決

宮島 里史 (みやじま さとし) 教授



出生年 : 1951 (昭和26) 年
 在籍 : 1994 (平成6) 年4月 ~
 最終学歴 : 中央大学大学院博士後期課程
 学位 : 法学修士 (中央大学)
 Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)
 学位論文 : 弁護権の意味と機能 (中央大学)
 Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the
 Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)
 専門分野 : 憲法、刑事訴訟法、少年法
 留学 : Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「ブリッジブック裁判法 (第二版)」	共著	2010年5月	信山社	小島武司 編	18-33頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日米法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	第二東京弁護士会懲戒委員会委員

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出 生 年 : 1961(昭和36)年
 在 籍 : 2003(平成15)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
 専 門 分 野 : 憲法
 前 職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
 学 内 役 職 等 : 学務部副部長(2010・2011・2012)
 留 学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『新・スタンダード憲法(第3版)』	共著	2010年4月	尚学社	古野豊秋	32-43頁 297頁、 299頁、 329頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会

吉田 宣之 (よした のぶゆき) 教授



出生年：1945(昭和20)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：違法性の本質と行為無価値
 専門分野：刑法
 留学：ルードウィッヒ・マクシミリアン大学法学部刑事法研究所、
 レーゲンスブルク大学法学部刑事法研究室、ヴェリッブルク大学ヒルゲンドルフ研究室
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学問と実務の融合 既修者と未修者の知識差の克服		ロースクールの講義には、左記のような克服されるべき諸問題がある。これを克服するために、種々工夫、例えば、講義の前半を基礎、後半を応用と区分する等試みている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
刑事法総合演習教材の作成と改正	2004年9月作成 2005年9月改訂	判例を参考にし、同一の事実について、刑法と刑訴の融合問題を作成し、一環した刑事法の習得ができるように試みている。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
オフィサーの活用 論文特別指導		我校には未修者(完全な意味での)が多いので、日頃の問題点については、オフィサーを利用して、又、特別の時間を作り、論文作成について直接指導している。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
今までの研究をベースに「犯罪論体系の構築」をメインテーマにし、行為論、構成要件論、違法性論および責任論について検討し、ロースクール用の補助教材を作成した。					
2011年度の研究活動概略					
前年の犯罪体系論の中核概念についての見当をベースに、不作為犯論、過失犯論および未遂犯論について自説の構築を目指している。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「違法性阻却原理としての新目的説」	単著	2010年8月	信山社	-	291頁
(学術論文)					
クラウス・ロクシン 著「『刑法総論』第一巻(第3版)(十七)」	共訳	2012年3月	桐蔭法学第18巻第2号	吉田宣之、小田純子	57-93頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日本生命倫理学会、東京大学刑事判例研究会、中央大学刑事判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	神奈川県学生柔道連盟会長
	自由民主党かながわ政治大学学校校長
	財務省東京税関審査委員
	(財)大学基準協会委員

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学法学部法律学科
 専門分野：刑事法、労働法、会社商事関係全般等
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)

研究活動

2010年度の研究活動概略			
大学におけるハラスメントに関する研究及び講演活動、死刑判決における傾向と今後のあり方(死刑制度を取り扱ったドラマの監修等)			
2011年度の研究活動概略			
大学及び職場におけるハラスメントに関する研究及び講演活動、出版準備、少年法のあり方についての研究			
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
キャンパスセクハラ事案の特徴と法的対策	2010年4月23日	地域科学研究会・高等教育情報センター	
「セクシュアルハラスメント防止のために～係長として配慮すべきこと～」	2010年8月20日	参議院	
～誰にでも起こりうるハラスメント問題～	2010年9月3日	東京都庁	
～セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントの現状と対策～(セクシュアルハラスメントの態様の変化を踏まえて)	2010年9月7日	財務省	
大学におけるハラスメント防止に向けて～アカデミックハラスメント・セクシュアルハラスメントの現状と対策～	2010年10月6日	東洋大学	白山校舎
～リスクマネジメントとしてのセクハラ・パワハラ対策～	2010年11月9日	TBS	
～リスクマネジメントとしてのセクハラ・パワハラ対策～	2011年7月15日	TBS	
セクシュアル・ハラスメント防止に関する対応策について～過去の裁判例から考える～	2011年7月22日	人事院	
～セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントの現状とその防止について～	2011年9月13日	財務省	
セクシュアル・ハラスメントの法律問題	2011年9月22日	財務省	
従業員の管理・問題社員対応の法律知識	2011年9月29日	東京ビジネススクール株式会社	日本海運ビル3階
～セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントの現状とその防止について～	2011年11月1日	財務省	
セクシュアル・ハラスメントの防止	2011年12月16日	気象庁	
従業員の管理・問題社員対応の法律知識と実務	2012年1月17日	東京ビジネススクール株式会社	日本海運ビル3階
セクシュアル・ハラスメント事案・裁判例と法的対策の要点～判例にみるグレーゾーン/調査・処分上の留意点～	2012年1月20日	地域科学研究会・高等教育情報センター	剛堂会館
従業員の管理・問題社員対応の法律知識と実務	2012年2月3日	東京ビジネススクール株式会社	日本海運ビル3階

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	(財)金融情報システムセンター検討部会委員
2006年4月～現在	司法修習委員会委員
2006年6月～現在	(社)全国民営職業紹介事業協会 理事
2006年6月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2007年6月～現在	(株)フェイス 監査役
2007年8月～現在	メディアスティック(株) 監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会 常務理事

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年：1963(昭和38)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部
 専門分野：会社法・商法
 前職：三菱商事株式会社勤務(1987年～1999年)
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
充実した双方向授業をめざし、様々な観点から学生に質問を行い、その際一義的な答えを出すことを目標とせず、対立利益、論点の源泉把握が十分なされるようにリードした。	2011年度前期 民法法総合演習	対象とする設例については前半は基本的な設例をだし、後半にかけて高度な問題(新司法試験も交えて)出題し、学生に深く考えてもらえるように心がけた。
抽象的になりがちな会社法・商法の講義について、現実の商活動でどのように利用されているか学生に実感してもらえるように、様々な会社法関連の資料(たとえば、登記簿謄本・定款・契約書、株主総会招集通知等)を持参し、OHPで映しながら学生に具体的な理解を促した。	2011年度後期 商法授業	今期は時間の関係で出来なかったが株主総会について学生にイメージしてもらうべく模擬株主総会のDVDを見せるなど、ピジュアルにもとついた理解を目指した。
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的で開催されるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上ノタメの議論に参加した。		

研究活動

2010年度の研究活動概略
反社会的勢力の企業への関与の遮断を目的として東京都での暴力団排除条例の制定作業が進んでおり、今後の暴力団排除条例の内容を踏まえた企業のあるべきコーポレートガバナンスの姿について、企業防衛・会社不祥事への企業の対処方法。
2011年度の研究活動概略
いくつかの上場企業の経営者の不祥事を受けて、今後改正が予想される会社法・金証法について今後のコーポレートガバナンスのあるべき姿について、及び一段落付いた買収防衛策についての今後のありかた、企業の資本政策について。

学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年：1974(昭和49)年1月9日
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：明治大学法学部
 学位：法学士
 専門分野：知的財産法, 企業法務, 広告規制法
 資格：弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
講義レジュメの作成		教科書を使用する科目でもすべてオリジナルレジュメを作成しているが、特に「債権回収と担保」では、教科書を指定せず、講義に耐える自作レジュメを作成し、それのみでの講義を行っている。

研究活動

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
特許権侵害訴訟講座	2011年3月	社団法人発明協会	
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
特許権侵害訴訟講座	2011年3月	社団法人発明協会	
コンプライアンス共同研修会	2010年	S社	
コンプライアンス共同研修会	2011年	S社	

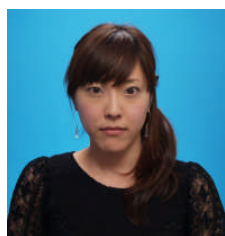
学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク		
(主な活動内容)		
社外監査役	2007年6月～現在	株式会社ゼンリン

法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年2月～現在	日本弁理士会 能力担保研修講師

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月~
最終学歴 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
学位 : 法務博士
前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院
学内役職等 : 法科大学院教育助手
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)

(2012年度 新任教員)

福井 康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 2012(平成24)年4月～
 最終学歴 : 学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
 学位 : 博士(法学)
 学位論文 : 「国民投票の研究」(博士論文)
 専門分野 : 直接民主制・憲法訴訟
 前職 : 大宮法科大学院教授
 学内役職等 : 法務研究科法務専攻長(2012)
 非常勤講師 : 大宮法科大学院大学

研究活動

2010年度の研究活動概略					
憲法訴訟の研究を行う。特に、適用違憲について、従来の通説であるところの三類型説を再検討し、事例分析を行うことによって、二類型説・一類型説を批判的な検討を行う。その成果は、大宮法科大学院大学紀要に学術論文として掲載された。					
2011年度の研究活動概略					
国民投票の比較法的研究を行う。具体的には、オーストラリア・カナダ・スペイン等の、憲法改正国民投票の実施国の運用実態を現地の資料を詳細に分析して、日本の憲法改正国民投票の運用にとって必要かつ重要な部分を指摘した。その成果は、年6回にわたって実施したところの、参議院憲法調査会事務局における報告に反映された。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「直接民主制の構造と基本問題」	単著	2011年2月1日	学習院女子大学紀要第12号	-	97-113頁
「適用違憲における三類型説の再検討」	単著	2011年3月10日	大宮ローレビュー第7号	-	52-82頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
憲法理論研究会、比較憲法学会		
(主な活動内容)		
西欧諸国の国民投票の運用実態についての報告	2007年4月～2012年3月(年6回)	参議院憲法調査会事務局

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井理予 (おくい みちよ) 専任講師



出生年 : 1972(昭和47)年
 在籍 : 2005(平成17)年4月～
 最終学歴 : 広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学位 : 博士(薬学)
 学位論文 : ダウン症関連領域からクローニングされた *MNB* 遺伝子の発現解析
 専門分野 : 分子生物学、細胞生物学
 前職 : 慶応義塾大学医学部助手
 留学 : St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ)
 (2008年11月～2010年9月)
 資格 : 薬剤師免許

研究活動

2010年度の研究活動概略					
2010年9月、留学先(米国 St. Jude Children's Research Hospital)から帰国し、留学中に独自に樹立したマウス脳腫瘍(髄芽腫)細胞株を用いて、放射線と各種抗癌剤に対する感受性の検討を行った。その結果、DNA相同組換え修復機能を欠損した髄芽腫細胞株では、放射線とPARP阻害剤に対して高い感受性を示すことがわかった。PARP阻害剤については、現在、乳がんや卵巣がんにおいて臨床試験が進行中であり、他の抗癌剤と比べて副作用が少ないことが報告されている。我々の研究結果から、ヒトの脳腫瘍治療においても、放射線とPARP阻害剤の併用が有効である可能性が示唆された。					
2011年度の研究活動概略					
2011年度は、2010年度の研究結果をもとに、マウス髄芽腫細胞株をヌードマウスの皮下に移植し、PARP阻害剤の奏効性を検討した。その結果、PARP阻害剤投与後、DNA相同組換え修復機能を欠損した腫瘍では、DNA相同組換え修復機能が正常な腫瘍に比べて腫瘍サイズが小さく、体重減少や下痢などの副作用も見られなかった。一方で、PARP阻害剤に対して耐性を示す腫瘍細胞の存在が報告されたことから、今後はPARP阻害剤耐性に関与するmicroRNAの発現解析を行い、PARP阻害剤の抗腫瘍効果と薬剤耐性に関わる遺伝子を明らかにしたい。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
"Correlating phosphatidylinositol 3-kinase inhibitor efficacy with signaling pathway status: <i>in silico</i> and biological evaluations."	共著	2010年6月8日	Cancer Research, Vol. 70(12)	Dan S, Okamura M, Seki M, Yamazaki K, Sugita H, Okui M , Mukai Y, Nishimura H, Asaka R, Nomura K, Ishikawa Y, Yamori T.	pp.4982-4994
"WRN participates in translesion synthesis pathway through interaction with NBS1."	共著	2010年6月17日	Mechanisms of Ageing and Development, Vol. 131(6)	Kobayashi J, Okui M , Asaithamby A, Burma S, Chen BP, Tanimoto K, Matsuura S, Komatsu K, Chen DJ.	pp.436-444
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
"Targeting DNA repair pathways in brain tumors"	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	-		
その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
第26回基礎医学医療研究補助金	2011年10月～2012年9月	財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団			

(その他特記事項)
平成22年度京都大学放射線生物研究センター共同利用研究(下半期) ウェルナー症候群原因遺伝子WRNによるゲノム安定性の維持
平成23年度京都大学放射線生物研究センター重点領域研究 マウス脳腫瘍におけるDNA修復経路と効果的化学療法剤の検討

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会 (American Association for Cancer Research)

吉田 薫 (よしだ かおる) 専任講師



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員

研究活動

2010年度の研究活動概略					
受精時の精子機能解明に関して、カタウレイボヤ精子誘引物質の受容体同定に関しては候補が絞られ、機能解析へと進める予定であり、またマウス精囊分泌タンパク質の機能に関しては因子のノックアウトに成功の見込みで、現在表現系解析を行っており、精子無力症の基礎研究に関しては臨床研究の論文が受理された。今後は無力症原因因子の受容体同定に取り組む。学内共同研究のTZFノックアウトマウスの表現系解析については、雄性不妊の原因が精子形成不全であることを明らかにした。今後はそのメカニズムについて検討すると共に論文の作成に取り組む予定である。もう一つの学内共同研究のPEG修飾金コロイド粒子のマウス体内動態の研究に関しては血中での動態を示し、生体に対する毒性は無いことを明らかにした。					
2011年度の研究活動概略					
受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、カタウレイボヤ精子誘引物質の受容体同定候補の同定、機能解析を行い、またマウス精囊分泌タンパク質の機能に関しては因子のノックアウトマウス作成に成功し表現系解析にも一定の目処がついた。精子無力症の基礎研究に関しては臨床研究の論文が受理されたのを受け、無力症原因因子の受容体同定に取り組んだが、未だ同定には至っていない。学内共同研究のTZFノックアウトマウスの表現系解析については、雄性不妊の原因が精子形成不全であり、そのメカニズムについて検討し、論文投稿中である。もう一つの学内共同研究のPEG修飾金コロイド粒子のマウス体内動態の研究に関しては各臓器に対する影響を検討し、集積の様子、貪食作用により処理されることや腎臓からの排出について明らかにした。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
“Lipid Rafts: Keys to Sperm Maturation, Fertilization, and Early Embryogenesis”	共著	2011年1月15日	Journal of Lipids Volume 2011	Natsuko Kawano, Kaoru Yoshida , Kenji Miyado, Manabu Yoshida	
(学術論文)					
“Association of Seminal Plasma Motility Inhibitors/Semenogelins with Sperm in Asthenozoospermia-Infertile Men”	共著	2010年12月	Urol Int 2010;85	Terai K, Yoshida K , Yoshiike M, Fujime M, Iwamoto T	pp.209-215
“Binding immunoglobulin protein (BiP) resolves rheumatoid synovitis: a xenogeneic study using rheumatoid arthritis synovial membrane transplants in SCID mice. / (1/5)-”	共著	2011年9月14日	Arthritis Res Ther 13(5)	Yoshida K , Ochiai A, Matsuno H, Panayi GS, Corrigall VM.	R149
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Biodistribution of PEG-Modified Gold Nanoparticles in Mice”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Toin University of Yokohama	Kenichi HATANO, Kaoru YOSHIDA , Keitaro HAGIWARA, Yusuke MIURA, Hiromi HAGIWARA		
“Localization of Androgen Receptor Corepressor Testicular Zinc-finger Protein on Mouse Testis”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Toin University of Yokohama	Norihisa SAKO, Katsutoshi SASAKI, Shou KAMAKURA, Kanako YAMASAKI, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA		

「カタウレイボヤ精子走化性における誘引物質受容機構」	2010年12月9日	第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会 同大会 神戸ポートアイランド	吉田 薫, 稲葉 一男, 吉田 学
「精囊線タンパク質SVsの体内受精における役割」	2010年12月9日	第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会 同大会 神戸ポートアイランド	河野菜摘子, 金井誠也, 荒木直也, 吉田薫, 吉田学, 宮戸健二
「マウス精子の受精能獲得抑制に対する精囊分泌タンパク質SVs2の作用」	2010年12月9日	第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会 同大会 神戸ポートアイランド	荒木直也, 吉田薫, 河野菜摘子, 宮戸健二, 吉田学
“Sperm chemotaxis mediated by control of intracellular Ca ²⁺ via plasma membrane Ca ²⁺ -ATPase”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Toin University of Yokohama	-
「金コロイド粒子のマウス体内動態」	2011年6月25日	日本生化学会関東支部例会 (東京理科大学)	波田野賢一, 萩原啓太郎, 村田雄輔, 吉田薫, 萩原啓実
「精囊分泌タンパク質SVs2のマウス体内受精における役割について」	2011年9月21日	動物学会第82回大会(旭川市 神楽地区公共施設群)	河野菜摘子, 荒木直也, 吉田薫, 吉田学, 宮戸健二
“Effects of PEG-modified gold nanoparticles on function of liver and kidney and distribution in brain and testis”	2011年12月14日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	Kenichi HATANO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
(ポスター/口頭)「TZF遺伝子欠損マウスは雄性不妊である」	2011年12月13日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	吉田薫, 佐古典久, 萩原啓実, その他10名
(ポスター/口頭)「TZFはマウスの精子形成を制御する」	2011年12月13日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	佐古典久, 吉田薫, 萩原啓実
(ポスター/口頭)「TZF欠損マウスにおける精巣でのAldoart1の発現変化」	2011年12月13日	第34回日本分子生物学会年会(パシフィコ横浜)	鎌倉将, 佐古典久, 吉田薫, 萩原啓実
“Localization of Aldoart1 on Mouse Testis”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Shou KAMAKURA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Localization of Androgen Receptor Corepressor Testicular Zinc-Finger Protein on Mouse Epididymis”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Norihisa SAKO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Effects of PEG-modified Gold Nanoparticles on Function of Liver and Kidney and Distribution in Brain and Testis”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Kenichi HATANO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Oral Session Award”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010	-
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金	2008年度～2010年度	基盤研究(C)、精囊蛋白をマーカーとした精子の質を判定する検査法の確立20591899、研究分担者	
科学研究費補助金	2009年度～2011年度	基盤研究(B)、受精時における精子受精能制御機構の解明21370030、研究分担者	

科学研究費補助金	2010年度～2013年度	若手研究(B)、精嚢分泌タンパク質による精子膜構造の制御を介した受精能抑制機構の解明22791502、 研究代表者
科学研究費補助金	2011年度～2013年度	基盤研究(C)、ARTにおける適切な治療方針決定のための新しい精液検査法に関する研究23592383、 研究分担者

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本動物学会、日本プロテオーム学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会

2010・2011年度 退職教員

(法学部・法律学科)

鈴木 達次 (すずき たつじ) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
在籍 : 2002(平成14)年4月～2012(平成24)年3月
最終学歴 : 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得
学位 : 法学修士
専門分野 : 商法
前職 : 愛媛大学法文学部助教授

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、保険学会

村上 淳一 (むらかみ じゅんいち) 終身教授



出生年 : 1933(昭和8)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～2012(平成24)年3月
最終学歴 : 東京大学法学部
専門分野 : ドイツ法、比較法、法史学
前職 : 東京大学大学院法学政治学研究科教授
留学 : ハンブルク大学(1964～1965)
 チュービンゲン大学(1965～1966)
受賞・表彰 : チュービンゲン大学名誉法学博士(1991)
 ドイツ連邦共和国大功労十字勲章(2006)

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日独法学会、日本ドイツ学会、ドイツ比較法学会(外国人特別会員)	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2001年～	日本学士院会員

山本龍彦 (やまもと たつひこ) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～2011(平成23)年3月
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学
 学位：法学博士
 学位論文：遺伝子プライバシーの憲法学的考察
 専門分野：憲法、医事法
 非常勤講師：慶應義塾大学法科大学院
 受賞・表彰：比較憲法学会田上穰治賞(2009年10月)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
少人数教育(ゼミ)の充実	2005年4月～2011年3月	ゼミ代表を選出するなどして、学生とのコミュニケーションを重視。
1年生の少人数クラスにて、クイズ形式の質疑を導入(早押しボタン)	2005年4月～2011年3月	テレビのクイズ番組を参考に、学生参加型のクイズを授業後半に導入した。
卒業論文の指導	2005年4月～2011年3月	就職活動にも有利と思われるため、卒業論文の指導を強化した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
注目授業として、教員の授業見学の対象に指定される(教務委員会より)	2010年5月	「1」の工夫により、教務委員会により授業見学の対象に指定された。

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本公法学会、全国憲法研究会、日本医事法学会

(医用工学部・生命医工学科)

後藤 眞 (ごとう まこと) 教授



出生年 : 1947(昭和22)年
 在籍 : 2004(平成16)年10月 ~ 2011(平成23)年3月
 最終学歴 : 東京大学医学部
 学位 : 医学博士
 学位論文 : Immunological abnormalities of aging
 専門分野 : 老化学、内科学、リウマチ学、免疫学、遺伝学
 前職 : 東京都立大塚病院リウマチ膠原病科部長
 留学 : 米国カリフォルニア大学(サンディエゴ校)(1981~1984)
 資格 : 医師(日本、アメリカ)
 非常勤講師 : 東京女子医大東医療センター整形外科
 受賞・表彰 : 昭和56年 日本リウマチ学会フェロースシップ賞
 昭和58年 アメリカ・リウマチ学会研究員賞
 平成元年 関節疾患基礎研究賞
 平成元年 日本リウマチ学会賞
 平成16年 ノバルチス・リウマチ賞
 平成18年 イギリス・BBSRC JAPAN PARTNERING賞

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
正統的な英語論文に慣れ、苦手意識を克服できるように、身近に感じられる話題で、かつ比較的短い読み物風の論文を、Nature、Scienceからえらび、学生に音読させ、発音のみならず、英語表現の流れに慣れるように工夫した。		最初は、戸惑っていた学生が、音読によって英語に対する苦手意識がなくなっていく様子がよくわかった。

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「炎症性老化と関節リウマチ」	単著	2010年12月25日	永井書店	-	257
(総説・論説)					
「老化遺伝子・寿命遺伝子」	単著	2010年4月1日	アンチ・エイジング医学	-	6:201-205, 2010
「老化遺伝子、寿命遺伝子をめぐって」	単著	2010年5月10日	血管医学	-	11:103-106,2010
「老化遺伝子、寿命遺伝子をめぐって(続篇)」	単著	2010年12月10日	血管医学	-	11:331-336,2010
(学術論文)					
“A comparative study of anti-inflammatory and antidiabetic effects of fenofibrate and statins on rheumatoid arthritis”	単著	2010年6月1日	Modern Rheumatology	-	20:238-243,2010
「慢性疼痛疾患:線維筋痛症とリウマチ性脊椎関節炎の治療反応性の相違」	単著	2010年7月14日	日本脊椎関節炎学会誌	-	2:79-87,2010

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Sonozaki syndrome”	2010年7月10日	第31回リウマチセンター間連絡会 松本市ホテルピエナピスタ	-
「生体防御機構から考える炎症性老化」	2010年9月19日	第53回日本歯周病学会 高松かがわ国際会議場	-
「NSAIDsの使い方」	2011年6月9日	第3回横浜北部リウマチネットワーク	-
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「関節リウマチは老化促進病」	2010年6月26日	第19回荒川整形外科フォーラム	浅草ビューホテル
「横浜北部地域のリウマチ診療の現状」	2010年6月10日	第一回横浜北部リウマチネットワーク研究会	メロンデアあざみ野
「老化促進病としての関節リウマチの治療をどうすべきか」	2010年7月24日	第21回城東整形外科医会 学術講演会	東武レバント東京
「関節炎と高脂血症」	2010年7月29日	科研製薬横浜支店研修会	科研製薬横浜支店
「ヒアルロン酸は炎症性老化のマーカーである」	2010年9月24日	第7回ヒアルロン酸関節注入療法 の臨床と基礎研究会	東京:新宿NSビル中外製薬会議室
「関節リウマチの診断と治療」	2010年12月7日	第2回横浜北部地区リウマチネットワーク研究会	横浜カルバリー・チャペル会議室
「老いを愉しむ:元気な筋肉とは?」	2011年2月6日	平成22年度三重県医師会スポーツ医学研修会	津市三重県医師会館
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「100号記念座談会」	2010年5月1日	日本リウマチ財団ニュース100号 1~4	
「草食系医者と肉食系患者」	2010年5月1日	リウマチ財団ニュース 11	
「リウマチ女性医師の理想と現実」	2010年9月1日	日本リウマチ財団ニュース102号 1~6	
「進歩した関節リウマチ治療を、結核でストップさせない」	2010年12月27日	日本経済新聞 第44868号 22	
「関節リウマチと各種肝炎を合併した患者さんへの対応」	2011年1月1日	日本リウマチ財団ニュース 104号 3~5,2011	
(その他特記事項)			
「今一度、関節リウマチ薬物療法を考えるPart1」(2010年12月1日)			
「今一度、関節リウマチ薬物療法を考えるpart2」(2010年12月1日)			

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本リウマチ学会、日本炎症再生学会、日本老年病学会、日本内科学会、米国リウマチ学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
	Niftyインターネット医科大学リウマチ膠原病科教授
	リウマチ財団・財団ニュース編集委員長

小山行一 (こやま こういち) 教授



出生年 : 1947(昭和22)年
 在籍 : 2003(平成15)年4月 ~ 2011(平成23)年3月
 最終学歴 : 北海道大学大学院薬学研究科
 学位 : 薬学博士
 学位論文 : Photoelectric Studies of Organized Bacteriorhodopsin Films at the Solid/Liquid Interface.
 専門分野 : 生物有機化学、エネルギー変換の化学
 前職 : 富士写真フィルム(株)主任研究員
 北海道大学先端科学技術研究センター客員教授
 学内役職等 : 生命・環境システム工学科長・機能化学工学科長
 受賞・表彰 : 昭和57年度有機合成化学協会賞
 昭和63年度発明奨励賞

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「視覚機能を利用したエリアセンサー」	単著	2010年	光学 39巻7号	-	334-339頁

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本化学会、生物物理学会、光化学協会

(医用工学部・臨床工学科)

川島 徳道 (かわしま のりみち) 教授



出生年 : 1948(昭和23)年
在籍 : 1995(平成7)年8月 ~ 2012(平成24)年3月
最終学歴 : 東京理科大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了
学位 : 理学博士
学位論文 : Studies on Dry Grinding of Pigment Mixture
専門分野 : コロイド表面化学、精密研磨加工、医用材料
前職 : 東京理科大学理学部応用化学教室、リーハイ大学表面工学研究所、東京磁気印刷(株)開発技術部
留学 : 米国リーハイ大学表面工学研究所
受賞・表彰 : 1975年度色材協会論文賞
1989年度色材協会技術賞
1997年度材料技術研究協会技術賞
1999年度材料技術討論会ポスター賞
2000年度材料技術討論会ポスター賞
2001材料技術研究協会討論会ポスター賞、材料技術研究協会討論会技術賞
2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞、材料技術研究協会技術賞
2003年度材料技術研究協会技術賞、材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞
2004年度材料技術研究協会論文賞、材料技術研究協会ゴールドポスター賞、第25回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE2004)超音波シンポジウム奨励賞
2004年度材料技術研究協会討論会ポスター賞奨励賞およびゴールドポスター賞
2005年材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞、学生論文賞
2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞、材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞
日本音響学会2006年春季研究発表会ポスター賞
2006年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞、ポスター奨励賞、学生論文賞
2007年度材料技術研究協会技術賞、学生論文賞、ゴールドポスター賞
日本油化学会11th Journal of Oleo Science Editors' Award
2008年度色材協会討論会優秀ポスター賞
2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞、論文賞、
2009年材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞
優秀ポスター賞、日本化学会第3回関東支部大会
Gold Poser Award, TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (2009)
Poster Session Award, TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (2009)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)講義は学生にいかに関心を持たせるかを重要視した。講義内容の理解を深めるため、全講義について共通な具体的講義方法は右のようにした。		(1)臨床工学技士国家試験問題に準拠した教科書を作成した。生体機能代行装置学については予め配布した授業と関連のある英語の問題について、授業開始から15分間英語のテストを行う。 (2)授業は基本的に プロジェクターを用いて行う。 (3)材料や装置が実際にどのように用いられているか、ビデオを見せる。 (4)毎回授業の終わりに小テストと授業の感想、質問を書かせ、次回授業の参考とする。

研究活動

2010年度の研究活動概略					
ICTタグによる森林管理と間伐材の有効利用 ナノバブル発生装置の応用 光造形法を用いた手術シミュレーション用3Dモデルの作製 癌の光線力学的治療(PDT) バイオセラミックスの合成と物性 活性酸素によるポリマーフィルムの表面改質 新規な研磨工具の開発					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
"Effect of washing process after decellularization process by SDS"	共著	2010年6月15日	Research Bulletin No.22	Koki Abe, Norimichi Kawashima and Peter S. McFetridge	pp.19-22
"Development of an artificial prosthesis using nerve signals"	共著	2010年6月15日	Research Bulletin No.22	Satoru Furumori, Naoki Kusumoto, Tadashi Akamatsu, Takeshi Tsunekumi, Katsuyuki Ii and Norimichi Kawashima	pp.23-26
"Synthesis of 5-aminolevulinic acid (ALA) derivatives and their lipophilicity"	共著	2010年6月15日	Research Bulletin No.22	Xuepeng Qui, Toshiyuki Kosobe, Norimichi Kawashima	pp.27-35
"Effect of TiCl4 Treatment on Porous ZnO Photoelectrodes for Dye-sensitized Solar Cells"	共著	2011年2月1日	Chemistry Letters, 40, 2	Nobuya Sakai, Norimichi Kawashima, Takuro N. Murakami	pp.162-164
"Kinetic study of Nafion degradation by Fenton reaction"	共著	2011年3月1日	Journal of Power Sources, 196	Tomoko Sugawara, Norimichi Kawashima , Takuro N. Murakami	pp.2615-2620
「チタン製受音膜の裏面に水熱合成PTZ多結晶膜を成膜した耐音響キャビテーションハイドロホンの開発」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	竹内真一、吉村一穂、 川島徳道 、内田武吉、吉岡正裕、菊池恒男、黒澤実	107-113頁
"Development of Cavitation Sensor with Hydrothermally Synthesized PZT Poly-crystalline Film on Titanium Cylindrical Pipe"	共著	2011年6月15日	Research Bulletin No.24	Michihisa Shiiba, Norimichi Kawashima , Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi	pp.115-123
「集束超音波音場の焦点近傍における音響化学反応に関する基礎研究」	共著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	渡邊晶子、村上拓郎、 川島徳道 、内田武吉、吉岡正裕、菊池恒男、竹内真一	125-130頁
"Effect of high functional lipid lipo-capsule containing acetyl hydroxyproline on animal skin disease"	共著	2011年6月15日	Research Bulletin No.24	Satoru FURUMORI, Chihiro KAISE, Teruhisa KANEKO and Norimichi KAWASHIMA	pp.165-168

“Studies on anti-slip cushion for wheelchairs”	共著	2011年6月15日	Reseach Bulletin No.24	Hiroshi YOSHIKAWA, Kiichi TSUJI and Norimichi KAWASHIMA	pp.169-174
“Studies on automatic wheelchair braking system in the prevention of falls”	共著	2011年6月15日	Reseach Bulletin No.24	Taisuke YAMAUCHI, Kiichi TSUJI, Takeshi WATANABE and	pp.175-178
“Surface modification of polymer using Hypericin and Na-Li lamp”	共著	2011年6月15日	Reseach Bulletin No.24	Peng-Yong ZENG, Nobue NAKAJIMA and Norimichi KAWASHIMA	pp.179-183
“Effect of photoactive pigment on photodynamic therapy for cancer cells”	共著	2011年9月2日	Progress in Organic Coatings・Volume 72	Norimichi Kawashima , Nobue Nakajima	pp.34-39
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
「シャント音画像間の正規化相互相関係数の導出による定量的経時変化モニタリング」		2010年4月2日～4日	日本医工学治療学会第26回学術大会(都市センターホテル)	本橋由香、村上彩子、佐藤敏夫、 川島徳道 、阿岸鉄三、小見勝利	
「嚙下音の時間 - 周波数解析を利用した非侵襲嚙下機能評価の試み」		2010年4月2日～4日	日本医工学治療学会第26回学術大会(都市センターホテル)	佐藤敏夫、新妻可奈子、本橋由香、 川島徳道 、阿岸鉄三、小見勝利	
「擬似血管狭窄モデルを流れる拍動流の流れ解析に対する流体抵抗モデルの検討」		2010年4月2日～4日	日本医工学治療学会第26回学術大会(都市センターホテル)	磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克	
「動脈硬化と血液透析中の血圧低下の関連性に対する多変量解析による検討」		2010年4月2日～4日	日本医工学治療学会第26回学術大会(都市センターホテル)	本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、小島久、吉川学、東ヶ崎明子、阿岸鉄三	
「超音波伝搬減衰の変化を利用した血液回路凝固の専用モニタリング」		2010年4月2日～4日	日本医工学治療学会第26回学術大会(都市センターホテル)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、本橋由香、 川島徳道 、阿岸鉄三	
「ミニサーキットに対する血流シミュレーションによる血液滞留の分析」		2010年4月2日～4日	日本医工学治療学会第26回学術大会(都市センターホテル)	佐藤敏夫、小早川恵子、磯野裕佳、本橋由香、 川島徳道 、増田俊輔、宗像佳克、中根紀章、山田拓哉、神谷勝弘	
「気管内吸引音の時間 - 周波数解析に基づいた吸引効果定量化の試み」		2010年4月2日～4日	日本医工学治療学会第26回学術大会(都市センターホテル)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、金田恵子、阿岸鉄三、小見勝利	
「電子聴診器で収集したシャント雑音データの変換によるバスキュラーアクセス機能評価」		2010年5月13日～15日	第85回日本医療機器学会大会(福岡国際会議場)	佐藤敏夫、本橋由香、角川佐保子、村上彩子、 川島徳道 、阿岸鉄三、澁谷有美、高木絵美子、星野敏久、小見勝利	
「効率的な機器運用のための医療機器使用予測」		2010年5月22日～23日	第20回日本臨床工学会(パシフィコ横浜)	里野剛之、梅澤東光、加納敬、佐藤敏夫、 川島徳道	
「医療機器の使用方法和内蔵バッテリー性能低下の関係」		2010年5月22日～23日	第20回日本臨床工学会(パシフィコ横浜)	加納敬、梅澤東光、里野剛之、佐藤敏夫、 川島徳道	
「シリンジポンプのサイフォニング現象が起こる条件」		2010年5月22日～23日	第20回日本臨床工学会(パシフィコ横浜)	梅澤東光、加納敬、里野剛之、佐藤敏夫、 川島徳道	
“ANALYSIS OF PULSATILE FLOW IN A QUASI-ANGIOSTENOSIS MODEL USING THE FINITE ELEMENT METHOD”		2010年5月25日～29日	American Society for Artificial Internal Organs, Baltimore Maryland	Naoki Katsura, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi, Katsuyoshi Munakata, Noriaki Nakane	
「多変量解析による動脈硬化症と血液透析中の血圧低下に対する基礎検討」		2010年6月19日～20日	第55回(社)日本透析医学会学術集会(神戸国際会議場)	本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、小島久、吉川学、東ヶ崎明子、阿岸鉄三	
「シャント雑音発赤メカニズム検討のための有限要素法による流れ - 構造連成解析」		2010年6月19日～20日	第55回(社)日本透析医学会学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、桂尚樹、磯野裕佳、本橋由香、 川島徳道 、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克	
「有限要素法の流れ解析によるシャント雑音発生メカニズム検討のための流体抵抗モデルの導入」		2010年6月19日～20日	第55回(社)日本透析医学会学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、 川島徳道 、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克	

「嚙下障害を有する血液透析患者の嚙下音に対する時間 - 周波数解析を用いた非侵襲スクリーニング検査」	2010年6月19日 ~ 20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三、小見勝利
「吸引音の時間 - 周波数解析に基づいた気管内吸引を必要とする血液透析患者の吸引効果判定」	2010年6月19日 ~ 20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、金田恵子、阿岸鉄三、小見勝利
「超音波センサを用いた血液回路内凝固の専属的モニタリング」	2010年6月19日 ~ 20日	第55回(社)日本透析医学会 学術集会(神戸国際会議場)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、村上彩子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
“Zinc Oxide and Titanium Dioxide Hybridized Photoelectrode for Dye-sensitized Solar Cells”	2010年6月29日	Renewable Energy 2010, Pacifco Yokohama, Yokohama	Nobuya Sakai, Norimichi Kawashima , Takurou N. Murakami
“Zinc Oxide and Titanium Dioxide Hybridized Photoelectrode for Dye-sensitized Solar Cells(5)”	2010年7月28日	18th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy, Korea University, Seoul Korea	Nobuya Sakai, Norimichi Kawashima , Takurou N. Murakami
「ZnO/TiO ₂ 複合電極による色素増感型太陽電池の逆電子移動抑制効果と色素吸着量の検討」	2010年8月30日 ~ 31日	日本化学会 第4回関東支部 大会 (筑波大学筑波キャンパス)	酒井誠弥、甲村長利、川島徳道、村上拓郎
「酸化亜鉛/酸化チタン複合電極を用いた色素増感型太陽電池における逆電子移動抑制効果の検討(2)」	2010年9月2日 ~ 3日	2010電気化学秋季大会 (神奈川工科大学)	酒井誠弥、甲村長利、川島徳道、村上拓郎
「ラマン分光法による三次元皮膚モデルの研究」	2010年9月2日 ~ 3日	2010電気化学秋季大会 (神奈川工科大学)	高根沢聡太、盛田伸一、伊達朗、渡辺慎、稲益直子、村上拓郎、川島徳道、佐藤英俊、佐甲靖志
「吸引シミュレータを用いた吸引前後の模擬呼吸音の比較による定量的吸引効果判定の試み」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「嚙下時の2方向ビデオ画像と嚙下音の同期解析による嚙下機能の定量的評価」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「人工血管静脈側吻合部における狭窄率の変化に対する有限要素法による流体 - 構造連成解析」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、宗像佳克、中根紀章
「シャント音の正規化相互相関係数算出に対する自動波形検出アルゴリズムの検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香、角川佐保子、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「体外循環に使用するミニサーキットの最適形状に対する血流シミュレーション」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、小早川恵子、丸下洋一、本橋由香、川島徳道、増田俊輔、中根紀章、宗像佳克、山田拓哉、神谷勝弘
「血液透析中の回路内血液流動状態に対する光センサを用いた連続的モニタリング」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、春原冨香、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「超音波センサを利用した血液透析回路内凝固に対するモニタリング方法の検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、水嶋洋佑、新妻可奈子、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「有限要素法による長期留置型ダブルルーメンカテーテルの流れ解析に関する基礎検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、香取優美、丸下洋一、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「血液透析中の徐水に伴うプラズマリフィングレートの推定」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、徳岡龍之介、本橋由香、川島徳道、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三
「模擬透析による血液透析用ダブルルーメンカテーテルの再循環率に関する検討」	2010年10月15日	平成22年度神奈川県ものづくり 技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、石垣秀記、丸下洋一、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
“Photodynamic therapy (PDT) using Hypericin and ALA in U937 cells”	2010年10月30日	8th International Symposium on Photodynamic Therapy and Photodiagnosis in Clinical Practice, Brixen/Bressanone (South Tyrol, Italy)	Nobue Nakajima, Norimichi Kawashima

(Oral)“Quantitative evaluation of swallowing function by synchronous analysis of bidirectional video images and swallowing sounds”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kanako NIIZUMA, Yuka MOTOHASHI, Toshio SATO, Norimichi KAWASHIMA , Tetsuzo AGISHI, Kenou TAKESHI, Katsutoshi OMI
(Oral)“Control of electron recombination in Zinc oxide and Titanium dioxide Hybridized Photoelectrodes for Dye-sensitized Solar Cells”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Nobuya SAKAI, Norimichi KAWASHIMA , Takuro N.MURAKAMI
(Oral)“Two-Dimensional Raman Correlation Analysis of Diseased Esophagus in a Rat”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Sota TAKANEZAWA, Shin-ichi MORITA, Atsushi MARUYAMA, Takuro N. MURAKAMI, Norimichi KAWASHIMA , Tooru ASAKURA, Tooru SHIMOSEGAWA, Hidetoshi
(Poster)“Evaluation of recirculation rate according to flow change in reverse connection of double lumen catheter for hemodialysis”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hideki ISHIGAKI, Yumi KATORI, Norimichi KAWASHIMA , Yuka MOTOHASHI, Toshio SATO, Tetsuzo AGISHI
(Poster)“Fluid-structure interaction analysis of stenosis in AVG anastomosis using a finite-element method”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Yuka ISONO, Naoki KATSURA, Yuka MOTOHASHI, Mio KUROSAWA, Norimichi KAWASHIMA , Toshio SATO, Tetsuzo AGISHI
(Poster)“Study of the effective utilization of custom-built, medical device management software”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Takeshi SATONO, Yuka MOTOHASHI, Toshio SATO, Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Preoperative 3D plastic model for implant surgery planning with stereo lithography”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kazuya AKIMOTO, Satoshi SHIGEHARA, Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Effect of high functional lipid lipocapsule containing acetyl hydroxypeoline on animal skin disease”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Satoru FURUMORI, Chihiro KAISE, Teruhisa KANEKO and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Effect of Sea buckthorn flavonoids on growth inhibitory activity in U937 cells”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Takuya HARADA, Nobue NAKAJIMA and Norimichi KAWASHIMA
“Studies on the development of surgical guides for implant surgery”	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Akihiro KOBAYASHI, Satoshi SHIGEHARA, Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Effect of Photodynamic therapy (PDT) using Hypericin on U937 cells: Comparison of different lamps”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Masaya MATSUURA, Nobue NAKAJIMA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Preoperative 3D plastic replica for orthognathic surgery planning with stereo lithography”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Ryo NAKAI, Eisaku IMAMURA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Aortic Arch Aneurysm Surgery Simulation with Rapid Prototyping Technology”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Sho SAKUMA, Hiroshi KUBOTA, Takuya YAMADA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Measurment of Sound Field with Acoustic Cavitation by Using Cavitation Sensor with Hydrothermally synthesized PZT”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Michihisa SHIIBA, Norimichi KAWASHIMA , Takeyoshi UCHIDA, Tsuneo KIKUCHI, Minoru KUROSAWA, Shinichi TAKEUCHI

(Poster)“Measurement for Sonochemical Reaction Near Focal Point in 1.6 MHz Focused Ultrasound Field -Relationships between ultrasound duty cycles and production of active oxygen-”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Akiko WATANABE, Takuro N. MURAKAMI, Norimichi KAWASHIMA , Shinichi TAKEUCHI, Takeyoshi UCHIDA, Masahiro YOSHIOKA and Tsuneo KIKUCHI
(Poster)“Studies on automatic wheelchair braking system in the prevention of falls”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Taisuke YAMAUCHI, Kiichi TSUJI, Takeshi WATANABE and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Studies on anti-slip cushion for wheelchairs”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hiroshi YOSHIKAWA, Kiichi TSUJI and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Effect of abdominal breathing (anterograde continuous prolonged inhalation method) on body temperature and weight loss”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Hong ZENG and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Surface modification of polymer using Hypericin and Na-Li lamp”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Peng-Yong ZENG, Nobue NAKAJIMA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Studies on growing vegetables using hydroponics”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Takahide KITAMURA, Sayuri OIZUMIO, Nao FUJIMURA, Maho ITO, Naomi YACHIDA, Yoshihiro HADA and Norimichi KAWASHIMA
“Effect of photoactive pigment on photodynamic therapy for cancer cells”	2010年11月10日	XXX FATIPEC Congress 2010“FIERA DEL MARE” ,GENOA, ITALY	Norimichi Kawashima , Nobue Nakajima
「自動波形検出アルゴリズムを用いたシャント音の正規化相互相関係数算出によるVA機能の定量化」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	本橋由香、角川佐保子、佐藤敏夫、 川島徳道 、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「嚙下音及び喉表面の運動を撮影したビデオ画像を用いた嚙下機能の非侵襲的評価」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	新妻可奈子、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「効率的な機器運用のための医療機器使用予測」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	里野剛之、梶川友学、梅沢東光、加納敬、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道
「ミニサーキット最適化のためのFEMとPIVによる基礎検討」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	丸下洋一、小早川恵子、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、山田拓哉、神谷勝弘、増田俊輔、中根紀章、宗像佳克
「模擬透析を用いたDLCの再循環率に関する検討と有限要素法(FEM)によるDLC先端の流れ解析」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	石垣秀記、丸下洋一、香取優美、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「流体抵抗を用いたAVG吻合部の狭窄に対する有限要素法による流体-構造連成解析」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	磯野裕佳、桂尚樹、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、金岡文志、阿岸鉄三、中根紀章、宗像佳克
「光-超音波複合センサによる血液回路内凝固の専属的及び早期検出可能性に関する検討」	2010年11月20日	第48回日本人工臓器学会大会(仙台国際センター)	佐藤敏夫、春原冨香、新妻可奈子、本橋由香、 川島徳道 、阿岸鉄三
「自動ブレーキ付き車いすの安全性」	2010年12月3日～4日	材料技術研究協会討論会(東京理科大学野田キャンパス)	山内大亮、辻毅一、渡邊剛、 川島徳道
「光造形法による3Dモデルを用いた手術シミュレーション」	2010年12月3日～4日	材料技術研究協会討論会(東京理科大学野田キャンパス)	秋本和哉、重原聡、 川島徳道
「光造形法による3Dモデルを用いた手術シミュレーション」	2010年12月3日～4日	材料技術研究協会討論会(東京理科大学野田キャンパス)	中井亮、北村栄作、 川島徳道
「U937におけるサジー(SEA BUCKTHORN)の果実および種子フラボノイド抗がん効果」	2010年12月3日～4日	材料技術研究協会討論会(東京理科大学野田キャンパス)	原田卓哉、中島伸江、 川島徳道

「U937におけるLEDランプとNa-Liランプを用いたHypericin-PDT効果」	2010年12月3日 ～4日	材料技術研究協会討論会(東京理科大学野田キャンパス)	松浦将矢、中島伸江、川島徳道
「Double Lumen Catheter(DLC)の順接続・逆接続の定量的解析」	2011年3月5日	第16回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会(津田ホール)	阿岸鉄三、吉川学、東ヶ崎明子、小島久、金岡文志、石垣秀記、丸下洋一、香取優美、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道
“Study on Penetration Depth of External Reflection Infrared Spectroscopy at the Air/Water Interface”	2011年3月16日	Sixth international conference on molecular electronics and bioelectronics (M and BE6), Sendai, Japan	Sota Takanezawa, Tetsuaki Yanagida, Shin-ichi Morita, Takurou N. Murakami, Norimichi Kawashima, Hidetoshi Sato, Yasushi Sako
“Control of Back Electron Transfer in Zinc Oxide and Titanium Dioxide Complex Photoelectrodes for Dye-sensitized Solar Cells”	2011年3月18日	Sixth international conference on molecular electronics and bioelectronics (M and BE6), Sendai, Japan	Nobuya Sakai, Norimichi Kawashima, Takurou N. Murakami
「ラマン分光法によるヒト皮膚モデルの色素沈着過程の研究」	2011年3月24日	2011年春季 第58回 応用物理学関係連合講演会(神奈川工科大学)	高根沢聡太、盛田伸一、伊達朗、渡辺慎、村上拓郎、川島徳道、佐藤英俊
「酸化亜鉛と各種酸化物複合電極を用いた色素増感太陽電池の高効率化」	2011年3月29日	電気化学会第78回大会(横浜国立大学)	酒井誠弥、臼井諒、Henry J. Snaith、川島徳道、村上拓郎
「嚙下音の時間-周波数解析による無侵襲嚙下機能モニタリングをそれを応用した気管内吸引効果判定」	2011年4月22日 ～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会(岡山コンベンションセンター)	本橋由香、新妻可奈子、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテル先端の血流シミュレーションと流れの可視化」	2011年4月22日 ～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会(岡山コンベンションセンター)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三、中根紀章、増田俊輔、宗像佳克
「ダブルルーメンカテーテルの再循環に関する模擬透析システムによる実験的検討」	2011年4月22日 ～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会(岡山コンベンションセンター)	石垣秀記、黒澤美緒、丸下洋一、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「透析回路内凝固の検出を目的とした超音波-光複合センサの検討」	2011年4月22日 ～24日	日本医工学治療学会第27回学術大会(岡山コンベンションセンター)	佐藤敏夫、新妻可奈子、水嶋洋佑、春原牙香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
“Effect of Hypericin-PDT using different lamps in U937 cells”	2011年5月10日	13th International Photodynamic Association World Congress 2011, Innsbruck, Austria	Nobue Nakajima, Norimichi Kawashima
“Automatically analyzing shunt murmurs using wavelet transform as a new method for evaluating vascular access function”	2011年6月10日 ～12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yuka Motohashi, Mio Kurosawa, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Katsutoshi Omi, Kenou
“A study on blood recirculation of double-lumen catheters using computational fluid dynamics”	2011年6月10日 ～12日	ASAIO 57th annual conference, WashingtonDC	Yoichi Marushita, Mio Kurosawa, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Norimichi Kawashima, Tetsuzo Agishi, Shunsuke Masuda, Yoshikatsu Munakata
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーン注入量と再循環の定量的評価」	2011年6月17日 (～19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	黒澤美緒、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)逆接続時の再循環に関する流れ解析」	2011年6月17日 (～19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の下流側圧力が再循環率に与える影響」	2011年6月17日 (～19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、吉川学、阿岸鉄三
「PTA前後の動脈血管雑音の時間-周波数解析によるVA機能評価の試み」	2011年6月17日 (～19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、川島徳道、土田智子、春口洋昭、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利

「シャント音自動波形検出アルゴリズムを用いたVA機能の自動的定量評価の試み」	2011年6月17日 (~19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、星野春奈、角川佐保子、黒澤美緒、佐藤敏夫、 川島徳道 、金岡文志、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「血液回路内凝固の早期かつ専属的検出を目的とした赤外線センサに関する検討」	2011年6月17日 (~19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、春原牙香、本橋由香、黒澤美緒、 川島徳道 、阿岸鉄三
「超音波センサ受信波振幅の経時変化モニタリングによる血液回路内凝固の専属的検出の可能性」	2011年6月17日 (~19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、井上雅結、水嶋洋佑、黒澤美緒、本橋由香、 川島徳道 、阿岸鉄三
「クリットラインモニター(CLM)から得られるBV%とPRRの特徴的な経時変化に関する検討」	2011年6月17日 (~19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、 川島徳道 、吉川学、金岡文志、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環発生時における血液流れの空間的かつ定量的流速分布測定」	2011年6月17日 (~19日)	第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 (パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、磯野裕佳、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、 川島徳道 、吉川学、阿岸鉄三
(Poster)“Preoperative 3D Plastic Model for Implant Surgery Planning with Stereo Lithography”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Kazuya AKIMOTO, Satoshi SHIGEHARA, Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Effect of Photodynamic therapy (PDT) using Hypericin on HL60 cells: Comparison of different lamps”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Takuya ENDO, Nobue NAKAJIMA, Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Evaluation of Pathology of Diseased Animals Using Stereolithography and Its Clinical Application”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Satoru FURUMORI, Junichi KUZUSAKO and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Development of Heat Shielding Coatings”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Keigo KIMURA, Mutsuo ISHIKAWA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Development of Light and Strong Bone Plate for Animals”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Akihiro KOBAYASHI, Satoru FURUMORI and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Die Polishing Using MAGIC Polishing Tool”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Akihiro KOBAYASHI, Shinsaku HAGIWARA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Surface Modification of Polymer Using Hypericin and Na-Li lamp”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Mahiro KOJIMA, Nobue NAKAJIMA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“A Basic Investigation of Recirculation with Balloon Double-lumen Catheters”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Yoichi MARUSHITA, Hideki ISHIGAKI, Mio KUROSAWA, Yuka MOTOHASHI, Toshio SATO, Norimichi KAWASHIMA , Tetsuzo AGISHI, Syunsuke MASUDA and Yoshikatsu MUNAKATA
(Poster)“Effective Use of Lumber Development of Local Original Product by Fusing “hinoki” Lumber with Cotton”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Shota MOTOYAMA, Masataka NOGUCHI, Mutsuo ISHIKAWA, Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Basic Study on Root Culture Using a Mist Culture System”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Takaaki MURAMATSU, Mitsuo TAKAHASHI, Mutsuo ISHIKAWA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Preoperative 3D Plastic Replica for Complex Facial Fracture Surgery Planning with Stereo Lithography”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Ryo NAKAI, Hiroaki YATA, Eisaku IMAMURA and Norimichi KAWASHIMA

(Poster)“Studies on Automatic Wheelchair Braking System in the Prevention of Falls”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Tsukasa OONISHI, Kiichi TSUJI, Takeshi WATANABE and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Aortic Arch Aneurysm Surgery Simulation with Rapid Prototyping Technology”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Sho SAKUMA, Hiroshi KUBOTA, Takuya YAMADA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“A Basic Investigation of Cavitation Generated Inside Cardiopulmonary Bypass Circuits”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Saeka SUNOHARA, Kazuya HIRATA, Michihisa SIIBA, Mio KUROSAWA, Yuka MOTOHASHI, Toshio SATO, Shinichi TAKEUCHI, Norimichi KAWASHIMA , Tetsuzo AGISHI
(Poster)“Preoperative 3D Plastic Model for Implant Surgery Planning with Stereolithography”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Tomonori TAKAGI, Kazuya AKIMOTO and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Investigation of the Use of PIV to Visualize Flow within Different Types of Venous Air Trap Chamber and Factors Inducing Clotting within Blood Circuits”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Shinobu YAMAUCHI, Keiichi YORIZUMI, Yuka MOTOHASHI, Toshio SATO, Norimichi KAWASHIMA , Tetsuzo AGISHI
(Poster)“Studies on Automatic Wheelchair Braking System ()”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Taisuke YAMAUCHI, Kiichi TSUJI, Takeshi WATANABE and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Effect of Saji Flavonoids on Growth Inhibitory Activity in HL60 Cells”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Shintaro YOKOMIZO, Nobue NAKAJIMA and Norimichi KAWASHIMA
(Poster)“Effect of Anterograde Abdominal Breathing Method on Heart Rate Variability, Arrhythmia and Autonomic Nerve Using Pulse Analysis”	2011年11月5日	6th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2011, Toin University of Yokohama	Hong ZENG and Norimichi KAWASHIMA
“Investigation of recirculation ratio of hemodialysis double-lumen catheters”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideki Ishigaki , Keiichi Yorizumi, Mio Kurosawa , Yuka Motohashi , Toshio Sato, Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi
“Time-frequency analysis of shunt murmur frequency characteristics downstream from stenosis and flow analysis using the finite element method”	2011年11月5日	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuka Isono, Noriaki Nakane, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Shinichi Takeuchi , Norimichi Kawashima , Tetsuzo Agishi, Yoshikatsu Munakata Katsutoshi Omi
「血液透析用バルーン付ダブルルーメンカテーテルに対する有限要素法による流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、 川島徳道 、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「人工心肺回路の不連続断面で発生するキャビテーションに関する流れ解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	丸下洋一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、 川島徳道 、増田俊輔、宗像佳克
「自己血管内シャント狭窄下流におけるシャント音周波数特性の変化に対する流体-構造連成解析」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、中根紀章、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、 川島徳道 、飯田行恭、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「嚙下音の評価による嚙下機能判定のための最適なセンサ装着方法の検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	磯野裕佳、高木雅代、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、 川島徳道 、阿岸鉄三、小見勝利
「ダブルルーメンカテーテルの再循環率の脱送血孔間距離に関する実験的検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	石垣秀記、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、 川島徳道 、阿岸鉄三

「粒子画像流速計(PIV)による血液回路内ドリップチャンパ部の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「人工心肺回路の不連続面で発生するキャビテーション検出に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	春原冴香、黒澤美緒、椎葉倫久、本橋由香、竹内真一、佐藤敏夫、川島徳道
「粒子画像流速計(PIV)を用いたダブルルーメンカテーテル(DLC)先端付近の流れの可視化」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、頼住啓一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、川島徳道、阿岸鉄三
「血液透析中の回路内血液凝固の連続的モニタリングを目的とした光センサの基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、井上雅結、春原冴香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血液回路内凝固の早期検出用超音波センサの作製と性能評価」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、田宮海貴、春原冴香、本橋由香、黒澤美緒、川島徳道、阿岸鉄三
「血管狭窄前後におけるシャント音の変化に対する実験的検証」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、春口洋昭、小見勝利
「人工心肺回路内キャビテーション発生条件に関する基礎検討」	2011年11月9日 (～11日)	平成23年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	黒澤美緒、平田和也、春原冴香、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンパ内の流れの可視化と回路内凝固発生要因の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	山内忍、頼住啓一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテル(DLC)の脱血・送血孔間距離と再循環に関する実験的検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	石垣秀記、丸下洋一、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、阿岸鉄三
「サイドホール型ダブルルーメンカテーテル(DLC)の再循環に関するCFD解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「バルーン付きダブルルーメンカテーテル(DLC)のバルーンによる流れへの影響に関する理論解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	丸下洋一、石垣秀記、黒澤美緒、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克
「PIV及びパスキュラーアクセスエコーによる狭窄病変前後の血流状態の可視化とシャント血管雑音の関係」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、磯野裕佳、星野春奈、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「センサ装着位置の影響を受けない吻合部動脈側血管雑音によるVA機能評価の検討」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、土田智子、春口洋昭、筒石賢央、小見勝利
「人工心肺回路の模擬脱血カニューレ先端部に生じるキャビテーション検出の試み」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	春原冴香、黒澤美緒、平田和也、本橋由香、佐藤敏夫、椎葉倫久、竹内真一、川島徳道、百瀬直樹
「PIVを用いた血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する実験的検証」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	本橋由香、星野春奈、頼住啓一、磯野裕佳、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「血管狭窄に伴うシャント音の変化に関する有限要素法を用いた流れ解析」	2011年11月25日 (～27日)	第49回日本人工臓器学会大会(都市センターホテル)	磯野裕佳、中根紀章、頼住啓一、星野春奈、本橋由香、黒澤美緒、佐藤敏夫、飯田行恭、川島徳道、阿岸鉄三、筒石賢央、小見勝利
「血液透析用バルーン付きダブルルーメンカテーテルの再循環に関するCFD解析」	2011年3月23日 (～25日)	日本医工学治療学会第28回学術大会 北海道大学学術交流会館	丸下洋一、石垣秀記、本橋由香、佐藤敏夫、竹内真一、川島徳道、阿岸鉄三、増田俊輔、宗像佳克

「PIVを用いた各種静脈側エアトラップチャンパの血液流入部および濾過網部の流れ解析」	2011年3月23日 (～25日)	日本医工学治療学会第28回 学術大会 北海道大学学術交流会館	山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 川島徳道, 阿岸鉄三
「経時的かつ定量的なシャント音分析に基づくバスキュラーアクセスの非侵襲狭窄評価の検討」	2011年3月23日 (～25日)	日本医工学治療学会第29回 学術大会 北海道大学学術交流会館	磯野裕佳, 中根紀章, 星野春奈, 本橋由香, 佐藤敏夫, 飯田行恭, 川島徳道, 阿岸鉄三
「逆接続での使用も考慮したダブルルーメンカテーテルの脱血-送血孔間距離に関する検討」	2011年3月23日 (～25日)	日本医工学治療学会第30回 学術大会 北海道大学学術交流会館	石垣秀記, 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 川島徳道, 阿岸鉄三
「冠動脈内圧測定による狭窄病変評価法に関するCFD解析」	2011年3月23日 (～25日)	日本医工学治療学会第31回 学術大会 北海道大学学術交流会館	春原冴香, 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 川島徳道, 大塚雅人, 鶴見由起夫, 木原 昭

講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「从自然界学习光和氧的技术」	2010年8月23日		南京理工大学(中国)
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“IPS-18th Best Poster Presentation Award”	2010年7月30日	18th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy, Korea University, Seoul Korea	Nobuya Sakai, Norimichi Kawashima , Takurou N. Murakami
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
18th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy	2010年7月30日	Korea University, Seoul Korea	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本バイオマテリアル学会、砥粒加工学会、色材学会、材料技術研究協会、次世代センサ協議会、日本機能水学会、日本塗装技術協会、世界医学気功学会、日本老年医学会、日本皮膚科学会、アメリカ化学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2000年4月～現在	材料技術研究協会副会長・理事
2004年4月～現在	日本塗装技術協会理事
2005年4月～現在	日本化学会コロイドおよび界面化学部会
2006年4月～現在	色材協会理事
2009年4月～現在	日本医工学治療学会評議員

早川吉則 (はやかわ よしのり) 教授



出生年：1943(昭和18)年
 在籍：1999(平成11)年4月～2012(平成24)年3月
 最終学歴：東京工業大学理工学研究科大学院博士課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：「放射線励起によるLiFのエキソ電子放出に関する研究」(博士論文)
 専門分野：医学物理学、医用工学、教育学
 前職：帝京大学医学部講師(1976)、筑波大学基礎医学系講師(陽子線医学利用研究センター研究専従)(1981)
 資格：第一種放射線取扱主任者(国家資格)、
 エックス線作業主任者(国家資格)、
 ガンマ線透過写真撮影作業主任者(国家資格)、
 エスペラント検定2級(学会資格)
 第2種ME技術検定試験合格(学会資格)
 ドイツ語検定2級
 受賞・表彰：第2回(平成17年度)日本原子力学会北関東支部の技術功
 労賞授賞表彰; 2006年4月21日 受賞概要:「陽子加速器なら
 びに関連するビームラインの運転保守管理と性能向上」
 筑波大陽子線グループの一員として共同受賞

研究活動

2010年度の研究活動概略					
A 癌の診断治療法の研究 A-1) 水圧圧迫法を用いた乳癌の硬さによる診断法の研究 A-2) RF電場と磁場の併用による癌温熱治療法の改良 B 感染症対策 B-1) 初等教育の効率化による貧困撲滅とエイズ・結核・マラリア等の感染症の蔓延防止の研究 B-2) 鳥インフルエンザの新型化・大流行の防止・低毒化感染性生ワクチンを用いた人工的大流行による先制攻撃法とそのための具体策の提唱-					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「水圧圧迫法による乳がん検診法の基礎研究」	共著	2011年3月31日	医工学治療、23巻、1号	石田清美、早川吉則、辻毅一	14-21頁
「多現象系と論理数学・連鎖反応(第27版) - 宇宙・現象・作用・装置・人間・社会・国家 - 」	単著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	-	101-106頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(Oral)“Improving Uniformity of Heating Pattern for Deep Seated Large Tumor by The Combination of RF-dielectric and RF-inductive Heating”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	-		
(Poster)“Fundamental researches of the breast cancer examination method using the limited element method and consecutive approximation method”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Kiyomi ISHIDA, Yoshinori HAYAKAWA, Kiichi TSUJI		

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本医学放射線学会、日本医学物理学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、日本数学教育学会、日本数学協会、日本エスペラント学会、International Phonetic Association
(社会における活動)
基礎教育の効率を向上させるための世界一合理的な文字と数字:「世界共通文字」と「コンピューター数字(算盤数字)」:を研究開発し開発途上国の識字教育効率化による貧困撲滅とエイズ・結核・マラリア等の感染症の蔓延防止の研究を続けている。「コンピューター数字」は3つの簡単な規則と数字の形を覚えれば短期間で加減乗除が出来るようになるもの(足し算九九や掛け算九九を覚える必要はない)で、算数嫌いによる理工学離れを防ぐことにもなり、英才教育にも役立つと思われ、個人的ながら普及活動を行っている。また「世界共通文字」はハングルとかなの濁点をヒントとして開発したもので、文字の形と発音方法が簡単な規則により対応する。外国語学習のための覚えやすい発音記号として、また音声発声のリハビリテーション用としても役立つ。

村上 拓郎 (むらかみ たくろう) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2007(平成19)年4月～2011(平成23)年3月
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 材料工学専攻 博士課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：Ph.D. in Material Science and Engineering
 Application of Active Oxygen Species to Surface Modification of Polymer and Low-temperature Fabrication of Dye-sensitized Solar Cells
 専門分野：光化学、電気化学、光電気化学、材料工学、医用材料、多孔質半導体を用いた新規分子認識素子および光電変換素子等の開発
 前職：Ecole Polytechnique Federale de Lausanne (EPFL, スイス連邦工科大学ローザンヌ) 博士研究員
 留学：北カリフォルニア大学(夏季研修奨学生)2001年
 サンフランシスコ大学(夏季研修奨学生)2002年
 スイス連邦工科大学 2005年 - 2007年
 受賞・表彰：1993 神奈川青少年科学作文コンクール、神奈川県知事賞、2001-2003 材料技術研究協会 技術賞(2001, 2002) ポスター奨励賞(2003)、2005 Scientific American 50 Award、2006 2nd Honda-Fujishima Prize、2006 EPFL Award for excellence

研究活動

学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
"Zinc Oxide and Titanium Dioxide Hybridized Photoelectrode for Dye-sensitized Solar Cells"	2010年6月29日	Renewable Energy 2010, Pacifico Yokohama, Yokohama	Nobuya Sakai, Norimichi Kawashima, Takuro N. Murakami
「カーボン対極を用いた省資源型有機色素増感太陽電池の高効率化と耐久性評価」	2010年8月30日	日本化学会第4回関東支部大会(筑波大学筑波キャンパス)	志田堯也、村上拓郎、瓦家正英、奥野光、原浩二郎
「ZnO/TiO ₂ 複合電極による色素増感型太陽電池の逆電子移動抑制効果と色素吸着量の検討」	2010年8月30日	日本化学会第4回関東支部大会(筑波大学筑波キャンパス)	酒井誠弥、甲村長利、川島徳道、 村上拓郎
「酸化亜鉛/酸化チタン複合電極を用いた色素増感型太陽電池における逆電子移動抑制効果の検討(2)」	2010年9月3日	(社)電気化学会、2010年電気化学秋季大会、シンポジウム:光電気化学とエネルギー変換(神奈川工科大学/厚木市)	酒井誠弥、甲村長利、川島徳道、 村上拓郎
「色素増感太陽電池における酸化亜鉛/酸化チタン複合電極の半導体粒子径の検討」	2010年9月3日	(社)電気化学会、2010年電気化学秋季大会、シンポジウム:光電気化学とエネルギー変換(神奈川工科大学/厚木市)	臼井諒、酒井誠弥、 村上拓郎
(Oral)"Control of electron recombination in Zinc oxide and Titanium dioxide Hybridized Photoelectrodes for Dye-sensitized Solar Cells"	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Nobuya SAKAI, Norimichi KAWASHIMA, Takuro N. MURAKAMI
(Oral)"Two-Dimensional Raman Correlation Analysis of Diseased Esophagus in a Rat"	2010年11月6日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Sota TAKANEZAWA, Shin-ichi MORITA, Atsushi MARUYAMA, Takuro N. MURAKAMI , Norimichi KAWASHIMA, Tooru ASAKURA, Tooru SHIMOSEGAWA, Hidetoshi SATO, Yasushi SAKO

(Poster)“Measurement for Sonochemical Reaction Near Focal Point in 1.6 MHz Focused Ultrasound Field -Relationships between ultrasound duty cycles and production of active oxygen-”	2010年11月6日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2010, Toin University of Yokohama	Akiko WATANABE, Takuro N. MURAKAMI , Norimichi KAWASHIMA, Shinichi TAKEUCHI, Takeyoshi UCHIDA, Masahiro YOSHIOKA and Tsuneo KIKUCHI
講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「え！こんな太陽電池もあったの？色素で電力を生み出す色々な話し」	2010年9月11日	自然エネルギーの世界」展 ギャラリートーク vol.6	東京大学駒場博物館
その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“IPS-18th Best Poster Presentation Award”	2010年7月30日	International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy, Korea University, Seoul Korea	Nobuya Sakai, Norimichi Kawashima, Takuro N. Murakami
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy,	2010年7月	Korea University, Seoul Korea	

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
Electrochemical Society, Material Reserch Society, 日本電気化学会、日本化学会、色材協会

(工学部・電子情報工学科)

吉村和昭 (よしむら かずあき) 准教授



出生年：1947(昭和22)年
 在籍：1988(昭和63)年4月～2011(平成23)年3月
 最終学歴：上越教育大学大学院学校教育研究科修士課程教科・領域教育専攻修了
 東京商船大学大学院商船学研究科博士後期課程海洋情報システム工学専攻修了
 学位：教育学修士、博士(工学)
 学位論文：工業高等専門学校へのリモートセンシング入門実験の導入に関する研究(修士論文)
 長波電波時計の特性解析に関する研究(博士論文)
 専門分野：無線通信工学、海上無線工学、電子航法工学、衛星測位工学、電波通信法規
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校電気工学科助教授
 資格：第1級陸上無線技術士、第1級総合無線通信士、第1級海上無線通信士、航空無線通信士、第1級陸上特殊無線技術士、第1級海上特殊無線技術士、第1級アマチュア無線技術士、船舶局無線従事者証明書

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「電波と周波数の基本と仕組み(第2版)」	共著	2010年4月22日	(株)秀和システム	吉村和昭、倉持内武、安居院猛	286頁
「エッセンシャル電気回路(第3刷)」	共著	2010年9月17日	森北出版(株)	安居院猛、吉村和昭、倉持内武	169頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「MSASを用いたGPS測位実験」	2010年8月29日	日本産業技術教育学会第53回全国大会(岐阜大学)	-		
講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「無線従事者国家試験対策講座」	2010年5月21日、24日、28日、31日(いずれも午後4時間の計16時間)	短期集中講座 第一級陸上特殊無線技術士コース	テレビ朝日アスク教室		
「GPS、長波標準電波と電波時計」	2010年7月12日	確かな学力向上のための基礎力育成プラン(進学講演会)	福島県立いわき海星高等学校		
「G空間EXPO(測位航法学会市民科学講座)電波とは?その伝わる仕組みと応用技術」	2010年9月20日	G空間EXPO 測位航法学会市民科学講座	パシフィコ横浜アネックスホール F203		
「無線従事者国家試験直前対策講座」	2010年9月25日、26日、10月2日、3日(いずれも午後4時間の計16時間)	短期集中講座 第一級陸上特殊無線技術士コース	テレビ朝日アスク教室		
「無線従事者国家試験直前対策講座」	2011年1月22日、23日、29日、30日(いずれも午後4時間の計16時間)	短期集中講座 第一級陸上特殊無線技術士コース	テレビ朝日アスク教室		

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
電気学会、測位航法学会、日本航海学会、応用物理学会、日本産業技術教育学会、日本大気電気学会、映像情報メディア学会、日本教育工学協会		
(社会における活動)		
		モールス電信技能認定試験員
		桐蔭工学会幹事
		横浜市アマチュア無線非常通信協力会青葉支部会員
		総務省認定無線従事者養成課程講師(無線工学、電波法規)

(工学部・ロボット工学科)

中丸久一 (なかまる ひさかず) 専任講師



出生年 : 1947(昭和22)年
在籍 : 1990(平成2)年4月 ~ 2011(平成23)年3月
最終学歴 : 東京理科大学理学部応用物理学科
専門分野 : 物性物理、物理教育
前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義内容のホームページ上に掲載	2006年4月 ~ 2011年3月	授業中の板書・小テストをホームページ上に掲載。学生がキーワードを使って閲覧。
2.作成した教科書、教材、参考書		
物理 教科書(共著) 物理)理 教科書(共著)	2005年4月 ~ 2011年3月	物理 では圧力・エネルギー・仕事の分野。物理 は電力を中心とした分野。
ワークショップ 教科書(共著)ワークショップ 教科書(共著)	2005年4月 ~ 2011年3月	ワークショップ は物理基本測定・重力の実験。ワークショップ は温度測定・応用電気測定。

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
応用物理学会、日本物理教育学会、日本語教育学会、日本教育メディア学会

(スポーツ健康政策学部・スポーツ教育学科)

杉山重利 (すぎやま しげとし) 教授



出生年 : 1939(昭和14)年
在籍 : 2006(平成18)年9月 ~ 2012(平成24)年3月
最終学歴 : 東京教育大学体育学部体育学科
学位 : 体育学士
専門分野 : 武道教育論、スポーツ教育学
前職 : 桐蔭横浜大学文化政策研究所
学内役職等 : 学長補佐(2010・2011)

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本スポーツ教育学会、日本体育科教育学会、日本武道学会、日本体育行政学会

(スポーツ健康政策学部・スポーツテクノロジー学科)

杉本 英夫 (すぎもと ひでお) 教授



出生年 : 1941(昭和16)年
在籍 : 2009(平成21)年4月～2012(平成24)年3月
最終学歴 : 順天堂大学体育学部体育学科卒業
学位 : 医学博士(新潟大学)
学位論文 : 「走運動による尿蛋白の電気泳動パターンの変化」
専門分野 : 健康・スポーツ科学、ウエルネス・ヘルスプロモーション論、人間医工学
前職 : 名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授
学内役職等 : スポーツテクノロジー学科長(2010・2011)
留学 : 1996年10月～1997年3月文部省在外研究員として University of Wisconsin-Stevens Point(UWSP)に留学研修
テーマ「ウエルネスおよびアスリートに対するスポーツ医学の支援システムに関する調査・研究」(特にヘルスプロモーション/ウエルネス論について研修した)
資格 : 新潟大学名誉教授(平成19年4月授与)
名桜大学名誉教授(平成21年4月授与)
非常勤講師 : 新潟大学大学院現代社会文化研究科(前期)現代文化論専攻生活健康行動科学講義および演習を担当(担当科目ヘルスプロモーション特論、同演習)

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本運動生理学会、日本バイオメカニクス学会、日本ウエルネス学会、全米ウエルネス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	新潟スポーツ医学研究会理事
	財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者(B級、C級コーチ)養成講習会講師
	日本サウンド・バイブレーション協会アドバイザー・ブレン(資格認定委員)
	日本ウエルネス学会副理事長

(スポーツ健康政策学部・スポーツ健康政策学科)

田村和寿 (たむら かずひさ) 教授



出生年 : 1941(昭和16)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～2012(平成24)年3月
 最終学歴 : 早稲田大学第一政治経済学部経済学科
 学位 : 経済学
 学位論文 : 「消費高次化社会における消費函数の研究」
 専門分野 : 都市・地域研究、まちづくり論、都市経営論、文化政策論、
 公共計画論、理論経済学
 前職 : (株)都市計画連合アトリ工代表取締役
 亜細亜大学 学長補佐・地域産学公連携推進室コーディネーター
 学内役職等 : 生涯学習センター長(2010・2011)
 非常勤講師 : 早稲田大学 芸術学校 都市デザインコース講師
 受賞・表彰 : 武蔵野市行政功労者

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義における専門テーマに交えての社会的知識・教養の重視(2、3年次での講義)		講義の主題はいずれも‘文化’、‘まちづくり’としており、出来るだけ広くこれらに関連するトピックス、事例、周辺領域に言及し、豊富な語彙、概念を説明、理解を得るよう努力。
講義各回のレジュメの充実(2、3年次での講義)		敢えて視聴覚メディアに頼らず、レジュメと講話本位主義に徹し、その充実を図っている。
ゼミナールでの講義、体験、学生自立性向上の三位一体方針の推進(3、4年次でのゼミナール)		ゼミ2年間を本来の大学教育、社会人への準備教育の双方の視点から有効化するため、学生個々人に卒研も兼ねた‘マイ・プロジェクト’を持たせ、その自主的展開をサポート。
大学地域連携、サービス・ラーニングによる実社会経験の展開促進		
2.作成した教科書、教材、参考書		
授業レジュメの作成		全科目、各回講義に教材としてオリジナリティを重視する新規レジュメを作成し、参考文献・資料等もその中に最大限インヴォルブするようにしている。
入門書～専門書リスト提供		ゼミでは対象領域の広さから、入門書～専門書リスト提供を行っている。

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「大学生のボランティア意識とサービスラーニングの効果 - 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の取り組みから - 」	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	松谷 満、青山鉄兵、 田村和寿、木村清一	103-114頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
早稲田大学都市計画フォーラム / 市民と議会の条例づくり交流会議、(社)知識資源機構	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年4月～現在	(財)武蔵野市開発公社 理事(非常勤)
1990年4月～現在	武蔵野市交通協議会会長
1996年～現在	早稲田大学都市計画フォーラム 大会実行委員長・運営委員
2007年～現在	市民と議会の条例づくり交流会議 会員
2008年8月～現在	武蔵野市新クリーンセンター基本計画策定委員会 委員長
2009年9月～現在	静岡県袋井市スポーツ文化振興イベント 企画委員
2010年4月～現在	公共図書館の今後のあり方に関する調査研究 アドバイザー・監修者 (財)東京市町村自治調査会
2010年5月～現在	(社)知識資源機構 理事

中 林 伸 浩 (なかばやし のぶひろ) 教授



出 生 年 : 1941(昭和16)年
在 籍 : 2007(平成19)年4月～2012(平成24)年3月
最 終 学 歴 : 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻博士課程
単位修得退学
学 位 : 博士(人間科学)(大阪大学)
学 位 論 文 : 「国家を生きる社会・・・西ケニア・イスハの氏族」
専 門 分 野 : 文化人類学
前 職 : 金沢大学文学部人間学科教授
留 学 : 英国ケンブリッジ大学(1969.9～1971.3)

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「呪物のアフォーダンス」	単著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	-	145-150頁
「ケニアの闘牛のスポーツ性」	単著	2011年6月15日	桐蔭論叢 第24号	-	5-10頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本アフリカ学会、比較家族史学会

Utiraruto Otehode (ウチラルト) 専任講師



出生年 : 1974(昭和49)年
 在籍 : 2009(平成21)年4月～2012(平成24)年3月
 最終学歴 : 一橋大学大学院社会学研究科地球社会研究専攻博士課程
 学位 : 博士(社会学)、修士(社会学)
 学位論文 : 「中国における気功の社会史 近代、科学、宗教」(修士論文)
 「中国の近代化政策と気功の変遷」(博士論文)
 専門分野 : 社会学、文化人類学
 留学 : 東京外国語大学
 The Institute Hampstead Garden Suburb, London
 北京第二外国語学院

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生の授業外における学習促進のための取り組み マルチメディア機器を活用した授業方法	2007年～現在	ティーチングアシスタント(2007年5月～2009年3月、一橋大学大学院社会学研究科)および専任講師として(2009年4月～、桐蔭横浜大学)現在に至るまで、学生の課外教育として日本国内における有機農業の体験学習、海外(中国、韓国)における異文化体験学習を企画、引率していることと、授業時はドキュメンタリー映像資料をはじめとするマルチメディアを活用している。

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本文化人類学会、日本現代中国学会、「宗教と社会」学会、中国社会文化学会

松谷 満 (まつたに みつる) 専任講師



出生年 : 1974(昭和49)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～2011(平成23)年3月
 最終学歴 : 大阪大学大学院人間科学研究科(人間科学専攻) 博士後期課程 単位取得後退学
 学位 : 博士(人間科学)
 学位論文 : 脱政党政治と価値意識 政治文化論の再構築に向けて
 専門分野 : 社会学、政治学、社会調査法
 前職 : 徳島大学全学共通教育センター講師
 資格 : 専門社会調査士
 受賞・表彰 : Japan General Social Surveys 優秀論文 受賞(2003.5)

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「大学生のボランティア意識とサービスマーケティングの効果 - 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の取り組みから - 」	共著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	松谷 満、青山鉄兵、田村和寿、木村清一	103-114頁
「ポスト55年体制期における「無党派」知事台頭の背景 - 高知・長野・滋賀県知事選における有権者の投票行動分析 - 」	単著	2010年6月15日	桐蔭論叢 第22号	-	175-186頁

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本社会学会、関西社会学会、「宗教と社会」学会、関東社会学会、日本政治学会

青山鉄兵 (あおやま てっぺい) 助教



出生年：1980(昭和55)年
 在籍：2008(平成20)年4月～2012(平成24)年3月
 最終学歴：東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻生涯学習基盤経営コース博士課程 単位取得満期退学
 学位：修士(教育学)
 学位論文：「戦後社会教育論における集団の位置-集団における人間形成分析のための基礎的研究-」(修士論文・東京大学 2005)
 専門分野：社会教育学、青少年教育論、生涯学習論

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「大学生のボランティア意識とサービスマナーの効果-桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の取り組みから-」	共著	2010年6月	『桐蔭論叢』第22号	松谷満、青山鉄兵、田村和寿、木村清一	103-114頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本生涯教育学会、教育史学会、日本教育社会学会、日本デューイ学会、日本ボランティア学習協会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	生涯学習・社会教育研究促進機構事務局長補佐兼「生涯学習・社会教育研究ジャーナル」編集委員会幹事
2006年4月～現在	(財)東京YMCA野尻学荘スタッフ
2006年6月～現在	独立行政法人国立青少年教育振興機構客員研究員
2008年11月～現在	日本ボランティア学習協会幹事
2009年12月～現在	日本生涯教育学会幹事

(法務研究科)

大喜多 啓 光 (おおぎた ひろみつ) 客員教授



出生年 : 1942(昭和17)年
在籍 : 2010(平成22)年4月 ~
最終学歴 : 大阪市立大学法学部
専門分野 : 民事訴訟法、民法、行政法
前職 : 内閣府情報公開・個人情報保護審査会会長
留学 : 1978年9月 ~ 1979年2月行政官短期在外研究員(西ドイツ)

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
民事訴訟法学会	
2008年10月 ~ 現在	内閣府情報公開・個人情報保護審査会会長

梶 村 太 市 (かじむら たいち) 客員教授



出 生 年 : 1941(昭和16)年
 在 籍 : 2010(平成22)年4月～2012(平成24)年3月
 最 終 学 歴 : 愛知大学第二法経学部
 前 職 : 早稲田大学法科大学院
 資 格 : 弁護士

研究活動

2010年度の研究活動概略					
家事事件の全体構造の体系化に取り組み、拙著『家事事件法』(日本加除出版)を出版した。					
2011年度の研究活動概略					
民法(家族法)改正論議について、全般的な批判を加戸籍時報675号「家族法の改正をめぐる諸問題」に発表した。					
著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「実務講座家事事件法」	単著	2010年8月	日本加除出版	-	

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民訴学会、私法学会、アクセス法学会、ジェンダー法学会、日本家族 社会と法 学会、日本公証法学会、日韓家族法学会、臨床法学研究法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年7月～現在	仲裁ADR法学会監事

大藤 敏 (おおとう さとし) 教授



出生年 : 1940(昭和15)年
在籍 : 2005(平成17)年4月 ~ 2011(平成23)年3月
最終学歴 : 中央大学法学部法律学科
専門分野 : 民事法、行政法
前職 : 千葉地方裁判所所長、東京高等裁判所民事部総括判事
資格 : 弁護士
受賞・表彰 : 瑞宝重光賞

学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等
	医道審議会委員(医道分科会委員及び保健師助産師分科会委員(厚生労働省))
	財団法人交通事故紛争処理センター本部審査員
	新司法試験考査委員(行政法)

小川 浩三 (おがわ こうぞう) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2002(平成14)年4月～2012(平成24)年3月
 最終学歴：東京大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
 学位：法学修士(東京大学)
 学位論文：普通法におけるcausa論の一考察(修士論文)
 専門分野：法史学、比較法
 前職：北海道大学大学院法学研究科教授
 留学：ドイツ連邦共和国チュービンゲン大学法学部国際的私法史研究所(1993.3～1994.8)
 非常勤講師：名古屋大学法学部(ドイツ法)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
「ドイツ法(特にドイツ債務法)」、「法史学」	2010年度前・後期 2011年度前・後期	
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
第74回比較法学会総会シンポジウム「学術環境における法曹養成の検討 国際動向と日本の法科大学院」においてドイツの法曹養成について報告	2011年6月1日	ドイツの法曹養成について、特に国家試験のあり方および試験問題について歴史的に検討した

研究活動

2010年度の研究活動概略					
科学研究費基盤研究(B)「グローバル社会における法源論の再検討 法学概論の書き換え」研究代表者として、法源論の歴史的・比較法的研究に従事					
科学研究費基盤研究(B)「法史・国制史における「伝統」と「構築」 転換期を中心とした多層的アプローチ」研究分担者として中世教会法史研究に従事					
著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「法創造の比較法学:先端的課題への挑戦」	共著	2010年7月	日本評論社	戒能通厚・石田真・上村達男(編)、小川浩三	
「ドイツ株式会社(桐蔭横浜大学ドイツ法講義シリーズ2)」	共著	2011年1月	信山社	ヴェルンハルト・メーシェ、小川浩三	
結果志向の法思考:法律家的論証と利益考量	共著	2011年9月	東京大学出版会	グンター・トイブナー、村上淳一、小川浩三	
(学術論文)					
「幾度もサヴィニーの名を 法学と法典」	単著	2010年9月	法律時報	-	23-28頁
法学の学問性 比較法史学の観点から	単著	2011年4月	法律時報	-	106-111頁
学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「法学の学問性 比較法史学の観点から」	2010年7月	基礎法学総総合シンポジウム「実体法学の基礎法学」(日本学術会議講堂)	水林彪、会沢恒、尾崎一郎、吉田克己、西谷敏、亀本洋、小川浩三		

「学術環境における法曹養成の検討 国際動向と日本の法科大学院」におけるドイツについて報告	2011年6月	第74回比較法学会総会 (法政大学)	宮川成雄、北村一郎、鯨越溢弘、胡光輝、関永盛、小川浩三
--	---------	-----------------------	-----------------------------

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
比較法学会、日独法学会、法制史学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1998年6月～現在	比較法学会理事(雑誌担当・運営委員)
2005年6月～現在	最高裁判所図書館委員会委員
2009年10月～現在	日独法学会理事長

鈴木 満 (すずき みつる) 教授



出生年 : 1942(昭和17)年
 在籍 : 1996(平成8)年4月～2011(平成23)年3月
 最終学歴 : 岐阜大学農学部
 専門分野 : 経済法
 前職 : 公正取引委員会首席審判官
 資格 : 弁護士(横浜弁護士会)

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
一問一答下請法・下請取引 9「製造装置設置工事の下請取引に対する下請法・建設業法の適用」	単著	2010年4月	NBL926号	-	79-83頁
「違反行為からの離脱(岡崎管工事件)」	単著	2010年4月	別冊ジュリスト199号	分担執筆(舟田正之ほか編「経済法判例・審決百選」)	62-63頁

学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本経済法学会、日本流通学会、法と経済学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2005年6月～	立川市入札等監視委員会委員長
2007年2月～	農水省・植物防疫所入札監視委員会委員長
2007年2月～	農水省・動物防疫所入札監視委員会委員長
2008年7月～	防衛省関東防衛局入札監視委員会委員長
2010年3月～	独立行政法人水産総合研究所入札監視委員会委員長

古野豊秋 (ふるの とよあき) 教授



出生年：1943(昭和18)年
 在籍：1993(平成5)年4月～2012(平成24)年3月
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科修士課程
 学位：法学博士
 学位論文：違憲の憲法解釈
 専門分野：憲法学
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)

教育活動

教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
事前学習(予習)	2007年4月3日～	テキストでの体系的把握のためのレジュメ作成
授業	2007年4月3日～	ソクラテスマソッドの導入・多方向授業の導入
事後学習	2007年4月3日～	IT機器による質疑・応答
2.作成した教科書、教材、参考書		
「新・スタンダード憲法」(補訂版)	2006年4月10日	尚学社(未習者用教科書)
「実務行政訴訟法講義」	2007年2月17日	民事法研究会(既習者用教科書)
「新・スタンダード憲法」(第3版)	2011年4月1日	尚学社(未習者用教科書)
5.その他教育活動上特記すべき事項		
オフィスパワーの設置	2007年4月3日～	授業以外での勉学サポート
アドバイザー制度の導入	2007年4月3日～	勉学以外での生活指導

研究活動

著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「憲法における家族」	単著	2010年6月	尚学社	-	232頁
「新・スタンダード憲法(第三版)」	共著	2011年4月	尚学社	古野豊秋 他16名	3-16頁

学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、日独法学会、ドイツ国家学研究会(DAS研)、憲法裁判研究会、ドイツ憲法判例研究会、東京法哲学研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1992年4月～現在	ドイツ憲法判例研究会事務局長

嶋村 哲 (しまむら さとし) 助手



出生年 : 1975(昭和50)年
在籍 : 2010(平成22)年1月 ~ 2011(平成23)年4月
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院 法務研究科
学位 : 法務博士(専門職)
前職 : 司法修習生
資格 : 弁護士

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(公開研究会)

桐蔭横浜大学メディエーション交渉研究所 公開研究会

【2010年度 第1回公開研究会】

日時:2010年9月4日(土)13:30～17:00

場所:桐蔭横浜大学法学部棟J205講義室

プログラム概要

個別報告

第1報告 芝 知美(静岡県司法書士会・司法書士)

テーマ「静岡県司法書士会調停センター“ふらっと”活動報告～メディエーション実務と可能性～」

第2報告 黒坂 洋子(東京家庭裁判所家事調停委員・参与員、桐蔭横浜大学法学部研究生)

テーマ「よりよき調停をめざして」

パネルディスカッション

【2010年度 第2回公開研究会】

日時:2011年3月5日(土)13:20～17:00

場所:桐蔭横浜大学法学部棟J203講義室

プログラム概要

個別報告

第1報告 猪原 健弘(東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻教授)

テーマ「仲裁・調停・合意形成の数理」

第2報告 渡邊 正昭(渡邊アーク総合法律事務所代表、弁護士・弁理士)

テーマ「司法型ADR 内部における手続主体間の相互作用について(司法和解と家事調停を題材として)」

司会・大澤 恒夫 桐蔭横浜大学メディエーション交渉研究所所長(桐蔭横浜大学教授、弁護士)

パネルディスカッション

【2011年度 国際研究会】

日時:2011年10月3日(月)13:00～17:30

場所:桐蔭横浜大学中央棟C306講義室

プログラム概要

個別報告

第1部

1. 賈 宇(西北政法大学学長)
テーマ「中国の大学教育の展開」
2. 謝 徳成(西北政法大学経済法学院教授)
テーマ「中国における経済法の諸問題」
3. 宋 海斌(西北政法大学経済法学院教授)
テーマ「中国における法学教育の現状と課題」
4. 姜 哲(西北政法大学人事部長)
テーマ「大学教育と大学運営 - 西北政法大学の場合 - 」
5. 張 軍政(西北政法大学外国語学院党委書記)
テーマ「大学戦略 - 西北政法大学の場合 - 」

第2部

質疑応答

【2011年度 公開研究会】

日時:2011年11月5日(土)13:20～17:00

場所:桐蔭横浜大学法学部棟J203講義室

プログラム概要

個別報告

第1報告 根岸 和政(産業カウンセラー・大阪大学光科学センター社会学連携部門 特任研究員)

テーマ「危機を乗り越えるリーダーシップと交渉・メディアエイション」

第2報告 石渡 博光(横浜地裁・簡裁 民事調停委員)

テーマ「交通事故調停と民事調停委員の役割(心構え)」

司会・大澤恒夫 桐蔭横浜大学メディアエイション交渉研究所所長(桐蔭横浜大学教授、弁護士)

パネルディスカッション

(公開授業および研究協議)

神奈川県立湘南台高等学校 シチズンシップ教育

日時:2010年11月17日(水)13:20~16:30

場所:桐蔭横浜大学メモリアルアカデミウム

[公開授業]

教科:政治・経済

内容:模擬裁判(模擬裁判と評議を通して裁判員制度を学ぶとともに、主体的に司法に参加する意欲と態度を養う)

指導・助言:桐蔭横浜大学法学部 准教授 原口信夫

[研究協議]

内容:各校のシチズンシップに関する情報交換等

講評:桐蔭横浜大学 教授 山城崇夫

桐蔭横浜大学 教授 升 信夫

(学術研究会)

PLセンターとADR

日時:2011年11月26日(土)13:30~16:30

場所:桐蔭横浜大学法学部棟5階会議室

プログラム概要

第1部

1. 新美 育文(明治大学)

テーマ:「PLセンターと被害者救済」

2. 沖美 智子(消費生活用製品PLセンター事務局)

テーマ:「消費生活用製品PLセンターにおける相談、あっせん・調停」

3. 出口 尚明(中央大学・弁護士〔元裁判官〕)

テーマ:「消費生活用製品PLセンターの実状をとおしてみるPLセンターの課題」

4. 小林 学(桐蔭横浜大学)

テーマ:「日本における民間調停総覧」

第2部

質疑応答

(公開講座)

よこはま大学開港塾2010～横浜から拓く知の未来～

「APECとインド、そして日本の役割」

日時:2010年10月23日(土)13:30～16:00

場所:横浜中央図書館地下ホール

共催:大学都市パートナーシップ協議会

プログラム概要

第一部 基調講演 テーマ「インドと東アジア」

榎 泰邦 氏(前在インド大使、創価大学客員教授)

第二部 パネルディスカッション テーマ「APECとインド、そして日本の役割」

パネリスト

サンジーヴ・スィンハ 氏(株)サン・アンド・サンズアドバイザーズ代表取締役社長)

福永 正明 氏(岐阜女子大学南アジア研究センター客員教授)

スピンドリニー・カクチ 氏(インド人女性ジャーナリスト)

木内みどり 氏(女優・アジアの人権や福祉活動に貢献)

コーディネーター ペマ・ギャルポ 氏(桐蔭横浜大学法学部教授)

青葉6大学連携講座

「安心・安全な社会を築くためには」

日時:2010年11月13日(土)13:30～15:00

場所:桐蔭横浜大学メモリアルアカデミウム

講師:桐蔭横浜大学 法学部教授 河合 幹雄

概要:最近の犯罪社会現象について分析し、真の「安全・安心」について言及する。

(公開講座)

桐蔭横浜大学 医用工学部 ジュニア公開講座 - TOIN OPEN COLLEGE 2010 -

日時:2010年6月19日～12月4日(全10回) 各回14:00～15:00

場所:桐蔭横浜大学先端医用工学センター棟2階 カンファレンスルーム

概要:本学の専門教員が中心に、現代医療に用いられているさまざまな理工学技術について、高等学校などで学ぶ物理学、化学、生物学などと結びつけながら、わかりやすく紹介する。

(第1回・6月19日)講師:医用工学部 専任講師 大辻 希樹

テーマ:「免疫の不思議」

(第2回・7月10日)講師:医用工学部 准教授 落合 晃

テーマ:「医薬品開発と先端医薬品 - 薬のすべて - 」

(第3回・7月31日)講師:医用工学部 准教授 小寺 洋

テーマ:「血液の不思議」

(第4回・8月28日)講師:医用工学部 教授 小山 行一

テーマ:「色と色覚」

(第5回・9月4日)講師:医用工学部 教授 竹内 真一

テーマ:「医療診断技術 - 医用画像診断の進歩 - 」

(第6回・9月25日)講師:医用工学部 客員教授 辻 毅一

テーマ:「骨と歩行の力学」

(第7回・10月9日)講師:医用工学部 教授 西村 裕之

テーマ:「ゲノムサイエンスの新しい時代」

(第8回・10月30日)講師:医用工学部 教授 萩原 啓実

テーマ:「あなたの骨は大丈夫？」

(第9回・11月27日)講師:医用工学部 教授 早川 吉則

テーマ:「癌放射線治療の最前線」

(第10回・12月4日)講師:医用工学部 客員教授 平井 紀光

テーマ:「“安全とは”について考える」

桐蔭横浜大学 医用工学部 ジュニア公開講座 - TOIN OPEN COLLEGE 2011 -

日時:2011年9月24日～12月3日(全5回) 各回14:00～16:00

場所:桐蔭横浜大学先端医用工学センター棟2階 カンファレンスルーム

概要:本学の専門教員が中心に、現代医療に用いられているさまざまな理工学技術について、高等学校などで学ぶ物理学、化学、生物学などと結びつけながら、わかりやすく紹介する。

(第1回・9月24日)講師:医用工学部 助教 黒澤 美緒

テーマ:「臨床工学における最先端シミュレーション」

(第2回・10月8日)講師:医用工学部 准教授 落合 晃

テーマ:「医薬品開発と先端医薬品 - 薬のすべて - 」

(第3回・10月29日)講師:医用工学部 准教授 萩原 啓実

テーマ:「骨の病気とその原因」

(第4回・11月26日)講師:医用工学部 教授 竹内 真一

テーマ:「医療診断技術 - 医用画像診断の進歩 - 」

(第5回・12月3日)講師:医用工学部 専任講師 大辻 希樹

テーマ:「免疫の不思議」

(公開講座)

医療系キャリア講座(第1回)

現代医療を支える人たち

日時:2011年6月19日14:00~16:00

場所:桐蔭横浜大学中央棟C303

プログラム概要

第1部

1. 米坂 知昭(桐蔭横浜大学 医用工学部 生命医工学科)
テーマ:「現代医療とチーム医療」
2. 守山 尊子(横浜総合病院 看護師)
テーマ:「看護師の仕事」
3. 平井 紀光(桐蔭横浜大学 医用工学部 臨床工学科)
テーマ:「臨床工学技士の仕事」
4. 米坂 知昭(桐蔭横浜大学 医用工学部 生命医工学科)
テーマ:「臨床検査技師の仕事」

第2部

系統別相談会

看護師、臨床工学技士、臨床検査技師だけでなく、医師、薬剤師にも相談することができる。

医師:大塚 雅人(横浜総合病院 循環器科)

薬剤師:落合 晃(桐蔭横浜大学 医用工学部 生命医工学科)

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2010(第5回)

The 5th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010

日時:2010年11月6日(土)9:30~18:00

場所:桐蔭メモリアルアカデミー

Program Over View

1) Plenary session - invited speakers -

Session1: "Soft Tissue Regeneration : Progress Towards Functional Vascular Grafts"

Dr. Peter S. McFetridge

Assistant Professor, Department of Biomedical Engineering, University of Florida

Session2: "Polymers for Biomedical Applications"

Dr. Maria Nowakowska

Professor, Physical Chemistry, Nanotechnology of Polymers and biomaterials Research Group,
Jagiellonian University

Session3: "Mechanism and Application Researches of Polyquaternaryammonium Salt PDMDAAC as
Bacteri-and Algicides"

Dr. Yuejun Zhang

Professor, School of Chemical Engineering, Nanjing University of Science and Technology

Session4: "Beneficial Effects of Olive Leaf Compounds on the Vasculature and Ovary"

Dr. Hitoshi Miyazaki

Professor, Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba

2) Oral presentation

Presentation 1 : Dr. Yoshinori HAYAKAWA, Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of
Yokohama

Presentation 2 : Dr. Yasuhiro F. MIURA, Graduate School of Engineering, TOIN University of
Yokohama

Presentation 3 : Dr. Kaoru YOSHIDA, Biomedical Engineering Center, TOIN University of Yokohama

Presentation 4 : Dr. Masashi IKEGAMI, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 5 : Dr. Shinichi MORITA, Cellular Informatics Laboratory, RIKEN

Presentation 6 : Mr. Yusuke AITA, Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute
of Technology

Presentation 7 : Ms. Kanako NIIZUMA, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 8 : Mr. Nobuya SAKAI, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 9 : Mr. Tomohiro SOEDA, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 10 : Mr. Sota TAKANEZAWA, Graduate School of Engineering, TOIN University of
Yokohama

3) Authors Present at Poster

BIOMEDICAL ENGINEERING - 28 posters

GENETIC ENGINEERING - 11 posters

LIFE and ENVIRONMENTAL SCIENCE - 11 posters

INFORMATICS and MECHANICAL ENGINEERING - 12 posters

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2011(第6回)

The 6th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2011

日時:2011年11月5日(土)9:30~18:00

場所:桐蔭メモリアルアカデミー

Program Over View

1) Plenary session - invited speakers -

Session1: "Scaffold Design and Culture Techniques for Tissue Regenerative Therapies"

Dr. Peter S. McFetridge

Assistant Professor, Department of Biomedical Engineering, University of Florida

Session2: "Biomedical Engineering at University of Ghana: Opportunities for Collaboration"

Dr. Elsie Effah Kaufmann

Head/Senior Lecturer, Department of Biomedical Engineering, Faculty of Engineering Sciences University of Ghana

Session3: "High Frequency Ultrasound"

Dr. K. Kirk Shung

Professor, Department of Biomedical Engineering, University of Southern California Director, NIH Resource on Medical Ultrasonic Transducer Technology

Session4: "Solar Thermal Fuel Production by Light and Dark Reactions"

Dr. Yutaka Tamaura

Professor, Research Center for Carbon Recycling and Energy Tokyo Institute of Technology

2) Oral presentation

Presentation 1 : Dr. Michiyo OKUI, Biomedical Engineering Center, TOIN University of Yokohama

Presentation 2 : Dr. Takashi SHIRAKAWA, Lecturer, Faculty of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 3 : Dr. Akito ENDO, National Institute of Advanced Industrial Science

Presentation 4 : Mr. Kenichi HARIMOTO, Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology

Presentation 5 : Ms. Yui NAMIKAWA, Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 6 : Mr. Hideki ISHIGAKI, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 7 : Ms. Yuka ISONO, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 8 : Mr. Nobuya SAKAI, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 9 : Mr. Michihisa SHIIBA, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 10 : Mr. Takenori TAMURA, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 11 : Ms. Akiko WATANABE, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 12 : Mr. Shinya WATANABE, Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

3) Authors Present at Poster

BIOMEDICAL ENGINEERING - 29 posters

GENETIC ENGINEERING - 8 posters

LIFE and ENVIRONMENTAL SCIENCE - 13 posters

INFORMATICS and MECHANICAL ENGINEERING - 12 posters

(イベント/学内)

第12回おもしろ理科教室

日時:2010年8月19日(木)10:00~15:30

場所:桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象:小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

「コインを飛ばそう、動体視力の測定」

「じゃんぼシャボン玉に挑戦」

「ミクロの世界を探検しよう」

「ペットボトルで遊ぼう」

「てんさいになれる!コンピュータすうじ!」

「立体写真を楽しもう」

「脳を知ろう!!」

「体のなかを装置で見る」(超音波・心電図・顕微鏡)

「レッツ温度」

「なりきり裁判官」

「車いすダンス」

「礼儀作法」

「社交ダンス」

「葉っぱの笛を鳴らしてみよう」

「壺の笛を鳴らしてみよう」

「サボテンのふしぎ発見」

「正多面体を作ろう」

(イベント/学内)

第13回おもしろ理科教室

日時:2011年8月24日(水)10:00~15:30

場所:桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象:小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

- 「じゃんぼシャボン玉に挑戦」
- 「体のなかを装置で見る」
- 「立体写真を楽しもう」
- 「ミニゲーム・センター」
- 「壺の笛を鳴らしてみよう」
- 「生物の「光」をつくってみよう」
- 「電気力でコインを飛ばそう」
- 「早く動くものを目で追おう！」
- 「礼儀作法」
- 「社交ダンス」
- 「新型そろばん数字とコンピュータ数字」
- 「サボテンのふしぎ発見」
- 「体育館遊園地化計画」
- 「ミクロの世界を探検しよう」
- 「さわれない黒いかべ！偏光って何だ？」
- 「葉っぱの笛を鳴らしてみよう」
- 「脳を知ろう！！脳を作ろう！！」
- 「力を実感しよう」
- 「筋電位を使って、ロボットハンドを動かそう」
- 「なりきり裁判官」
- 「車いすダンス」
- 「放射線・放射能ってなあに？」
- 「正多面体を作ろう」
- 「ペットボトルで遊ぼう」

(イベント/学内)

**スポーツ健康政策学部 開設4周年記念
カラダと社会**

日時:2012年3月13日(火)10:00~16:00

場所:桐蔭横浜大学中央棟

概要

(午前の部)

桐蔭横浜大学の学生ボランティアが行った支援活動の報告、また被災地岩手県野田村で復興活動に尽力されているゲストを招き今後の復興支援について語り合う。

(午後の部)

探検家であり作家である角幡唯介氏による「冒険するカラダ/都市のカラダ」の講演会を行う。

(イベント/学外)

「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」

日時:2010年7月17日(土)10:00~17:30

場所:新都市ホール(そごう横浜店9階)

新都市プラザ(そごう横浜店地下2階入口前)

主催:かながわ発・中高生のための大学セミナー実行委員会

(神奈川県、神奈川県教育委員会、青山学院大学、神奈川大学、神奈川工科大学、
関東学院大学、慶應義塾大学、桐蔭横浜大学、東京工業大学、東京工芸大学、明治大学、
横浜国立大学、横浜市立大学、(財)神奈川科学技術アカデミー)

内容:医療技術体験(1)化学で測る

糖やアルコール代謝の仕組みを通して生命の不思議を考える。アルコールパッチテストでは遺伝的な個性の違いを体験。

医療技術体験(2)物理で測る

身体の外側から心臓や胎児の様子を調べる超音波検査。実際に医療機器を使って診断技術の原理と身体の仕組みを学ぶ。

**2010年度 第 期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	5月13日(木) ～7月15日(木)	10:30～ 12:00	10	20,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	5月13日(木) ～7月15日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	5月11日(火) ～6月29日(火)	13:30～ 15:00	8	16,000
04	続日本紀を読む(5)	寺田 恵子 (湘南短期大学教授)	9月 9日(木)・10日(金)・13日(月)	10:30～12:00 13:30～15:00	6	12,000
05	現代史考(3) - 両大戦史 -	赤堀 景章 (桐蔭横浜大学名誉教授)	5月14日(金) ～7月16日(金)	13:00～ 14:30	10	20,000
06	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	5月13日(木) ～7月15日(木)	10:30～ 12:00	10	25,000
07	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	5月13日(木) ～7月15日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
08	基礎スペイン語講座 - 文化と共に学ぶ -	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	5月12日(水) ～6月30日(水)	10:30～ 12:00	8	16,000
09	入門・初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月12日(水) ～7月14日(水)	14:15～ 15:45	10	25,000
10	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月12日(水) ～7月14日(水)	12:30～ 14:00	10	20,000
11	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月12日(水) ～7月14日(水)	10:30～ 12:00	10	25,000
12	Let's challenge TOEICR - 少人数TOEICチャレンジ講座 -	勝田 友子 (英会話学校講師)	5月12日(水) ～7月28日(水)	13:30～ 15:00	12	24,000
13	楽しくBasic英会話	勝田 友子 (英会話学校講師)	5月12日(水) ～7月28日(水)	10:30～ 12:00	12	24,000
14	学びなおす英語 - 中級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	5月7日(金) ～7月16日(金)	13:15～ 14:45	11	22,000
15	学びなおす英語 - 上級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	5月7日(金) ～7月16日(金)	15:00～ 16:30	11	22,000
16	Focus on Communication - はじめての英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	5月13日(木) ～7月15日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
17	English is fun! - 初級英会話 A -		開講中止となりました。			
18	Talk It Over - 初中級英会話 -	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	5月17日(月) ～7月26日(月)	10:30～ 12:00	10	20,000
19	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	5月10日(月) ～7月12日(月)	10:30～ 12:00	10	20,000
20	Discussion and Debate Workshop - 中上級英会話 -	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	5月17日(月) ～7月26日(月)	13:00～ 14:30	10	25,000
21	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	5月13日(木) ～7月15日(木)	10:30～ 12:00	10	20,000
22	作品として創るビデオ編集教室 - 10倍楽しむホームビデオの撮影と編集 -	赤塚 直史 (デジタルクリエイター)	5月14日(金) ～7月2日(金)	10:30～ 12:00	8	20,000
23	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	5月11日(火) ～7月20日(火)	10:30～ 12:00	10	25,000
24	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	5月11日(火) ～7月20日(火)	13:30～ 15:00	10	25,000
25	はじめてのフルーツアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月7日(金) ～7月16日(金)	14:00～ 15:30	9	22,500
26	たのしいフルーツアンサンブル (火曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月11日(火) ～7月6日(火)	10:30～ 12:00	9	22,500
27	たのしいフルーツアンサンブル (金曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月7日(金) ～7月16日(金)	10:30～ 12:00	9	22,500
28	たのしい絵画教室	今村 昭寛 (洋画家 一創会運営委員)	5月13日(木) ～7月15日(木)	10:30～ 12:00	10	22,000

**2010年度 第 期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月16日(木) ～12月2日(木)	10:30～ 12:00	10	20,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月16日(木) ～12月2日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	9月21日(火) ～11月16日(火)	13:30～ 15:00	9	18,000
04	続日本紀を読む(5)	寺田 恵子 (湘南短期大学教授)	9月 9日(木)・10日(金)・13日(月)	10:30～12:00 13:30～15:00	6	12,000
05	現代史考(4) - 歴史の切り口について -	赤堀 景章 (桐蔭横浜大学名誉教授)	9月17日(金) ～11月19日(金)	13:00～ 14:30	10	20,000
06	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月16日(木) ～12月2日(木)	10:30～ 12:00	10	25,000
07	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月16日(木) ～12月2日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
08	基礎スペイン語講座 - 文化と共に学ぶ -	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	9月22日(水) ～11月24日(水)	10:30～ 12:00	9	18,000
09	入門・初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月15日(水) ～11月24日(水)	14:15～ 15:45	10	25,000
10	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月15日(水) ～11月24日(水)	12:30～ 14:00	10	20,000
11	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月15日(水) ～11月24日(水)	10:30～ 12:00	10	25,000
12	初級英語講読 - 中2レベルで面白トピックを読もう -	勝田 友子 (英会話学校講師)	9月15日(水) ～12月8日(水)	13:30～ 15:00	12	24,000
13	学びなおす英語 - 中級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月17日(金) ～12月10日(金)	13:15～ 14:45	12	24,000
14	学びなおす英語 - 上級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月17日(金) ～12月10日(金)	15:00～ 16:30	12	24,000
15	Focus on Communication - はじめての英会話 -	勝田 友子 (英会話学校講師)	9月15日(水) ～12月8日(水)	10:30～ 12:00	12	24,000
16	English is fun! - 初級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	9月16日(木) ～12月2日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
17	Talk It Over - 初中級英会話 -	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	9月27日(月) ～12月6日(月)	10:30～ 12:00	10	20,000
18	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	9月27日(月) ～12月6日(月)	10:30～ 12:00	10	20,000
19	Discussion and Debate Workshop - 中上級英会話 -	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	9月27日(月) ～12月6日(月)	13:00～ 14:30	10	25,000
20	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	9月16日(木) ～12月2日(木)	10:30～ 12:00	10	20,000
21	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	9月14日(火) ～12月7日(火)	10:30～ 12:00	11	27,500
22	楽しい写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	9月14日(火) ～12月7日(火)	13:30～ 15:00	11	27,500
23	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月17日(金) ～11月26日(金)	14:00～ 15:30	10	25,000
24	たのしいフルートアンサンブル (火曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月21日(火) ～11月30日(火)	10:30～ 12:00	10	25,000
25	たのしいフルートアンサンブル (金曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月17日(金) ～11月26日(金)	10:30～ 12:00	10	25,000
26	たのしい絵画教室	今村 昭寛 (洋画家 一創会運営委員)	9月16日(木) ～12月9日(木)	10:30～ 12:00	11	24,000

**2010年度 第 期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月13日(木) ～2月17日(木)	10:30～ 12:00	6	12,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月13日(木) ～2月17日(木)	13:30～ 15:00	6	12,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	1月11日(火) ～2月15日(火)	13:30～ 15:00	6	12,000
04	続日本紀を読む(6)	寺田 恵子 (湘南短期大学教授)	1月25日(火) ～3月1日(火)	13:30～ 15:00	6	12,000
05	世界史考(1)	赤堀 景章 (桐蔭横浜大学名誉教授)	1月14日(金) ～2月25日(金)	13:00～ 14:30	6	12,000
06	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月13日(木) ～2月17日(木)	10:30～ 12:00	6	15,000
07	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月13日(木) ～2月17日(木)	13:30～ 15:00	6	12,000
08	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月12日(水) ～2月16日(水)	10:30～ 12:00	6	12,000
09	入門・初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月12日(水) ～2月16日(水)	14:15～ 15:45	6	15,000
10	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月12日(水) ～2月16日(水)	12:30～ 14:00	6	12,000
11	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月12日(水) ～2月16日(水)	10:30～ 12:00	6	12,000
12	中学英語で会話とトピックス	勝田 友子 (英会話学校講師)	1月12日(水) ～2月16日(水)	13:30～ 15:00	6	12,000
13	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月21日(金) ～3月4日(金)	13:15～ 14:45	6	12,000
14	学びなおす英語 -上級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月21日(金) ～3月4日(金)	15:00～ 16:30	6	12,000
15	English is fun! -初級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	1月13日(木) ～2月17日(木)	13:30～ 15:00	6	12,000
16	Talk It Over -初中級英会話-	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	1月17日(月) ～2月21日(月)	10:30～ 12:00	6	12,000
17	You Can Do it in English! -中級英会話-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	1月17日(月) ～2月21日(月)	10:30～ 12:00	6	12,000
18	Discussion and Debate Workshop -中上級英会話-	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	1月17日(月) ～2月21日(月)	13:00～ 14:30	6	15,000
19	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	1月13日(木) ～2月17日(木)	10:30～ 12:00	6	12,000
20	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	1月11日(火) ～2月15日(火)	10:30～ 12:00	6	12,000
21	楽しい写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	1月11日(火) ～2月15日(火)	13:30～ 15:00	6	12,000
22	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月7日(金) ～2月25日(金)	14:00～ 15:30	7	17,500
23	たのしいフルートアンサンブル (火曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月11日(火) ～3月1日(火)	10:30～ 12:00	7	17,500
24	たのしいフルートアンサンブル (金曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月7日(金) ～2月25日(金)	10:30～ 12:00	7	17,500
25	たのしい絵画教室	今村 昭寛 (洋画家 一創会運営委員)	1月13日(木) ～2月17日(木)	10:30～ 12:00	6	14,000

**2011年度 第 期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月21日(木) ～6月30日(木)	10:30～ 12:00	10	20,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月21日(木) ～6月30日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	4月19日(火) ～6月21日(火)	13:30～ 15:00	9	18,000
04	続日本紀を読む(7)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	5月10日(火) ～6月28日(火)	13:30～ 15:00	8	16,000
05	世界史考(2)	赤堀 景章 (桐蔭横浜大学名誉教授)	4月22日(金) ～7月1日(金)	13:00～ 14:30	10	20,000
06	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	4月21日(木) ～6月30日(木)	10:30～ 12:00	10	25,000
07	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	4月21日(木) ～6月30日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
08	基礎スペイン語講座 - 文化と共に学ぶ -	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	5月11日(水) ～6月29日(水)	10:30～ 12:00	8	16,000
09	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	4月20日(水) ～6月29日(水)	13:00～ 14:30	10	20,000
10	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	4月20日(水) ～6月29日(水)	10:30～ 12:00	10	20,000
11	学びなおす英語 - 中級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月22日(金) ～7月1日(金)	13:15～ 14:45	10	20,000
12	学びなおす英語 - 上級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月22日(金) ～7月1日(金)	15:00～ 16:30	10	20,000
13	English is fun! - 初級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	4月21日(木) ～6月30日(木)	13:30～ 15:00	10	20,000
14	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	4月19日(火) ～6月28日(火)	13:30～ 15:00	10	20,000
15	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	4月21日(木) ～6月30日(木)	10:30～ 12:00	10	20,000
16	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	4月19日(火) ～6月28日(火)	10:30～ 12:00	10	25,000
17	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	4月19日(火) ～6月28日(火)	13:30～ 15:00	10	25,000
18	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月22日(金) ～7月1日(金)	14:00～ 15:30	10	25,000
19	たのしいフルートアンサンブル (火曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月19日(火) ～6月28日(火)	10:30～ 12:00	10	25,000
20	たのしいフルートアンサンブル (金曜クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月22日(金) ～7月1日(金)	10:30～ 12:00	10	25,000

**2011年度 第 期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月22日(木) ～12月1日(木)	10:15～ 11:45	10	20,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月22日(木) ～12月1日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	9月20日(火) ～11月8日(火)	13:15～ 14:45	8	16,000
04	続日本紀を読む(8)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	10月4日(火) ～11月29日(火)	13:00～ 14:30	9	18,000
05	世界史考(3)	赤堀 景章 (桐蔭横浜大学名誉教授)	9月30日(金) ～12月2日(金)	12:45～ 14:15	10	20,000
06	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月22日(木) ～12月1日(木)	10:15～ 11:45	10	25,000
07	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月22日(木) ～12月1日(木)	12:45～ 14:15	10	20,000
08	交渉術 - 問題解決のための小道具 -	鈴木 松子 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月21日(水) ～11月30日(金)	13:00～ 14:30	10	20,000
09	基礎スペイン語講座 - 文化と共に学ぶ -	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	9月21日(水) ～11月30日(金)	10:15～ 11:45	10	20,000
10	初級フランス語	照木 健(桐蔭横浜大学講師) 岡部 杏子(日本女子大学附属高校講師)	9月27日(火) ～12月13日(火)	15:00～ 16:30	12	24,000
11	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月21日(水) ～11月30日(水)	13:00～ 14:30	10	20,000
12	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	9月21日(水) ～11月30日(水)	10:15～ 11:45	10	20,000
13	学びなおす英語 - 中級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月16日(金) ～12月9日(金)	13:00～ 14:30	12	24,000
14	学びなおす英語 - 上級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月16日(金) ～12月9日(金)	15:00～ 16:30	12	24,000
15	English is fun! - 初級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	9月22日(木) ～12月1日(木)	13:00～ 14:30	10	20,000
16	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	9月20日(火) ～11月22日(火)	13:00～ 14:30	10	20,000
17	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	9月22日(木) ～12月1日(木)	10:15～ 11:45	10	20,000
18	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	9月20日(火) ～11月22日(火)	10:15～ 11:45	10	25,000
19	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	9月20日(火) ～11月22日(火)	13:00～ 14:30	10	25,000
20	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月30日(金) ～12月2日(金)	13:00～ 14:30	10	25,000
21	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月30日(金) ～12月2日(金)	10:15～ 11:45	10	25,000

**2011年度 第 期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月12日(木) ～3月15日(木)	10:15～ 11:45	8	16,000
02	イエスと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月12日(木) ～3月15日(木)	13:00～ 14:30	8	16,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	1月17日(火) ～3月6日(火)	13:15～ 14:45	7	14,000
04	続日本紀を読む(9)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	1月24日(火) ～2月21日(火)	13:00～ 14:30	8	16,000
05	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月12日(木) ～3月15日(木)	10:15～ 11:45	8	20,000
06	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月12日(木) ～3月15日(木)	12:45～ 14:15	8	16,000
07	放射線の話と 医用画像(CT・MRI)の原理	早川 吉則 (桐蔭横浜大学教授)	1月23日(月) ～2月13日(月)	10:15～ 11:45	3	6,000
08	基礎スペイン語講座 - 文化と共に学ぶ -	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月18日(水) ～3月7日(金)	10:15～ 11:45	7	14,000
09	初級フランス語	照木 健(桐蔭横浜大学講師) 岡部 杏子(日本女子大学附属高校講師)	1月17日(火) ～3月6日(火)	15:00～ 16:30	6	12,000
10	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月25日(水) ～3月14日(水)	13:00～ 14:30	7	14,000
11	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月25日(水) ～3月14日(水)	10:15～ 11:45	7	14,000
12	学びなおす英語 - 中級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月20日(金) ～3月9日(金)	13:00～ 14:30	6	12,000
13	学びなおす英語 - 上級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月20日(金) ～3月9日(金)	15:00～ 16:30	6	12,000
14	English is fun! - 初級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	1月12日(木) ～3月15日(木)	13:00～ 14:30	8	16,000
15	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	1月17日(火) ～3月13日(火)	13:00～ 14:30	8	16,000
16	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	1月12日(木) ～3月15日(木)	10:15～ 11:45	8	16,000
17	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	1月17日(火) ～3月13日(火)	10:15～ 11:45	8	20,000
18	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	1月17日(火) ～3月13日(火)	13:00～ 14:30	8	20,000
19	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月20日(金) ～3月23日(金)	13:00～ 14:30	8	20,000
20	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月20日(金) ～3月23日(金)	10:15～ 11:45	8	20,000

桐蔭横浜大学学術交流レポート2010・2011

2013年1月発行

発行人：小島武司

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 大学事務局

〒225-8502

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://www.toin.ac.jp/univ/>
